

平成 30 事業年度 業務実績報告書

第 16 期（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

令和元年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

平成 30 事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	14
(1) 伝統芸能の公開	22
(2) 現代舞台芸術の公演	60
(3) 青少年等を対象とした公演	69
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	78
(5) 快適な観劇環境の形成	90
(6) 広報・営業活動の充実	103
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	121
(8) 日本博の運営・実施	124
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	125
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	130
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	145
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	153
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	157
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	171
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	179
III 予算、収支計画及び資金計画	188
IV その他業務運営に関する重要事項	194

平成 30 事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	3
<2> 現代舞台芸術の公演	12
<3> 日本博の運営・実施	17
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
<1> 伝統芸能の伝承者の養成	19
<2> 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	21
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
<1> 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	23
<2> 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	24
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	26
III 予算、収支計画及び資金計画	28
IV その他業務運営に関する重要事項	29
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	31
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	32
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	33

平成 30 事業年度業務実績報告書

第 16 期（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

令和元年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の 質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

1 文化芸術活動に対する援助	p.1
(1) 助成金の交付	p.4
(2) 助成に関する情報等の収集及び提供	p.12
(3) 基金の管理運用	p.13

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 資金運用収入予測を踏まえ、芸術文化振興基金及び同基金を原資とした助成事業の将来構想の検討

エ アーツカウンシルとしての機能強化及び地域版アーツカウンシル・文化庁等との連携推進

オ 助成事業によって得られた成果等の活用に関する検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する調査・事後評価及び次年度の審査への活用
- ③ 助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施
会計調査:90件以上(団体数) 公演等調査:500件以上(助成対象活動数)
- ④ PD・POの体制強化及び調査研究
- ⑤ 「地域の文化振興等の活動」に関する地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方の検討

エ 文化庁と連携した PD・PO を活用する新たな審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携推進

オ 助成事業成果の振興会の他事業への活用

- カ 芸術文化復興支援基金のフォローアップ
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
 - ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供
 - イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・掲載
 - ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等
 - エ 応募相談会の開催 応募相談会実施件数:260 件以上(団体数)
- (3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

《中期目標の指標・関連指標》

1-1 効果的な助成が行われたか。 (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P.1 参照
1-2 助成金の交付状況	P.4 に掲載
1-3 公演等調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	553 件 (H25-29 実績平均：488.4 件)
1-4 会計調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	90 件 (H25-29 実績平均：96.4 件)
1-5 プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体等との意見交換会及び応募相談会の実施件数 (前中期目標期間実績以上)	意見交換会：133 件 (H28-29 実績平均：136.5 件) 応募相談会：372 件 (H28-29 実績平均：270.0 件)
1-6 文化芸術活動に対する援助について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P.1 参照
1-A 芸術文化振興基金の運用状況や資金の受入状況	P.13 に掲載

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての数値目標を達成。 ・アーツカウンシル機能のうち、調査研究機能の強化を図るため、10月1日付で非常勤PD1名を、11月1日付で主任調査分析研究員2名を採用し、既配置の調査分析研究員と併せて4名から成る調査研究班を新設し、助成事業に関する調査研究を定常的に実施できる体制を構築した。 ・基金による助成及び補助金による助成（平成30年度より「国際芸術交流支援事業」を含む）の全分野についての審査基準の事前公表、「舞台芸術創造活動活性化事業」の平成30年度の全助成対象活動に対する公演調査並びに平成29年度の全助成対象活動に対する事後評価及び団体との意見交換・助言の実施等、着実にアーツカウンシルとしての取組を推進した。 ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、平成29年度の文化庁からの移管に伴う事業の見直しに際して、平成30年度事業分から新たに事後評価を導入することを決定していたが、平成30年度には、PD・POと議論を重ね、公演等調査（活動別調査、ヒアリング調査）の実施方法を検討・決定し、専門委員、PD・PO及び事務職員により評価対象団体毎に調査を実施する一方、事後評価の具体的な実施方法についても検討を進めた。 ・イングランド・スコットランドにおけるアーツカウンシルの実態調査について、調査結果をホームページ上に公表するとともに、振興会内外で成果報告を行った。また、メディア芸術分野の調査については、実態把握に向けた調査に加え、より詳細なデータを収集するために、カートゥーンや同人誌等の実態調査を開始した。 ・地域版アーツカウンシル等との連携については、平成30年11月、振興会において、「地域のアーツカウンシルワークショップ」を開催し、地域におけるアーツカウンシルの諸問題等について情報共有・意見交換を行うとともに、今後の連携の在り方について検討を進めた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>会計調査の実施状況：90件/90件以上（100.0%） 公演等調査の実施状況：553件/500件以上（110.6%） 応募相談会実施件数：372件/団体数260件以上（143.1%）</p>
主要な業務実績	<p>(1) 助成金の交付 基金による助成金：交付件数 620 件、助成金交付額 935, 711 千円 補助金による助成金：交付件数 580 件、助成金交付額 6, 219, 828 千円</p> <p>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供 30 年度アクセス件数：264, 068 件（うち芸術文化振興基金 HP243, 823 件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業 HP：20, 245 件）</p> <p>(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用 基金運用益：1, 119, 188 千円（利回り 1.62%） 芸術文化振興基金への寄附：14 件、600, 488, 889 円 （29 年度実績 9 件、809, 146, 679 円、208, 657, 790 円の減）</p>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度事業分から新たに行う劇場・音楽堂等機能強化推進事業の事後評価について、適切に実施する。 ・平成 31 年度事業分から新たに行う国際芸術交流支援事業の公演等調査を適切に実施するとともに、事後評価の具体的な実施方法を定める。 ・芸術文化振興基金の将来的な運用見込規模を鑑み、平成 30 年度に芸術文化振興基金将来構想検討会を開催し、助成の対象分野、応募条件、助成金額等の制度について検討を行った。平成 31 年度においては、その検討状況を踏まえ、助成制度の在り方を具体化する必要がある。 ・地域版アーツカウンシル等との連携については、連携のプラットフォームを構築する。

(1) 助成金の交付

ア 助成金の交付

① 30年度助成金の交付実績

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	546	264	504,703	260	489,861
	音楽	115	61	152,208	60	148,435
	舞踊	89	38	59,467	38	58,994
	演劇	342	165	293,028	162	282,432
	伝統芸能の公開活動	64	28	47,797	27	46,947
	美術の創造普及活動	16	8	9,587	6	7,978
	多分野共同等芸術創造活動	54	15	19,371	13	18,166
小計		680	315	581,458	306	562,952
創映像活動芸術	国内映画祭等の活動	70	43	73,822	42	72,292
	国内映画祭等	49	30	64,377	29	63,768
	日本映画上映活動	21	13	9,445	13	8,524
	小計	70	43	73,822	42	72,292
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	280	161	217,951	147	196,849
	文化会館	145	90	101,724	81	88,627
	美術館等展示	135	71	116,227	66	108,222
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	8	8	5,797	8	4,982
	民俗文化財の保存活用活動	19	18	15,458	16	11,429
小計		307	187	239,206	171	213,260
普及文化振興活動	アマチュア等の文化団体活動	157	97	75,217	93	70,158
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	12	8	17,228	8	17,049
	小計	169	105	92,445	101	87,207
合計		1,226	650	986,931	620	935,711

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
活動活性化事業	音楽	136	111	1,792,398	111	1,739,507
	舞踊	38	35	557,809	35	547,264
	演劇	161	90	706,393	90	698,635
	伝統芸能	32	29	80,133	29	77,114
	大衆芸能	13	12	131,533	12	130,646
	小計	380	277	3,268,266	277	3,193,166
機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	19	16	900,000	16	872,942
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	303	202	1,348,292	200	1,307,709
	共同制作支援事業	3	3	143,000	3	142,394
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	66	46	325,000	46	309,917
	小計	391	267	2,716,292	265	2,632,962
への支援	劇映画	77	23	308,300	22	300,910
	記録映画	23	7	39,400	7	41,730
	アニメーション映画	14	9	49,770	9	51,060
	小計	114	39	397,470	38	393,700
合計		885	583	6,382,028	580	6,219,828

② 31年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

(a) 審査の実施

運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

《審査の経過》

9月21日	第48回運営委員会 31年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月1日～11日	31年度助成事業 応募受付期間 （映画関連は11月16日～22日）
12月上旬～中旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月25日	第49回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～中旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月22日	第50回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

■運営委員会

第48回：9月21日、第49回：1月25日、第50回：3月22日

■舞台芸術等部会(2回開催・1月、3月)

- ・音楽専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・舞踊専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・演劇専門委員会(3回開催・12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・美術専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・多分野共同等専門委員会(2回開催・12月、2月)

■映像芸術部会(3回開催・8月、1月、3月)

- ・劇映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・記録映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・アニメーション映画専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・映画祭等専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)

■地域文化・文化団体活動部会(2回開催・12月、3月)

- ・文化施設公演活動等専門委員会(3回開催・12月、2月(第2分科会1回)、3月(第1分科会1回))
- ・文化施設展示活動専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・文化団体活動専門委員会(2回開催・12月、2月)

■文化財部会(1回開催・3月)

- ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・11月、2月)

③ 31年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- ・31年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、HP等において31年3月29日付けで公表。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	506	264	518,149
	音楽	(101)	(56)	(160,358)
	舞踊	(81)	(36)	(60,864)
	演劇	(324)	(172)	(296,927)
	伝統芸能の公開活動	58	26	48,938
	美術の創造普及活動	11	6	9,750
	多分野共同等芸術創造活動	38	16	17,339
小計		613	312	594,176
創映像芸術活動	国内映画祭等の活動	34	23	51,880
	国内映画祭等	26	19	49,139
	日本映画上映活動	21	13	9,445
	小計	34	23	51,880
地域活性化	地域文化施設公演・展示活動	262	151	222,344
	文化会館	(130)	(78)	(103,022)
	美術館等展示	(132)	(73)	(119,322)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	4	4	4,812
	民俗文化財の保存活用活動	31	25	23,446
	小計	297	180	250,602
団体振興普及活動	アマチュア等の文化団体活動	161	91	77,121
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	19	9	14,522
	小計	180	100	91,643
合計		1,124	615	988,301

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金 交付予定額 (千円)
活動活性化事業 舞台芸術創造	音楽	146	108	1,792,308
	舞踊	48	35	598,985
	演劇	141	84	670,117
	伝統芸能	32	29	84,184
	大衆芸能	11	10	118,705
	小計	378	266	3,264,299
支援事業 国際芸術交流	海外公演	57	26	385,403
	国際共同制作公演(海外公演)	8	3	23,010
	国際共同制作公演(国内公演)	6	3	33,774
	国際フェスティバル	8	4	158,813
	小計	79	36	601,000
推進事業 劇場・音楽堂等機能強化	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	16	16	833,774
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	268	204	1,273,130
	共同制作支援事業	2	2	108,426
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	62	44	301,085
	小計	348	266	2,516,415
への支援 映画製作	劇映画	27	10	125,000
	記録映画	8	4	14,000
	アニメーション映画	3	2	21,000
	小計	38	16	160,000
合計		843	584	6,541,714

※映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

イ 助成金交付事務の効率化等

①審査基準の策定及び事前公表

- ・応募受付(11/1~11、11/16~22)に先駆け、募集案内をHPに掲載するとともに審査基準の公表を行った(9/27)。
- ・年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」を引き続き作成し、審査に活用した。また、31年度より事業移管される「国際芸術交流支援事業」についても、「審査基準申し合わせ」を作成し、審査に活用した。
- ・助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、引き続き審査基準ごとに評価する方式で行うとともに、活動全体に対する総合的な評価をしやすくするための「採択の可否」に関する項目を活用して、適正な審査の実施を図った。また、前年度の運営委員会の改善意見を踏まえ、審査基準のうち団体の運営等に係る項目については、従来の4段階による優劣の評価から、3段階による妥当性の評価に変更し、改善を図った。

②助成の成果等に対する調査・事後評価及び次年度の審査への活用

■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・「舞台芸術創造活動活性化事業」については、平成29年度事業分の事後評価として、「年間活動支援」及び「公演事業支援」の全助成対象活動について、運営委員会の審議を経て「評価コメント」を決定し、8月~10月に全ての助成対象団体に対し、プログラムディレクター(PD)・プログラムオフィサー(PO)から文書により伝達した上、意見交換及び助言を行った。また、「評価コメント」については、平成31年度助成対象活動の採択審査の評価に反映した。
- ・平成30年度事業分については、全助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演調査を行った。
- ・平成31年度以降については、「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」及び「国際芸術交流支援事業」の事後評価も実施することから、「舞台芸術創造活動活性化事業」の効果的・効率的な評価の実施を図るための検討を行い、PD・POの意見を踏まえ、以下の方法により事後評価を行うこととした。
 - ◇ 全ての助成対象団体に自己点検評価の実施(「助成対象活動実績報告書」の作成・提出)を求め、その一部を公表する。
 - ◇ 「年間活動支援」及び「公演事業支援」の全助成対象活動について、公演調査報告書を基に「公演調査レポート(仮称)」を作成するとともに、「年間活動支援」の助成対象団体については、運営委員会の審議を経て、団体の年間活動の総合評価である「評価コメント」を作成する。以上の事後評価結果については、PD・POから全助成対象団体に文書により伝達するとともに、「助成対象活動実績報告書」の内容も踏まえ、意見交換及び助言等を行う。

■国際芸術交流支援事業

- ・「国際芸術交流支援事業」については、文化庁からの移管に伴う事業内容の見直しを行い、平成31年度事業分から公演調査及び事後評価を行うものとし、その方法についてPD・POと議論・検討を重ね、舞台芸術等部会における審議を経て、以下の方法により実施することとした。
 - ◇ 全ての助成対象団体に自己点検評価の実施(「助成対象活動実績報告書」の作成・提出)を求め、その一部を公表する。
 - ◇ 国内で実施される「国際共同制作公演(国内公演)」及び「国際フェスティバル」については、全対象活動について公演調査を行い、その報告書を基に「公演調査レポート(仮称)」を作成するものとし、加えて、「国際フェスティバル」については、運営委員会の審議を経て、「評価コメント」を作成する。以上の事後評価結果については、PD・POから全助成対象団体へ文書により伝達するとともに、「助成対象活動実績報告書」の内容も踏まえ、意見交換及び助言等を行う。
 - ◇ 海外で実施される「海外公演」及び「国際共同制作公演(海外公演)」については、助成対象団体の現地での活動状況報告及び「助成対象活動実績報告書」の内容を踏まえて、PD・POとの意見交換及び助言を行う。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、文化庁からの移管に伴う事業の見直しに際して、平成30年度事業分から新たに事後評価を導入することを決定していたが、平成30年度には、PD・POと議論を重ね、公演等調査（活動別調査、ヒアリング調査）の実施方法を検討・決定し、専門委員、PD・PO及び事務職員により評価対象団体毎に調査を実施する一方、事後評価の具体的な実施方法についても検討を進めた。事業毎の取組内容については、以下のとおり。

- ◇ 「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」については、全助成対象団体（16施設）を評価対象とすることとし、これらに対し活動調査及びヒアリング調査を行った。併せて、5年間の継続助成を原則とする本事業では、2年目に中間評価（継続採択の可否の判定）を、5年目に最終年度評価（アウトカム発現状況等の評価）を、事業終了の翌年度に事後評価（5年間の総括評価）をそれぞれ実施することとし、これら評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
- ◇ 「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」については、助成対象団体が多いことから抽出評価とすることとし、平成30年度事業分として13施設を選定の上、これらに対し活動調査及びヒアリング調査を行った。併せて、本事業における事後評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
- ◇ 「共同制作支援事業」については、全助成対象活動（3件）を評価対象とすることとし、これらに対し活動調査を行った。併せて、本事業における事後評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
- ◇ 「劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業」については、一部の経費のみ（旅費・運搬費）を助成するもので、上記3事業とはスキームが異なることや、助成対象活動が多く業務の効率性を考慮する必要もあることから、事後評価を実施しないこととした。

《平成29年度「舞台芸術創造活動活性化事業」事後評価の経過》

5月上旬～中旬	専門委員会 事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。 PD・POが評価コメント素案を作成。
5月中旬～6月中旬	各専門委員による評価コメントの素案等により書面評価を実施。
5月下旬～6月下旬	専門委員会 評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
7月18日	舞台芸術等部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月21日	第48回運営委員会 事後評価の結果を報告。

■運営委員会

第48回：9月21日

■舞台芸術等部会(1回開催・7月)

- ・音楽専門委員会(2回開催・5月、6月)
- ・舞踊専門委員会(2回開催・5月、6月)
- ・演劇専門委員会(2回開催・5月、6月)
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会(2回開催・5月、6月)

③助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
会計調査	団体数	90件	90件	90件以上	100%
	助成対象活動数	262活動	—	—	—

・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため基金部事務職員による会計調査を実施。

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
公演等調査	助成対象活動数	553 件	—	500 件以上	110.6%
	延べ調査回数	1333 回	—	—	—
	(内訳)				
	舞台芸術創造活動活性化事業				
	助成対象活動数	275 件	281 件	—	—
	延べ調査回数	944 回	—	—	—
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業				
	助成対象活動数	42 件	—	—	—
	活動調査	102 回	—	—	—
	ヒアリング調査	33 回	—	—	—
	基金による助成(創造普及 181、地域文化 54、映画祭 1)				
	助成対象活動数	236 件	251 件	—	—
延べ調査回数	254 回	—	—	—	

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施。「舞台芸術創造活動活性化事業」については 30 年度の全助成対象活動について調査を実施。
- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施。

		音楽	舞踊	演劇	伝統芸能	大衆芸能	計
意見交換	団体数	44	18	51	14	6	133
	助成対象活動数	109	37	96	25	8	275

- ・事後評価を実施している「舞台芸術創造活動活性化事業」について、PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する意見交換や助言を行うとともに、助成対象分野の状況の把握を行った。

④PD・POの体制強化及び調査研究

(a) PD・POの体制強化

- ・分野別（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能）PD・PO については、平成 29 年度末に退任した PD・PO 15 名の補充のため、4 月 1 日付で非常勤 PO 9 名（音楽 3 名、舞踊 1 名、演劇 3 名、伝統芸能・大衆芸能 2 名）を採用し、合わせて、非常勤 PO 3 名（音楽、舞踊、伝統芸能・大衆芸能各 1 名）を非常勤 PD に昇格させた。また、10 月 1 日付で非常勤 PD 1 名（演劇分野）、非常勤 PO 1 名（伝統芸能・大衆芸能分野）を採用した。
- ・平成 30 年度より文化庁から振興会に移管された「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の実施に対応するため、分野別 PD・PO のうち 17 名を劇場・音楽堂等担当（兼務）として配置した。さらに、このうち 5 名の PD・PO についてはコアメンバーとして、劇場・音楽堂等担当事務職員と定期的に打合せを行うなど、相互に連携・協働して関連業務を遂行する体制を構築した。
- ・アーツカウンシル機能のうち、調査研究機能の強化を図るため、10 月 1 日付で非常勤 PD 1 名を、11 月 1 日付で主任調査分析研究員 2 名を採用し、既配置の調査分析研究員と併せて 4 名から成る調査研究班を新設し、助成事業に関する調査研究を定常的に実施できる体制を構築した。
- ・平成 31 年 3 月現在、PD・PO の配置は以下のとおり。

分野	PD	PO	計
音楽	1	7	8
舞踊	1	4	5
演劇	1	8	9
伝統芸能・大衆芸能	1	5	6
調査研究	1	—	1
(劇場・音楽堂等担当 ※ ¹)	(4)	(13)	(17)
メディア芸術 ※ ²	—	2	2
計	5	26	31

※1 劇場・音楽堂等担当は、各分野担当と兼務

※2 メディア芸術担当は時限的配置

(b) 調査研究

■運営費交付金による調査研究

- ・平成 30 年 11 月に新設した調査研究班を核として、助成事業全般の現状に関して情報収集と課題の洗い出しを行うとともに、今後取り組むべき調査研究テーマについて検討を進めた。
- ・平成 29 年度中に成果を取りまとめた「舞台芸術に係る主な公的助成の普及状況に関する調査」について、内容を精査した上、報告書を振興会 HP で公表した。
- ・平成 31 年度助成対象活動の応募団体に対し、文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート調査を実施し、芸術文化振興基金運営委員会に報告した。

■寄附金による調査研究

- ・「文化芸術活動への助成による波及効果に関する調査研究」について、鑑賞者向け及び文化施設・芸術団体向けに実施したアンケートや、有識者や PD・PO へのヒアリング、先行研究等によって導出した仮説に基づいて検証し、報告書を取りまとめた。
- ・「イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」については、現地ヒアリングの実施等で得られた調査結果を報告書として取りまとめ、振興会 HP で公表するとともに、振興会内外で成果報告を行った。
- ・メディア芸術分野の PO 2 名を中心に、当該分野の実態を把握し、これに対する効果的な助成制度を検討するため、インターネットや文献等による国内外の催事等の調査や、関係者へのヒアリング、関係催事の実地調査を行った。また、その一環として、「我が国のマンガ・アニメーション分野における自主制作活動等に関する実態調査」に着手し、特にマンガ分野のうち、カートゥーン、同人誌、アニメーション分野のインディペンデントアニメーションなどについて、有識者による作業部会にて調査対象を検討した上で、文献調査及びアンケート・ヒアリング調査を開始した。

⑤「地域の文化振興等の活動」に関する地方公共団体との連携協力の推進

- ・当振興会からの「平成 31 年度芸術文化振興基金助成金の取りまとめについて（依頼）」に基づき、都道府県・指定都市担当者向けの説明会を実施した（7/30、場所：伝統芸能情報館 3 階、レクチャー室）。
- ・公益財団法人岩手県文化振興事業団からの講師派遣依頼に基づき、同事業団が主催する地域の文化芸術活性化を目的とした研修会において、自治体関係者、一般団体向けの説明会を実施した（10/17、場所：岩手県民会館）。

⑥情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

- ・データを簡易に取り込めるクラウドサービス「キントーン」「フォームブリッジ」を新たに導入し、募集に関する応募相談会の申込について、申込者からの FAX による方法から HP 上での入力による方法に変更した。また、平成 31 年度助成対象活動の応募団体に対して実施した、文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート調査の集計にも活用し、大幅な業務の効率化を実現した。

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方の検討

- ・「芸術文化振興基金将来構想検討設置要項」を改正の上、基金部各課、計画課及び経理課担当者から成る新たなチームで、芸術文化振興基金助成事業の在り方について、5 回の検討を行った（5/8、6/15、7/19、8/30、9/28）。並行して、検討チームを細分化した 5 つのワーキンググループ（「芸術文化振興基金助成事業の手続等の見直し」（5/28）／「広報」（6/7）／「財源予測」（5/28）／「地方公共団体との連携」（6/4）／「事業の在り方」（5/23、6/1、7/5、8/22、10/22））での打合せを実施し、芸術文化振興基金の今後の助成スキームの在り方について検討し、概略をまとめた。
さらに、その過程で、芸術文化振興基金だけの見直しでは不十分との見解に至ったため、新たに「助成制度の政策研究に関する勉強会」を立ち上げ、文化芸術振興費補助金による助成事業を含め、今後の文化芸術に対する助成事業の在り方について、各分野の PD・PO と 5 回の検討を行った（10/11、11/5、11/6、11/12）。
- ・文化芸術振興費補助金による助成事業に関しては、文化庁担当者と意見交換を行い、各分野固有の実状を踏まえた新たな助成制度の検討を進めた。

エ 文化庁と連携した PD・PO を活用する新たな審査・評価の仕組みの検討、地域版アーツカウンシル等との連携推進

■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・「舞台芸術創造活動活性化事業」については、平成 29 年度事業分の事後評価として、「年間活動支援」及び「公演事業支援」の全助成対象活動について、運営委員会の審議を経て「評価コメント」を決定し、8 月～10 月に全ての助成対象団体に対し、プログラムディレクター (PD) ・プログラムオフィサー (PO) から文書により伝達した上、意見交換及び助言を行った。また、「評価コメント」については、平成 31 年度助成対象活動の採択審査の評価に反映した。
- ・平成 30 年度事業分については、全助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員により、公演調査を行った。
- ・平成 31 年度以降については、「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」及び「国際芸術交流支援事業」の事後評価も実施することから、「舞台芸術創造活動活性化事業」の効果的・効率的な評価の実施を図るための検討を行い、PD・PO の意見を踏まえ、以下の方法により事後評価を行うこととした。
 - ◇ 全ての助成対象団体に自己点検評価の実施（「助成対象活動実績報告書」の作成・提出）を求め、その一部を公表する。
 - ◇ 「年間活動支援」及び「公演事業支援」の全助成対象活動について、公演調査報告書を基に「公演調査レポート（仮称）」を作成するとともに、「年間活動支援」の助成対象団体については、運営委員会の審議を経て、団体の年間活動の総合評価である「評価コメント」を作成する。以上の事後評価結果については、PD・PO から全助成対象団体に文書により伝達するとともに、「助成対象活動実績報告書」の内容も踏まえ、意見交換及び助言等を行う。

■国際芸術交流支援事業

- ・「国際芸術交流支援事業」については、文化庁からの移管に伴う事業内容の見直しを行い、平成 31 年度事業分から公演調査及び事後評価を行うものとし、その方法について PD・PO と議論・検討を重ね、舞台芸術等部会における審議を経て、以下の方法により実施することとした。
 - ◇ 全ての助成対象団体に自己点検評価の実施（「助成対象活動実績報告書」の作成・提出）を求め、その一部を公表する。
 - ◇ 国内で実施される「国際共同制作公演（国内公演）」及び「国際フェスティバル」については、全対象活動について公演調査を行い、その報告書を基に「公演調査レポート（仮称）」を作成するものとし、加えて、「国際フェスティバル」については、運営委員会の審議を経て、「評価コメント」を作成する。以上の事後評価結果については、PD・PO から全助成対象団体へ文書により伝達するとともに、「助成対象活動実績報告書」の内容も踏まえ、意見交換及び助言等を行う。
 - ◇ 海外で実施される「海外公演」及び「国際共同制作公演（海外公演）」については、助成対象団体の現地での活動状況報告及び「助成対象活動実績報告書」の内容を踏まえて、PD・PO との意見交換及び助言を行う。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、文化庁からの移管に伴う事業の見直しに際して、平成 30 年度事業分から新たに事後評価を導入することを決定していたが、平成 30 年度には、PD・PO と議論を重ね、公演等調査（活動別調査、ヒアリング調査）の実施方法を検討・決定し、専門委員、PD・PO 及び事務職員により評価対象団体毎に調査を実施する一方、事後評価の具体的な実施方法についても検討を進めた。事業毎の取組内容については、以下のとおり。
 - ◇ 「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」については、全助成対象団体（16 施設）を評価対象とすることとし、これらに対し活動調査及びヒアリング調査を行った。併せて、5 年間の継続助成を原則とする本事業では、2 年目に中間評価（継続採択の可否の判定）を、5 年目に最終年度評価（アウトカム発現状況等の評価）を、事業終了の翌年度に事後評価（5 年間の総括評価）をそれぞれ実施することとし、これら評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
 - ◇ 「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」については、助成対象団体が多いことから抽出評価とすることとし、平成 30 年度事業分として 13 施設を選定の上、これらに対し活動調査及びヒアリング調査を行った。併せて、本事業における事後評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
 - ◇ 「共同制作支援事業」については、全助成対象活動（3 件）を評価対象とすることとし、これらに対し活動調査を行った。併せて、本事業における事後評価の具体的な実施方法について検討を進めた。
 - ◇ 「劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業」については、一部の経費のみ（旅費・運搬費）を助成するもので、上記 3 事業とはスキームが異なることや、助成対象活動が多く業務の効率性を考慮する必要もあることから、事後評価を実施しないこととした。

■地域版アーツカウンシル等との連携推進

- ・地域版アーツカウンシルとしての実施団体や設置地方自治体の多くは、「創造都市ネットワーク日本」（以下、「CCNJ」という。）の加盟団体や加盟地方自治体と重複していることから、CCNJ との連携による、地域版アーツカウンシルとの連携体制構築を目指して、CCNJ の運営業務を担っている「アーツカウンシル新潟」のPD と意見交換を重ね、その在り方について検討を進めた。
- ・CCNJ の一部会として位置づけた「地域のアーツカウンシルワークショップ」を開催した（11/27、場所：当振興会第1会議室）。同ワークショップでは、「アーツカウンシル高知（アーツカウンシル機能を充実させた取組）」、「アーツコミッション横浜（助成活動から事業評価について）」及び「アーツコンソーシアム大分（アートプロジェクトの事業評価）」の3 団体が事例紹介を行ったほか、現在活動している地域のアーツカウンシルや、アーツカウンシルの導入を検討している地方自治体の関係者が参加し、具体的な事例をふまえた課題を共有し、今後の連携の在り方を意見交換することで、有効な情報提供の場になった。

オ 助成事業成果の振興会他事業への活用を検討

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成事業のスキームやノウハウの日本博関係業務への応用について、その可能性の検討を行うとともに、既存の助成事業を活用した日本博個別プロジェクトの実施についても検討を行った。
- ・関西地域の芸術文化振興基金助成対象団体と国立文楽劇場とが相互に連携して情報発信を強化することが可能となるよう、基金部が仲介者として協力を行った。
- ・新国立劇場の中核で実務経験のある元職員を舞踊 PD 及び音楽 PO として配置し（更に両名は劇場・音楽堂等担当を兼務）、新国立劇場の運営で培った知見の助成事業への活用を図った。

カ 復興支援基金のフォローアップ

- ・芸術文化復興支援基金から、平成 28～30 年度の活動に対して助成金を交付した「公益財団法人岩手県文化振興事業団（5,998 千円）」「公益財団法人宮城県文化振興財団（4,328 千円）」「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会（4,375 千円）」に対し、現地ヒアリング（3 団体）及び活動視察（「ふくしまの会」のみ）を行い、助成金が被災地の人々の心の復興や民俗芸能の継承など、東日本大震災からの復興に大きく寄与していることを確認した。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

- ・官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・掲載

①ホームページ上の情報の充実

- ・基金事業関連HPのアクセス件数 平成30年度 264,068件（うち芸術文化振興基金HP243,823件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業HP：20,245件）
- ・平成 31 年度助成事業の募集開始前に、平成 29 年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF 版を振興会 HP に掲載。
- ・助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、HP の記述内容について随時見直しを実施。

②事例集の作成・配布・掲載

- ・基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
- ・助成団体の活動時に配布・掲示を依頼する広報用ポスター、チラシを配布した（基金によるすべての助成対象団体に配布依頼、ポスター572枚、チラシ216,525枚を配布）
- ・芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレットを配布した
- ・文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関するリーフレットを配布した。
- ・「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した（毎月）。

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

①募集情報のホームページへの掲載

- ・31 年度助成対象活動の募集に関する専用ページ（ランディングページ）を設置するとともに、募集案内や助成金交付要望書の書式等をダウンロードできるように掲載した。

- ・助成金応募団体の利便性を高めるため、「よくある質問」ページの全面的な見直しを行い、助成事業に関するQ&Aページにリニューアルした。
- ・平成 29 年 11 月に開設した劇場・音楽堂等機能強化推進事業 HP について、平成 31 年度募集案内の公表（9/27）に合わせ、リニューアルを行った。
- ・舞台公演情報サイトやチケット販売サイト等において、31 年度助成対象活動募集のバナー広告を掲載した（9 月下旬～10 月下旬）。

②ポスター配布等

- ・広報用ポスター（5,000 枚）チラシ（25,000 枚）、地域文化パンフレット（100,000 枚）を配布。
- ・31 年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、地域文化施設（文化会館、美術館、博物館等）等 3,240 か所に送付し、広報協力を依頼。
- ・地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にも募集案内を送付。

エ 応募相談会等の開催

- ・平成 31 年度助成対象活動の募集にあたり、具体的な要望書の作成方法や提出資料の内容等、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するため、応募希望団体毎に実施する「応募相談会」を昨年度の 4 会場から 2 会場を増やし、全国 6 会場で開催したほか、映画への助成については、「応募説明会」を全国 2 会場で開催した。

[東京]	(応募相談会) 10/1～31	日本芸術文化振興会基金部助成相談室（参加：195 件）
	(応募説明会) 10/5	伝統芸能情報館レクチャー室（参加：28 件）
[大阪]	(応募相談会) 10/3	新大阪丸ビル会議室 602（参加：52 件）
	(応募説明会) 10/3	新大阪丸ビル会議室 408（参加：6 件）
[福岡]	(応募相談会) 10/9	アクロス福岡セミナー室 1（参加団体：17 件）
[金沢]	(応募相談会) 10/12	金沢勤労者プラザ 202 研修室（参加団体：9 件） ^{【新規】}
[愛知]	(応募相談会) 10/15	愛知県産業労働センター ウィンクあいち 1307 会議室 （参加団体：17 件）
[神戸]	(応募相談会) 10/22	神戸国際会館セミナーハウス 702（参加団体：21 件） ^{【新規】}

実績	年度計画	達成率
372 件	260 件以上(団体数)	143.1%

- ・具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を 5 月に全国 2 会場（東京、大阪）で実施した（参加団体 27 件）。

(3) 基金の管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 1,119,188 千円（利回り 1.62%）

- ・基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 資金の受入拡充

① 寄附先への感謝状の贈呈並びにHP等での広報

- ・芸術文化振興基金への寄附：14 件、600,488,889 円
（29 年度実績 9 件、809,146,679 円、208,657,790 円の減）
- ・原則 10 万円を超える寄附者（団体）については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄附者（団体）については、寄附者（団体）名を HP で広報するなどの顕彰により、寄附金の増額に向けて取り組んだ。

② 「芸術文化振興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄附受入

- ・「芸術文化振興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄附受入に向け広報活動を行った。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通り公演を実施した。 ・歌舞伎、文楽、舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等、大衆芸能、能楽、組踊等沖縄伝統芸能の6分野の入場者数達成率平均は103.1%。(文楽劇場の大阪北部地震での中止公演、国立劇場おきなわの台風による中止公演を勘案すると103.9%) ・オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の4分野の入場者数達成率平均は111.8%。 ・快適な観劇環境の形成、広報・営業活動の充実といった点では演目に応じ、様々な工夫を凝らした。 ・劇場施設の使用効率を向上させるため、積極的な情報提供を行い、施設の活用に努めた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1、2記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 〈3〉 日本博の運営・実施 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数が目標を下回った公演については、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、今後も広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。 ・近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。 ・現代舞台芸術の上演機会の少ない公演の営業計画については、さらなる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。 ・「日本博」の実施について、今後も充実を図りたい。

〈1〉 伝統芸能分野

<p>自己評定</p>	<p style="text-align: center;">B</p>
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通り公演を実施した。文楽劇場では大阪北部地震のため6月文楽鑑賞教室の2回が中止、国立劇場おきなわでは台風のため2公演が中止となった。 ・12年ぶりに小劇場で実施した歌舞伎公演は、小劇場ならではの緊密な空間が舞台効果を高めたと好評 ・七変化舞踊「七重咲浪花土産」を172年ぶりに復活した舞踊公演、初めて浄土真宗を取り上げた声明公演、歴史的にも貴重な毛越寺の延年を特集した民俗芸能公演、明治150年記念として多彩な明治期の芸能により構成した「東京の明治」等、企画性の高い公演を実施 ・青少年を対象にした多種多様な鑑賞教室を実施、さらに親子・外国人向けの入門企画を引き続き実施した。 ・「国立劇場おきなわ開場15周年記念特別公演」として、主催公演の主なジャンル、本土の芸能、新作作品を網羅する多彩な構成で公演を実施し、好評を得た。 ・計画通り新作組踊の上演、上演機会が少ない優れた組踊及び沖縄芝居の上演、アジア・太平洋地域の芸能公演等、国立劇場ならではの多彩な公演を継続的に実施した。 ・歌舞伎鑑賞教室の地方公演において、職員・スタッフを派遣し、現地の文化施設担当者との打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場の技術やノウハウを提供した。上演に際しては、舞台機構上の制限を踏まえつつ、できる限り本館大劇場と同じ公演形態で実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数（年度計画 別表1記載） 《公演実績》表 参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ①歌舞伎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場で復活した通し狂言の台本、演出を練り直して物語の流れを分かりやすく構成するとともに、現代に合わせて全体のテンポアップを実現し、レパトリーの拡充に寄与した（10月「平家女護島」、11月「名高大岡越前裁」、初春「姫路城音菊礎石」） ・国立劇場で復活した通し狂言の次世代への継承（10月「平家女護島」） ・上演が途絶えていた場面復活（12月「増補双級巴」 壬生村（70年ぶり）、木屋町二階（90年ぶり）、五右衛門隠家（50年ぶり）） ・12年ぶりに小劇場で実施した公演は、小劇場ならではの緊密な空間が舞台効果を高めたと好評（3月「元禄忠臣蔵」「積恋雪関扉」） ・外国人を対象とした公演「Discover KABUKI」を2回実施。音声ガイドに新たにフランス語を加えて6言語とした。 <p>②文楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上演機会が少ない段や場面を積極的に取り上げ、物語をより分かりやすくするとともに、技芸の継承に努めた。 本館5月「彦山権現誓助剣」須磨浦の段、瓢箪棚の段 本館9月「夏祭浪花鑑」道行妹背の走書、田島町団七内の段 本館12月「伊達娘恋緋鹿子」八百屋の段 本館2月「壇浦兜軍記」阿古屋琴責の段（判決のくんだり） 文楽劇場夏休み文楽特別公演「大塔宮囃鏝」六波羅館の段、身替り音頭の段 文楽劇場11月「蘆屋道満大内鑑」信田森二人奴の段 ・外国人を対象とした公演「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて実施。音声ガイドに新たにフランス語を加えて6言語とした。 ・演目にちなみ企業との協力や他ジャンルとのコラボレーションに積極的に取り組み宣伝効果を向上 ・外国人向け公演「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて継続して実施

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・全体で目標を上回る入場者数を達成(達成度 108.2%)
- ・本館では、七変化舞踊「七重咲浪花土産」を172年ぶりに復活した舞踊公演、琵琶の歴史を実演解説と名曲によりたどった邦楽公演、雅楽器の音色や奏法という切り口から特色ある構成とした雅楽公演、初めて浄土真宗を取り上げた声明公演、歴史的にも貴重な毛越寺の延年を特集した民俗芸能公演、明治150年記念として多彩な明治期の芸能により構成した「東京の明治」等、企画性の高い公演を実施
- ・文楽劇場9月特別企画公演「天の岩戸開きの芸能」では、神話のなかでもよく知られた「天の岩戸」伝説から派生した様々な芸能を一挙に上演

④大衆芸能

- ・全体で目標を上回る入場者数を達成(達成度 109.6%)
- ・文楽劇場の上方演芸特選会では3月に第100回を迎え、上方演芸4団体の会長クラスの出演者が勢揃いする記念公演を実施

⑤能楽

- ・すべての公演で目標入場者数を達成し、独法化以降最高の入場率を更新した(入場者数達成率 105.2%)
- ・開場35周年記念公演の9月を中心に、現代能楽界を代表する演者により、大曲・名曲・稀曲を上演
- ・国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲狂言、新作狂言を再演し、演目の拡充に貢献
- ・国立能楽堂の所蔵する能装束を活用して2ヶ月にわたり大曲「道成寺」を上演
- ・能や狂言と起源や題材が共通する民俗芸能を併演し、新たな観客層の獲得に貢献
- ・能楽鑑賞教室で全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を継続実施

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・本館では天皇陛下御在位30年、国立劇場おきなわ開場15周年、組踊上演300年を記念し、300年前に組踊として初めて上演された「二童敵討」を中心に、ベテランから若手まで幅広い出演者による「組踊と琉球芸能」を上演
- ・新作組踊の上演(「真珠道」「平敷屋朝敏～哀・愛しや～」 「人盗人」「もどろみゆ華の命」)
- ・上演機会が少ない優れた演目の上演(「大川敵討」「雪払(今帰仁御殿本)」「運天の若按司敵討」「怪猫伝化け猫～山田祝女殿内～」時代幻想劇「王女御殿」)
- ・創作舞踊等の再演、初演(創作舞踊「天河や帯」「織女牽牛」「暁節」「紺染み」「天空坊」、新作舞踊劇「舌切りスーサー」)
- ・開場15周年を記念して、国立劇場おきなわ開場15周年記念特別公演を企画

イ 演目の拡充

- ・七変化舞踊「七重咲浪花土産」172年ぶり復活上演(5月舞踊公演「変化舞踊」)
- ・国立劇場復元の古代楽器を用いた新作委嘱作品「二面の復元正倉院(四絃／五絃)琵琶、笙、打物と群声に依る 胡絃乱聲」上演。(6月邦楽公演「日本音楽の流れⅡ—琵琶—」)
- ・文楽劇場では、滝沢馬琴「里見八犬伝」を題材とした「花魁蒼八総」復曲の最終回として、八剣士誕生となる物語「富山の段」の復曲試演会を実施
- ・国立劇場おきなわでは、創作舞踊等の再演、初演(創作舞踊「天河や帯」「織女牽牛」「暁節」「紺染み」「天空坊」、新作舞踊劇「舌切りスーサー」)を実施

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・歌舞伎鑑賞教室の有料入場者数累計600万人を達成。
- ・社会人・親子等を対象とした公演・入門企画を計画通り実施
- ・外国人を対象とした公演・入門企画を計画通り実施。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

	<ul style="list-style-type: none"> ・共催、受託などによる公演等を 16 公演実施 ・全国各地の文化施設等における公演を 3 公演実施 ・国際文化交流公演等を 7 公演実施 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施 ・四季を感じられるロビー飾り等を実施 ・外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等の作成及び字幕表示等の多言語対応を実施 ・快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)を作成 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各公演の特設サイトを作成し、インターネットを積極的に利用して公演の PR を実施 ・Twitter、Instagram に加え、TripAdvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施 ・公演周知等において、旅行代理店・ホテル・日本学生支援機構・外部団体との連携を一層強化。 ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施。 ・大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供。 ・HP において、技芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を文楽公演において実施 ・文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、HP・パンフレット・専門誌等で随時発信 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数が目標を下回った公演については、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、今後も広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。 ・近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての公演を計画どおり実施した。 ・入場者数についてはバレエ、現代舞踊の全公演で目標値を上回り、オペラ、演劇はジャンル全体で目標入場者数を達成した。 ・いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た。 ・新国立劇場開場20周年記念特別公演「アイダ」「フィデリオ」を上演し、豪華なプロダクションと出演者により祝祭性を盛り上げた。 ・「トスカ」は本公演・鑑賞教室・全国公演で計13回の長期公演を実現、2万人を超す観客動員を得た（20,789人）。 ・創作委嘱作品「紫苑物語」を世界初演した。作品内容周知のため計3回のトークイベント実施等、積極的な宣伝を展開した結果、集客の難しい日本オペラの新制作で通常より多い4回公演の目標入場者数を達成した（入場率82.4%、達成率115.9%）。 ・全キャスト日本人の「紫苑物語」に続き「ウェルテル」もタイトルロールを除く全キャストが日本人で構成されるなど、日本人歌手が全公演随所で活躍した。 ・「魔笛」「紫苑物語」で試行的に英語字幕を設置した。 ・新国立劇場バレエ団が完成度の高い舞台を作り上げ、観客から高い支持を得た。外部専門家等からも評価を受けてバレエ団プリンシパルが各種賞を受賞した。 ・世界的なバレエ話題作「不思議の国のアリス」をアジアで唯一上演が認められ、オーストラリア・バレエとの共同制作で上演した。8回の公演数でほぼ満席となる観客（入場率94.8%）を得た。作品内容、公演の質いずれも高い評価を受けた。 ・昨年度新制作の「くるみ割り人形」は、作品にふさわしいクリスマス時期に移行して上演しバレエ公演全体で史上最高の入場者数（15,527人）を記録した。 ・こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」は現代舞踊と組み合わせて「こども劇場セット」とし、大人と子供が共に楽しめる作品として強力に周知した。親子での観劇など初心者らを多数獲得し、観客層の拡大に資した。 ・大人も子供も一緒に楽しめるダンス作品として多くの観客を得た「サーカス」を再演し、観客数の増大に貢献した。 ・日本の現代舞踊史を振り返る企画として高い評価を受けた「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」を再び制作した。今回は戦後高度経済成長期のダンスシーンを取り上げ当時の作品の魅力を変えて紹介した。 ・現代舞踊公演の演目に新国立劇場バレエ団ダンサーが出演し、ダンス公演の観客としてバレエ団ファンも取り込み高い入場率を得た。 ・演劇ジャンルでは新作の上演、海外の優れた戯曲の日本初演や新訳上演、新国立劇場の財産とも言うべきシリーズ企画や名作再演に加え、公演制作の新しい形を模索する企画と、多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。出演者や作品が各種賞を受賞し、その成果を裏付けた。 ・新たな視点から名作を戯曲化した「1984」は、単一公演としては最大の公演回数（35回）にもかかわらず95.1%という高い入場率を記録した。 ・シェイクスピア歴史劇シリーズとして「ヘンリー五世」を上演した。ほぼ同一のキャスト・スタッフで制作を重ねてきたことで作品の完成度は高まり、連続で訪れる観客に加え前作の評判を受けた初めての観客にも期待に十分応える内容だった。 ・新作書き下ろし「消えていくなら朝」を上演し、宮田演劇芸術監督の最終演目にふさわしい硬質な作品内容と演出・演技が高い評価を受けた。 ・「スカイライト」では劇場として初めて視覚・聴覚障害者に向け観劇サポートを実施した。 ・新しい試みである「こつこつプロジェクトーディベロップメントー」を企画

	<p>し、そのスタートとなる3作品のリーディング公演を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペラ劇場1階客席にアシストグリップを設置するなど施設設備の改修を行うとともに、公演内容に因んだ装飾やイベントを実施して親しみやすい劇場作りに努めた。 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けの観劇サポートを実施、ホームページに車椅子来場者のためのアクセスルート図示などバリアフリー対策を進めた。 ・英語案内パンフレットの大幅改訂、チケット券面の日英表記、英語字幕の設置ならびにプログラムの英語記事増頁など、外国人利用者のサービス向上を図った。インバウンドの大規模商談会に参加し誘致にも努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数（年度計画 別表2記載） 《公演実績》表 参照</p>
主な業務実績	<p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <p>①オペラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペラ公演9公演で目標入場者数を達成(10公演合計の達成率108.5%) ・「アイーダ」「トスカ」「カルメン」で92%以上の入場率 ・開場20周年特別公演「アイーダ」「フィデリオ」を上演 ・創作委嘱作品「紫苑物語」を新制作初演 ・「魔笛」「紫苑物語」で英語字幕を設置 <p>②バレエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレエ公演全公演で目標入場者数を達成（達成率109.3%） ・「不思議の国のアリス」をオーストラリア・バレエとの共同制作で新制作 ・「不思議の国のアリス」「くるみ割り人形」で94%以上の入場率 ・こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」は現代舞踊公演と組み合わせ「こども劇場セット」として販売 <p>③現代舞踊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代舞踊公演で目標入場者数を達成（達成率112.8%） ・大人も子供も楽しめる作品「サーカス」を再演 ・日本の現代舞踊史を振り返る企画として高い評価を受けた「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」を再び制作 ・新国立劇場バレエ団が出演しバレエ団ファンを現代舞踊部門に誘引 <p>④演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇7公演で目標入場者数を達成(合計の達成率116.8%)。 ・「1984」は過去最大の小劇場公演数(35回)で95.1%の入場率を達成 ・シェイクスピア歴史劇シリーズとして「ヘンリー五世」を上演 ・「スカイライト」では劇場として初めて視覚・聴覚障害者に向け観劇サポートを実施 ・複数年かけて舞台づくりに取り組む新企画「こつこつプロジェクト」を開始 <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に青少年を対象とした公演等を計画通り3公演実施、目標入場者数を達成 <p>(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共催、受託などによる公演等を3公演実施 ・全国各地の文化施設等における公演を15公演実施 ・国際文化交流公演等を4公演実施 ・海外劇場等との交流を6件実施 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペラ劇場1階客席にアシストグリップを設置 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施 ・オペラ公演の一部で英語字幕を設置 ・観客参加型の避難訓練「第3回避難体験オペラコンサート」を中劇場で実施 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページとSNS(Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、動画も活用

	<p>して積極的に情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座等イベントを開催して公演周知に努め、終了後は概要やダイジェスト映像をホームページに掲出 ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会に参加 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、HP・パンフレット・専門誌等で随時発信
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上演機会の少ない公演の営業計画については、さらなる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

〈3〉日本博の運営・実施

自己評価	A
自己評価の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・日本博の運営・実施は振興会にとって全く前例のない試みだったが、すべて未定の状態から事務局を組織内に新設し、「日本博」公式サイトを作成、旗揚げ式の開催など、多大なる労力を費やしながらも、大きな問題もなく無事実現させることができたことは、質的に顕著な成果を挙げていると考えられるため。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、日本の文化芸術の魅力を体現する様々な展覧会、舞台公演、芸術祭、文化イベント等を全国で展開する大型文化催事の開催に向けた事務局の設置など実施準備に係る業務の企画立案及び実施のため、「大型文化催事準備チーム」を新設した。さらに「日本博」の開催に向けた事務局の設置について、文化庁長官より依頼を受け、平成31年度より運営開始する日本博事務局開設のため、専門性の高い人材の確保や執務室の整備等の準備を本格的に実施した。 ・日本博事業開始に先立ち、その機運を高めるため「日本博」旗揚げ式を開催し、林英哲と英哲風雲の会の和太鼓によるオープニングパフォーマンスや、宮田亮平文化庁長官と中村扇雀、尾上菊之助などによるトークセッション、「日本博」ロゴマークの発表など、準備期間が短い中で可能な限り華やかな開幕となるよう、関係機関と連携協力し実施した。 ・「日本博」を広報するため、日本博の総合テーマやコンセプトに合致する作品を所有する団体より画像を提供していただき、それら画像を使用したチラシやポスターを製作し、これら関係各所で配布した。 ・国立劇場が位置する皇居周辺の各機関と連携協力し、「日本博」の各種イベントを掲載した『皇居周辺・日本橋エリアアートマップ』を作成、関係各所に配布した。 ・3月4日に上記画像等を使用した「日本博」公式サイトをオープンし、3月3日に発表した参画プロジェクトや「日本博」旗揚げ式の様子などを広報した。 ・JNTOと連携協力し、インバウンドに訴求することを図った内容のSNSを英語で発信。 ・大劇場の2階下手ロビーに「風神雷神図」、小劇場ロビーに3月歌舞伎の演目に因んだ桜が描かれた「おぼろ」（加山又造＝原画制作）の陶板による高精細レプリカを展示し、公演来場者等に向けて「日本博」機運の盛り上がりの醸成を図った（陶板制作＝大塚オーミ陶業株式会社）。 ・文化庁が主催する会議である、文化庁「日本博」企画委員会や「日本博」に関する文化庁及び国立文化施設等関係者連絡会の開催準備や運営等に積極的に協力した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本博」の実施体制について今後も充実を図りたい。

(1) 伝統芸能の公開	p.22
ア 主催公演の実施	p.23
①歌舞伎	p.24
②文楽	p.27
③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	p.31
舞踊	p.34
邦楽	p.35
雅楽	p.36
声明	p.36
民俗芸能	p.37
琉球芸能	p.37
特別企画	p.38
④大衆芸能	p.40
定席公演(上席・中席)	p.42
若手新人公演(花形演芸会)	p.43
新春国立名人会／国立名人会	p.44
特別企画公演	p.45
浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会	p.46
⑤能楽	p.47
定例公演	p.50
普及公演	p.51
企画公演、鑑賞教室	p.51
⑥組踊等沖縄伝統芸能	p.54
イ 演目の拡充	p.58

2 - (1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

- ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施
- イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施
- エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施
- オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施
- イ 演目の拡充
 - ①歌舞伎：「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として 2 作品を補綴・上演用準備台本作成、「国立劇場文芸研究会」において上演候補台本準備稿の作成、新作脚本募集の選考及び表彰
 - ②文楽：新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施、廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業
 - ③大衆芸能：「講談」の新作脚本募集、選考及び表彰、過去の入選作品も含め上演に向けての準備作業
 - ④能楽：国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演
 - ⑤組踊等沖縄伝統芸能：上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 伝統芸能の公開の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	181 公演 (H25-29 実績平均：183.8 公演)
2-6 伝統芸能の公開について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P.3 参照

ア 主催公演の実施

《公演実績（伝統芸能分野総計）》

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
歌舞伎	7 公演	実績	218 回	166 日	212,276 人	71.5%	297,084 席	99.1%
	本館大小劇場	計画	211 回	166 日	214,200 人	71.9%	297,766 席	
文楽	10 公演	実績	370 回	175 日	172,732 人	70.9%	243,626 席	99.3%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	372 回	176 日	173,970 人	71.0%	245,088 席	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	21 公演	実績	29 回	22 日	17,374 人	80.6%	21,546 席	108.2%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	29 回	22 日	16,060 人	74.0%	21,714 席	
舞踊	4 公演	実績	7 回	4 日	3,518 人	69.0%	5,098 席	97.7%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	4 日	3,600 人	70.6%	5,098 席	
邦楽	4 公演	実績	5 回	5 日	2,924 人	93.9%	3,113 席	122.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	5 日	2,380 人	76.5%	3,113 席	
雅楽	1 公演	実績	1 回	1 日	546 人	92.5%	590 席	29.5%
	本館大小劇場	計画	2 回	2 日	1,850 人	84.1%	2,200 席	
声明	1 公演	実績	1 回	1 日	1,388 人	86.2%	1,610 席	109.3%
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,270 人	78.9%	1,610 席	
民俗芸能	2 公演	実績	4 回	2 日	1,939 人	82.2%	2,360 席	113.4%
	本館小劇場	計画	4 回	2 日	1,710 人	72.5%	2,360 席	
琉球芸能	1 公演	実績	1 回	1 日	1,332 人	88.2%	1,510 席	121.1%
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,100 人	68.3%	1,610 席	
特別企画	8 公演	実績	10 回	8 日	5,727 人	78.8%	7,265 席	138.0%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	9 回	7 日	4,150 人	72.5%	5,723 席	
大衆芸能	64 公演	実績	314 回	288 日	57,921 人	63.7%	90,987 席	109.6%
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	計画	314 回	288 日	52,844 人	58.1%	90,987 席	
能楽	51 公演	実績	60 回	55 日	37,392 人	99.4%	37,620 席	105.2%
	能楽堂	計画	60 回	55 日	35,560 人	94.5%	37,620 席	
小計	153 公演	実績	991 回	706 日	497,695 人	72.0%	690,863 席	
		計画	986 回	707 日	492,634 人	71.1%	693,175 席	
組踊等 沖縄伝統芸能	28 公演	実績	40 回	36 日	16,303 人	71.3%	22,874 席	97.1%
	国立劇場おきなわ 大小劇場	計画	42 回	38 日	16,784 人	69.7%	24,071 席	
総合計	181 公演	実績	1,031 回	742 日	513,998 人	72.0%	713,737 席	
		計画	1,028 回	745 日	509,418 人	71.0%	717,246 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※3月歌舞伎公演「元禄忠臣蔵—御浜御殿綱豊卿—」「積恋雪関扉」は、政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演とした。

※6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」「絵本太功記」6/18公演は、大阪北部地震のため昼夜公演中止（夜は社会人向け公演）。

※7月定期公演 組踊「万歳敵討」、9月定期公演 組踊「義臣物語」は、台風接近のため、公演を中止した。

① 歌舞伎

《制作方針》

10月から3月の公演については、これまでの上演方針に則した「通し狂言」の上演を基本とし、上演の稀な場面や作品の復活を企図する。また、過去に復活した演目を見直して再演することにより演目の定着を目指す。

6、7月には解説を付した公演を行う。

6月に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う文化プログラムの実施に向け、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

配役の工夫により、歌舞伎俳優にとっての芸の継承にも配慮する。

以上により、歌舞伎の保存と振興を図る。

○

10月歌舞伎公演は、平成30年が平清盛生誕900年であることに因み、平成7年に通し狂言として上演した近松門左衛門の名作「平家女護島」を、台本、演出を見直して上演し、レパートリーの拡充を目指すとともに、若手俳優陣を積極的に登用し、次世代への継承を図る。11月歌舞伎公演は、平成30年が明治150年に当たることに因み、明治初期に初演された河竹黙阿弥の名作「扇音々大岡政談」を取り上げ、大岡越前守の活躍に重点を置いて原作から新たに補綴し、「名高大岡越前裁」という題名で、通し狂言として上演する。12月歌舞伎公演は、初代中村吉右衛門が主人公の石川五右衛門をたびたび手掛けた「増補双級巴」を、復活場面も含めて通し狂言として上演し、当代中村吉右衛門による芸の継承を目指す。初春歌舞伎公演は、平成3年に212年ぶりに復活した並木五瓶の傑作「袖簿播州廻」の台本を新たに補綴し、「姫路城音菊礎石」と題して、初春興行にふさわしい娯楽性豊かな通し狂言として上演する。3月歌舞伎公演は、12年ぶりに小劇場で実施し、新歌舞伎の名作「元禄忠臣蔵 御浜御殿綱豊卿」と歌舞伎舞踊の屈指の大曲「積恋雪関扉」を上演し、緊密な空間ならではの歌舞伎の魅力を提供する。また、若手俳優に大役を配し、芸の継承にも配慮する。

青少年等を対象とした公演として歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は、明治150年を記念し、明治初期に初演された歌舞伎舞踊の屈指の人気曲「連獅子」を、7月は、「八岐大蛇退治」を題材にした近松門左衛門の名作「日本振袖始」を取り上げ、解説を付して上演することにより、歌舞伎の普及振興、技芸の継承を図る。6月には、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を29年度に続いて2回公演で実施するとともに、その翌日から多言語の音声ガイドを有料で提供する「Multilingual Week」も実施する。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 通し狂言「平家女護島」	本館 大劇場	10月1日(月) ～10月25日(木)	実績	25回	25日	15,569人	41.6%	37,384	75.9%
			計画	25回	25日	20,500人	53.9%	38,000	
11月歌舞伎公演 通し狂言「名高大岡越前裁」	本館 大劇場	11月3日(土・祝) ～11月26日(月)	実績	24回	24日	13,436人	36.8%	36,480	74.6%
			計画	24回	24日	18,000人	49.3%	36,480	
12月歌舞伎公演 通し狂言「増補双級巴 —石川五右衛門—」	本館 大劇場	12月3日(月) ～12月26日(水)	実績	24回	24日	24,609人	75.1%	32,760	108.4%
			計画	24回	24日	22,700人	62.2%	36,480	
初春歌舞伎公演 通し狂言「姫路城音菊礎石」	本館 大劇場	1月3日(木) ～1月27日(日)	実績	25回	25日	26,528人	69.8%	38,000	98.6%
			計画	25回	25日	26,900人	70.8%	38,000	
3月歌舞伎公演 「元禄忠臣蔵」「積恋雪関扉」	本館 小劇場	3月3日(日) ～3月27日(水)	実績	30回	23日	9,756人	62.3%	15,660	125.1%
			計画	23回	23日	7,800人	65.0%	12,006	
歌舞伎公演【小計】5公演 (計画:5公演)			実績	128回	121日	89,898人	56.1%	160,284	93.7%
			計画	121回	121日	95,900人	59.6%	160,966	
6月歌舞伎鑑賞教室 明治150年記念 解説「歌舞伎のみかた」、 「連獅子 長唄囃子連中」	本館 大劇場	6月2日(土) ～6月24日(日)	実績	46回	23日	58,755人	84.0%	69,920	106.6%
			計画	46回	23日	55,100人	78.8%	69,920	
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「日本振袖始 —八岐大蛇と素戔嗚尊—」	本館 大劇場	7月3日(火) ～7月24日(火)	実績	44回	22日	63,623人	95.1%	66,880	100.7%
			計画	44回	22日	63,200人	94.5%	66,880	
歌舞伎鑑賞教室【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	90回	45日	122,378人	89.5%	136,800	103.4%
			計画	90回	45日	118,300人	86.5%	136,800	
歌舞伎【合計】7公演 (計画:7公演)			実績	218回	166日	212,276人	71.5%	297,084	99.1%
			計画	211回	166日	214,200人	71.9%	297,766	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※3月歌舞伎公演「元禄忠臣蔵—御浜御殿綱豊卿—」「積恋雪関扉」は、政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11を休演日とした。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催(6月7日、3月29日)。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
8,171人	5,613人	4,872人	4,805人	68.7%	98.6%
《Discover KABUKI のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
2773人	1,925人	1,615人 (966人)	1,587人 (949人)	69.4%	98.3% (98.2%)

※全7公演で、計9回実施。うち2回を「Discover KABUKI」で実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・「平家女護島」では、台本、演出を整理して全体のテンポアップを図り、全体の上演時間を約15分短縮し、物語の展開や舞台の内容を緊密にした。また、作品の理解を深める通し狂言での上演と若手俳優の演技が劇評や新聞評で評価され、国立劇場で復活した通し狂言の次世代への継承と、レパートリー

の拡充に寄与した。

- ・「名高大岡越前裁」では、原作の冗長な部分や説明の重複部分を削ぎ落とし、主人公・大岡越前守が悪に立ち向かうという起伏のあるストーリー展開を念頭に置いた台本を作成し、主人公の人的苦悩に焦点を当てた構成は妥当であるとの評価を得た。また、近年カットされる場面を46年ぶりに上演し、原作の全体像を把握できる国立劇場ならではの通し上演であるとの新聞評で評価された。
- ・「増補双級巴」の上演は、初代中村吉右衛門の当たり役を当代が継承する企画であった。原作に近い初代吉右衛門の上演台本に基づき、通し狂言として台本を新たに補綴し、70年ぶりの「壬生村」、90年ぶりの「木屋町二階」、50年ぶりの「五右衛門隠家」の復活により、主人公・石川五右衛門の人間ドラマを創り上げた。当代中村吉右衛門が、人間味に溢れた人物像を造形し、宙乗りや立廻りも含めて力演し、劇評・新聞評で高く評価された。初代の芸の継承を実現させた。
- ・「姫路城音菊礎石」は、原作では複雑に入り組んだ設定を大幅に整理し、物語の流れを分かりやすく構成し、上演時間を平成3年所演より約1時間10分短縮した。一方、前年のヒット曲を取り入れた踊り、所作事の創作やコミカルな立廻り等、各幕の演出に趣向を凝らし、変化に富んだ舞台創りに努めた。初春興行にふさわしい娯楽作品であるとの評価を得た。また、ベテランの脇役が舞台を引き締め、中堅・花形が目覚ましい成長を見せ、一座のチームワークの良さを楽しめると、劇評で評価された。
- ・12年ぶりに小劇場で実施した3月歌舞伎公演は、小劇場ならではの緊密な空間が舞台効果を高めたという評価を得た。また、中村扇雀が「元禄忠臣蔵」の徳川綱豊で、尾上菊之助が「積恋雪関扉」の関兵衛実ハ大伴黒主で、立役の新しい役柄に挑み、若手俳優が大役を勤めるという企画は、俳優の新境地を拓く機会を与え、将来を見据えて取り組んだ野心的な内容であると、評価された。また、入場者数の増加を図るため、当初の年度計画を変更して1日2回公演を7回実施することで公演数を増やし、目標入場者数を達成することができた。
- ・多言語対応では、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」では、新たにフランス語を加えて対象を6言語とし、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の翌日以降には、多言語対応の音声ガイドを提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人が気軽に鑑賞できる機会を増やした。また、10月歌舞伎公演では、今後の拡充を見据え、英語・中国語・韓国語によるポータブル字幕機の貸出や解説書の無料配布を、試験的に実施した。
- ・初春歌舞伎公演では、物語の舞台が姫路城であることに因み、姫路市をはじめとする地域の振興協力や地域と連携した公演の周知宣伝を行い、姫路市長より感謝状を受領した。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演・オープニング(10月)
- ・文化庁芸術祭オープニング(10月歌舞伎公演初日)に皇太子同妃両殿下ご臨席(10/1)
- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(11月)
- ・明治150年記念事業(11月、6月鑑賞教室)
- ・Beyond2020プログラム認証事業(全公演)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした(6月・7月鑑賞教室)。
- ・外国人を対象にした入門公演「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の2回公演(6/15)と「Multilingual Week」(6/16～24)の実施
- ・政府主催「東日本大震災七周年追悼式」開催のため、3/10・11休演日
- ・3月歌舞伎公演の公演回数7回増

② 文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充に繋がるように努める。

上演に当たっては、古典的演出とともに、迫り等の劇場の舞台機構を活かした演出も試み、観客層の拡大を図る。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの実施に向け、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。



本館5月公演では、第一部を吉田幸助改め五代目吉田玉助襲名披露狂言「本朝廿四孝」を中心とした演目とし、第二部は「彦山権現誓助剣」の半通し上演を行う。9月公演は、第一部を明治150年記念施策と連動して「良弁杉由来」「増補忠臣蔵」、第二部を納涼公演の企画として「夏祭浪花鑑」を通す上演形態とする。12月公演は従来どおり、普及振興のための文楽鑑賞教室公演と中堅若手の技芸向上を目的とした若手公演とする。12月鑑賞教室公演は学生の団体鑑賞のための昼公演ばかりでなく、社会人を対象とした社会人のための文楽鑑賞教室を夜公演で3回、文化プログラムを想定した外国人向けの「Discover BUNRAKU」公演を1回上演する。2月公演は三部制とし、第一部を世話物の代表作「桂川連理柵」、第二部を近松門左衛門の姦通物「大経師昔暦」、第三部に継子いじめ物の「鷗山姫捨松」、三曲の演奏の件がみどころの「壇浦兜軍記」の2本立ての公演とする。

文楽劇場4月公演では、五代吉田玉助襲名披露公演として、吉田幸助が祖父の名跡・玉助の五代目を襲名する披露狂言「本朝廿四孝」を中心に上演する。夏休み文楽特別公演は、好評の三部制を30年度も継続し、それぞれ親子劇場、名作劇場、サマーレイトショーと銘打ち、親子、文楽ファン、社会人を観客ターゲットとする公演を行う。親子劇場では新作文楽の再演、名作劇場では平成25年に国立劇場で約120年ぶりに復活上演された「大塔宮囃子」を文楽劇場としては初めて上演し、レパートリー拡充に努める。11月公演では、第一部の「蘆屋道満大内鑑」で、三人遣いの操法が初めて舞台上に登場した記念すべき場面とされる信田森二人奴の段を文楽劇場では17年ぶりに取り上げる。初春公演は、第一部では、景事「二人禿」、時代物の名作「伽羅先代萩」、世話物「壺坂観音霊験記」を、第二部では、近松門左衛門の世話物の名作「冥途の飛脚」と華やかな「壇浦兜軍記」阿古屋琴責の段など、初春公演にふさわしい演目を昼夜に配して上演する。6月には、若年層を対象とした文楽鑑賞教室、一般向けの「社会人のための文楽鑑賞教室」、外国人向けの「Discover BUNRAKU」を実施し、案内役による分かりやすい解説を付け、文楽の一層の普及振興に努める。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 「本朝廿四孝」「義経千本桜」 ／「彦山権現誓助剣」	本館 小劇場	5月12日(土) ～5月28日(月)	実績	34回	17日	15,610人	82.0%	19,040	93.5%
			計画	34回	17日	16,700人	87.7%	19,040	
9月文楽公演 明治150年記念 南都二月堂 「良弁杉由来」／「増補忠臣蔵」 ／「夏祭浪花鑑」	本館 小劇場	9月8日(土) ～9月24日(月・休)	実績	34回	17日	17,357人	91.2%	19,040	102.1%
			計画	34回	17日	17,000人	89.3%	19,040	
12月文楽公演 「鎌倉三代記」 「伊達娘恋緋鹿子」	本館 小劇場	12月6日(木) ～12月18日(火)	実績	13回	13日	7,106人	97.6%	7,280	105.0%
			計画	13回	13日	6,770人	93.0%	7,280	
2月文楽公演 「桂川連理柵」／「大経師昔暦」 ／「鷗山姫捨松」「壇浦兜軍記」	本館 小劇場	2月2日(土) ～2月18日(月)	実績	51回	17日	21,619人	75.7%	28,560	101.0%
			計画	51回	17日	21,400人	74.9%	28,560	
文楽(本館)【小 計】4公演 (計画:4公演)			実績	132回	64日	61,692人	83.5%	73,920	99.7%
			計画	132回	64日	61,870人	83.7%	73,920	

12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」「団子売」 「菅原伝授手習鑑」	本館 小劇場	12月6日(木) ～12月18日(火)	実績	24回	13日	13,111人	98.8%	13,272	102.4%
			計画	24回	13日	12,800人	96.4%	13,272	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	24回	13日	13,111人	98.8%	13,272	102.4%
			計画	24回	13日	12,800人	96.4%	13,272	
文楽(本館)【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	156回	77日	74,803人	85.8%	87,192	100.2%
			計画	156回	77日	74,670人	85.6%	87,192	
4月文楽公演 「本朝廿四孝」「義経千本桜」/ 「彦山権現誓助剣」	文楽 劇場	4月7日(土) ～4月30日(月・休)	実績	46回	23日	17,996人	53.5%	33,626	91.8%
			計画	46回	23日	19,600人	58.3%	33,626	
夏休み文楽特別公演 「瓜子姫とあまんじゃく」 解説「文楽ってなあに」「増補大 江山」/「卅三間堂棟由来」「大 塔宮囃子」/「新版歌祭文」「日 本振袖始」	文楽 劇場	7月21日(土) ～8月7日(火)	実績	54回	18日	19,790人	50.1%	39,474	94.2%
			計画	54回	18日	21,000人	53.2%	39,474	
11月文楽公演 「蘆屋道満大内鑑」 「桂川連理柵」/ 「ひばり山姫捨松」「女殺油地獄」	文楽 劇場	11月3日(土・祝) ～11月25日(日)	実績	44回	22日	19,638人	61.1%	32,164	101.2%
			計画	44回	22日	19,400人	60.3%	32,164	
初春文楽公演 「二人禿」「伽羅先代萩」 「壺坂観音霊験記」/ 「冥途の飛脚」「壇浦兜軍記」	文楽 劇場	1月3日(木) ～1月25日(金)	実績	44回	22日	23,261人	72.3%	32,164	110.8%
			計画	44回	22日	21,000人	65.3%	32,164	
文楽(文楽劇場)公演 【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	188回	85日	80,685人	58.7%	137,428	99.6%
			計画	188回	85日	81,000人	58.9%	137,428	
6月文楽鑑賞教室、 解説「文楽へようこそ」 「二人三番叟」「絵本太功記」	文楽 劇場	6月8日(金) ～6月21日(木)	実績	26回	13日	17,244人	90.7%	19,006	94.2%
			計画	28回	14日	18,300人	89.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)鑑賞教室 【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	26回	13日	17,244人	90.7%	19,006	94.2%
			計画	28回	14日	18,300人	89.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	214回	98日	97,929人	62.6%	156,434	98.6%
			計画	216回	99日	99,300人	62.9%	157,896	
文楽【総合計】 10公演 (計画:10公演)			実績	370回	175日	172,732人	70.9%	243,626	99.3%
			計画	372回	176日	173,970人	71.0%	245,088	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」「絵本太功記」6/18公演は、大阪北部地震のため昼夜公演中止（夜は社会人向け公演）。中止分を計画から除いた場合、計画入場者数は16,993人(=18,300人×26回/28回)と考えることができ、入場者数の対計画達成率は101.5%となる。さらに、文楽劇場合計の計画入場者数は97,993人、対計画達成率99.9%、文楽全体合計では計画入場者数172,663人、対計画達成率100.0%となる。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催（6月12日、3月15日/5月16日、3月6日）。

(c) アンケート調査

《本館》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
1,715 人	1,231 人	1,095 人	1,082 人	71.8%	98.8%
《Discover BUNRAKU(東京公演)のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
512 人	317 人	268 人 (158 人)	265 人 (157 人)	61.9%	98.9% (99.4%)

※5月公演、9月公演、12月、2月公演の4公演で計4回実施。うち1回を「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」で実施。

《文楽劇場》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
2,234 人	1,118 人	1,088 人	1,064 人	50.0%	97.8%
《Discover BUNRAKU(大阪公演)のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
603 人	186 人	176 人 (84 人)	170 人 (83 人)	30.8%	96.6% (98.8%)

※4月公演、夏休み文楽特別公演、11月公演、初春公演、6月鑑賞教室の5公演で計5回実施。うち1回を「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- 制作方針に従い、通しでの上演、上演機会の少ない優れた場面の復活等を実施した。
- 本館5月の第一部は、吉田玉助の名跡を三代目の孫の吉田幸助が父玉幸に四代目を追贈し、五代目として50年ぶりに復活し、襲名披露口上を含む第一部の入場率は高成績であった。
- 通し狂言に準じる場割による演目立ての上演を積極的に行った結果として、出演者にとっては芸芸継承、観客にとっては演目理解を助ける成果を挙げることができた。
- 本館9月文楽公演「夏祭浪花鑑」は、見取りでの上演ではなかなか取り上げられない「道具屋」「道行」「団七内」を上演して、作品理解に配慮した演目立てを行った。
- 2月文楽公演では「桂川連理柵」を上演し、割愛されがちがな発端「石部宿屋」を上演し、物語の内容や登場人物の設定に対する理解を深めた。
- 2月文楽公演では「大経師昔暦」を上演し、作者近松門左衛門の原文による上演で、作者の意図が明確に伝えることができた。
- 本館9月公演では明治150年記念施策と連動して、明治期に初演された「良弁杉由来」「増補忠臣蔵」を上演し、その特色を示すことができた。
- 本館2月文楽公演第三部「壇浦兜軍記」では省略されがちな判決の件を東京では開場以来初めて上演し、作品理解や芸芸継承の好機として高く評価され、また有料入場率も92.3%の成績を挙げた。
- 本館12月文楽公演での外国人向けの公演「Discover BUNRAKU」は、「菅原伝授手習鑑」上演中に英文の横書字幕を投影、イヤホンガイドも日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語に、新たにフランス語を加えた6か国語を用意した。
- 文楽劇場4月文楽公演の五代目吉田玉助襲名披露狂言が「本朝廿四孝」であったことから、株式会社カプコンの協力のもと、抜群の知名度を誇るアクションゲーム「戦国BASARA」で戦国時代の武将が活躍するという点に着目し、吉田玉助襲名と「戦国BASARA」に登場するキャラクターとがコラボしたポスターやドアステッカー広告を展開、また「文楽×戦国BASARA コラボレーションしおり」を作成し、公演期間中の特定日に来場者へ配布するなどの公演宣伝が話題となった。
- 文楽劇場夏休み文楽特別公演の「親子劇場」に関して、文楽座芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て、1階資料展示室内に、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが体験できる模擬舞台及び床を設け、日替わりで文楽の体験ワークショップを行った。
- 文楽劇場11月公演第二部「鷗山姫捨松」で中将姫を人間国宝吉田簑助が初役で遣ったほか、吉田和生の「蘆屋道満大内鑑」の葛の葉と「女殺油地獄」のお吉、桐竹勘十郎の「桂川連理柵」のお半と「女殺油地獄」の河内屋与兵衛、吉田玉男の「桂川連理柵」の帯屋長右衛門など人形陣の充実が高い評価を得た。

- ・ 文楽劇場初春公演は、定評のある演目と充実した三業の顔ぶれで、昼夜ともに観客から好評を得ることができた。特に第二部の「壇浦兜軍記」では、桐竹勘十郎の阿古屋が話題となった。

【特記事項】

- ・ 平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 11 月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 各公演とも、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・ 通し狂言に準じる場割での上演(「彦山権現誓助剣」「夏祭浪花鑑」「桂川連理柵」「大経師昔暦」)
- ・ 上演機会の少ない場面の上演等(文楽劇場夏休み文楽特別公演「大塔宮曦鎧」(六波羅館・身替り音頭)、本館2月文楽公演「壇浦兜軍記」(阿古屋琴責の判決の件))

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

(a) 公演実績

区分名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
舞踊	4 公演	実績	7 回	4 日	3,518 人	69.0%	5,098 席	97.7%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	4 日	3,600 人	70.6%	5,098 席	
邦楽	4 公演	実績	5 回	5 日	2,924 人	93.9%	3,113 席	122.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	5 日	2,380 人	76.5%	3,113 席	
雅楽	1 公演	実績	1 回	1 日	546 人	92.5%	590 席	29.5%
	本館小劇場	計画	2 回	2 日	1,850 人	84.1%	2,200 席	
声明	1 公演	実績	1 回	1 日	1,388 人	86.2%	1,610 席	109.3%
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,270 人	78.9%	1,610 席	
民俗芸能	2 公演	実績	4 回	2 日	1,939 人	82.2%	2,360 席	113.4%
	本館小劇場	計画	4 回	2 日	1,710 人	72.5%	2,360 席	
琉球芸能	1 公演	実績	1 回	1 日	1,332 人	88.2%	1,510 席	121.1%
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,100 人	68.3%	1,610 席	
特別企画	8 公演	実績	10 回	8 日	5,727 人	78.8%	7,265 席	138.0%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	9 回	7 日	4,150 人	72.5%	5,723 席	
合計	21 公演	実績	29 回	22 日	17,374 人	80.6%	21,546 席	108.2%
		計画	29 回	22 日	16,060 人	74.0%	21,714 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各 2 回開催。
 - 6 月 13 日、3 月 14 日 舞踊専門委員会
 - 6 月 20 日、3 月 22 日 邦楽公演専門委員会
 - 6 月 20 日、3 月 26 日 雅楽・声明公演専門委員会
 - 6 月 5 日、3 月 22 日 民俗芸能・琉球芸能公演専門委員会
 - 5 月 22 日、3 月 19 日 短期公演等専門委員会（文楽劇場）

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7,038 人	4,593 人	4,092 人	3,999 人	65.3%	97.7%

※舞踊公演 1 回、雅楽公演 1 回、声明公演 1 回、民俗芸能公演 1 回、琉球芸能公演 1 回、特別企画公演 4 回、文楽劇場特別企画公演 1 回の計 10 回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

【本館】

《舞踊》

- ・ 本館 5 月「変化舞踊」では 172 年ぶりの復活となった「七重咲浪花土産」を中心に、日本舞踊の形式として重要な変化舞踊の魅力を引き出すことができた。また、歌舞伎舞踊の名作の上演に加え、出者者による座談を通じて日本舞踊や舞踊家自身への興味の喚起を図った本館 8 月「花形・名作舞踊鑑賞会」、近年の公演では上演が稀となっていた味わい深い作品も取り上げ、上方舞の多彩な趣を示した本館 11 月「舞の会ー京阪の座敷舞ー」と、公演の意図と上演演目の魅力を十全に引き出す出演者の起用により、年間を通じて高い水準の舞台成果を得、併せて日本舞踊の世界を楽しんでもらうことがで

きた。

《邦楽》

- ・本館では、企画性の高い内容で幅広い客層からの支持を得ることができ、目標入場者数を達することができた。
- ・6月「日本音楽の流れⅡ」では、「琵琶」の歴史や特色を紹介することができた。各分野の実力者による演奏は、それぞれの魅力を十分に示す舞台となった。また、伝承者の少ない盲僧琵琶の上演は技芸の継承に寄与し、画像や映像を用いた解説は各流派の特色を理解するのに寄与した。復元楽器を用いた委嘱新作の上演により、現代曲の可能性を拓くことができた。
- ・10月「文楽素浄瑠璃の会」、1月「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—」においても、斯界の第一人者による競演で名演の数々を披露することができた。各演目とも作品の趣意を的確に捉えた演奏で、国立劇場の公演ならではの質の高い舞台であった。

《雅楽》

- ・「雅楽器の魅力」では、雅楽の第一線で活躍する実力者による演奏で、唐楽や高麗楽、神楽歌、現代曲といった雅楽の多様な魅力をお楽しみいただくことができた。通常の公演とは異なり小編成の作品を中心に構成したことで、各楽器の特色を一層引き立たせることができた。目標入場者数を超え、高い収支達成率を得た。

《声明》

- ・「浄土真宗の声明」では初めて浄土真宗の声明を取り上げた。7日間ある本山の「報恩講」（法要）のうち、1回しか行われぬ「式文」の初段・二段・三段と続けて拝読する作法を紹介した。今回は音楽的要素の強い声明だけでなく、語り物の部分も比重が大きかったため、通常とは趣の異なった声明の魅力を伝えることができた。当公演を機に、高田派の末寺まで含め声明の稽古が行われ、その修練の成果も十分に発揮された舞台となった。

《民俗芸能》

- ・6月公演は、岩手県・毛越寺の延年を取り上げ、現地での「二十日夜祭」と同様に「常行三昧供」と延年の舞を併せて上演したことで、法楽芸能としての延年の位置付けを明確にすることができた。また、解説を加えたことで、舞の由来や特徴を紹介し観客の理解を深めることができた。
- ・1月公演では、国の重要無形民俗文化財に指定されている「田峯田楽」と「西浦の田楽」の演目を、現地で奉納される際の時系列に沿って上演することで、それぞれの芸能の特徴を比較しやすい形で紹介できた。

《琉球芸能》

- ・「組踊と琉球舞踊」では天皇陛下御在位30年、国立劇場おきなわ開場30周年、組踊上演300周年記念実行委員会事業として開催した。組踊と琉球舞踊の名作をベテランから若手まで、幅広い世代の出演者により上演することで琉球芸能界の現在の水準を示すとともに、天皇・皇后両陛下の行幸啓を賜り、公演の祝意を一層高めることができた。また、公演に先立ち毎日新聞社との協力により観世能楽堂にて組踊上演300周年記念特別企画「琉球王朝の息吹を今に伝える」を開催し、公演の盛り上げに繋げるとともに、琉球芸能の普及に寄与した。

《特別企画》

- ・本館4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」では、出演者の個性や特質に適った作品を揃えた構成により、若手を中心とした清新かつ充実の舞台成果を得ることができた。
- ・本館7月、日本舞踊と邦楽の世界を一体的に紹介し、親子でその楽しさに触れてもらう「親子で楽しむ舞踊・邦楽」では、親しみやすいナビゲートと古典と新作による熟演により、客席を大いに沸かせて高い満足度を得ることができた。また公演前の体験コーナーは初めて劇場内の大稽古場で開催し、スムーズな運営で多くの親子に体験してもらうことができた。「大人のための雅楽入門」では、各楽器の役割や演奏の合わせ方を明確に紹介することができた。「大人のための声明入門」では、解説に初めて日蓮宗を取り上げ、より充実した宗派の技法の比較を行うことができた。
- ・本館10月公演では、明治150年記念公演として、明治中期に東京で披露された舞踊・邦楽を上演した。とりわけ家庭・街頭・社交場・劇場という上演空間に着目し、芸能の特色と土地の関係性が明らかになるように工夫を凝らした。清元や長唄などの代表的な演目とともに、明新楽や箏曲などの上演頻度の少ない曲も取り上げた。また、松羽目舞踊の大作「茨木」を取り上げ、高い技芸をみせるとともに芸の継承にも寄与した。
- ・本館11月公演では、楽の代表的な演目「陵王」をテーマに、雅楽(舞楽)「陵王」と、民俗芸能として受け継がれている複数の地域(秋田県：小滝のチョウクライロ舞、山形県：平塩舞楽、新潟県：能生白山神社舞楽)の「陵王」に関連する芸能を併せて紹介した。複数の地域に伝わる多彩な「陵王」に関連

する芸能をまとめて上演することで、それぞれの違いの比較と共通点を見出す公演とすることができた。また、舞台演出の工夫や、各出演団体の代表者の解説や座談から、実際に芸能が演じられる土地の雰囲気伝わり、実際に現地の祭礼でも見てみたいと感じてもらうことができた。

- ・本館3月公演では、浅草に根付く祭礼行事の芸能と浅草寺の声明を紹介した。多彩な演目を上演したことで、浅草で行われている年中行事を幅広く紹介することができた。

【文楽劇場】

《舞踊》

- ・文楽劇場10月「東西名流舞踊鑑賞会」は東西の様々な流儀の家元や実力者が顔をそろえ、流儀を代表する曲で競演する意義深い公演となった。

《邦楽》

- ・文楽劇場8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、上演の稀な「和田合戦女舞鶴」市若初陣の段を取り上げ、「曲輪・」吉田屋の段の上演に併せた片岡仁左衛門・豊竹咲太夫による「対談」で歌舞伎と文楽の違いなどを紹介した。

《特別企画》

- ・文楽劇場9月特別企画公演「天の岩戸開きの芸能」では、神話のなかでもよく知られた「天の岩戸」伝説から派生した様々な芸能を一挙に採り上げた。
- ・文楽劇場5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、全体的に実力のある出演者が揃い、充実した内容の番組となった。その中でも、薩摩琵琶や尺八の演奏は古典の魅力をしっかり伝える曲に現代性も兼ね備えたものとなり好評を得た。30年度も、演者の自己紹介や意気込み・抱負等のコメントを、各演目の上演前に客席へアナウンスし、実演家と客席との距離感を近づけた。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演(本館10月特別企画、文楽劇場10月舞踊)
- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月邦楽、11月舞踊、11月特別企画)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・2月雅楽公演は想定する出演団体の出演が得られず、公演内容と開催時期を見直して3月特別企画公演として実施した。

舞 踊

《制作方針》

本館では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、古典を軸に日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の意図や曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場では、日本舞踊界の東西の名手が一堂に会する公演。上方舞の代表者を中心に、東京で活躍する舞踊家を迎え、文楽劇場初の演目や、地歌、長唄、清元などバラエティに富んだ舞踊に、演奏陣も各界の代表者を揃えた構成とする。明治 150 年記念として、箏曲「明治松竹梅」に振りを付けて上演する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5 月舞踊公演 「変化舞踊」	本館 大劇場	5 月 26 日(土)	実績	1 回	1 日	956 人	62.9%	1,520	88.5%
			計画	1 回	1 日	1,080 人	71.1%	1,520	
8 月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	8 月 25 日(土)	実績	2 回	1 日	847 人	81.1%	1,044	124.6%
			計画	2 回	1 日	680 人	65.1%	1,044	
11 月舞踊公演 「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館 小劇場	11 月 23 日(金・祝)	実績	2 回	1 日	1,055 人	89.4%	1,180	101.4%
			計画	2 回	1 日	1,040 人	88.1%	1,180	
舞踊(本館)【小 計】 3 公演 (計画:3 公演)			実績	5 回	3 日	2,858 人	76.3%	3,744	102.1%
			計画	5 回	3 日	2,800 人	74.8%	3,744	
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10 月 13 日(土)	実績	2 回	1 日	660 人	48.7%	1,354	82.5%
			計画	2 回	1 日	800 人	59.1%	1,354	
舞踊(文楽劇場)【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	660 人	48.7%	1,354	82.5%
			計画	2 回	1 日	800 人	59.1%	1,354	
舞踊【合 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	7 回	4 日	3,518 人	69.0%	5,098	97.7%
			計画	7 回	4 日	3,600 人	70.6%	5,098	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月)
- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演(本館 11 月)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 10 月)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館 3 公演)。

邦 楽

《制作方針》

邦楽の各ジャンルの特徴やレパートリーの多彩さを踏まえ、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には各界の第一人者や実力者をはじめ、公演の意図や曲の性格に応じた演奏家を適宜起用する。劇場音楽として発展した長唄や浄瑠璃各派、純音楽として成立した地歌や箏曲など邦楽の幅広いジャンルの中から適切な演目を選び高い舞台成果をねらう。

本館は、10月「文楽素浄瑠璃の会」並びに1月「邦楽鑑賞会－長唄の会・三曲の会－」では各ジャンルの特色を示す演目を上演する。6月「日本音楽の流れⅡ－琵琶－」では、「琵琶」の歴史や特色を紹介するとともに各分野の実力者による演奏で、それぞれの魅力を十分に示す。また、伝承者の少ない盲僧琵琶の上演や復元楽器を用いた委嘱新作を上演する。

文楽劇場8月公演「文楽素浄瑠璃の会」では、人形の演技に頼ることなく太夫・三味線の演奏のみで観客の想像力に働きかけ、文楽の原点ともいえる浄瑠璃の魅力を堪能し、改めて物語の魅力に触れていただく。今回は「和田合戦女舞鶴」市若初陣の段、「曲輪・」吉田屋の段の上演に加えて、「廓文章」の伊左衛門を当たり役としている歌舞伎俳優・片岡仁左衛門を迎え、豊竹咲太夫との対談形式で、文楽と歌舞伎の「吉田屋」についての魅力を紹介し知見を深めていただく。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月邦楽公演 「日本音楽の流れⅡ －琵琶－」	本館 小劇場	6月2日(土)	実績	1回	1日	559人	94.7%	590	133.1%
			計画	1回	1日	420人	71.2%	590	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10月20日(土)	実績	1回	1日	578人	98.0%	590	103.2%
			計画	1回	1日	560人	94.9%	590	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会－長唄の会－、 －三曲の会－」	本館 小劇場	1月19日(土) ～1月20日(日)	実績	2回	2日	1,050人	89.0%	1,180	105.0%
			計画	2回	2日	1,000人	84.7%	1,180	
邦楽(本館)【小計】3公演 (計画:3公演)			実績	4回	4日	2,187人	92.7%	2,360	110.5%
			計画	4回	4日	1,980人	83.9%	2,360	
8月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8月18日(土)	実績	1回	1日	737人	97.9%	753	184.3%
			計画	1回	1日	400人	53.1%	753	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	737人	97.9%	753	184.3%
			計画	1回	1日	400人	53.1%	753	
邦楽【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	5回	5日	2,924人	93.9%	3,113	122.9%
			計画	5回	5日	2,380人	76.5%	3,113	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場8月)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館3公演)。

雅 楽

《制作方針》

日本古来の歌舞と中国や朝鮮から渡来した舞や器楽を源流にして平安時代の王朝文化の中で大成した雅楽について、典型的な楽曲の演奏、舞を伴う舞楽の上演、雅楽器を用いた現代作品の紹介など、その多彩な魅力を伝える公演を企画する。6月公演では、雅楽の楽器に焦点を当て、楽器単体および合奏により、それぞれの音色を聴き比べる。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月雅楽公演 「雅楽器の魅力」	本館 小劇場	6月9日(土)	実績	1回	1日	546人	92.5%	590	136.5%
			計画	1回	1日	400人	67.8%	590	
2月雅楽公演「舞楽」 ※公演中止	本館 大劇場	2月11日(月・祝)	実績						
			計画	1回	1日	1,450人	90.1%	1,610	
雅楽【合計】 1公演 (計画:2公演)			実績	1回	1日	546人	92.5%	590	29.5%
			計画	2回	2日	1,850人	84.1%	2,200	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・2月雅楽公演は想定する出演団体の出演が得られず、公演内容と開催時期を見直して3月特別企画公演として実施した。

声 明

《制作方針》

仏教儀式において僧侶が唱える声明について、国立劇場ではその豊かな音楽性に着目して、各宗本山で行われている代表的な法会の紹介、廃絶している法会の復活、日本の現代詩を声明によってうたう試みなど様々な取り組みを行う。

9月公演では、これまで上演されていなかった浄土真宗の声明を取り上げる。演目は浄土真宗において最も重要な法要である「報恩講式」を上演。次第の中心となる「式文」は語り物に属し、独特な節回しで音楽的な声明とは趣を異にする。旋律の多様さが特徴の高田派の声明をお聞きいただく。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
9月声明公演 「浄土真宗の声明 真宗高田派本山 専修寺の「報恩講式」」	本館 大劇場	9月1日(土)	実績	1回	1日	1,388人	86.2%	1,610	109.3%
			計画	1回	1日	1,270人	78.9%	1,610	
声明【合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,388人	86.2%	1,610	109.3%
			計画	1回	1日	1,270人	78.9%	1,610	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした。

民俗芸能

《制作方針》

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

6月公演では、国指定重要無形民俗文化財・毛越寺の延年（岩手県）を取り上げ、「二十日夜祭」の次第と、「常行三昧供」の法要と法楽芸能としての延年を上演する。

1月公演では、寺院で年の初めに行う修正会に由来し、稲作を表現する田遊びと結びつき、さらに各地の風土の影響を受け、新たな春を迎える民俗行事として行われるようになった「田楽」を取り上げる。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月民俗芸能公演 「毛越寺の延年 受け継がれる秘法と法楽芸能」	本館 小劇場	6月16日(土)	実績	2回	1日	1,105人	93.6%	1,180	115.1%
			計画	2回	1日	960人	81.4%	1,180	
1月民俗芸能公演 「春むかえ 田峯と西浦の田楽」	本館 小劇場	1月26日(土)	実績	2回	1日	834人	70.7%	1,180	111.2%
			計画	2回	1日	750人	63.6%	1,180	
民俗芸能【合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	4回	2日	1,939人	82.2%	2,360	113.4%
			計画	4回	2日	1,710人	72.5%	2,360	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした。(6月、1月)
- ・ロビーにチラシコーナー等を設置し、芸能の行われる地域の観光情報等を提供した(本館6月、1月)。
- ・ロビーで岩手県の特産物の販売を行った(本館6月)。

琉球芸能

《制作方針》

琉球王府以来の芸能として伝承されている組踊と琉球舞踊を中心に、沖縄各地の民俗芸能等も視野に入れ、琉球芸能の多彩な魅力を示すことを図る。

天皇陛下御在位30年、国立劇場おきなわ開場15周年記念、組踊上演300周年記念実行委員会共催事業として重鎮から中堅、若手まで斯界を代表する出演者を起用して組踊と琉球舞踊を上演し、その醍醐味を楽しんでもらうことを目指す。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
3月琉球芸能公演 「組踊と琉球舞踊」	本館 大劇場	3月9日(土)	実績	1回	1日	1,332人	88.2%	1,510	121.1%
			計画	1回	1日	1,100人	68.3%	1,610	
琉球芸能【合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,332人	88.2%	1,510	121.1%
			計画	1回	1日	1,100人	68.3%	1,610	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて意識した詞章等を表示して鑑賞の助けとした。
- ・公演に先立ち、伝統芸能講座「琉球芸能へのいざない」を開催(2/10)
- ・毎日新聞社との協力により、観世能楽堂にて組踊上演300周年記念特別企画「琉球王朝の息吹を今に伝える」を開催(2/11)
- ・天皇皇后両陛下下行幸啓(3/9)

特別企画

《制作方針》

本館においては、公演内容が複数のジャンルにまたがるもの、特定のジャンルに限定できないもの、また特に固有の芸能史的な価値に着目して企画する公演などを軸として、伝統芸能の魅力を幅広く楽しんでもらうことを目指す。

本館7月「伝統芸能の魅力」は、観て、聴いて、触れて親しんでいただく入門公演として、継続して行っている。

雅楽・声明は昨年に引き続き、「大人のための」と銘打ち、子供だけでなく大人も対象に解説と鑑賞に加え、体験を通じてそれぞれの魅力を紹介する。

本館10月特別企画公演では、明治150年記念公演として、明治中期に東京で披露された舞踊・邦楽を上演する。とりわけ家庭・街頭・社交場・劇場という上演空間に着目し、芸能の特色と土地の関係性が明らかになるように工夫を凝らす。

本館11月「陵王を巡る」は、雅楽の代表的な演目「陵王」をテーマに、舞楽「陵王」と、民俗芸能として受け継がれている複数の地域（秋田県：小滝のチョウクライロ舞、山形県：平塩舞楽、新潟県：能生白山神社舞楽）の「陵王」に関連する芸能を併せて上演する。

本館3月「浅草」は、浅草に根付いている仏教文化と祭礼行事の両面から、多彩で魅力ある芸能を紹介する。

文楽劇場5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界の将来を展望する公演。国内外を問わず積極的な舞台・演奏活動を展開する、主に関西在住の新進・花形実演家を厳選し、長唄舞踊、常磐津舞踊、地歌舞、邦楽三曲（薩摩琵琶、尺八、地歌・箏曲）と様々なジャンルにわたる幅広い番組構成とする。

文楽劇場9月「天の岩戸開きの芸能」は、古事記や日本書紀で有名な「天の岩戸開き」の様々な芸能を取り上げる。第一部では、岩戸神話を分かり易く紹介する新作落語、京舞「倭文」、宮崎県西都市銀鏡の「銀鏡神楽」の中から天の岩戸開きを題材にした三番、半能「絵馬」を上演する。第二部では、夜を徹して舞われる「銀鏡神楽」を特集する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の 舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4月21日(土)	実績	1回	1日	370人	62.7%	590	94.9%
			計画	1回	1日	390人	66.1%	590	
7月 第9回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館 小劇場	7月7日(土)	実績	1回	1日	435人	73.7%	590	103.6%
			計画	1回	1日	420人	71.2%	590	
7月 第10回伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」 「大人のための声明入門」	本館 小劇場	7月21日(土)	実績	2回	1日	1,101人	93.3%	1,180	104.9%
			計画	2回	1日	1,050人	89.0%	1,180	
10月特別企画公演 明治150年記念「舞踊・邦楽 でよみがえる 東京の明治」	本館 小劇場	10月6日(土)	実績	1回	1日	473人	90.6%	522	118.3%
			計画	1回	1日	400人	67.8%	590	
11月特別企画公演 「「陵王」を巡る」	本館 小劇場	11月10日(土)	実績	1回	1日	561人	95.1%	590	114.5%
			計画	1回	1日	490人	83.1%	590	
3月特別企画公演「浅草 祭礼行事と浅草寺の声明」 ※年度計画外	本館 大劇場	3月2日(土)	実績	1回	1日	1,355人	84.2%	1,610	93.4%
			計画						
特別企画(本館)【小計】6公演 (計画:5公演)			実績	7回	6日	4,295人	84.5%	5,082	156.2%
			計画	6回	5日	2,750人	77.7%	3,540	
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による 舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5月12日(土)	実績	1回	1日	339人	50.1%	677	84.8%
			計画	1回	1日	400人	59.1%	677	
9月特別企画公演 「天の岩戸開き」の芸能	文楽 劇場	9月15日(土)	実績	2回	1日	1,093人	72.6%	1,506	109.3%
			計画	2回	1日	1,000人	66.4%	1,506	
特別企画(文楽劇場) 【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	3回	2日	1,432人	65.6%	2,183	102.3%
			計画	3回	2日	1,400人	64.1%	2,183	
特別企画【合計】8公演 (計画:7公演)			実績	10回	8日	5,727人	78.8%	7,265	138.0%
			計画	9回	7日	4,150人	72.5%	5,723	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演(本館10月・11月公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場5月)
- ・字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館4月舞踊・邦楽、7月〈伝統芸能の魅力〉「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」「親子で楽しむ日本舞踊」「親子で楽しむ邦楽」、本館10月特別企画「舞踊・邦楽でよみがえる東京の明治」)。
- ・本館7月〈伝統芸能の魅力〉では、開演前に大稽古場(舞踊・邦楽)及び劇場ロビー(雅楽・声明)にて体験コーナーを設置した。

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。寄席の根幹ともいえるべき「定席公演」では、落語協会及び落語芸術協会と協力して、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代の噺家が各自の切り口で圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定するなど、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」と定期的に公演を実施し、関西浪曲界の発展に尽力していく。また、「上方演芸特選会」においては、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

(a) 公演実績

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
定席	22 公演		実績	241 回	219 日	40,350 人	55.8%	72,300 席	113.3%
	演芸場		計画	241 回	219 日	35,600 人	49.2%	72,300 席	
花形演芸会	12 公演		実績	12 回	12 日	3,374 人	93.7%	3,600 席	102.1%
	演芸場		計画	12 回	12 日	3,306 人	91.8%	3,600 席	
新春 国立名人会	1 公演		実績	8 回	6 日	2,377 人	99.0%	2,400 席	100.7%
	演芸場		計画	8 回	6 日	2,360 人	98.3%	2,400 席	
国立名人会	11 公演		実績	11 回	11 日	3,230 人	97.9%	3,300 席	103.0%
	演芸場		計画	11 回	11 日	3,136 人	95.0%	3,300 席	
特別企画	10 公演		実績	15 回	14 日	4,097 人	91.0%	4,500 席	99.9%
	演芸場		計画	15 回	14 日	4,102 人	91.2%	4,500 席	
演芸場 合計	56 公演		実績	287 回	262 日	53,428 人	62.1%	86,100 席	110.2%
			計画	287 回	262 日	48,504 人	56.3%	86,100 席	
浪曲名人会	1 公演		実績	1 回	1 日	651 人	86.5%	753 席	95.7%
	文楽劇場		計画	1 回	1 日	680 人	90.3%	753 席	
浪曲錬声会	1 公演		実績	2 回	1 日	310 人	97.5%	318 席	106.9%
	文楽劇場小ホール		計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318 席	
上方 演芸特選会	6 公演		実績	24 回	24 日	3,532 人	92.6%	3,816 席	104.8%
	文楽劇場小ホール		計画	24 回	24 日	3,370 人	88.3%	3,816 席	
文楽劇場 合計	8 公演		実績	27 回	26 日	4,493 人	91.9%	4,887 席	103.5%
			計画	27 回	26 日	4,340 人	88.8%	4,887 席	

合計	64 公演	実績	314 回	288 日	57,921 人	63.7%	90,987 席	109.6%
		計画	314 回	288 日	52,844 人	58.1%	90,987 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※「国立劇場寄席」（国立劇場おきなわ）p. 55 参照。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を演芸場・文楽劇場で各2回開催。（6月22日、3月20日/5月22日、3月19日）
- ・大衆芸能脚本募集専門委員会を2回開催。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
2,566 人	1,629 人	1,622 人	1,528 人	63.5%	94.2%

※11公演で計11回実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・公演単位では、全56公演中48公演で入場者数が目標を上回った。そのうち、定席公演では、春風亭一朝がトリをつとめ、仲入り前を林家彦いち/春風亭一之輔（日替り）がつとめた10月中席、落語芸術協会会長代行三遊亭小遊三がトリをつとめた2月上旬等で目標を大きく上回る入場者数を記録するなど、全22公演中17公演で目標を達成することができた。
- ・若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する16組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のあるOBらをゲストに招き、若手の熱演とともにベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。
- ・新春国立名人会は、各分野の重鎮が一堂に会し、日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含めて正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。
- ・平成29年4月に惜しまれながらこの世を去った三代目三遊亭圓歌の一周忌を迎えるにあたり、一門総出演による追善落語会を昼夜2回公演で実施した。
- ・また、かっぽれの総踊りや中喜利等、趣向を凝らした「五代目圓楽一門会」をはじめ、「立川流落語会」、「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」、「親子で楽しむ演芸会」、「四代目桂春團治襲名披露 上方落語会」、「正蔵、正蔵を語る」、「円丈の『茶の湯』を聴く会」及び「圓朝に挑む!」といった恒例の公演を実施した。いずれの公演も国立演芸場らしい企画性の高い公演として実施することができた。
- ・新たに一般社団法人日本演芸家連合(以下「演芸連合」という。)の制作協力を得て、演芸連合加盟団体の出演による特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」を実施した。
- ・平成30年が明治150年にあたることから、文明開化を演芸で振り返る芸術祭主催公演「明治150年記念芸術祭寄席 - 寄席芸に映る明治のおもかげ -」を実施した。
- ・浪曲名人会では、これまでベテランが主に出演していた公演に、若手、花形を加えたことが外部専門家にも好意的に評価された。
- ・浪曲錬声会では、昨年度も出演した若手2人が、また新たな演目に取り組み、彼らの着実な成長、浪曲ファンからの強い支持を実感できる公演となった。
- ・上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、マジックなど多彩な顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組を構成できた。特に団体・会員以外の一般個人に集客の伸びが見られるため、各公演の入場者数も安定しており、全6公演では目標を上回る結果となり、平成31年3月で第100回を迎えることができた。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月の8公演、文楽劇場11月上旬上方演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・若手新人公演の出演者を対象に平成30年度花形演芸大賞の審査を実施し、受賞者を公表した。

定席公演(上席・中席)

《制作方針》

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席	演芸場	4 月 1 日(日) ～4 月 10 日(火)	実績	11 回	10 日	1,146 人	34.7%	3,300	81.9%
			計画	11 回	10 日	1,400 人	42.4%		3,300
4 月中席	演芸場	4 月 11 日(水) ～4 月 20 日(金)	実績	11 回	10 日	2,763 人	83.7%	3,300	92.1%
			計画	11 回	10 日	3,000 人	90.9%		3,300
5 月中席	演芸場	5 月 11 日(金) ～5 月 20 日(日)	実績	11 回	10 日	2,002 人	60.7%	3,300	125.1%
			計画	11 回	10 日	1,600 人	48.5%		3,300
6 月上席	演芸場	6 月 1 日(金) ～6 月 10 日(日)	実績	11 回	10 日	1,702 人	51.6%	3,300	113.5%
			計画	11 回	10 日	1,500 人	45.5%		3,300
6 月中席	演芸場	6 月 11 日(月) ～6 月 20 日(水)	実績	11 回	10 日	1,311 人	39.7%	3,300	119.2%
			計画	11 回	10 日	1,100 人	33.3%		3,300
7 月上席	演芸場	7 月 2 日(月) ～7 月 10 日(火)	実績	10 回	9 日	1,870 人	62.3%	3,000	116.9%
			計画	10 回	9 日	1,600 人	53.3%		3,000
7 月中席	演芸場	7 月 11 日(水) ～7 月 20 日(金)	実績	11 回	10 日	1,271 人	38.5%	3,300	105.9%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%		3,300
8 月上席	演芸場	8 月 1 日(水) ～8 月 10 日(金)	実績	11 回	10 日	1,372 人	41.6%	3,300	85.8%
			計画	11 回	10 日	1,600 人	48.5%		3,300
8 月中席	演芸場	8 月 11 日(土・祝) ～8 月 20 日(月)	実績	11 回	10 日	3,091 人	93.7%	3,300	99.7%
			計画	11 回	10 日	3,100 人	93.9%		3,300
9 月上席	演芸場	9 月 1 日(土) ～9 月 10 日(月)	実績	11 回	10 日	1,143 人	34.6%	3,300	114.3%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%		3,300
9 月中席	演芸場	9 月 11 日(火) ～9 月 20 日(木)	実績	11 回	10 日	1,307 人	39.6%	3,300	130.7%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%		3,300
10 月上席	演芸場	10 月 1 日(月) ～10 月 10 日(水)	実績	11 回	10 日	997 人	30.2%	3,300	99.7%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%		3,300
10 月中席	演芸場	10 月 11 日(木) ～10 月 20 日(土)	実績	11 回	10 日	2,211 人	67.0%	3,300	147.4%
			計画	11 回	10 日	1,500 人	45.5%		3,300
11 月上席	演芸場	11 月 1 日(木) ～11 月 10 日(土)	実績	11 回	10 日	2,283 人	69.2%	3,300	134.3%
			計画	11 回	10 日	1,700 人	51.5%		3,300
11 月中席	演芸場	11 月 11 日(日) ～11 月 20 日(火)	実績	11 回	10 日	1,147 人	34.8%	3,300	114.7%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%		3,300
12 月上席	演芸場	12 月 1 日(土) ～12 月 10 日(月)	実績	11 回	10 日	1,120 人	33.9%	3,300	112.0%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%		3,300
12 月中席	演芸場	12 月 11 日(火) ～12 月 20 日(木)	実績	11 回	10 日	1,375 人	41.7%	3,300	114.6%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%		3,300
1 月中席	演芸場	1 月 11 日(金) ～1 月 20 日(日)	実績	11 回	10 日	2,897 人	87.8%	3,300	115.9%
			計画	11 回	10 日	2,500 人	75.8%		3,300
2 月上席	演芸場	2 月 1 日(金) ～2 月 10 日(日)	実績	11 回	10 日	2,928 人	88.7%	3,300	133.1%
			計画	11 回	10 日	2,200 人	66.7%		3,300

2 月中席	演芸場	2 月 11 日(月・祝) ～2 月 20 日(水)	実績	11 回	10 日	3,140 人	95.2%	3,300	101.3%
			計画	11 回	10 日	3,100 人	93.9%	3,300	
3 月上席	演芸場	3 月 1 日(金) ～3 月 10 日(日)	実績	11 回	10 日	1,761 人	53.4%	3,300	146.8%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%	3,300	
3 月中席	演芸場	3 月 11 日(月) ～3 月 20 日(水)	実績	11 回	10 日	1,513 人	45.8%	3,300	137.5%
			計画	11 回	10 日	1,100 人	33.3%	3,300	
定席【合計】 22 公演 (計画:22 公演)			実績	241 回	219 日	40,350 人	55.8%	72,300	113.3%
			計画	241 回	219 日	35,600 人	49.2%	72,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月定席)

若手新人公演(花形演芸会)

《制作方針》

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 467 回)	演芸場	4 月 21 日(土)	実績	1 回	1 日	295 人	98.3%	300	109.3%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
5 月花形演芸会(第 468 回)	演芸場	5 月 12 日(土)	実績	1 回	1 日	185 人	61.7%	300	68.5%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
6 月花形演芸会(第 469 回)	演芸場	6 月 16 日(土)	実績	1 回	1 日	291 人	97.0%	300	107.8%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
7 月花形演芸会(第 470 回)	演芸場	7 月 22 日(日)	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	101.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
8 月花形演芸会(第 471 回)	演芸場	8 月 4 日(土)	実績	1 回	1 日	268 人	89.3%	300	99.3%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
9 月花形演芸会(第 472 回)	演芸場	9 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	285 人	95.0%	300	101.8%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
10 月花形演芸会(第 473 回)	演芸場	10 月 21 日(日)	実績	1 回	1 日	290 人	96.7%	300	103.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
11 月花形演芸会(第 474 回)	演芸場	11 月 23 日(金・祝)	実績	1 回	1 日	295 人	98.3%	300	102.4%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
12 月花形演芸会(第 475 回)	演芸場	12 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	294 人	98.0%	300	105.0%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
1 月花形演芸会(第 476 回)	演芸場	1 月 19 日(土)	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	108.1%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
2 月花形演芸会(第 477 回)	演芸場	2 月 23 日(土)	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	108.5%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
3 月花形演芸会(第 478 回)	演芸場	3 月 2 日(土)	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	108.5%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
花形演芸会【合計】 12 公演 (計画:12 公演)			実績	12 回	12 日	3,374 人	93.7%	3,600	102.1%
			計画	12 回	12 日	3,306 人	91.8%	3,600	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- 平成 30 年度レギュラー出演者 (50 音順)
江戸家小猫(ものまね)、桂吉坊(上方落語)、桂佐ん吉(上方落語)、桂福丸(上方落語)、桂宮治(落語)、雷門小助六(落語)、神田松之丞(講談)、菊地まどか(浪曲)、古今亭文菊(落語)、坂本頼光(活動写真弁士)、三笑亭夢丸(落語)、三遊亭萬橋(落語)、母心(漫才)、ホンキートンク(漫才)、宮田陽・昇(漫才)、鈴々舎馬るこ(落語)
- 平成 30 年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表。
大賞：江戸家小猫(ものまね)
金賞：神田松之丞(講談)、桂吉坊(上方落語)、三笑亭夢丸(落語)、坂本頼光(活動写真弁士)
銀賞：古今亭志ん五(落語)、うしろシティ(コント)、入船亭小辰(落語)、桂雀太(上方落語)

新春国立名人会／国立名人会

《制作方針》

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1月2日(水) ～1月7日(月)	実績	8回	6日	2,377人	99.0%	2,400	100.7%
			計画	8回	6日	2,360人	98.3%	2,400	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	8回	6日	2,377人	99.0%	2,400	100.7%
			計画	8回	6日	2,360人	98.3%	2,400	
5月国立名人会(第417回)	演芸場	5月19日(土)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	101.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
6月国立名人会(第418回)	演芸場	6月23日(土)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	104.6%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
7月国立名人会(第419回)	演芸場	7月21日(土)	実績	1回	1日	294人	98.0%	300	102.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月国立名人会(第420回)	演芸場	8月26日(日)	実績	1回	1日	294人	98.0%	300	102.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
9月国立名人会(第421回)	演芸場	9月29日(土)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
10月国立名人会(第422回)	演芸場	10月13日(土)	実績	1回	1日	296人	98.7%	300	105.7%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
11月国立名人会(第423回)	演芸場	11月24日(土)	実績	1回	1日	296人	98.7%	300	105.7%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
12月国立名人会(第424回)	演芸場	12月24日(月・休)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	104.6%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
1月国立名人会(第425回)	演芸場	1月26日(土)	実績	1回	1日	295人	98.3%	300	102.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月国立名人会(第426回)	演芸場	2月24日(日)	実績	1回	1日	294人	98.0%	300	102.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	

3月国立名人会(第427回)	演芸場	3月23日(土)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
国立名人会【小計】11公演 (計画:11公演)			実績	11回	11日	3,230人	97.9%	3,300	103.0%
			計画	11回	11日	3,136人	95.0%	3,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・新春国立名人会の初日(1/2)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

特別企画公演

《制作方針》

圓朝作品に挑む会や上方落語会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。夏休み期間中には、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、紙切り、コント等)を子供たちに知ってもらうため、解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月特別企画公演 「三代目三遊亭圓歌一周忌 追善落語会」	演芸場	4月22日(日)	実績	2回	1日	590人	98.3%	600	113.5%
			計画	2回	1日	520人	86.7%	600	
5月特別企画公演 「立川流落語会」	演芸場	5月25日(金) ～5月27日(日)	実績	3回	3日	617人	68.6%	900	77.1%
			計画	3回	3日	800人	88.9%	900	
6月特別企画公演 「花形演芸会スペシャル ～受賞者の会～」	演芸場	6月1日(金)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	101.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月特別企画 「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7月28日(土)	実績	1回	1日	294人	98.0%	300	102.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月特別企画 「上方落語会 ～春之輔改メ 四代目 桂春團治襲名披露公演～」	演芸場	8月25日(土)	実績	1回	1日	294人	98.0%	300	102.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
9月特別企画 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	演芸場	9月23日(日・祝)	実績	1回	1日	295人	98.3%	300	105.4%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
10月特別企画 「五代目圓楽一門会」	演芸場	10月26日(金) ～10月28日(日)	実績	3回	3日	854人	94.9%	900	106.8%
			計画	3回	3日	800人	88.9%	900	
11月特別企画 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11月25日(日)	実績	1回	1日	288人	96.0%	300	102.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
11月特別企画 明治150年 記念 「芸術祭寄席」－寄席芸に 映る明治のおもかげ－	演芸場	11月27日(火)	実績	1回	1日	280人	93.3%	300	103.7%
			計画	1回	1日	270人	90.0%	300	
12月特別企画 円丈の「茶の湯」を聴く会	演芸場	12月23日(日・祝)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
特別企画【合計】10公演 (計画:10公演)			実績	15回	14日	4,097人	91.0%	4,500	99.9%
			計画	15回	14日	4,102人	91.2%	4,500	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月特別企画2公演)

浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

《制作方針》

浪曲名人会は、関西浪曲界の第一人者が勢揃いし、名曲を披露する恒例の公演。今回は本年度の芸術祭新人賞を受賞した真山隼人、過去に同賞を受賞している菊地まどから若手実力派も加わり、若い世代への観客層の拡大も見据えた構成とする。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを熟達させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で彼らの奮起を促す公演とする。第一部、第二部で異なる演目を口演することにより、観客に熱意と情に溢れる舞台を披露する機会とする。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
浪曲名人会	文楽劇場	2月23日(土)	実績	1回	1日	651人	86.5%	753	95.7%
			計画	1回	1日	680人	90.3%	753	
浪曲名人会【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	1回	1日	651人	86.5%	753	95.7%
			計画	1回	1日	680人	90.3%	753	
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月26日(土)	実績	2回	1日	310人	97.5%	318	106.9%
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	
浪曲錬声会【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	2回	1日	310人	97.5%	318	106.9%
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5月16日(水) ～5月19日(土)	実績	4回	4日	532人	83.6%	636	95.0%
			計画	4回	4日	560人	88.1%	636	
7月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7月25日(水) ～7月28日(土)	実績	4回	4日	555人	87.3%	636	99.1%
			計画	4回	4日	560人	88.1%	636	
9月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9月19日(水) ～9月22日(土)	実績	4回	4日	597人	93.9%	636	106.6%
			計画	4回	4日	560人	88.1%	636	
11月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11月14日(水) ～11月17日(土)	実績	4回	4日	606人	95.3%	636	108.2%
			計画	4回	4日	560人	88.1%	636	
1月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1月16日(水) ～1月19日(土)	実績	4回	4日	618人	97.2%	636	110.4%
			計画	4回	4日	560人	88.1%	636	
3月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3月13日(水) ～3月16日(土)	実績	4回	4日	624人	98.1%	636	109.5%
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
上方演芸特選会 【小計】	6公演	(計画:6公演)	実績	24回	24日	3,532人	92.6%	3,816	104.8%
			計画	24回	24日	3,370人	88.3%	3,816	
大衆芸能(文楽劇場) 【合計】	8公演	(計画:8公演)	実績	27回	26日	4,493人	91.9%	4,887	103.5%
			計画	27回	26日	4,340人	88.8%	4,887	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(11月上方演芸特選会)

⑤ 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。さらに、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。なお、30年度は昭和58年9月の開場から35周年を迎えるにあたり、9月の記念公演を中心に8月末から1月まで記念の冠を付した様々な公演を行い、普段上演出来ない大曲・稀曲の数々を披露する。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。30年度は、狂言「清水」、能「葵上」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に体験参加型の解説を付ける。また30年度から「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて5月に実施する。

(a) 公演実績

区分名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
定例公演	18 公演	実績	18 回	18 日	11,207 人	99.3%	11,286 席	107.3%
		計画	18 回	18 日	10,440 人	92.5%	11,286 席	
普及公演	10 公演	実績	10 回	10 日	6,236 人	99.5%	6,270 席	102.2%
		計画	10 回	10 日	6,100 人	97.3%	6,270 席	
企画公演	21 公演	実績	21 回	21 日	13,052 人	99.1%	13,167 席	105.3%
		計画	21 回	21 日	12,390 人	94.1%	13,167 席	
鑑賞教室	2 公演	実績	11 回	6 日	6,897 人	100.0%	6,897 席	104.0%
		計画	11 回	6 日	6,630 人	96.1%	6,897 席	
合計	51 公演	実績	60 回	55 日	37,392 人	99.4%	37,620 席	105.2%
		計画	60 回	55 日	35,560 人	94.5%	37,620 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※「狂言～野村万作・野村萬斎～」(国立劇場おきなわ) p. 55 参照。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を2回開催。(2月4日、3月7日)
- ・ 専門家の主な意見は下記の通り。
 - 制作部門と営業部門の努力と工夫があって全ての公演で目標入場者数を達成していることは素晴らしい。
 - 9月は開場35周年記念公演に相応しい内容及び出演者だった。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
5,385 人	2,914 人	2,712 人	2,587 人	54.1%	95.4%
《Discover NOH & KYOGEN のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
627 人	256 人	234 人 (137 人)	223 人 (130 人)	40.8%	95.3% (94.9%)

※10 公演で計 10 回実施。うち 1 回を「Discover NOH & KYOGEN」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- 充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、51 公演すべてにおいて目標入場者数を達成し、極めて高い入場率を達成した。
- 9 月公演をすべて開場 35 周年記念公演として制作した。現代能楽界を代表する演者による大曲・稀曲を上演して、最高水準の能・狂言を上演できたことは、国立能楽堂の存在をアピールすることとなった。
- 開場 35 周年記念公演では、35 年前の開場記念公演初日に上演した「翁 松竹風流」を大蔵流全 5 家の協働によって記念碑的な上演を果たしたほか、能「井筒」「砧」「定家」「清経」などの名曲をたっぷり楽しむ、観客にとって真に魅力ある演目を上演できたことが成果に繋がった。
- 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を 30 年度から 6 月の能楽鑑賞教室から独立して 5 月に実施して全席を完売、日本文化の発信に貢献した。
- 明治 150 年を記念して、国立能楽堂が資料として所蔵する明治維新を想起させる装束を活用、能の大曲「道成寺」と狂言を 12 月と 1 月の二ヶ月連続上演して所縁の演者を起用した。公演と資料の連携公演という国立能楽堂ならではの企画として特筆すべきものであろう。特に「道成寺」は能の中でも特に大曲であり、国立能楽堂でも開場以来 3 回のみの上演であったものを単年度で 2 度上演を果たす快挙となった。
- 11～12 月「演出の様々な形」では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を実施し、観客数の落ち込みが危惧された秋冬期の夜公演の目標入場者数を達成した。
- 10 月に新規の〈月間特集・所縁の能・狂言〉を組んで、歴史的な事件など作品と流派や家にまつわる所縁を紹介することで、多角的に能・狂言を楽しむ視点を提示した。また、この特集にちなんだ関連イベント「観世三代と室町將軍ー能と権力ー」を開催して、特集に関連する研究的な視点を深く掘り下げるシンポジウムを行った。
- 7 月の〈月間特集・能のふるさと・越路〉、10 月の〈月間特集・所縁の能・狂言〉、2 月の〈月間特集・近代絵画と能〉と、効果的に「月間特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせて、観客の注目を集めた。
- 国立劇場おきなわ開場 15 周年 2 月企画公演「狂言～野村万作・野村萬斎～」において国立劇場おきなわと連携協力態勢を整え、国立能楽堂が平成 29 年に委嘱初演した狂言「鮎」を初めて再演した。地方への国立能楽堂の成果の波及と狂言の普及に大きく貢献した。
- 開場記念の冒頭を飾った 8 月企画公演「素の魅力」で、狂言の大曲「釣狐」を袴狂言で上演したほか、舞囃子で新作能の「智恵子抄」を制作、女性能楽師を起用するとともに台本演出を改めて検討、作品に新たな光を当てる成果をあげた。
- 「中世のおもかげー「柏崎」(7 月企画公演)において綾子舞、「能を再発見する、寺社と能(清涼寺)」(3 月企画公演)において嵯峨大念佛狂言といった、異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
- 開場記念公演で、稀曲の狂言「木実争」を古本に則した形で台本を再検討、工夫を加えることで、稀曲ながらも上演の意義を見いだす試みを行った。同じく開場記念公演の狂言「射狸」では、専用の作り物を製作して、作品に重要な要素である風流性を強調する成果に貢献した。
- 国立能楽堂で制作された復曲狂言「竹松」(1 月狂言の会)を再演したほか、他の能楽堂等で制作された復曲仕舞「実方」(4 月企画公演)、新作舞囃子「智恵子抄」(8 月企画公演)、新作狂言「子子」(2 月特別公演)を積極的に取り上げて再演し、能楽界の演目の拡充に貢献した。
- 能「木曾 願書」(7 月定例公演)、能「調伏曾我」(11 月企画公演)、狂言「雪打」(3 月定例公演)、能「知章」「藍染川」(3 月特別公演)等の稀曲を積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。

- ・本年が西行生誕 900 年に当たることから、4 月企画公演で特集を組んで、西行の関連作品を上演するとともに、西行学会の協力を得て上演前の解説及び解説書への寄稿をしてもらい、能・狂言を多角的に楽しむ視点を提示した。
- ・能楽鑑賞教室では全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・国立能楽堂の委嘱作品である新作狂言「鮎」を全国各地の能楽堂、公共劇場で再演することを目指し、出演者及び地方の企業、公共団体、劇場運営者と連携協力態勢を整え、31 年度中に受託事業として 5 会場 7 ステージ、制作協力として 2 会場 4 ステージの実現に目途を付けた。東京での成果を地方に波及することに大きく貢献することとなる。

【特記事項】

- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演(11 月企画)
- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月実施の 7 公演)
- ・能楽堂開場 35 周年記念公演開始(8/30 企画公演～)
- ・座席字幕表示装置を活用して、11 月企画公演(蠟燭の灯りによる)を除く 50 公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・「Discover NOH & KYOGEN」では、日本語・英語に中国語・韓国語の字幕も加え、多言語化に対応。
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下の通り実施。

分野	企画名	会場	期間	回数	参加者数	入場率
能楽	楽しもう!能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	国立能楽堂研修能舞台、 第 1・第 2 稽古室、大講義室	5/30	1 回	67 人	-
能楽	国立能楽堂開場 35 周年記念 10 月月間特集・所縁の能・狂言 シンポジウム「観世三代と室町将 軍～能と権力～」	国立能楽堂 能舞台	7/31	1 回	627 人	100%

定例公演

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

《公演実績》

※目標入場者数：1回当たり580人(92.5%)、劇場：国立能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
狂言「口真似」、能「鞍馬天狗」	4月4日(水)	実績	1回	1日	615人	98.1%	627	106.0%
狂言「武悪」、能「籠太鼓 舞入」	4月20日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「水掛聲」、能「放下僧」	5月9日(水)	実績	1回	1日	612人	97.6%	627	105.5%
狂言「成上り」、能「杜若」	5月18日(金)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「粟田口」、能「敦盛」	6月6日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
狂言「神鳴」、能「遊行柳 青柳之舞」	6月15日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
<月間特集・能のふるさと 越路> 狂言「金津」、能「歌占」	7月4日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
<月間特集・能のふるさと 越路> 仕舞「花筐 クレイ」、狂言「鏡男」、 能「木曾 願書」	7月18日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
国立能楽堂開場35周年記念 <月間特集・所縁の能・狂言> 狂言「越後聲」、能「芦刈」	10月3日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
国立能楽堂開場35周年記念 <月間特集・所縁の能・狂言> 狂言「右近左近」、能「自然居士 古式」	10月19日(金)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
国立能楽堂開場35周年記念 狂言「千鳥」、能「三井寺」	11月7日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
国立能楽堂開場35周年記念 <演出の様々な形> 狂言「狐塚 小唄入」、能「小鍛冶 黒頭」	11月16日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
国立能楽堂開場35周年記念 狂言「文蔵」、能「芭蕉」	12月5日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
国立能楽堂開場35周年記念 <演出の様々な形> 狂言「狐塚」、能「小鍛冶 白頭」	12月13日(木)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
国立能楽堂開場35周年記念 能「高砂」、狂言「夷毘沙門」	1月5日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
国立能楽堂開場35周年記念 狂言「ぬけから」、能「夜討曾我 大藤内」	1月30日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
<月間特集・近代絵画と能> 狂言「末広かり」、 能「草子洗小町 替装束」	2月20日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「雪打」、能「藤戸」	3月6日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
定例公演【合計】 18公演 (計画:18公演)	実績	18回	18日	11,207人	99.3%	11,286	107.3%	
	計画	18回	18日	10,440人	92.5%	11,286		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

普及公演

《制作方針》

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

《公演実績》

※目標入場者数：1回当たり610人(97.3%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
解説 能楽あんない「『小塩』にはなぜ引歌がかくも多いのか」 狂言「止動方角」、能「小塩」	4月14日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
解説 能楽あんない 「足摺する俊寛、しない俊寛」 狂言「茶壺」、能「俊寛」	5月12日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
解説 能楽あんない 「臉の父 —能と継子物語」 狂言「蚊相撲」、能「雲雀山」	6月9日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
<月間特集・能のふるさと 越路> 解説「く山姥」はどうか解釈されてきたか、 狂言「佐渡狐」、能「山姥」	7月7日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
国立能楽堂開場35周年記念<月間特集・所縁の能・狂言>解説 能楽あんない、 狂言「木六駄」、能「絃上」	10月13日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
国立能楽堂開場35周年記念 解説 能楽あんない、 狂言「梟山伏」、能「鉄輪 早鼓之伝」	11月10日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
国立能楽堂開場35周年記念 解説 能楽あんない、 狂言「文相撲」、能「経正 替之型」	12月8日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
国立能楽堂開場35周年記念 解説 能楽あんない、 狂言「鐘の音」、能「東北」	1月12日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
<月間特集・近代絵画と能> 解説 能楽あんない、 狂言「腰折」、能「松風 見留」	2月23日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	102.1%
解説 能楽あんない、 狂言「寝音曲」、能「桜川」	3月9日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
普及公演【合計】 10公演 (計画:10公演)	実績	10回	10日	6,236人	99.5%	6,270	102.2%	
	計画	10回	10日	6,100人	97.3%	6,270		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

企画公演、鑑賞教室

《制作方針》

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目

を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、新たな観客層を開拓する。特に30年度が国立能楽堂の開場35周年の節目に当たることから、9月公演を「開場記念公演」として現代能楽界を代表する演者達による名曲・稀曲を上演する。8月末から11月までの企画公演も開場記念として企画性を高め、12月、1月には「特別企画公演」として開場35周年と明治150年を記念した公演を行う。さらに、国立能楽堂や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演等を行う。

《公演実績 企画公演》

※目標入場者数：1回当たり590人(94.1%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
<特集 西行 生誕900年記念> 解説、仕舞・復曲「実方」、 狂言「鳴子遣子」、能「西行桜」	4月26日(木)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
<特集 西行 生誕900年記念> 解説、舞囃子「松山天狗 三段之楽」、 狂言「花折」、能「江口」	4月29日 (日・祝)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
<家・世代を越えて> 狂言「舟渡賀」、狂言「清水」、素囃子「羯鼓」、 狂言「禰宜山伏」	5月25日(金)	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	105.1%
<月間特集・能のふるさと 越路> 中世のおもかげ―「柏崎」 「綾子舞」小原木踊(下野)、海老すくい(下野)、 猩々舞(高原田)、小切子踊(高原田)、能「柏崎」	7月29日(日)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
<夏スペシャル>働く貴方に贈る 対談、狂言「瓜盗人」、能「通盛」	8月2日(木)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
<夏スペシャル> 夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8月4日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	105.9%
<夏スペシャル> 夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「附子」、狂言「菌」	8月25日(土)	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	105.3%
<夏スペシャル・国立能楽堂開場35周年記念> 素の魅力 舞囃子・新作「智恵子抄」、狂言小謡「花の袖」、 独吟「泰山府君」、仕舞「小歌」、一調「放下僧」、 袴狂言「釣狐 前」	8月30日(木)	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	105.1%
国立能楽堂開場35周年記念公演 「翁」、「松竹風流」、能「井筒 物著」、 能「乱 置壺」	9月5日(水)	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	105.3%
国立能楽堂開場35周年記念公演 能「安宅」、狂言「栗焼」、能「砧」	9月8日(土)	実績	1回	1日	619人	98.7%	627	104.9%
国立能楽堂開場35周年記念公演 能「嵐山 白頭働キ入り」・間狂言「猿聲」、 能「定家」	9月15日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	105.4%
国立能楽堂開場35周年記念公演 仕舞「求塚」、狂言「見物左衛門 深草祭」、 能「清経 音取」	9月21日(金)	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	105.1%
国立能楽堂開場35周年記念公演 狂言「福の神」、狂言「射狸」、 狂言「木実争」	9月28日(金)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	105.4%

＜国立能楽堂開場 35 周年記念 月間特集・所縁の能・狂言＞ 所縁の能・狂言 狂言「枕物狂」、 能「竹生島 女体」	10 月 25 日(木)	実績	1 回	1 日	624 人	99.5%	627	105.8%
国立能楽堂開場 35 周年記念 ＜蠟燭の灯りによる＞ 狂言「石神」、能「調伏曾我」	11 月 30 日(金)	実績	1 回	1 日	612 人	97.6%	627	103.7%
国立能楽堂開場 35 周年記念 「明治 150 年記念 苦難を乗り越えた能楽」 狂言「呼声」、能「道成寺」	12 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	105.3%
国立能楽堂開場 35 周年記念 狂言「居杭」、狂言「楽阿弥」、 復曲狂言「竹松」	1 月 18 日(金)	実績	1 回	1 日	624 人	99.5%	627	105.8%
国立能楽堂開場 35 周年記念 「明治 150 年記念 苦難を乗り越えた能楽」 狂言「棒縛」、能「道成寺」	1 月 25 日(金)	実績	1 回	1 日	622 人	99.2%	627	105.4%
月間特集 近代絵画と能 仕舞「船弁慶 キリ」、新作狂言「子子」、 能「石橋」	2 月 28 日(木)	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	105.3%
能「知章」、狂言「しびり」、能「藍染川」	3 月 21 日(木・祝)	実績	1 回	1 日	620 人	98.9%	627	105.1%
能を再発見する／寺社と能 清涼寺 嵯峨大念佛狂言「解説」、「釈迦如来」、 能「百万」	3 月 28 日(木)	実績	1 回	1 日	624 人	99.5%	627	105.8%
企画公演【合計】 21 公演 (計画:21 公演)		実績	21 回	21 日	13,052 人	99.1%	13,167	105.3%
		計画	21 回	21 日	12,390 人	94.1%	13,167	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

《公演実績 鑑賞教室》

劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「盆山」、能「船弁慶」	5 月 30 日(水)	実績	1 回	1 日	627 人	100.0%	627	108.1%
		計画	1 回	1 日	580 人	92.5%	627	
6 月能楽鑑賞教室 解説「能楽の楽しみ」、 狂言「清水」、能「葵上」	6 月 18 日(月) ～22 日(金)	実績	10 回	5 日	6,270 人	100.0%	6,270	103.6%
		計画	10 回	5 日	6,050 人	96.5%	6,270	
鑑賞教室【合計】 2 公演 (計画:2 公演)		実績	11 回	6 日	6,897 人	100.0%	6,897	104.0%
		計画	11 回	6 日	6,630 人	96.1%	6,897	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演(11/30)
- ・平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月)
- ・座席字幕表示装置を活用して、11 月公演(蠟燭能)を除く 22 公演で、日本語・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して 3 チャンネル方式とした。
- ・5 月で実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を 4 チャンネル方式(日本語・英語・中国語・韓国語)により実施した。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「大川敵討」、「万歳敵討」、「義臣物語」、「雪払」、「運天の若按司敵討」等、レパートリーとして親しまれてきた作品と、上演機会の少ない作品や伝統組踊保存会にて復曲した作品を取り上げる。琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」「琉球舞踊特選会」や、夏の風情や様々な男女の恋模様を描いた作品を中心とした「琉球舞踊鑑賞会」により、幅広く琉球舞踊の魅力を発信する。三線音楽公演では、沖縄各地に伝わる「うらみ節」「なさき節」に焦点をあて、宮沢和史氏が構成・演出する「唄方～うたかた～」、民謡界のベテランと若手の出演によりライブ感覚で身近に島唄をお楽しみいただく「琉球弧の島唄」を、沖縄芝居公演では、時代幻想劇「王女御殿」を上演する。また民俗芸能公演では、「八重山諸島の芸能」と、「村々に伝わる組踊・狂言」を上演する。

企画公演では、アジア・太平洋地域の芸能として「モンゴルの伝統芸能」を上演する。そのほか新作組踊「真珠道」、「創作舞踊と新作組踊『平敷屋朝敏』」、「琉球舞踊と組踊『辺戸の大主』」、「琉球舞踊と組踊『孝行の巻』」、「絃への誘い～三線音楽・三味線音楽～」、「狂言～野村万作・野村萬斎～」、「創作組踊『人盗人』」、「新組踊『もどろみゆ華の命』」、琉球芸能の俳優祭「ゆらていく遊ば」や、毎年秋に実施し定着している「国立劇場寄席」等を上演する。

研究公演では、「女性の演じる組踊」と題し、先達者の薫陶を受け、多くの舞台で若衆・女役として主演を務めた女性実演家を演出に迎え、女性の視点から組踊の可能性を探る公演を制作する。

普及公演では、親子のための組踊鑑賞教室において「執心鐘入」と共に新作組踊「組踊版・シンデレラ」を上演する。また、組踊鑑賞教室「銘苺子」と、主に小学生から高校生等を対象とした組踊鑑賞教室「雪払い」では、解説を付して上演することで、組踊の理解を深める工夫を行う。あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムとして、引き続き外国人向けの公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施する。沖縄芝居、琉球舞踊の鑑賞教室も、引き続き実施する。

なお、平成31(2019)年は、開場15周年を迎えることから、1月から3月までの7公演は「開場15周年記念特別公演」と銘打って、多彩な企画で上演する。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4月21日(土)	実績	1回	1日	569人	91.6%	621	114.9%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
三線音楽「唄方～うたかた～ 島ぬ うらみ節・なさき節」		5月12日(土)	実績	1回	1日	339人	54.6%	621	84.3%
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619	
組踊「大川敵討」		5月26日(土)	実績	1回	1日	502人	88.5%	567	148.1%
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
民俗芸能「八重山諸島の芸 能～黒島の伝統芸能～」		6月24日(日)	実績	1回	1日	542人	95.4%	568	134.8%
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619	
琉球舞踊 琉球舞踊鑑賞会 「夏模様～七夕～」		7月7日(土)	実績	1回	1日	301人	48.5%	621	64.9%
			計画	1回	1日	464人	75.0%	619	
組踊「万歳敵討」 ※公演中止	7月21日(土)	実績							
		計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	9月8日(土)	実績	1回	1日	351人	56.5%	621	70.9%	
		計画	1回	1日	495人	80.0%	619		

組踊「義臣物語」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	9月29日(土)	実績							
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
三線音楽「琉球弧の島唄」	国立劇場 おきなわ 小劇場	10月13日(土)	実績	2回	1日	231人	46.4%	498	71.3%	
			計画	2回	1日	324人	65.1%	498		
組踊「雪払」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10月27日(土)	実績	1回	1日	274人	48.3%	567	80.8%	
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		12月8日(土)	実績	1回	1日	577人	92.9%	621	116.6%	
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619		
組踊「運天の若按司敵討」		12月22日(土)	実績	1回	1日	380人	67.0%	567	112.1%	
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
開場15周年記念 琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		2月16日(土)	実績	1回	1日	441人	71.0%	621	89.1%	
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619		
開場15周年記念 民俗芸能 「村々に伝わる組踊・狂言」		3月3日(日)	実績	1回	1日	382人	61.5%	621	95.0%	
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619		
開場15周年記念 沖縄芝居 「時代幻想劇『王女御殿』」	3月16日(土) ～3月17日(日)	実績	2回	2日	933人	81.3%	1147	125.4%		
		計画	2回	2日	744人	65.0%	1,145			
定期公演【小 計】13公演 (計画:15公演)			実績	15回	14日	5,822人	70.5%	8,261	90.8%	
			計画	17回	16日	6,413人	68.1%	9,420		
新作組踊「真珠道」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4月14日(土)	実績	1回	1日	342人	60.3%	567	100.9%	
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
創作舞踊と新作組踊「平敷屋 朝敏～哀・愛しゃ～」		8月18日(土)	実績	1回	1日	433人	69.7%	621	107.7%	
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619		
ゆらていく遊ば		10月6日(土)	実績	1回	1日	399人	70.2%	568	93.9%	
			計画	1回	1日	425人	75.1%	566		
国立劇場寄席		11月11日(日)	実績	1回	1日	566人	91.1%	621	114.3%	
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619		
アジア・太平洋地域の芸能		11月24日(土)	実績	1回	1日	374人	66.0%	567	100.8%	
			計画	1回	1日	371人	59.9%	619		
開場15周年記念 琉球舞踊と組踊「辺戸の大 主」／「孝行の巻」	1月12日(土) ～1月13日(日)	実績	2回	2日	828人	73.5%	1126	112.8%		
		計画	2回	2日	734人	65.0%	1,130			
開場15周年記念 絃への誘い～三線音楽・三 味線音楽～	1月26日(土)	実績	1回	1日	276人	44.7%	617	74.4%		
		計画	1回	1日	371人	59.9%	619			
開場15周年記念 狂言 ～野村万作・野村萬斎～	2月8日(金) ～2月9日(土)	実績	2回	2日	1,191人	95.9%	1242	120.3%		
		計画	2回	2日	990人	80.0%	1,238			
開場15周年記念 創作組踊「人盗人」新組踊 「もどろみゆ華の命」	3月23日(土)	実績	1回	1日	569人	91.6%	621	153.4%		
		計画	1回	1日	371人	59.9%	619			

企画公演【小計】 9 公演 (計画:9 公演)			実績	11 回	11 日	4,978 人	76.0%	6,550	110.7%
			計画	11 回	11 日	4,498 人	68.2%	6,594	
女性の演じる組踊	国立劇場 おきなわ 大劇場	6 月 9 日(土)	実績	1 回	1 日	380 人	67.0%	567	112.1%
			計画	1 回	1 日	339 人	60.0%	565	
研究公演【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	380 人	67.0%	567	112.1%
			計画	1 回	1 日	339 人	60.0%	565	
組踊鑑賞教室「銘苺子」		6 月 30 日(土)	実績	1 回	1 日	418 人	72.3%	578	103.2%
			計画	1 回	1 日	405 人	70.1%	578	
琉球舞踊鑑賞教室		7 月 28 日(土)	実績	1 回	1 日	320 人	56.3%	568	80.8%
			計画	1 回	1 日	396 人	70.0%	566	
親子のための組踊鑑賞教室 「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	8 月 11 日(土・祝)	実績	1 回	1 日	470 人	81.3%	578	116.0%
			計画	1 回	1 日	405 人	70.1%	578	
沖縄芝居鑑賞教室		9 月 13 日(木) ～9 月 15 日(土)	実績	3 回	3 日	1,313 人	76.1%	1,726	108.9%
			計画	3 回	3 日	1,206 人	70.0%	1,724	
組踊鑑賞教室「雪払い」		11 月 14 日(水) ～11 月 17 日(土)	実績	7 回	4 日	2,602 人	64.3%	4,046	83.3%
			計画	7 回	4 日	3,122 人	77.2%	4,046	
普及公演【小計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	13 回	10 日	5,123 人	68.3%	7,496	92.6%
			計画	13 回	10 日	5,534 人	73.9%	7,492	
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】 28 公演 (計画:30 公演)			実績	40 回	36 日	16,303 人	71.3%	22,874	97.1%
			計画	42 回	38 日	16,784 人	69.7%	24,071	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※3 月琉球芸能公演「琉球舞踊と組踊」(本館) p. 37 参照。

※7 月定期公演 組踊「万歳敵討」、9 月定期公演 組踊「義臣物語」は、台風接近のため、公演を中止した。台風による中止公演分を計画入場者数から除いた場合、定期公演合計の計画入場者数は 5,735 人(=6,413 人-339 人-339 人)、対計画達成率 101.5%、組踊等沖縄伝統芸能合計では計画入場者数 16,106 人(=16,784 人-339 人-339 人)、対計画達成率 101.2%となる。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を 8 月と 3 月に 2 回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。(8 月 15 日、3 月 27 日)

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7,426 人	4,168 人	4,046 人	3,833 人	56.1%	94.7%
《Discover KUMIODORI のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
150 人	72 人	71 人 (8 人)	66 人 (5 人)	48.0%	93.0% (62.5%)

※28 公演で計 34 回実施。うち 1 回を「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・組踊公演では、上演機会の少ない優れた演目について、5 月に「大川敵討」を、10 月に「雪払(今帰仁御殿本)」を、12 月に「運天の若按司敵討」を上演した。「大川敵討」は上演時間も長く傑作と称される大作であるが、今回は演者を中堅・若手の構成で全編通して上演し、本作品の継承と研鑽に努めた。

「雪払(今帰仁御殿本)」 「運天の若按司敵討」は、いずれも伝統組踊保存会により復活上演された作品で、当劇場主催公演として初めての上演となった。

- ・ 上演回数の多い組踊についても、適材適所の配役を実現させて取り組んだほか、公演第一部の舞踊をテーマを設けて構成し、新たな切り口で琉球舞踊の魅力を発信する企画を試みるなど工夫を施した。
- ・ 琉球舞踊公演では、上演機会の少ない演目も取り上げ、他の公演では見られない流会派を超えた配役による打組舞踊の企画等により、新たな魅力を紹介することができた。
- ・ 創作舞踊（「天河や帯」「織女牽牛」「暁節」「紺染み」「天空坊」）の再演、初演を実施した。
- ・ 沖縄芝居公演においても、3月に時代幻想劇「王女御殿」を国立劇場おきなわで初めて上演した。戦後沖縄芸界屈指の人気を誇る乙姫劇団の代表作を、沖縄芝居界の重鎮から中堅・若手多数の出演者を揃え、国立劇場の舞台機構を最大限に活用した華やかな舞台となった。
- ・ 三線音楽公演では、宮沢和史氏の構成・演出・解説で、琉球諸島各地に伝わる「うらみ節」「なさき節」に焦点をあてた民謡の若手実力派による「唄方～うたかた～」公演や、ベテランと若手の唄い手を組み合わせ、身近にライブ感覚でお楽しみいただく「琉球弧の島唄」公演を企画上演し、新規来場者の拡大に資するものになった。
- ・ 11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能『モンゴルの伝統芸能』」は、モンゴルの芸能に焦点を当て、紹介した。モンゴル人演奏者が、日本語で解説を加えることにより、観客の理解も促され、楽器・音楽の特性や類似性を照らし出すことができ、好評を得た。
- ・ 6月「研究公演」では、「女性の演じる組踊」と題し、現在の組踊の礎を築いたといわれる先達者の薫陶を受けつつ、多くの舞台で若衆・女役として主演を務めた佐藤太圭子・古謝弘子の両氏を演出に迎え、技芸の継承を図りつつ、女性ならではの視点からの演出を取り入れ、組踊の可能性を探る公演となった。
- ・ 1～3月は、開場15周年を記念して、国立劇場おきなわ開場15周年記念特別公演を企画した。3ヶ月間に、当劇場主催公演の主なジャンル（組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能）や本土の芸能や新作作品を網羅する多彩な構成で、琉球芸能の奥深さと広がりを実感できる企画とすることができた。
- ・ 4年目を迎え定着してきた普及公演「沖縄芝居鑑賞教室」は、29年度に続き外部演出を起用し、充実した企画で36年ぶりに「怪猫伝 化け猫～山田祝女殿内～」を上演したほか、「琉球舞踊鑑賞教室」は、童話「舌切りすずめ」をモチーフとした新作舞踊劇「舌切りスーサー」を書き下ろして上演し、琉球舞踊を分かりやすく解説することができた。組踊についても親子・外国人それぞれを対象とした「組踊鑑賞教室」を上演し、沖縄伝統芸能の普及を図った。
- ・ 沖縄県の補助事業、文化プログラム等を活用して貸切バス費用助成事業や組踊ワークショップを実施したことで、多くの団体客等を勧誘することができた。
- ・ 外国人や海外からの来沖者を誘客するにあたり、「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、沖縄県、沖縄県教育委員会、近隣ホテル、外国関係団体等に公演周知及び誘客を図り、営業活動に取り組んだ。

【特記事項】

- ・ 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(10月企画公演「ゆらていく遊ば」、10月三線音楽公演「琉球弧の島唄」、組踊公演「雪払」、11月企画公演「国立劇場寄席」、11月普及公演)
- ・ 「国立劇場寄席」「琉球弧の島唄」「狂言～野村万作・野村萬斎～」を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

イ 演目の拡充

①歌舞伎

(a) 「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として2作品を補綴・上演用準備台本作成

- ・ 四世鶴屋南北の作品「御国入曾我中村」の補綴原稿の提出を受け、復活上演用準備台本を作成した。
- ・ 舞踊の候補演目「月雪花鈍画掛額」「命懸色の二番目」については、補綴原稿の検討を終え、復活上演用準備台本を作成した。

(b) 「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成

- ・ 国立劇場文芸研究会の補綴作品「當樋八幡祭」は、補綴案の内容を引き続き検討し、31年度以降の完成を目指す。

(c) 新作脚本募集の選考及び表彰

- ・ 平成 29・30 年度国立劇場歌舞伎脚本募集を実施(募集期間：29年10月～30年3月末、応募総数：124 篇)。優秀作1篇を選出。入選作品とは別に、将来を期待・囑望される応募者に奨励賞を贈賞。贈賞式を11/21に実施。

優秀作『松山城風流合戦(まつやまじょうふうりゅうかつせん)』鶴 祥一郎

奨励賞『三世義王(さんぜぎおう)』月島 實

(d) その他

- ・ 10月「平家女護島」は、平成7年に通し狂言として上演して好評を博した作品であるが、台本や演出を見直した。11月歌舞伎公演「名高大岡越前裁」では、原作の「扇音々大岡政談」を新たな視点で捉え直した補綴台本で上演し、初春歌舞伎公演「姫路城音菊礎石」では、平成3年に復活した「袖簿播州廻」につき、原作から新たに台本を補綴した。国立劇場で過去に上演した通し狂言や復活狂言の再演にあたり、台本や演出を見直し、作品のレパートリー化を図った。
- ・ 12月「増補双級巴」では、初代中村吉右衛門の芸が当代に継承されることを意図して、初代が使用した原作に近い台本を参照し、「壬生村」を70年ぶり、「木屋町二階」を90年ぶり、「五右衛門隠家」を50年ぶりに復活するとともに、通し狂言として新たに台本を補綴して上演した。

②文案

(a) 廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業

- ・ 本館では、あぜくら会員を対象に、「平家女護島」の改作である「姫子松子日の遊一俊寛島物語の段一」の公開録音を行う「復曲素浄瑠璃を聞く会」を実施した。(2/19)
- ・ 文楽劇場では、滝沢馬琴「里見八犬伝」を題材とした「花魁荅八総」復曲試演の最終回で、八剣士誕生となる物語「富山の段」の復曲を行い、復曲試演会を実施した(7/10)。

③大衆芸能

(a) 「講談」の新作脚本募集、選考及び表彰

- ・ 第20回大衆芸能脚本募集を実施。(募集部門：講談、募集期間：8/1～31、応募総数：61 篇)

優 秀 作：「髭の伊之助涙の抗議」鶴祥一郎

佳 作：「車夫と音楽学校」大塚紀之、「信吉帰郷」柳川知子

奨 励 賞：「池田侯と産婆」早川一也、「劇画王 梶原一騎伝」後藤一郎

《審査の経過》

8月1日～31日	応募受付
9月27日～11月19日	予備選考(予備選考委員4名が在宅で選考)
1月25日	選考委員会
2月15日	選考結果公表
2月22日	贈賞式

(b) 過去の入選作品も含め上演に向けての準備作業

- ・ 平成30年度に上演する台本と演者を選定。平成31年度上演を実施予定。

④能楽

(a) 国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演

《新作》

- ・新作能「智恵子抄」を台本・演出を検討し直し舞囃子として上演。(8/30 企画公演)
- ・新作狂言「鮎」を国立劇場おきなわ開場 15 周年記念企画公演で再演

《復曲》

- ・1 月狂言の会 復曲狂言「竹松」(平成元年国立能楽堂復曲)

《他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演》

- ・4 月企画公演 復曲仕舞「実方」
- ・10 月定例公演 能「自然居士 古式」
- ・2 月企画公演 新作狂言「子子」

《台本及び演出の見直しによる上演》

- ・狂言「木実争」を台本・演出を検討し上演。(9/28 国立能楽堂開場 35 周年記念公演)
- ・3 月企画公演 観阿弥時代の能「百万」を再度台本・演出を検討し、再演。

《その他》

- ・新作能「紅天女」(8/30、1 回、博多座「極 古典芸能の世界」、主催：博多座、制作協力)

⑤組踊等沖縄伝統芸能

(a) 上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

《上演機会が少ない優れた演目の上演》

- ・5 月定期公演 組踊「大川敵討」
- ・9 月普及公演 沖縄芝居「怪猫伝 化け猫～山田祝女殿内～」
- ・10 月定期公演 組踊「雪払」(今帰仁御殿本)
- ・12 月定期公演「運天の若按司敵討」
- ・3 月定期公演 時代幻想劇「王女御殿」、舞踊「花車」

《新作の上演・再演》

- ・4 月企画公演 新作組踊「真珠道」
- ・7 月定期公演 創作舞踊「天河や帯」「織女牽牛」
- ・7 月普及公演 新作舞踊劇「舌切りスーサー」
- ・8 月普及公演 組踊版「シンデレラ」
- ・8 月企画公演 創作舞踊と新作組踊「平敷屋朝敏 ～哀・愛しゃ～」
- ・10 月企画公演 喜劇『「母恋童子其ノ後ノ嘶」～続・女物狂～』
- ・12 月定期公演 創作舞踊(国立劇場おきなわ委嘱作品)「暁節」「紺染み」「天空坊」
- ・3 月企画公演 創作組踊「人盗人」新組踊「もどろみゆ華の命」

・創作舞踊大賞入選作品の積極的な活用

過去の国立劇場おきなわ創作舞踊大賞入選作を、組踊公演の第一部において再演しており、今年度は7月定期公演で下記の演目を予定していたが、台風による公演中止のため上演できなかった。再演の機会を設けることは「創作舞踊大賞」制度の周知になるほか、舞踊家にとっては作品を練り直すことで新たな創作意欲の創出に繋がり、伝統芸能の継承発展の一助とすることができることから、引き続き再演の機会を設けてゆく。

7 月定期公演 組踊「万歳敵討」(「若水」作舞・仲嶺麗子、仲嶺絵理奈／第 6 回創作舞踊大賞・佳作受賞作品)

《新たな演出、演出の見直しによる上演》

- ・4 月企画公演 八木政男のひとり語り「七色元結～真玉橋の由来記～」
- ・6 月研究公演 女性の演じる組踊「手水の縁」「執心鐘入」
- ・8 月企画公演 創作舞踊と新作組踊「平敷屋朝敏 ～哀・愛しゃ～」

⑥その他

- ・七変化舞踊「七重咲浪花土産」172 年ぶりの復活上演。(5 月舞踊公演「変化舞踊」)
- ・国立劇場が復元した古代楽器を用いた新作委嘱作品「二面の復元正倉院(四絃／五絃)琵琶、笙竽、打物と群声に依る 胡絃乱聲」(作曲=平野一郎)を上演。(6 月邦楽公演「日本音楽の流れⅡ一琵琶一」)

(2) 現代舞台芸術の公演	p.60
①オペラ	p.62
②バレエ	p.64
③現代舞踊	p.66
④演劇	p.67

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演、振興、普及

ア オペラ公演:名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、オペラの振興と普及
イ バレエ公演:スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、バレエの振興と普及

ウ 現代舞踊公演:特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品、国内外で高い評価を得ている作品等の上演、現代舞踊の振興と普及

エ 演劇公演:新作上演を企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流、現代演劇の振興と普及

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表2のとおり主催公演を実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 現代舞台芸術の公演の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	29 公演 (H25-29 実績平均: 30.2 公演)
2-6 現代舞台芸術の公演について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P.12 参照

《公演実績（現代舞台芸術分野総計）》

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
オペラ	10 公演	実績	52 回	52 日	81,795 人	87.9%	93,052 席	108.5%
	オペラ劇場	計画	52 回	52 日	75,400 人	81.0%	93,052 席	
バレエ	7 公演	実績	45 回	34 日	70,704 人	90.4%	78,240 席	109.3%
	オペラ劇場	計画	45 回	34 日	64,700 人	82.7%	78,240 席	
現代舞踊	4 公演	実績	16 回	13 日	6,314 人	84.2%	7,500 席	112.8%
	中劇場、小劇場	計画	16 回	13 日	5,600 人	76.8%	7,296 席	
演劇	8 公演	実績	162 回	135 日	55,931 人	90.5%	61,780 席	116.8%
	中劇場、小劇場	計画	162 回	135 日	47,900 人	78.4%	61,080 席	
総合計	29 公演	実績	275 回	234 日	214,744 人	89.3%	240,572 席	
		計画	275 回	234 日	193,600 人	80.8%	239,668 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「アイーダ」	オペラ 劇場	4月5日(木)	実績	7回	7日	11,781人	93.9%	12,544	110.1%
		～4月22日(日)	計画	7回	7日	10,700人	85.3%	12,544	
「フィデリオ」(新制作)		5月20日(日)	実績	5回	5日	7,636人	85.2%	8,960	121.2%
		～6月2日(土)	計画	5回	5日	6,300人	70.3%	8,960	
「トスカ」		7月1日(日)	実績	5回	5日	8,280人	92.4%	8,960	108.9%
		～7月15日(日)	計画	5回	5日	7,600人	84.8%	8,960	
「魔笛」(新制作)		10月3日(水)	実績	6回	6日	9,470人	88.1%	10,752	101.8%
		～10月14日(日)	計画	6回	6日	9,300人	86.5%	10,752	
「カルメン」		11月23日(金・祝)	実績	6回	6日	10,117人	94.1%	10,752	111.2%
		～12月4日(火)	計画	6回	6日	9,100人	84.6%	10,752	
「ファルスタッフ」		12月6日(木)	実績	4回	4日	5,538人	77.3%	7,168	102.6%
		～12月15日(土)	計画	4回	4日	5,400人	75.3%	7,168	
「タンホイザー」		1月27日(日)	実績	5回	5日	7,830人	87.4%	8,960	105.8%
		～2月9日(土)	計画	5回	5日	7,400人	82.6%	8,960	
「紫苑物語」(新制作 創作 委嘱作品・世界初演)		2月17日(日)	実績	4回	4日	5,909人	82.4%	7,168	115.9%
		～2月24日(日)	計画	4回	4日	5,100人	71.1%	7,168	
「ウェルテル」	3月19日(火)	実績	4回	4日	5,045人	70.4%	7,168	98.9%	
	～3月26日(火)	計画	4回	4日	5,100人	71.1%	7,168		
オペラ公演【小 計】 9 公演 (計画:9 公演)			実績	46回	46日	71,606人	86.9%	82,432	108.5%
			計画	46回	46日	66,000人	80.1%	82,432	
高校生のためのオペラ鑑賞 教室 「トスカ」	オペラ 劇場	7月6日(金)	実績	6回	6日	10,189人	95.9%	10,620	108.4%
		～7月14日(土)	計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ鑑賞教室【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	6回	6日	10,189人	95.9%	10,620	108.4%
			計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ【合 計】 10 公演 (計画:10 公演)			実績	52回	52日	81,795人	87.9%	93,052	108.5%
			計画	52回	52日	75,400人	81.0%	93,052	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
21,551 人	9,137 人	8,687 人	7,878 人	42.4%	90.7%

※全 10 公演で計 15 回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 本公演 9 公演、鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ 9 公演で目標入場者数を達成(10 公演合計の達成率 108.5%)
- ・ 「フィデリオ」「魔笛」「紫苑物語」を新制作で上演
- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念特別公演として「アイダ」「フィデリオ」を上演し、豪華なプロダクションと出演者により祝祭性を盛り上げた。
- ・ 「トスカ」は本公演と鑑賞教室を合わせて東京で 11 回公演したのち、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールにて 2 回公演を行い、7/1～22 日で計 13 回の長期公演を実現、2 万人を越す観客動員を得た (20,789 人)。
- ・ 日本人作曲家への創作委嘱作品である「紫苑物語」は、作品内容の周知のため、発表当初から上演までに計 3 回のトークイベントを実施し積極的な宣伝を展開した。絶版となっていた原作の文庫本復刻及びサイン会や芸術監督を筆頭にマスコミへ強力に働きかけ、話題づくりにも努め、集客の難しい日本オペラの新制作で通常より多い 4 回公演にもかかわらず目標入場者数を達成した (入場率 82.4%、達成率 115.9%)。
- ・ 全キャスト日本人の「紫苑物語」に続き「ウェルテル」もタイトルロールを除く全キャストが日本人で構成されるなど、日本人歌手が全公演随所で活躍した。
- ・ 「魔笛」「紫苑物語」で試行的に英語字幕を設置した。公演プログラムは従来のあらすじとクレジットに加えプロフィールや解説にも英文ページを増やし、インバウンド対策を推し進めた。
- ・ 「アイダ」「トスカ」「魔笛」「カルメン」は初心者向けとしてもふさわしいレパートリーであり、積極的に団体営業等を実施した結果、いずれも 88%以上の入場率を達成した。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念公演(2017/2018 シーズン全体)
- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念特別公演 (「アイダ」「フィデリオ」)
- ・ 平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演 (「魔笛」)
- ・ 平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭協賛公演 (「カルメン」)
- ・ 全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。「魔笛」最終 2 公演および「紫苑物語」全日程で日本語に加え英語字幕も設置した。
- ・ 「紫苑物語」は NHK が収録を行い、地上波で放送された(3/25)。
- ・ 新国立劇場合唱団が 2018 年度第 31 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞した (室内楽・合唱部門)。
- ・ 「タンホイザー」皇太子殿下下行啓 (2/6)。

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「白鳥の湖」	オペラ 劇場	4月30日(月・休)	実績	7回	6日	11,248人	89.7%	12,544	104.1%
		～5月6日(日)	計画	7回	6日	10,800人	86.1%	12,544	
「眠れる森の美女」		6月9日(土)	実績	5回	4日	8,043人	89.8%	8,960	100.5%
		～6月17日(日)	計画	5回	4日	8,000人	89.3%	8,960	
「不思議の国のアリス」 (新制作)		11月2日(金)	実績	8回	7日	13,594人	94.8%	14,336	104.6%
		～11月11日(日)	計画	8回	7日	13,000人	90.7%	14,336	
「くるみ割り人形」		12月16日(日)	実績	9回	6日	15,527人	96.3%	16,128	116.7%
		～12月24日(月・休)	計画	9回	6日	13,300人	82.5%	16,128	
ニューイヤー・バレエ		1月12日(土)	実績	3回	3日	4,516人	84.0%	5,376	118.8%
		～1月14日(月・祝)	計画	3回	3日	3,800人	70.7%	5,376	
「ラ・バヤデール」	3月2日(土)	実績	5回	4日	6,948人	77.5%	8,960	110.3%	
	～3月10日(日)	計画	5回	4日	6,300人	70.3%	8,960		
バレエ公演【小 計】6公演 (計画:6公演)			実績	37回	30日	59,876人	90.3%	66,304	108.5%
			計画	37回	30日	55,200人	83.3%	66,304	
こどものためのバレエ劇場 「シンデレラ」	オペラ 劇場	7月21日(土)	実績	8回	4日	10,828人	90.7%	11,936	114.0%
		～7月24日(火)	計画	8回	4日	9,500人	79.6%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小 計】1公演 (計画:1公演)			実績	8回	4日	10,828人	90.7%	11,936	114.0%
			計画	8回	4日	9,500人	79.6%	11,936	
バレエ【合 計】7公演 (計画:7公演)			実績	45回	34日	70,704人	90.4%	78,240	109.3%
			計画	45回	34日	64,700人	82.7%	78,240	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
9,218人	3,191人	2,957人	2,850人	34.6%	96.4%

※全7公演で計7回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 7 公演(本公演 6 公演、こどもバレエ 1 公演)を計画どおり実施し、全公演で目標を達成した(達成率 109.3%)。
- ・ 新制作「不思議の国のアリス」は、世界中で評判となっている大規模話題作の上演権をアジアで唯一取得し、オーストラリア・バレエとの共同制作で上演した。発表時から計画的に宣伝告知を行った結果、8 回の公演数でほぼ満席となる観客(入場率 94.8%)を得た。公演間近から SNS で舞台裏情報を発信し、公演期間中はホワイト装飾で雰囲気盛り上げ、作品内容、公演の質いずれも観客の期待を裏切らない高い評価を受けた。
- ・ 新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまでいかに実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。外部専門家等からも評価を受けてバレエ団プリンシパルが各種賞を受賞した。
- ・ 定番レパトリーの上演時に積極的な営業活動により学校団体やバレエ初心者も多く誘致することができた。
- ・ 昨年度新制作した「くるみ割り人形」は、今年度から作品にふさわしいクリスマスの時期に移行したことで国内外からさらに多くの観客を得て、バレエ公演全体で史上最高の入場者数(15,527人)を記録した。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」は現代舞踊と組み合わせて「こども劇場セット」とし、大人と子供が共に楽しめる作品として強力に周知した。親子での観劇など初心者を多数獲得し、観客層の拡大に努めた。
- ・ 「不思議の国のアリス」共同制作パートナーであるオーストラリア・バレエとは準備段階から良好な関係を築くことができた。Facebook Live 配信の「World Ballet Day 2018」参加などバレエ団の国際的認知にも貢献した。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念公演(2017/2018 シーズン全体)
- ・ 平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演(「不思議の国のアリス」)
- ・ 新国立劇場バレエ団の米沢唯が第 49 回舞踊批評家協会新人賞を受賞。(4/21)
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの小野絢子が平成 30 年度(第 69 回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣賞を受賞した(「眠れる森の美女」ほかの成果に対して)。
- ・ 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が平成 30 年度愛知県芸術文化選奨を受賞した(バレエ分野の芸術文化向上発展に貢献し、業績が顕著なことに対して)。(3/12)

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
森山開次「サーカス」	小劇場	5月19日(土) ～5月27日(日)	実績	8回	6日	2,476人	88.9%	2,784	117.9%
			計画	8回	6日	2,100人	75.4%	2,784	
JAPON dance project 2018 × 新国立劇場バレエ団 「Summer/Night/Dream」	中劇場	8月25日(土) ～8月26日(日)	実績	2回	2日	1,434人	91.0%	1,576	119.5%
			計画	2回	2日	1,200人	76.1%	1,576	
ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2018	中劇場	11月24日(土) ～11月25日(日)	実績	2回	2日	1,237人	68.9%	1,796	103.1%
			計画	2回	2日	1,200人	76.1%	1,576	
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2019	小劇場	3月29日(金) ～3月31日(日)	実績	4回	3日	1,167人	86.8%	1,344	106.1%
			計画	4回	3日	1,100人	80.9%	1,360	
現代舞踊【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	16回	13日	6,314人	84.2%	7,500	112.8%
			計画	16回	13日	5,600人	76.8%	7,296	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
1,784人	526人	495人	451人	29.5%	91.1%

※全4公演で計4回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 4公演を計画どおり実施した。
- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。
- ・ 全公演で目標入場者数を達成した(合計の達成率112.8%)。
- ・ 大人も子供も一緒に楽しめるダンス作品として平成27年度に上演し多くの観客を得た「サーカス」を再演した。今回も「こどものためのバレエ劇場」と組み合わせて「こども劇場セット」とし、観客層の増大に貢献した。
- ・ 日本の現代舞踊史を振り返る企画として平成26年度に上演され高い評価を受けた「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」を再び制作した。今回は戦後高度経済成長期のダンスシーンを取り上げ当時の作品の魅力を改めて紹介した。
- ・ 海外で活躍する日本人ダンサーを中心としたJAPON dance project「Summer/Night/Dream」に新国立劇場バレエ団ダンサーが加わり、バレエ団ダンサーから振付家を育てる企画「DANCE to the Future」とともに新作ダンスで際立った造詣を見せた。ダンス公演の観客としてバレエ団ファンも取り込み高い入場率を得た。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場開場20周年記念公演(2017/2018シーズン全体)
- ・ 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2018」)

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「1984」(日本初演)	小劇場	4月12日(木)	実績	35回	28日	10,855人	95.1%	11,410	113.1%
		～5月13日(日)	計画	35回	28日	9,600人	84.1%	11,410	
「ヘンリー五世」	中劇場	5月17日(木)	実績	20回	16日	14,303人	90.8%	15,760	119.2%
		～6月3日(日)	計画	20回	16日	12,000人	76.1%	15,760	
「夢の裂け目」		6月4日(月)	実績	24回	19日	7,081人	93.9%	7,542	114.2%
		～6月24日(日)	計画	24回	19日	6,200人	82.3%	7,536	
「消えていくなら朝」(新作)		7月12日(木)	実績	18回	16日	5,302人	90.4%	5,868	129.3%
		～7月29日(日)	計画	18回	16日	4,100人	69.9%	5,868	
「誤解」(新訳上演)		10月4日(木)	実績	16回	16日	4,479人	86.4%	5,184	109.2%
		～10月21日(日)	計画	16回	16日	4,100人	78.6%	5,216	
「誰もいない国」	小劇場	11月8日(木)	実績	16回	16日	4,675人	89.6%	5,216	114.0%
		～11月25日(日)	計画	16回	16日	4,100人	78.6%	5,216	
「スカイライト」(新訳上演)		12月1日(土)	実績	24回	19日	7,598人	91.0%	8,352	124.6%
		～12月24日(月・休)	計画	24回	19日	6,100人	78.0%	7,824	
こつこつプロジェクト ーディベロップメントー リーディング公演		3月13日(水)	実績	9回	5日	1,638人	66.9%	2,448	96.4%
		～3月17日(日)	計画	9回	5日	1,700人	75.6%	2,250	
演劇【合計】8公演 (計画:8公演)			実績	162回	135日	55,931人	90.5%	61,780	116.8%
			計画	162回	135日	47,900人	78.4%	61,080	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
5,222人	1,135人	1,059人	898人	21.7%	84.8%

※全8公演で計23回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 8公演を計画どおり実施
- ・ 7公演で目標入場者数を達成した(8公演合計の達成率116.8%)。
- ・ 新作の上演、海外の優れた戯曲の日本初演や新訳上演、新国立劇場の財産とも言うべきシリーズ企画や名作再演に加え、公演制作の新しい形を模索する企画と、多彩かつ意欲的な企画による公演が高い

水準で上演された。出演者や作品が各種賞を受賞し、その成果を裏付けた。

- 海外の話題作をいち早く取り上げた「1984」は、当初から評判を呼び単一の公演としては最大の公演回数（35回）にもかかわらず95.1%という高い入場率を記録した。
- シェイクスピア歴史劇シリーズとして今年度は「ヘンリー五世」を上演し14～15世紀の歴史を踏破した形となった。ほぼ同一のキャスト・スタッフで制作を重ねてきたことで作品の完成度は高まり、連続で訪れる観客に加え前作の評判を受けた初めての観客にも期待に十分応える内容だった。
- 新作書き下ろし「消えていくなら朝」を上演し、宮田演劇芸術監督の最終演目にふさわしい硬質な作品内容と演出・演技が高い評価を受けた。
- 海外の優れた戯曲を連続で上演（うち「誤解」「スカイライト」は新訳上演）した。若い世代の演出家を起用した新感覚の演出でいずれも90%近い入場率を記録した。
- 「スカイライト」では劇場として初めて視覚・聴覚に障害のある方々に向け観劇サポートを実施した。
- 新しい試みとして時間をかけてじっくり公演を作り上げる「こつこつプロジェクトロープメンター」を企画し、そのスタートとなる3作品のリーディング公演を行った。

【特記事項】

- 新国立劇場開場20周年記念公演(2017/2018シーズン全体)
- 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演(「誤解」)
- 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演(「誰もいない国」)
- 段田安則が「夢の裂け目」における天声こと田中留吉ならびに他作品の演技に対して第53回紀伊國屋演劇賞を受賞した。
- 蒼井優が「スカイライト」におけるキラ・ホリスならびに他作品の演技に対して第53回紀伊國屋演劇賞を受賞した。
- 「消えていくなら朝」が第6回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞を受賞した。
- 岡本健一が「ヘンリー五世」の演技に対して第26回読売演劇大賞最優秀男優賞を受賞した。
- 横田栄司が「ヘンリー五世」の演技に対して第26回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞した。
- 蒼井優が「スカイライト」他の演技に対して第26回読売演劇大賞最優秀女優賞を受賞した。

(3) 青少年等を対象とした公演

- (3) 青少年等を対象とした公演 ————— p.69
 - ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした
公演・入門企画(伝統芸能分野) ————— p.70
 - イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野) — p.74
 - ウ 外国人を対象とした公演・入門企画 ————— p.76

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の 実施に際しての留意事項等

- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
 - 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等 ————— p.78
 - 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 ——— p.85

2 - (3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラム実施の中核的拠点として、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表4のとおり実施する。
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施する。

《中期目標の指標・関連指標》

<p>2-4 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>[伝統芸能分野] 青少年：162,918人 (H25-29実績平均：162,410.2人)</p> <p>社会人・親子等：35,850人 (H26-29実績平均：43,399.8人)</p> <p>[現代舞台芸術分野] 23,493人 (H25-29実績平均：25,986.8人)</p>
<p>2-5 外国人向け公演の入場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>[伝統芸能分野] 4,845人 (H28-29実績平均：3,397.7人)</p>

ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は鑑賞教室では初めての上演となる「連獅子」を、7月は「日本振袖始」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の普及振興を図る。また、文楽鑑賞教室では、景事「団子売」と時代物の代表作「菅原伝授手習鑑-寺入りの段、寺子屋の段-」を、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう26年度から開始した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。舞踊・邦楽の親子向け企画では、大稽古場において体験を実施するほか、解説、鑑賞を通じてその魅力をアピールする。大人向けの雅楽・声明公演では、初心者を対象に発声体験、実演家による解説を通してそれぞれの特色が理解できる構成とする。

演芸場では、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、紙切り、コント等)を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい狂言「清水」、動きが多く初心者向けの能「葵上」に、学生が体験出演する解説を付け、学生が親しみを持てるよう配慮する。8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、次世代、そして新たな観客層を開拓するための公演とする。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい演目に太夫・三味線・人形等の解説を付け、親しみが持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめる作品を上演する。昨年度に続いて展示室を利用し、子供向けに文楽体験コーナーを実施する。

国立劇場おきなわでは、6月には一般対象に、8月には親子、11月には主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、案内役による解説や、解説を交えた新作組踊を上演することで、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。また、7月には「琉球舞踊鑑賞教室」、9月には「沖縄芝居鑑賞教室」に、引き続き取り組む。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 明治150年記念 解説「歌舞伎のみかた」、 「連獅子 長唄囃子連中」	本館 大劇場	6/2(土) ~24(日)	実績	46回	23日	58,755人	84.0%	69,920	106.6%	
				計画	46回	23日	55,100人	78.8%	69,920		
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「日本振袖始 —八岐大蛇と素戔嗚尊—」		7/3(火) ~24(火)	実績	44回	22日	63,623人	95.1%	66,880	100.7%	
				計画	44回	22日	63,200人	94.5%	66,880		
文楽	12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」 「団子売」「菅原伝授手習鑑」	本館 小劇場	12/6(木) ~18(火)	実績	24回	13日	13,111人	98.8%	13,272	102.4%	
				計画	24回	13日	12,800人	96.4%	13,272		
	6月文楽鑑賞教室、解説「文楽へようこそ」 「二人三番叟」「絵本太功記」		文楽 劇場	6/8(金) ~21(木)	実績	26回	13日	17,244人	90.7%	19,006	94.2%
					計画	28回	14日	18,300人	89.4%	20,468	
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説「能楽の楽しみ」、狂言「清水」、 能「葵上」	能楽堂	6/18(月) ~22(金)	実績	10回	5日	6,270人	100.0%	6,270	103.6%	
				計画	10回	5日	6,050人	96.5%	6,270		
	沖縄芝居鑑賞教室			9/13(木)	実績	3回	3日	1,313人	76.1%	1,726	108.9%

組踊等	組踊鑑賞教室「雪払い」	国立劇場 おきなわ 大劇場	～15(土)	計画	3回	3日	1,206人	70.0%	1,724	
			11/14(水)	実績	7回	4日	2,602人	64.3%	4,046	83.3%
			～17(土)	計画	7回	4日	3,122人	77.2%	4,046	
伝統芸能【合計】			7公演 (計画:7公演)	実績	160回	83日	162,918人	90.0%	181,120	102.0%
				計画	162回	84日	159,778人	87.5%	182,580	

(b) 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画(再掲)

	公演名	劇場	期間	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
社会人	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/8(金)	1回	1日	1,449人	95.3%	1,520
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/13(金) 7/20(金)	2回	2日	2,608人	85.8%	3,040
親子	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/16(月・祝)、 20(金)～24(火)	11回	6日	16,672人	99.7%	16,720
歌舞伎【小計】		3公演	(計画:3公演)	14回	9日	20,729人	97.4%	21,280
社会人	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/7(金) 12/10(月)・ 14(金)	3回	3日	1,635人	98.6%	1,659
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽 劇場	6/12(火) 6/18(月)	1回	1日	558人	76.3%	731
親子	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	文楽 劇場	7/21(土) ～8/7(火)	18回	18日	8,021人	61.0%	13,158
文楽【小計】		3公演	(計画:3公演)	22回	22日	10,214人	65.7%	15,548
親子	7月 第9回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館 小劇場	7/7(土)	1回	1日	435人	73.7%	590
社会人	7月 第10回伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」 「大人のための声明入門」	本館 小劇場	7/21(土)	2回	1日	1,101人	93.3%	1,180
短期【小計】		2公演	(計画:2公演)	3回	2日	1,536人	86.8%	1,770
親子	7月特別企画 「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7/28(土)	1回	1日	294人	98.0%	300
大衆芸能【小計】		1公演	(計画:1公演)	1回	1日	294人	98.0%	300
社会人	<夏スペシャル>働く貴方に贈る 対談、狂言「瓜盗人」、能「通盛」	能楽堂	8/2(木)	1回	1日	623人	99.4%	627
親子	<夏スペシャル>夏休み親子で楽しむ能 の会 おはなし、能「土蜘蛛」		8/4(土)	1回	1日	625人	99.7%	627
	<夏スペシャル>夏休み親子で楽しむ狂 言の会 おはなし、狂言「附子」、狂言「菌」		8月25日(土)	1回	1日	621人	99.0%	627
能楽【小計】		3公演	(計画:3公演)	3回	3日	1,869人	99.4%	1,881
一般	組踊鑑賞教室「銘苺子」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6月30日(土)	1回	1日	418人	72.3%	578
	琉球舞踊鑑賞教室		7月28日(土)	1回	1日	320人	56.3%	568

親子	親子のための組踊鑑賞教室 「執心鐘入」		8月11日(土・祝)	1回	1日	470人	81.3%	578
	組踊等【小計】	3公演	(計画:3公演)	3回	3日	1,208人	70.1%	1,724
	主に社会人を対象とした公演・入門企画 【合計】	7公演	(計画:7公演)	11回	10日	8,392人	89.9%	9,335
	主に親子を対象とした公演・入門企画 【合計】	8公演	(計画:8公演)	35回	30日	27,458人	82.8%	33,168
	【合計】	15公演	(計画: 15公演)	46回	40日	35,850人	84.3%	42,503

(c) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	会場	共催	期間	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンション アートセンター・ グランシップ	公益財団法人静岡県 文化財団、静岡県	6/26	2回	1,635人	93.6%
共催	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	かながわ伝統芸能祭 実行委員会	7/26～ 27	4回	1,425人	50.2%

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	5公演 9回	6,420人	4,201人	3,694人	3,626人	65.4%	6,420人
主に社会人を対象とした 公演・入門企画	2公演 3回	1,096人	822人	743人	728人	75.0%	98.0%
主に親子を対象とした 公演・入門企画	4公演 6回	1,681人	1,023人	973人	955人	60.9%	98.2%

③優れた業績・評価すべき点

- 歌舞伎鑑賞教室は、学生を中心に、親子・社会人・外国人も含めた有料入場者数が累計600万人に達した。
- 本年度の歌舞伎鑑賞教室は、6月は長唄の名曲舞踊、7月は義太夫節の舞踊劇を上演した。前者では、華やかな衣裳や化粧等、初心者がイメージする歌舞伎の要素を含み、後者では、女方の美しい踊りや派手な立廻り等、歌舞伎の視覚的魅力に溢れている点で、青少年をはじめとする初心者には好評だった。
- 文楽鑑賞教室では、昼の時間帯では学生向け20回、夜の時間帯に社会人向け3回、外国人向けの公演を1回実施し、有料入場者数は目標の13,100人を超える13,111人となった。
- 上演演目は音楽性・舞踊性の強い「団子売」をまず上演して文楽の舞台に初めて触れてもらうこととした。引き続き技芸員による実演を交えた文楽の鑑賞の仕方および「菅原伝授手習鑑」の演目解説を行う。休憩をはさんで名作鑑賞として「菅原伝授手習鑑」寺入りの段・寺子屋の段を上演するという構成とした。
- 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」では振付とその意味、小道具、唄、三味線、囃子などを実演を交えて紹介し、古典の名曲「越後獅子」の演奏とストーリーが知られており、親しみやすい新作舞踊「桃太郎」を上演した。実派の若手の熱演により、終演時には異例のカーテンコールも行われた。また、開演前に大稽古場で開催した体験コーナーでは昨年度に比して多くの体験者を迎えることができた。
- 能楽鑑賞教室では、初心者にも分かりやすい内容の狂言「清水」と能「葵上」を取り上げた。全公演が完売となり、次世代の鑑賞者の育成に大きく貢献した。
- 公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。
- 文楽劇場の文楽鑑賞教室について、本年度も演者を4班に分ける形で実施し、演者の経験の蓄積・技

能向上に資するとして高い評価を得た。

- ・「社会人のための文楽入門」では、解説部分の構成を外部(落語作家 小佐田定雄)に委託し、ナビゲーターに落語家の桂かい枝を起用して、笑いの中で文楽の楽しさを伝えた。
- ・夏休み文楽特別公演期間中「親子劇場」に関連して、文楽座技芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが体験できるよう1階資料展示室内に模擬舞台及び床を設け、日替りで文楽の体験ワークショップを行った。太夫・三味線は床に座り肩衣を着け、声を出したり三味線を弾いたり、人形は舞台上でツメ人形を遣ったりといった体験で、文楽に親しむ機会を設けることができた。
- ・8月の組踊鑑賞教室では、例年に続き、解説の代わりに「組踊版・シンデレラ」を上演した。ストーリーの流れに合わせて組踊の見方や約束事を楽しく学ぶスタイルが30年度も好評であった。また、27年度から企画している「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」も、それぞれ琉球舞踊、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイント等を分かりやすく解説する第一部と、初めての観客にも分かりやすく興味をひきつける演目の二部構成として、スムーズに鑑賞してもらうことができた。
- ・内容の充実に努め、「沖縄芝居鑑賞教室」では舞台機構を生かした演出で36年ぶりの復活作品を上演し好評を得た。「琉球舞踊鑑賞教室」では「舌切り雀」をモチーフにした新作舞踊劇を上演した。
- ・「組踊鑑賞教室」及び「沖縄芝居鑑賞教室」では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組むとともに、県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体の誘客に努めた。

【特記事項】

- ・公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」「組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」では、イラスト入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料配布した。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 「トスカ」	新国立劇場 オペラ劇場	7/6(金) ～7/14(土)	実績	6回	6日	10,189人	95.9%	10,620	108.4%
				計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
バレエ	こどものためのバレエ劇場 「シンデレラ」	新国立劇場 オペラ劇場	7/21(土) ～7/24(火)	実績	8回	4日	10,828人	90.7%	11,936	114.0%
				計画	8回	4日	9,500人	79.6%	11,936	
現代 舞踊	森山開次「サーカス」	新国立劇場 小劇場	5/19(土) ～5/27(日)	実績	8回	6日	2,476人	88.9%	2,784	117.9%
				計画	8回	6日	2,100人	75.4%	2,784	
現代舞台芸術【小 計】 3公演(計画:3公演)				実績	22回	16日	23,493人	92.7%	25,340	111.9%
				計画	22回	16日	21,000人	82.9%	25,340	

(b) 全国各地の文化施設等における公演、合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における公演》

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)「魔笛」	ロームシアター京都	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛:ローム株式会社 助成:公益財団法人ロームミュージックファンデーション、平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業	10/29 ～31	2回	2,734人	86.4%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	新潟県民会館 大ホール	新潟県/公益財団法人新潟県文化振興財団/公益財団法人新潟市芸術文化振興財団/平成30年度舞台芸術への県民参加推進プロジェクト実行委員会	9/23	1回	1,328人	79.1%

《合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	期間	回数
平成30年度 松本市小学校鑑賞音楽会	松本市小学校体育館 長野県松本市文化センター夢の森	主催:松本市小学校校長会	6/4～15	29回
平成30年度文化芸術による子供の育成事業	大分・宮崎・鹿児島・沖縄県 各県 の小・中学校体育館	主催:文化庁	9～11月	14回
港区&サントリーホール Enjoy!Music プロジェクト 「声のひびきを楽しもう」	サントリーホール	主催:(公財)サントリー芸術財団/サントリーホール	2/22	1回
小・中・高校生とともに贈る「第九」チャリティ・コンサート ベートーヴェン:交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール	主催:(公財)ソニー音楽財団	3/10	1回

②アンケート調査

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」	6回	10,189人	4,666人	4,597人	4,192人	45.8%	91.2%

バレエ	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	1回	904人	138人	137人	132人	15.3%	96.4%
現代舞踊	森山開次「サーカス」	1回	235人	95人	90人	87人	40.4%	96.7%
合計			11,328人	4,899人	4,824人	4,411人	43.2%	91.4%

③優れた業績・評価すべき点

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」では、本公演と同時期に上演することにより、コストのかかるプロダクションを鑑賞教室のために効率的に上演することができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」では、子供向けの公演ながらダンサーの水準は高く、豪華な装置・衣裳もあいまって、見どころを凝縮した質の高い舞台に仕上がった。四季の精などの主要な役に若手を積極的に起用して活躍の機会を与え、次世代の育成につなげた。
- ・ また初の試みとして、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」でカーテンコールの撮影を可とした。観劇の記念として多くの観客に喜ばれたほか、撮影した写真や動画を SNS 等にアップする観客も多く、広告宣伝の一助とすることができた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起できた。
- ・ 現代舞踊「サーカス」では、年齢制限を平成 27 年初演時の小学生から 4 歳に引き下げるにあたって途中休憩を入れたことで、小さな子供も余裕をもって観劇することができ、より充実した内容で体験してもらえた。また、各回とも子供たちの素直なリアクションによって会場の空気が和やかなものとなり、その効果もあって大人の観客も「楽しい作品創り」に参加できる効果があった。

【特記事項】

- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中、ジュニア先行 DM への新規登録者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)をプレゼントするキャンペーンを実施し、約 1,300 件の登録を得た。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中、オペラ劇場ホワイエに、バルーンアートやネイルなどが体験できるおしゃれコーナー、ゲームコーナー等を設置し、劇場で楽しく過ごせる雰囲気作りに努めた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」で、通常の新国立劇場公演では撮影不可となっているカーテンコールを撮影可とし、観劇の思い出作りに寄与した。
- ・ 現代舞踊「サーカス」で実際に登場し活躍するキャラクターの絵を振付家本人が新たに描きおろし、初演時に広報・宣伝に使用した手描きのイメージ画とともにグッズ販売などに生かした。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演開催に合わせて、下記の関連イベントを以下の通り実施。

公演名	会場	主催、共催、協賛等	期間
オペラの扉 2018 ～ KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION ～	ロームシアター京都 「ミュージックサロン」	主催:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 共催・制作:新国立劇場 協賛:ローム株式会社	9/19～ 11/29

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う文化プログラムの一環として、引き続き「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声ガイド等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

①公演実績

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI －外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館 大劇場	6/15(金)	実績	2回	1日	2,890人	95.1%	3,040
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU －外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館 小劇場	12/17(月)	実績	1回	1日	541人	97.8%	553
	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU －BUNRAKU for Beginners－」	文楽 劇場	6/16(土)	実績	1回	1日	577人	78.9%	731
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「盆山」、能「船弁慶」	能楽堂	5/30(水)	実績	1回	1日	627人	100.0%	627
組踊等	組踊鑑賞教室 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/17(土)	実績	1回	1日	210人	36.3%	578
	伝統芸能【合計】	5公演 (計画:5公演)		実績	6回	5日	4,845人	87.6%	5,529

②アンケート調査 ※()内は外国人のみの数値

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	歌舞伎鑑賞教室	2回	2,773人	1,925人	1,615人 (966人)	1,587人 (949人)	69.4%	98.3% (98.2%)
文楽	文楽鑑賞教室(本館)	1回	512人	317人	268人 (158人)	265人 (157人)	61.9%	98.9% (99.4%)
文楽	文楽鑑賞教室(文楽劇場)	1回	603人	186人	176人 (84人)	170人 (83人)	30.8%	96.6% (98.8%)
能楽	能楽鑑賞教室	1回	627人	256人	234人 (137人)	223人 (130人)	40.8%	95.3% (94.9%)
組踊等	組踊鑑賞教室	1回	150人	72人	71人 (8人)	66人 (5人)	48.0%	93.0% (62.5%)
合計		6回	4,665人	2,756人	2,364人 (1,353人)	2,311人 (1,324人)	59.1%	97.8% (97.9%)

③優れた業績・評価すべき点

- 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」は、解説や英語字幕の表示を工夫するとともに、多言語対応として日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語にフランス語も新たに加えて充実を図った。
- 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の集客のため、それぞれ専用のチラシを作成して、大学留学生センター等の外国人関係団体やホテル・観光案内所に周知を行った結果、多くの外国人来場者を

得ることができた。

- ・本館「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」では、新たにイギリス出身の翻訳家・キャスターのステュウット・ヴァーナム・アットキン氏を起用し、解説を充実させ外国人の理解を深めることができた。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を30年度から6月の能楽鑑賞教室から独立して5月に実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は4か国語(日本語・英語・中国語・韓国語)とし、当日無料配布した解説書は6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・スペイン語)として、理解促進に大いに役立った。
- ・「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の解説の構成に落語作家小佐田定雄を起用したことにより、分かりやすく内容もよくまとまった。ナビゲーターの落語家桂かい枝は英語、日本語を巧みに織り交ぜ、笑いの中で文楽の楽しさを伝えた。
- ・「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成及び外国人向け情報誌への広告掲載、県内のインターナショナルスクールや外国人関係団体への公演案内、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を実施した。

【特記事項】

- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の翌日以降、多言語による音声ガイドを有料で、また多言語による解説書を無料で提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人来場者の観劇環境の拡充を図った。
- ・各館で実施した外国人向けの入門公演では、日本語のほか多言語の特別パンフレットを作成し、無料配布した。本館では、歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。また能楽堂では、外国人向け能楽入門パンフレット(NOH & KYOGEN Guide Book、英語・中国語・韓国語版)を作成し、無料配布した。文楽劇場では、外国人向け英語版(28年度作成)文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)の中国語版(29年度作成)に引き続き、韓国語版とフランス語版を作成して、英語版・中国語(簡)版とともに無料配架した。
- ・「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、チケットカウンターに英語通訳者を配置したほか、前年度に引き続き4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声ガイドを導入した。
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下の通り実施。

分野	イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
能楽	楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/30	国立能楽堂 研修能舞台、 第1・第2稽古室、 大講義室	無料	鶴沢光(シテ方観世流)、 大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、 第5期、第6期研修修了生	67人	100.0%
組踊 等	外国人のための 組踊ワークショップ	11/17	国立劇場おきなわ 養成研修室	チケット 購入者限定	川満香多、知花令磨、新垣俊道	13人	100.0%

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①共催、受託などによる公演等を別表 6 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-A 全国各地の文化施設等における公演数(共催・受託公演や地方自治体等の協賛公演等の公演数)	[伝統芸能分野] 3 公演
	[現代舞台芸術分野] 15 公演

〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	7公演	9回	8,171人	5,613人	4,872人	4,805人	68.7%	98.6%
文楽(本館小劇場)	4公演	4回	1,715人	1,231人	1,095人	1,082人	71.8%	98.8%
文楽(文楽劇場)	5公演	5回	2,234人	1,118人	1,088人	1,064人	50.0%	97.8%
舞踊・邦楽等	10公演	11回	7,038人	4,593人	4,092人	3,999人	65.3%	97.7%
大衆芸能(演芸場)	10公演	10回	2,412人	1,529人	1,523人	1,430人	63.4%	93.9%
大衆芸能(文楽劇場)	1公演	1回	154人	100人	99人	98人	64.9%	99.0%
能楽	10公演	10回	5,385人	2,914人	2,712人	2,587人	54.1%	95.4%
組踊等沖縄伝統芸能	28公演	34回	7,426人	4,168人	4,046人	3,833人	56.1%	94.7%
計	75公演	84回	34,535人	21,266人	19,527人	18,898人	61.6%	96.8%

イ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
その他	受託	国立劇場おきなわ普及促進事業	金武町立中央公民館	主催: 沖縄県、金武町教育委員会、(公財)国立劇場おきなわ運営財団	11/1	1回	510人	100.0%
組踊等	受託	沖縄県文化観光戦略推進事業(国立劇場おきなわ県外公演)	京都芸術劇場春秋座(京都府京都市)	共催: 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター	2/23	1回	668人	92.9%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球舞踊島袋流 はまてい遊ば	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	7/13	1回	187人	73.3%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 女流組踊研究会めばな 組踊回遊	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	8/3	1回	256人	100.4%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 つる語るプロジェクト	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	8/10	1回	188人	73.7%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球舞踊 渡嘉敷流 白露舞い風	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	9/7	1回	202人	79.2%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 玉城流玉扇福珠会 踊いはねーかさ	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	9/14	1回	180人	70.6%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 沖縄新進芸能家協会 風のうたまひ	国立劇場おきなわ小劇場	主催: 公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催: 沖縄県	9/21	1回	162人	63.5%
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ	主催: 公益財団法人	10/19	1回	198人	77.6%

		かりゆし芸能公演 名作歌劇「泊阿嘉」&創作舞踊	小劇場	沖縄県文化振興会 共催:沖縄県					
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 劇団群星～沖縄芝居でうとういむち さびら～	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	10/26	1回	154人	60.4%	
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 玉城流扇寿会～寿ぐ～	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	11/30	1回	154人	60.4%	
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 安富祖流絃聲会うないの会～うない の華心～	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	12/21	1回	134人	52.5%	
組踊等	共催	2019年新春組踊大公演	国立劇場おきなわ 大劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	1/5	1回	252人	43.6%	
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 恋口説～執心鐘入より～	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	1/18	1回	167人	65.5%	
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 女性地謡の会 しほら 組踊「手水の 縁」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	1/25	1回	120人	47.1%	
組踊等	共催	平成30年度沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 宮城本流鳳乃會 初春に織りなす舞 模様	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人 沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	2/15	1回	185人	72.5%	

(b) 年度計画外の公演

i. 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭

主催公演	本館大劇場:10月歌舞伎公演(文化庁芸術祭オープニング) 本館小劇場:10月特別企画公演 能楽堂:11月企画公演 文楽劇場:11月文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ:11月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	本館大劇場:11月歌舞伎公演 本館小劇場:10月邦楽公演、11月舞踊公演、11月特別企画公演 演芸場:10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月国立名人会、 10月・11月特別企画公演(2公演) 能楽堂:10月・11月定例公演(4公演)、10月・11月普及公演、10月企画公演 文楽劇場:11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ:10月企画公演、10月三線音楽公演、10月組踊公演、11月普及公演、 11月企画公演(国立劇場寄席)

ii. 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

公演名	区分	連携協力先
歌舞伎・能楽・ 文楽(本館) 鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
	協力	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社 JTB、株式会社日本旅行、株式会社近畿日本ツーリスト首都圏、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)
親子で楽しむ 歌舞伎教室	共催	東京都教育委員会
	後援	文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員

(7月歌舞伎鑑賞教室期間中)		会、一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会、東京都公立中学校 PTA 協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
社会人のための歌舞伎鑑賞教室	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所
5月舞踊公演	後援	アーツカウンシル東京
6月邦楽公演 「日本音楽の流れⅡ —琵琶—」	協力	明珍本舗
3月琉球芸能公演 「組踊と琉球舞踊」	制作協力	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
	協賛	東京琉球舞踊協会、オリオンビール株式会社東京営業所、沖縄県酒造協同組合東京営業所、株式会社メディア・ワン
	協賛・後援	株式会社沖縄タイムス社、株式会社琉球新報社
	協力	毎日新聞社
組踊上演 300周年記念 特別企画 「琉球王朝の息吹を 今に伝える」	共催	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
	協力	毎日新聞社
国立能楽堂開場 35周年記念企画展 「囃子方と楽器」	協力	東京能楽囃子科協議会
あぜくら会特別企画 「国立劇場おきなわへ 行こう！」	後援	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
文楽劇場の全公演	共催	関西元氣文化圏共催事業
文楽劇場 6月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
	協力	公益財団法人文楽協会
組踊・沖縄芝居・ 琉球舞踊鑑賞教室	後援	沖縄県教育委員会、一般社団法人沖縄県経営者協会、公益社団法人沖縄県工業連合会、沖縄県商工会連合会、那覇商工会議所、浦添商工会議所

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	会場	主催等	期間
協賛	キッズ伝統芸能体験	国立能楽堂能舞台	東京都、アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	4～12月
協賛	小学生のための歌舞伎体験教室	本館大劇場ほか	文化庁、一般社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社、公益財団法人日本俳優協会	7/7～8/8
協賛	第29回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	本館大劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/25～26
協賛	ポケット版『かぶき手帖』2019年版		公益社団法人日本俳優協会、一般社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社	1/2 刊行
協賛	第23回伝統歌舞伎保存会研修発表会	本館大劇場	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	1/19
制作 協力	「極 古典芸能の世界」 (新作能「紅天女」)	博多座	博多座	8/30
協力	ニッポンのエンターテインメント—歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	2018/3/23 ～8/5
協力	結成50周年記念乙女文楽公演	ひとみ座第1スタジオ	公益財団法人現代人形劇センター	5/3・4、 9/23・24

協力	第6回ながと近松文楽	ルネッサながと	公益財団法人長門市文化振興財団	7/8
協力	さわってみよう能の世界	国立能楽堂研修能舞台	公益社団法人能楽協会	8/22
協力	大江戸寄席と花街のおどり その八	本館大劇場	アーツカウンシル東京	9/17
協力	第15回ユネスコ記念能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	10/5
協力	能楽フェスティバル 2017-2020 第4回シンポジウム	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	1/27
協力	第59回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/17
協力	にっぽん文楽 in 明治神宮	明治神宮原宿口鳥居前	公益財団法人日本財団	3/9~12
協力	うめだ文楽 2019	ナレッジシアター	毎日放送・テレビ大阪・関西テレビ放送・ナレッジキャピタル	3/29~31
後援	第一回 世阿弥シンポジウム	国立能楽堂	一般財団法人観世文庫	4/25

② 全国各地の文化施設等における公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県	6/26	2回	1,635人	93.6%
歌舞伎	共催	7月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立 青少年センター		7/26~27	4回	1,425人	50.2%
組踊等	受託	沖縄県文化観光戦略推進 事業(国立劇場おきなわ 県外公演)	京都芸術劇場春秋座	共催:京都造形芸術大学舞台 芸術研究センター	2/23	1回	668人	92.9%

- ・歌舞伎鑑賞教室の移動公演において、舞台技術職員・スタッフを派遣し、現地の文化施設担当者との打合せから仕込み・舞台稽古・本番に至る流れの中で、国立劇場の技術やノウハウを継続的に提供している。上演に際しては、舞台機構上の制約を踏まえつつ、できる限り本館大劇場と同じ公演形態で実施できるよう努力を重ねている。

③ 国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	本館大劇場	6/15	2回	2,890人	95.1%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」	本館小劇場	12/17	1回	541人	97.8%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」	文楽劇場	6/16	1回	577人	78.9%
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「盆山」、能「船弁慶」	能楽堂	5/30	1回	627人	100.0%
組踊	組踊鑑賞教室 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ 大劇場	11/17	1回	210人	36.3%
その他	アジア・太平洋地域の芸能	国立劇場おきなわ 大劇場	11/25	1回	374人	66.0%
文楽	2018年ユネスコ人類無形文化遺産 海外招待公演(文楽)	韓国 国立無形遺産院 オルスマル大公演場	10/5	1回	377人	100.0%

- ・外国人向け小冊子を作成し、韓国語版を大韓民国国立無形遺産院主催「2018 ユネスコ人類無形文化遺産招聘公演—アジアの伝統芸能劇—」(10/5)にて、フランス語版を国際交流基金及びフィルハーモニー・ド・パリ主催「ジャポニスム 2018」文楽公演(10/12~13)にて無料配布した。

《アンケート結果》 ※()内は外国人のみのアンケート結果

分野	公演名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	2,773人	1,925人	1,615人 (966人)	1,587人 (949人)	69.4%	98.3% (98.2%)

文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	512人	317人	268人 (158人)	265人 (157人)	61.9%	98.9% (99.4%)
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	603人	186人	176人 (84人)	170人 (83人)	30.8%	96.6% (98.8%)
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「盆山」、能「船弁慶」	627人	256人	234人 (137人)	223人 (130人)	40.8%	95.3% (94.9%)
組踊	組踊鑑賞教室 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	150人	72人	71人 (8人)	66人 (5人)	48.0%	93.0% (62.5%)
その他	アジア・太平洋地域の芸能	250人	164人	164人	156人	65.6%	95.1%

(b) 年度計画外の公演等

i. 年度計画外の公演等

分野	企画名	会場	期間	回数	参加者数
能楽	楽しもう!能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	能楽堂研修能舞台、 第1・第2稽古室、大講義室	5/30	1回	67人
組踊	ワークショップ in フランス	フランス・パリ ユニクロ・マレ店	8/3	1回	約25人

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

館	のべ国数	人数	主な来場者
本館	37か国	94人	DiscoverKABUKI参加者、2018 ENCATC International Study Tour
能楽堂	8か国	137人	台北駐日経済文化代表処、KNT-CT グローバルトラベル: HARVARD ALUMNI GROUP、東京都教育庁: 東京都留学生東京体験スクール、オーストラリア チャールズスタート大学教員・学生、京王プラザホテル・オーストラリアメディア Fam Tour
文楽劇場	4か国	18人	サラ・モリス(アーティスト・映像作家、ニューヨーク在住)、2KM COMPANY CEO・マネージャー、スイス・チューリヒ劇場 ドラマトウルク、ロサンゼルス市文化局 舞台芸術部長、アメリカン・ダンス・フェスティバル エグゼクティブ・ディレクター、ダンススペース・プロジェクト プログラム・ディレクター、カナディアン・ステージ エグゼクティブ・プロデューサー
国立劇場おきなわ	1か国	1人	林経甫

iii. 在日各国大使等の公演招待

- 本館「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」において各国駐日大使等大使館関係者を招待し、外国人来場者の誘致を図った(6/16、37か国83名が参加)。

④ その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

- 平成30年度独立行政法人日本芸術文化振興会主催公演・展示等事業
30年3月に一括で申請を行い、同月に文化庁より認証を受けた。
計220件
(国立劇場41件、国立演芸場59件、国立能楽堂59件、国立文楽劇場41件、伝統芸能情報館20件)
- 平成30年度国立劇場おきなわ自主公演等
国立劇場おきなわ39件(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団より申請)

(b) その他の連携協力

- 学生が日本の伝統芸能に触れる機会を提供する現場レベルでの協力をより発展させるために、日本学生支援機構(JASSO)と相互協力に関する基本協定を締結(9/21)。
- 本館にて日枝神社神幸祭の祭礼を迎え、祭礼行列にお茶を提供(6/8)。
- 麴町地区環境整備協議会に協力し千代田区一斉清掃に参加(6/14、11/7)。
- 11月歌舞伎公演にて大岡越前ゆかりの地である神奈川県茅ヶ崎市と公演等の周知に関する相互協力を行った。

- ・初春歌舞伎公演にて演目ゆかりの地である兵庫県姫路市と公演等の周知に関する相互協力を行った。
- ・3月歌舞伎公演にて演目ゆかりの地である浜離宮恩賜庭園と公演等の周知に関する相互協力を行った。
- ・文楽劇場にて大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及シリーズイベント「ムムム！文楽シリーズ」の「中之島文楽（10/5～7）」「古典芸能春 Live 公演（3/1～3）」などで連携協力。
- ・文楽劇場にて毎日放送・テレビ大阪・関西テレビ放送・ナレッジキャピタル主催の「うめだ文楽 2019」（3/29～31）への協力。
- ・文楽劇場にて有志企業及び NPO 法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、大学生を中心とした 30 才以下の方々を対象に、低料金の解説付き観劇企画「ワンコインで文楽」を実施。
- ・文楽劇場にて連携協力に関する協定書を締結している関西学院大学を通じ、大学コンソーシアムひょうご神戸の協力を得て、兵庫県内の大学へ文楽鑑賞教室のチラシを配布。
- ・文楽劇場にて大阪市立中央図書館「ポスターから見る文楽」展（6/8～7/4）への連携協力。
- ・文楽劇場にて郵船クルーズ株式会社「飛鳥Ⅱ 文楽クルーズ」（9/28～9/30）への連携協力。
- ・文楽劇場にて天神祭文楽船奉賛会と連携し、天神祭の祭礼「船渡御」に「文楽船」で参加（7/25）。
- ・文楽劇場にて今宮戎神社と連携し、十日戎の祭礼「宝恵駕行列」に文楽人形で参加、劇場ロビーに福娘を招いて「福笹授与式」のイベントを実施（1/10）
- ・文楽劇場にて初春文楽公演「壺坂靈験記」ゆかりの壺阪寺、「冥途の飛脚」ゆかりの善福寺、「壇浦兜軍記」ゆかりの六波羅蜜寺と公演等の周知に関する相互協力を行った。
- ・沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。
- ・沖縄県の補助事業を活用し、京都造形芸術大学舞台芸術研究センターと連携して県外公演（2/23 京都芸術劇場春秋座「琉球舞踊と組踊」）を、沖縄県及び金武町と連携しておでかけ公演（11/1 金武町立中央公民館「琉球舞踊鑑賞教室・舞踊劇『舌切りスーサー』」）を、上演した。
- ・旅行会社と連携して、「組踊と琉球の歴史文化を学ぶ旅」と題した組踊鑑賞ツアーを企画、実施した（6/30 組踊鑑賞教室「銘苺子」、8/18 創作舞踊と新作組踊「平敷屋朝敏」、10/27「雪払」）。

〈2〉現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

- ・全公演でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施。また、オペラを除く公演においてはアンケート用紙にQRコードを掲載し、Web上でも同内容のアンケートに回答できるようにした。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HPに掲載した。

分野	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	10公演 15回	21,551人	9,137人	8,687人	7,878人	42.4%	90.7%
バレエ	7公演 7回	9,218人	3,191人	2,957人	2,850人	34.6%	96.4%
現代舞踊	4公演 4回	1,784人	526人	495人	451人	29.5%	91.1%
演劇	8公演 23回	5,222人	1,135人	1,059人	898人	21.7%	84.8%
計	29公演 49回	37,775人	13,989人	13,198人	12,077人	37.0%	91.5%

イ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	「外套」「修道女アンジェリカ」 「ジャンニ・スキッキ」	新国立劇場 オペラ劇場	主催： 公益財団法人東京二期会 共催：公益財団法人日本オペラ 振興会	9/6～9	4回	4,979人	69.5%
オペラ	提携	トスカ	びわ湖ホール	主催：滋賀県/ 公益財団法人びわ湖芸術文化 財団	7/21～22	2回	2,320人	67.8%
オペラ	共催	高校生のための オペラ鑑賞教室(関西公演) 「魔笛」	ロームシアター 京都	主催：京都市、ロームシアター京 都(公益財団法人京都市音楽芸 術文化振興財団)、新国立劇場 協賛：ローム株式会社 助成：公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション、平 成30年度文化庁文化芸術創 造拠点形成事業	10/29～31	2回	2,734人	86.4%

(b) 年度計画外の公演等

i. 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭

主催公演	オペラ「魔笛」 バレエ「不思議の国のアリス」 演劇「誤解」
------	-------------------------------------

協賛公演	オペラ「カルメン」 現代舞踊「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2018」 演劇「誰もいない国」
------	--

ii. 大学との連携協力

- 11 大学と連携・協力に関する協定を締結（東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園（武蔵野音楽大学）、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園（洗足学園音楽大学）、東京学芸大学、東邦音楽大学）
- 大学音楽科学生の実習を実施。（国立音楽大学、東京藝術大学、昭和音楽大学、於オペラ劇場）。
- オペラ研修所公演「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」にて、東京藝術大学の協力を得て藝大フィルハーモニア管弦楽団が演奏した。
- 大学からのインターンシップ生の受入れを実施。
- 大学のアートマネジメントに関する講義等を、新国立劇場職員を講師として実施（昭和音楽大学）。

②全国各地の文化施設等における公演

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)「魔笛」	ロームシアター京都	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛:ローム株式会社 助成:公益財団法人ロームミュージックファンデーション、平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業	10/29 ~31	2回	2,734人	86.4%
オペラ	提携	トスカ	びわ湖ホール		7/21 ~22	2回	2,320人	67.8%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	新潟県民会館大ホール	新潟県/公益財団法人新潟県文化振興財団/公益財団法人新潟市芸術文化振興財団/平成30年度舞台芸術への県民参加推進プロジェクト実行委員会	9/23	1回	1,328人	79.1%
バレエ	受託	バレエ「白鳥の湖」	札幌文化芸術劇場 hitaru	主催:札幌市、札幌文化芸術劇場 hitaru(公益財団法人札幌市芸術文化財団)	11/23 ~24	2回	3,991人	96.4%
演劇	受託	赤道の下のマクベス	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	4/5 ~6	2回	971人	64.6%
演劇	受託	赤道の下のマクベス	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール	主催:(公財)豊橋文化振興財団	4/11	1回	504人	66.8%
演劇	受託	赤道の下のマクベス	北九州芸術劇場	主催:(公財)北九州市芸術文化振興財団	4/15	1回	431人	70.2%
演劇	受託	1984	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	5/16 ~17	3回	2,164人	92.1%
演劇	受託	1984	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール	主催:(公財)豊橋文化振興財団	5/20	1回	746人	96.1%
演劇	受託	夢の裂け目	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	6/27 ~28	2回	1,440人	95.1%
演劇	受託	ここで聴く三島由紀夫Ⅶ 近代能楽集より「綾の鼓」	山中湖村公民館	主催:山中湖文学の森 三島由紀夫文学館/山中湖村教育委員会	7/22	1回	85人	—
演劇	受託	消えていなら朝	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	8/4	1回	630人	78.8%
演劇	受託	消えていなら朝	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール	主催:豊橋市/公益財団法人豊橋文化振興財団	8/8	1回	387人	51.0%
演劇	受託	消えていなら朝	そびあ新宮 大ホール しんぐう	主催:公益財団法人新宮町文化振興財団	8/12	1回	362人	64.5%
演劇	受託	スカイライト	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	12/27	2回	1,422人	90.3%

(b) 年度計画外の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	期間	回数
芝浦工業大学入学式演奏会 芝浦工業大学校歌 ／オペラ「アイダ」より凱行進行曲	東京国際フォーラム	主催：芝浦工業大学	4/2	1回
東京都交響楽団定期公演 マーラー：交響曲第3番	東京文化会館(4/9) サントリーホール(4/10)	主催：(公財)東京都交響楽団	4/9・ 10	2回
平成30年度 松本市小学校鑑賞音楽会	松本市小学校体育館 長野県松本市文化センター夢の森	主催：松本市小学校校長会	6/4～ 15	29回
クレーヴランド管弦楽団 ベートーヴェン：交響曲 第9番	サントリーホール	主催：AMATI／朝日新聞社	6/7	1回
ロシア・ナショナル管弦楽団 チャイコフスキー：オ ペラ「イオランタ」(演奏会形式)	サントリーホール	主催：ロシア文化フェスティバ ル組織委員会／ジャパン・ アーツ	6/12	1回
読売日本交響楽団定期公演 マーラー：交響曲第 2番「復活」	サントリーホール(6/28) フェスティバルホール(6/29)	主催：読売新聞社／日本テレ ビ放送網／読売テレビ／読売 日本交響楽団	6/28・ 29	2回
ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽 団 特別演奏会Ⅲ ベートーヴェン：交響曲第9番	サントリーホール	主催：エイベックス・クラシッ クス・インターナショナル	9/4	1回
東京二期会オペラ劇場公演 プッチーニ：<三部 作> 「外套／修道女アンジェリカ／ジャンニ・ス キッキ」	新国立劇場オペラパレス	主催：(公財)東京二期会	9/6～ 9	4回
トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティ バル 2018 サラダ音楽祭 オルフ：「カルミナ・ブラー ナ」	東京芸術劇場／池袋エリア	主催：東京都、(公財)東京都 交響楽団	9/17	1回
平成30年度文化芸術による子供の育成事業	大分・宮崎・鹿児島・沖縄県 各県 の小・中学校体育館	主催：文化庁	9～11 月	14回
NHK 音楽祭 2018 オルフ：「カルミナ・ブラーナ」	NHK ホール	主催：NHK／NHK プロモーション	10/1	1回
新日本フィルハーモニー交響楽団 ブルックナー： 「テ・デウム」	サントリーホール(10/27) 横浜みなとみらいホール(10/28)	主催：(公財)新日本フィル ハーモニー交響楽団	10/27 ・28	2回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ポー イト：歌劇「メフィストフェレ」(演奏会形式)	サントリーホール(11/16) Bunkamura オーチャードホール (11/18)	主催：(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	11/16 ・18	2回
東京交響楽団演奏会 モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」(演奏会形式)	ミューザ川崎(12/7) サントリーホール(12/9)	主催：(公財)東京交響楽団 他	12/7・ 9	2回
読売日本交響楽団定期公演 ベートーヴェン：交響曲第9番	サントリーホール(12/19・20) 東京芸術劇場(12/22・23・25) 横浜みなとみらいホール(12/24)	主催：読売新聞社／日本テレ ビ放送網／読売テレビ／読売 日本交響楽団	12/19 ～25	6回
ベートーヴェン『第九』特別演奏会 ベートーヴェン：交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール (12/21) サントリーホール(12/22) Bunkamura オーチャードホール (12/24)	主催：(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	12/21 ～24	3回
東急ジルバスターコンサート 2018-2019	Bunkamura オーチャードホール	主催：テレビ東京	12/31	1回
第61回 NHK ニューイヤーオペラコンサート	NHK ホール	主催：NHK、NHK プロモーション	1/3	1回
港区&サントリーホール Enjoy!Music プロジェクト 「声のひびきを楽しもう」	サントリーホール	主催：(公財)サントリー芸術財 団／サントリーホール	2/22	1回
小・中・高校生とともに贈る「第九」チャリティ・コン サート ベートーヴェン：交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール	主催：(公財)ソニー音楽財団	3/10	1回
RUN! HOPE! RUN! N響×大友良英×いだてん コンサート	NHK ホール	主催：NHK/NHK 交響楽団	3/10	1回
読売日本交響楽団定期公演 シェーンベルク：「グレの歌」	サントリーホール	主催：読売新聞社／日本テレ ビ放送網／読売テレビ／ 読売日本交響楽団	3/14	1回

ii. 新国立劇場バレエ団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	期間	回数
NHK バレエの饗宴 2018 「くるみ割り人形」第2幕から	NHK ホール	主催：NHK、 NHK プロモーション	4/7	1回

iii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- ・新国立劇場が札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団）（4/17）、独立行政法人国立青少年教育振興機構（5/28）、東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）（10/3）、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（公益財団法人びわ湖芸術文化財団）（11/26）と連携協力協定を締結。
- ・全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受入れもしくは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- ・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主催して子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」に参画（5/5、会場：芸能花伝舎）。
- ・札幌文化芸術劇場 hitaru 開館を記念して開催された「オペラの衣裳と舞台美術 煌く『アイダ』の世界」に協力し、新国立劇場「アイダ」の舞台美術・衣裳を本郷新記念札幌彫刻美術館において展示した（7/27～10/25、主催：本郷新記念札幌彫刻美術館（札幌市芸術文化財団））。
- ・新潟県民会館での全国公演・こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」に関連し、新国立劇場バレエ団ダンサーによるワークショップを開催した（7/29、長岡市寺泊文化センター）。
- ・札幌文化芸術劇場 hitaru での全国公演「白鳥の湖」に関連し、新国立劇場バレエ団が公演当日の朝行うクラスレッスンの見学会を実施した（11/23～24）。また新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサーのバレエ経験者向けワークショップを開催した（12/8、札幌市教育文化会館小ホール）。
- ・隣接する新宿区及び公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主体となって開催している新宿区の文化イベント「新宿フィールドミュージアム」に参加（9/1～11/30）。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した（「オペラの扉 2018～ Knock the Door, Opera Exhibition ～」9/19～11/29、主催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）。

③国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
バレエ	バレエ研修所 「バレエ・アステラス 2018」	新国立劇場オペラ劇場	7/28	1回	1,535人	85.7%
オペラ	オペラ研修所 歌唱コンサート 「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」	新国立劇場オペラ劇場	9/16～17	2回	841人	27.7%
バレエ	「不思議の国のアリス」(新制作)	新国立劇場オペラ劇場	11/2～11	8回	13,594人	94.8%
バレエ	バレエ研修所 「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念 ガラコンサート」出演	ポリシヨイ劇場 国立クレムリン宮殿	6/19～20	2回	-	-

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

- ・海外の劇場との情報交換に努め、また海外より新国立劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答等、交流の進展を図った。
- ・中国国家大劇院「世界の劇場展」（4/12～2019/4/11）に新国立劇場の劇場施設写真が展示された。
- ・Facebook Live 配信の「World Ballet Day 2018」に新国立劇場バレエ団がオーストラリア・バレエのゲスト・カンパニーとして参加。
- ・日本スペイン外交関係樹立 150 周年を記念し、スペイン・マドリードのオペラハウス、テアトロ・レアル（Teatro Real、王立劇場）と新国立劇場が互いの公演記録映像を提供し合い、スペインで日本の、日本でスペインの公演記録映像上映会をそれぞれ開催。

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
上映会	テアトロ・レアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「蝶々夫人」	新国立劇場小劇場	7/2	1回	175人	-
上映会	テアトロ・レアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「カルメン」	新国立劇場小劇場	7/3	1回	200人	-
上映会	バレエ「くるみ割り人形」	テアトロ・レアル (王立劇場)	7/3	1回	-	-

上映会	テアトロ・レアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「椿姫」	新国立劇場小劇場	7/4	1回	199人	-
上映会	バレエ「白鳥の湖」	テアトロ・レアル (王立劇場)	7/6	1回	-	-
上映会	オペラ「蝶々夫人」	テアトロ・レアル (王立劇場)	7/8	1回	-	-

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

館	国数	人数	主な来場者
新国立劇場	10カ国 14団体	58名	英国ナショナル・シアター、台中歌劇院、サウジアラビア総合文化庁、上海東方芸術センター、韓国国立民族国楽院、南アフリカ・フガード劇場、マンチェスター・フェスティバル、中央戯劇学院、アメリカン・ダンス・フェスティヴァル、韓国国立中央劇場(国立劇場) ほか

iii. 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム

- 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施。新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。
- 実施公演と参加国(大使/大使館文化担当官・文化機関)は以下のとおり。

公演名	日程	参加国数 (大使/文化機関等)	人数	主な来場者
オペラ 「フィデリオ」	5/30	7カ国/ 4機関	24名	イギリス大使、ドイツ大使、スウェーデン大使、ポルトガル大使、ルーマニア大使、ブラジル大使、ベネズエラ・ボリバル大使夫人 ほか、スペイン、ブラジル、国際連合ほか
バレエ 「不思議の国のアリス」	11/10	11カ国/ 2機関	27名	アルゼンチン大使、オーストリア大使、ギリシャ大使、スイス大使、スウェーデン大使令夫人、トルコ大使令夫人、バーレーン大使、フランス大使、メキシコ大使、欧州連合代表部大使、国際連合大学首席補佐官、オランダ公使ほか
オペラ 「紫苑物語」	2/20	5カ国/ 2機関	16名	アイルランド大使、ベネズエラ・ボリバル大使、アルゼンチン大使、ルーマニア大使夫人、トルコ大使夫人、スペイン公使参事官、スペイン文化担当参事官ほか

- プログラム以外の主催公演でも出演者出身国の大使を招待した。
- 大使館との交流を活発にし、大使館 HP や SNS で公演の周知等の広報協力を得た。

④その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

- 新国立劇場 2017/2018 シーズン公演等
38件 (公益財団法人新国立劇場運営財団より申請)

(5) 快適な観劇環境の形成

- (5) 快適な観劇環境の形成 ————— p.90
 - ア 快適で安全な観劇環境の提供、
高年齢者・障害者・外国人等への配慮、
サービスの充実 ————— p.91
 - イ 多様な購入方法の提供 ————— p.98
 - ウ 公演内容等の理解促進のための取組 ————— p.98
 - エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用 — p.101

(6) 広報・営業活動の充実

- (6) 広報・営業活動の充実 ————— p.103
 - ア 効果的な広報・営業活動の展開 ————— p.104
 - イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実 — p.117

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ————— p.121
 - ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与 ————— p.122
 - イ 各施設の利用促進を図るための取組 ————— p.122
 - ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力 — p.123

2 - (5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等及び高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対する公演内容の事前説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ、ご意見箱等を通じた意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供、高齢者・障害者・外国人等への配慮、サービスの充実

①観客の要望等を踏まえたサービスの充実

- ・引続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を継続。使用状況・状況の調査等を行い、改善を図った。
- ・一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまき、また、ロビー・玄関の正月飾り等、各館で正月のイベントを実施。能楽堂では1/12まで能舞台に注連をはり、来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。

(a) 本館

- ・大劇場壁面に季節ごとの造花等の装飾を実施。
(6月「若葉」、7月「七夕」、10月・11月「銀杏・紅葉」、12月「寒椿」、3月「桜」)
- ・7月歌舞伎鑑賞教室において、熱中症対策として大劇場正面付近に冷却ミスト機を設置。
- ・歌舞伎鑑賞教室来場者60万人を突破したことを記念しセレモニーを開催。来場した生徒に記念品を贈呈。(7/10)
- ・7月歌舞伎鑑賞教室でロビーに「#歌舞伎みたよ」特設フォトスポットを3か所設置。
- ・7月歌舞伎鑑賞教室最終週、劇場ロビー1階喫茶室に茶席を設け、茶道裏千家・岩田宗富協力のもとお点前のデモンストレーションと抹茶・菓子の提供を実施。(7/22~24、500円、508人)
- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」で子供向けイベント「親子で挑戦！クイズラリー」を開催。上演演目と伝統芸能に関するクイズラリーを実施した。クイズのヒントを記したパネルを、大劇場ロビーの出演者の扮装写真をボードにした記念撮影コーナー及び演目に関連した展示コーナー並びに伝統芸能情報館展示室内にそれぞれ掲出し、同時に実施している企画との相乗効果を図った。クイズを回答した来場者へ記念品(「日本振袖始」イラスト入りオリジナルノート)をプレゼントした。(7/16、20~24、伝統芸能情報館での記念品配布人数：4,126人)
- ・上演中以外は客席で飲食が可能であることを周知するため、10月歌舞伎公演からその旨の案内アナウンスを追加。
- ・11月歌舞伎公演期間中のロビー内において、茅ヶ崎市物産展の開催及び観光案内パンフレットを設置した。
- ・11月歌舞伎公演期間中のロビー内において、茅ヶ崎市観光協会職員及び茅ヶ崎市のゆるキャラ「えぼし麻呂」による観光PRを実施した。
- ・11月歌舞伎公演において、大岡越前守忠相ゆかりの寺、豊川稲荷東京別院の絵馬をロビーで販売。その場で絵馬に願いを記入し、専用の絵馬掛け台に掛けられるようにした。絵馬は公演終了後に豊川稲荷東京別院へ奉納。
- ・初春歌舞伎公演期間中のロビー内において、姫路市物産展の開催及び観光案内ポスター・パンフレットを設置した。
- ・大劇場の1階喫茶室及び3階観客食堂は、平成18年度から運営していた業者が平成29年度末をもって撤退した。劇場内の食堂のため入場者しか利用できず、営業時間も短い(休憩時間と開演前・終演後の短時間)ため、運営が極めて困難で不採算が続いたとの理由であった。直ちに後継業者を公募したが、1回目は応募がなかった。このため、秋からの歌舞伎シーズンに間に合わすべく、貸付料を引き下げるなど貸付条件を見直して2回目の公募で決定することができ、平成30年10月歌舞伎公演から営業を再開した。
- ・観客食堂サービス向上推進チームは、29年度に引き続き観客食堂が提供する料理の品質及び接客サービスの向上等を図るために活動。
- ・観客食堂においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を実施。観客のための円滑の運営が整うよう、綿密な打合せと指導を行った。
- ・経年劣化により破損、塗装剥がれが目立つロビーの受付机や観客用ソファについて補修・塗装を行いロビー景観の改善を行った。
- ・3月の日本博の旗揚げに際して、大劇場2階ロビーに風神雷神図屏風、小劇場ロビーに絵画「おぼろ」を複製した陶板をそれぞれ展示し、日本博をアピールするとともに、伝統芸能の劇場に相応しい雰囲気演出した。
- ・公演内容に因んで、各地の観光協会等の協力により、劇場ロビー内に特設会場を設けて物産品等を販売。

(b) 演芸場

- ・8月中席公演は、桂歌丸追悼公演として開催。公演期間中、2Fロビーで桂歌丸の高座の写真パネルを掲出、歌丸所有の法被や高座に用いる「桂歌丸」のめくりを展示したほか、来場者向けに記帳台を設

けた。また、開場時及び仲入り休憩中には、ロビー及び客席に歌丸師匠の高座の録音を流した。

- ・定席の来場者に金沢の老舗酒蔵・福光屋(寛永二年創業)提供の甘酒(ノンアルコール)を無料配布。(8/9, 17)
- ・演芸場1階ロビーにウォーターサーバーを設置。(8/2~9/30)
- ・ポータブル照明機器を導入し、ロビー等での催しをライティングで彩り一層華やかなものにした。
- ・1階にワイヤレスマイク装置を設置し、開場前の観客への情報提供等の環境を整備。
- ・「国立劇場さくらまつり」会場で、「国立演芸場ご来場者プレゼント引換券」と4月定席チラシを配布し、公演の周知を図った。
- ・2月上旬の節分の日には、舞台から出演者による豆撒きを行い、また3月上旬の雛祭には入場者全員に雛あられを配布して、観客に対するサービスの向上に努めた。

(c) 能楽堂

- ・ロビーで国立能楽堂開場35周年記念ポスター展を実施(8/30~2/2)。
- ・能「自然居士」にちなみ、滋賀県の情報発信拠点「ここ滋賀」が初出店。(10/19 定例)
- ・能「竹生島」上演に合わせ、滋賀県長浜市の特産品の販売を実施。(10/25 企画)
- ・能「三井寺」上演に合わせ、滋賀県大津市園城寺町にある三井寺による物品販売を実施し、三井寺の広報僧「べんべん」が来場。(11/7 定例)
- ・能「百万」上演に合わせ、ロビーに国立能楽堂所蔵「百万絵巻」「百万絵本」を展示した。(3/28 企画)
- ・子供用のクッションを購入し、全公演で随時貸出。
- ・能楽の幽玄な世界に相応しい建築を活かし、観能の興趣をさらに醸成するよう、中庭の夜間ライトアップや庭園管理に努めて景観を保持。
- ・食堂、売店に関するアンケート調査を1月に実施し、結果について関係部署、食堂・売店業者間で意見交換を行い、一層のサービス向上に努めるよう依頼。
- ・レストランは公演状況に応じ開場前及び終演後も営業を行い、また売店は、公演日は一般の来場者でも買物ができるようにして、利用者の利便を図った。

■8月企画公演《夏スペシャル》「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」

- ・字幕表示を通常の日本語と英語のチャンネルに加え、子供用の現代語訳チャンネルを導入し、3チャンネルで実施。
- ・ロビーで楽器の体験コーナーを設け、楽器や狂言面に触れる機会を作った。
- ・子供向けにイラスト入りパンフレット、特製色鉛筆を配布。
- ・記念撮影用のパネルを作成。

(d) 文楽劇場

- ・文楽公演では、正面玄関の柱に、登場する文楽人形の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビー大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出。演目にちなんだ観劇記念スタンプをロビーに設置。
- ・4月文楽公演での「文楽×戦国 BASARA コラボレーションしおり」、夏休み文楽特別公演での「国立文楽劇場オリジナルのビックリマン×文楽コラボレーションカード」、子供向け「オリジナルノート」、初春文楽公演の初日イベントでの「使い捨てカイロ」、同公演の十日戎のイベントでの「甘酒」などをお客様にプレゼントし、満足度の向上を図った。
- ・夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」の終演時に、技芸員がお客様をお見送りし、舞台上で遣った人形と一緒に記念写真が撮れるサービスを提供。2月浪曲名人会の終演時に、出演者がお客様をお見送りし、握手、写真撮影などに応じた。
- ・9月特別企画公演『天の岩戸開き』の芸能において、宮崎県・西都市の物産展を開催。初春文楽公演では、「鏡開き」(1/3)、「手拭いまき」(1/3~7)、十日戎の福笹授与イベント(1/10)、を実施したほか、エントランスロビーで「初春茶会」(全期間)を開催した。
- ・初春文楽公演での手拭いまきに利用する手拭いと同デザイン色違いの手拭いを作製してお客様へ販売するなど、売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させ、観劇の雰囲気盛り上げるように努めた。
- ・常設展示「文楽入門」前期(6/8~7/14)では、平成29年度に作成した文楽の普及映像「文楽を楽しむ」(6/16「Discover BUNRAKU」の際には、その英語版「Enjoying Bunraku」を初上映した。
- ・経年劣化が見られていた劇場外壁タイルについて、6/18の大阪北部地震及び9/4の台風21号によって剥落の惧れが増した部分に緊急の調査・補修工事を実施。
- ・劇場外周通路の石張りの床面について、経年劣化により浮きや割れなどが多くなったため、通行の安全を確保するべく補修を実施。
- ・文楽劇場の1階観客食堂は、運営していた食堂業者が平成30年5月末をもって撤退し、後継業者を

公募したが応募がなかった。このため、同スペースを団体顧客のための食事場所及び人形解説等のレクチャールームとして使用し、有効活用を図った。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・大劇場及び小劇場に無料貸出用のクッションを増設。
- ・4/21「男性舞踊家の会」において、劇場共通ロビーで写真展（29年度おでかけ公演「男性舞踊家の会」舞台写真）を実施。（3/24～4/21）
- ・劇場内の洋式トイレ増設を求める声が多かったため、楽屋・稽古室等トイレについて、和式から洋式へ改修を実施。利用者の利便性向上にも繋がった。
- ・10月企画公演「ゆらていく遊ば」において、出演者と身近にふれ合える企画として、模擬店や写真撮影、ゲームコーナー等を設けた。また、本公演ならではのグッズを製作するなど、観客サービスに努めた。
- ・チケットカウンターで販売しているオリジナルグッズ類がより見やすくなるよう、共通ロビーにショーケース1台を新設した。
- ・チケット購入者限定で組踊公演前に組踊ワークショップやしまくとぅば講座を開催。
- ・1月定期公演 琉球舞踊と組踊「辺戸の大王」及び琉球舞踊と組踊「孝行の巻」では、近隣の高校の茶道部による恒例の呈茶を実施し（来場者数：公演2日間計約200名）、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント（カレンダー、劇場グッズ等の詰め合わせ）を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。
- ・開場15周年記念の取組の一環として、電話を取り次ぐ間に流れる音楽について、保留中の待機時間も快適にすごしていただけるよう、新たに三線古典音楽を録音し、音源を切り替えた。音源は複数録音しており、季節毎にお楽しみいただける工夫を施した。

(f) 新国立劇場

- ・屋上庭園の開園時間を10:00～16:00から7:30～18:00に拡大。（4/25～）
- ・受動喫煙による健康への影響についての関心の高まりなどを踏まえ、オペラ劇場、中劇場、小劇場それぞれに設けていた喫煙所を中劇場1か所に集約。
- ・小劇場座席表に照明を、またホワイエにピクチャーレールを設置し、観劇環境の利便性向上に努めた。
- ・3階ギャラリーにピクチャーレールを敷設、LED投光器も多数設置して展示スペースとしての環境を整えた。
- ・老朽化対策と省エネを配慮し、館内誘導灯など照明のLED化を進めた。
- ・オペラ劇場1階客席の階段状通路を高齢者が安心して往来できるよう、通路側の各座席にアシストグリップを設置した。
- ・ポスタースタンドのリニューアルを行った。
- ・オペラ劇場公演日にメインエントランスにある売店で劇場関連グッズを、プロムナードに設置の出店で公演プログラムのバックナンバー等を販売。
- ・オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のbuffet「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供。
- ・オペラ劇場における公演日に、開演の90分前より2階ブリッジにてカフェを営業。
- ・情報センター入口に七夕の笹を設置。（6/29～7/9）
- ・2018/2019シーズンのオープニングにあわせ、メインエントランスに草月流家元の勅使河原茜氏によるウェルカムフラワーを展示した。
- ・オペラ「紫苑物語」において、オペラ劇場ホワイエ内に紫苑にちなむフラワーアレンジメントを設置した。
- ・オペラ「紫苑物語」では絶版となっていた原作の文庫版が交渉により版元から重版されることとなった。原作本を劇場内で販売するほかプレゼント企画を実施、作曲家と指揮者によるサイン会も開催した（サイン対象は文庫本またはプログラム、2/20、23）。
- ・バレエ「不思議の国のアリス」において、オペラ劇場ホワイエ・ロビーにチラシデザインやダンサー写真を使用した幕や撮影スポットを設置。また階段～プロムナード、ホワイエの至る所にトランプ柄の装飾を施し、作品世界への期待感を醸成した。
- ・バレエ「くるみ割り人形」の公演期間中、館内にクリスマスツリーを設置し、クリスマス関連の飾りで装飾するとともに、プロムナードに子供向けにバルーンアートやバレエ衣裳展示コーナーを設置。
- ・バレエ「くるみ割り人形」で公演終演後に主演ダンサーによる握手会を開催。（12/16, 21, 23, 24）
- ・バレエ「ラ・バヤデール」において、チケットを購入した一般の観客に向け、新国立劇場バレエ団のクラスレッスン見学を行った。新国立劇場バレエ団ファンへのチケット販売の促進を図るとともに、

通常では見学することのできないレッスンを見学してもらうことにより、新国立劇場バレエ団への関心と理解を深め、新たなファンの獲得を図った。

- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中、オペラ劇場ホワイエに、バルーンアートやネイルなどが体験できるおしゃれコーナー、ゲームコーナー等を設置し、劇場で楽しく過ごせる雰囲気作りに努めた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」で、通常の新国立劇場公演では撮影不可となっているカーテンコールを撮影可とし、観客の要望に応えた。
- ・ 「JAPON dance project 2018×新国立劇場バレエ団『Summer / Night / Dream』」で終演後に舞台セットを撮影可とした。
- ・ 演劇公演では、劇場ホワイエにおいて舞台装置模型を展示。
- ・ 演劇「消えていくなら朝」において、小劇場ホワイエにて宮田演劇芸術監督シーズンの全演目のポスター展示を行った。

②観劇時のマナーに関する取組

(a) 本館

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードにより観劇マナーに関する注意喚起を実施。
- ・ 保護者・子供向けのマナーチラシ・ポスターを設置。

(b) 能楽堂

- ・ 開演前の客席において、場内案内係により口頭で観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 劇場内に観劇マナーに関する日本語と英語によるチラシを配架。

(c) 文楽劇場

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 劇場内に観劇マナーに関する日本語と英語によるチラシを配架、日本語によるポスターを掲出。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。

(e) 新国立劇場

- ・ 開演前の客席において、オペラパレスでは場内アナウンス（日・英）、中・小劇場では場内案内係の口頭による観劇マナーの注意喚起を実施。
- ・ 保護者・子供向けのマナーちらしをホワイエ各所に設置。必要に応じて場内案内係の口頭及び視覚的なサインを用いたボード（日・英）による観劇マナーに関する注意喚起を実施。

③高齢者・障害者等多様な観客への配慮、サービスの充実

- ・ 29年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ・新国立劇場の各公演について障害者割引を行った。

(a) 本館

- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室で聴覚障害者の観劇機会の拡大のため、株式会社イヤホンガイドとの協力により、無線ポータブル字幕機(有料)に上演台本を表示する観劇支援サービスを実施。Webサイト・Twitter・大小劇場ロビーへのチラシ掲出により周知。

6/23(土)・24(日)、2日4回、貸出可能数：320(各回80)、有料

利用者数：80人(聴覚障害者の団体68人、個人12人)

- ・ 歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また、その他の短期公演でも開室し、サービスを提供した。
- ・ 職員、委託業者が参加する避難訓練を定期的の実施。
- ・ 3月歌舞伎公演において、東日本大震災被災者招待を全30ステージで実施(来場者数298名)。

(b) 演芸場

- ・ 演芸場7月中席公演において、東日本大震災被災者招待を全11ステージで実施(来場者数140名)。

(c) 能楽堂

- ・ 車椅子を従来の2台に1台追加し、広間に常備。
- ・ 座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英

語)等表示を実施。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・災害時の避難等に関して、文字を大きく、わかりやすい表現でロビーに掲示した。
- ・劇場 HP にバリアフリー情報を掲載し、観劇する方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。

(e) 新国立劇場

- ・引き続き、高齢者割引を行った。車椅子での来場にも対応した。
- ・演劇「スカイライト」で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを提供。視覚障害者向けには舞台装置・小道具の位置関係やみどころを説明したうえで、実際に舞台装置や小道具に触れていただく説明会を実施。あらすじ、登場人物を説明する音声プログラムも作成した。聴覚障害者向けにはポータブル字幕機を貸出(12/13、15)。
- ・ホームページのアクセスページに「バリアフリールート」を新設し、車椅子利用者が最寄りの初台駅から劇場へ向かうルートを駅構内図とコマ割り写真で分かりやすく説明した。

④外国人利用者への配慮、サービスの充実

《Discover 公演 多言語化対応状況》 ※下線部は今年度新規追加言語。

	解説書等	字幕	音声同時解説	アナウンス・案内業務
歌舞伎	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・ <u>仏</u>)	1言語 (英)	6言語 (日・英・中・韓・西・ <u>仏</u>)	6言語 (日・英・中・韓・西・ <u>仏</u>) ・ロビー内にコンシェルジュカウンター設置。外国語対応のできるスタッフを配置。 ・観劇マナーについて、視覚的なサインを用いたボードにより呼びかけ。
能&狂言	6言語 (日・英・中(簡)・韓・西・ <u>仏</u>) 能楽紹介リーフレット:4言語 (日・英・中(簡)・韓)	パーソナル字幕 4言語 (日・英・中(簡)・韓)	-	2言語 (日・英)
文楽(文楽劇場)	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・ <u>仏</u>) 入門パンフレット:5言語 (日・英・中(簡)・ <u>韓</u> ・ <u>仏</u>)	1言語 (英)	2言語 (日、英)	アナウンス:2言語 (日・英) 案内業務:4言語 (日・英・中・韓)
文楽(本館)	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・ <u>仏</u>)	1言語 (英)	6言語 (日・英・中・韓・西・ <u>仏</u>)	6言語 (日・英・中・韓・西・ <u>仏</u>) ・ロビー内にコンシェルジュカウンター設置。外国語対応のできるスタッフを配置。 ・観劇マナーについて、視覚的なサインを用いたボードにより呼びかけ。
組踊	5言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓)	-	4言語 (日・英・中・韓)	2言語 (日・英)

(a) 本館

- ・歌舞伎・文楽公演では解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布。
- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」で7言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)の歌舞伎、文楽の概要説明・演目解説・あらすじをまとめたプログラム(無料)を配布
- ・6月歌舞伎鑑賞教室で16~24日まで、Multilingual Weekとして、6言語の音声同時解説(有料)を提供し、7言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)プログラム(無料)を配布、ロビー内コンシェルジュカウンター設置を実施。
- ・10月歌舞伎公演にて多言語ポータブル字幕機の貸出しを実施(英・中(簡・繁)・韓、700円、利用者数256人)し、その利用者に歌舞伎の概要及び演目を紹介する4言語のプログラム(英語・中国語(簡

体字・繁体字)・韓国語)を無料配布。

- ・旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置。

(b) 演芸場

- ・英語、中国語(簡体字・繁体字)の施設紹介パンフレットを作成・配布。
- ・昨年作製の英語改定版・韓国語版の寄席の紹介パンフレット作成・配布し、外国人の利用環境の充実を図った。

(c) 能楽堂

- ・英語版「主催公演予定表」(冊子)、演目を解説した英文リーフレット、英語による場内アナウンス等により、外国人の観劇環境を充実。
- ・英語によるマナーチラシを作成し、外国人の観客に注意喚起した。
- ・英語による演目解説リーフレット、「主催公演予定表」(冊子)、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンス等のサービスを提供。
- ・能楽堂の英語版HPに年間主催公演予定(スケジュール)を掲載。
- ・「NOH & KYOGEN Guide Book」ほか、中国語(簡)・韓国語による能楽解説書を作成し、無料配布。
- ・座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英語)等表示を実施。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記載した6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・スペイン語・フランス語)による解説書を作成し、無料配布。また、4か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)による字幕表示を実施。

(d) 文楽劇場

- ・文楽公演では、2か国語(日本語・英語)による公演案内リーフレットを作成し、空港及び観光案内所等に配布。3か国語(英語・中国語(簡)・韓国語)によるあらすじを掲載した公演案内を作成、劇場内に配架。
- ・「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」で、外国人向け文楽入門パンフレット「Introduction to BUNRAKU」(英語版)を当日無料配布。
- ・平成29年度の中国語(簡)版に引き続き、「Introduction to BUNRAKU」の韓国語版とフランス語版を作成、ロビー及び資料展示室に英語版・中国語(簡)版とともに配架。
- ・6/16「Discover BUNRAKU」で、29年度に作成した文楽の普及映像「文楽を楽しむ」の英語版「Enjoying Bunraku」を入場無料の資料展示室で上映。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを実施。
- ・組踊が含まれる公演及び3月公演時代幻想劇「王女御殿」について、外国人利用者向けにあらすじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。
- ・3か国語4言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内ほか、空港及び観光案内所等に配布した。
- ・「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、3か国語(英語・中国語・韓国語)表記のチラシを作成・配布した。
- ・「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」では、前年度に引き続き、4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)の多言語オーディオガイド機器を導入するとともに、4か国語による音声同時解説及び英語通訳のある組踊ワークショップを実施、チケットカウンターには英語通訳者を配置した。
- ・日本語・英語の2言語版、日本語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語の3言語版の2種類がある多言語パンフレット「琉球芸能と組踊」を館内展示室に常時設置した。また、展示期間中に「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」が実施された第3回企画展「ウチナー芝居入門」において、日本語・英語・中国語繁体字・韓国語の4言語の展示解説リーフレットを展示室に設置した。

(f) 新国立劇場

- ・オペラ公演の一部の日程で英語の字幕を表示。(「魔笛」10/13、14、「紫苑物語」2/17、20、23、24)
- ・公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載。
- ・英語字幕を表示したオペラ「魔笛」「紫苑物語」で、プログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを増頁。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置。

- ・新国立劇場案内パンフレットの英語版を作成。従来の日本語版の翻訳でなく、外国人の興味関心をひく編集内容に大幅改訂し、詳細版と大量に配布できる普及版の2種類製作。
- ・当日券の購入方法をご案内する英語チラシを作成し、劇場内で配布。
- ・Webボックスオフィスでは、研修公演を除くすべての主催公演で海外からのチケット購入サービス等を引き続き提供した。また、チケット券面を日英2か国語表記とした。
- ・英語版Webサイトをリニューアルし、大型ビジュアル中心のデザインに改訂した。動画をジャンル毎に集めたビデオギャラリーを設け、外国人の興味関心を喚起した。

⑤災害等への対応

- ・6館全館に平成30年7月豪雨災害義援金募金箱、平成30年北海道胆振東部地震義援金募金箱を設置。

(a) 本館

- ・舞台技術、劇場案内、入場券関係の職員、委託業者が参加する避難誘導訓練を大劇場で実施した。(4/23・7/19)
- ・麹町警察・麹町消防署など麹町パートナーシップ参画団体と協働して、警視庁機動隊・緊急対応部隊・公安機動捜査隊、東京消防庁化学機動中隊、千代田区パートナーシップ参画団体が参加する「テロ対処合同訓練」を大劇場及び前庭で実施した。(5/29)
- ・麹町消防署と協働して、落語家の林家正蔵が一日消防署長を務める消防演習を大劇場及び前庭で実施した。(2/15)
- ・天皇陛下御在位三十年記念式典(2/24)など皇室・政府閣僚等が来場する式典等の開催に係る施設利用にあたっては、内閣府、宮内庁、皇宮警察、警察、消防、運営当局・業者、振興会職員等関係者による事前全体会議(警備諸事項の確認と施設内の導線実査等)の開催及び数回に及ぶ警視庁、消防庁による敷地・館内の下見・検索・査察に適時協力した。また、式典当日は、敷地・会場への職員・関係者、車両の立入制限、身分・識別確認への対応など会場警備に配慮し、協力体制をとった。

(b) 能楽堂

- ・職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を2回(9月・3月)実施。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行ったほか、9月には渋谷消防署原宿出張所隊員指導の下、屋内消火栓放水訓練を実施し、職員等の防災の意識を高めることができた。3月に避難誘導訓練のほか渋谷消防署原宿出張所よりDVD「自衛消防力の向上 大地震への備え」を借り受け、大講義室で上映した。
- ・職員、委託業者等、全職域が参加して、火災・地震等の緊急時の対応について確認・検討する能楽堂舞台運営安全会議を3月に実施した。
- ・原宿警察署による「原宿パートナーシップテロ対策合同訓練」(バスタ新宿におけるテロの未然防止と協働対処体制についての合同訓練)に参加し、対応方法を学んだ。(12/6)

(c) 文楽劇場

- ・団体観劇の高校生と教職員(計336人)の協力を得た避難誘導訓練を行った。併せて職員、委託業者社員及び出演中の文楽座技芸員で消火器・AED使用訓練を実施。(6/11)
- ・平成31年6月に大阪での開催が予定されているG20サミットを見据えて、所轄の大阪府南警察署の指導により、警察への通報・情報提供、「さすまた」等の実技講習、模擬観客の誘導なども含めたテロ対策の防犯訓練を小ホール等で実施した。(12/10)
- ・職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を行うとともに、非常用備蓄品の保管場所と保管状況を実地で確認した。(3/5)

(d) 国立劇場おきなわ

- ・平成30年度沖縄県広域地震・津波避難訓練(沖縄県、県内全市町村主催)に参加し、大劇場公演中に大津波警報が発令された想定で、劇場3階への津波避難訓練を実施。(11/5)
- ・地震に備え、執務室内のロッカー等の家具を壁等に固定した。
- ・災害に備え、簡易トイレ及び飲料水を備蓄した。
- ・職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施して、避難訓練、消火器の取扱い等について実地訓練を行った。

(e) 新国立劇場

- ・観客参加型の避難訓練「第3回避難体験オペラコンサート」を、中劇場に会場を移して開催した(9/26、参加者約600人)。なお職員、委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練も同時に実施した。
- ・避難体験コンサート開催にあわせ、同コンサート来場者に対する手荷物検査を試行した。実施の様子を視察した所管警察署より後日講評と指導を受け、今後の対応を検討した。

- ・防災センターに直通電話を設け、緊急時の関係省庁との連絡環境改善を図った。
- ・日頃の消防訓練の成果を発表する場として、渋谷消防署の主催する自衛消防訓練審査会に防災センター要員が参加した。
- ・大規模災害時帰宅困難者受入施設としての役割を踏まえ、災害備蓄品の入替、補充を行った。

イ 多様な購入方法の提供

- ・文楽劇場の各文楽公演では幕見席を販売（夏休み文楽特別公演第一部を除く）。
- ・国立劇場おきなわでは多言語電話通訳サービスを提供。（通年）
- ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売。文楽劇場の公演は一般発売に先行して会員発売日と同日に発売。
- ・夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」では、親子セット券を一般発売に先行して会員発売日と同日に発売。
- ・チケットセンターHP に各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。

《親子を対象とする公演の販売に関するデータ》

公演名	公演期間	購入方法	発売日	予約件数	販売枚数	総入場者数
親子で楽しむ歌舞伎教室	7/17、 20～24	インターネット	5/26	4,572 件	13,594 枚	16,672 人
		電話	5/27	872 件	2,570 枚	
親子で楽しむ舞踊・邦楽	7/7	インターネット	4/28	102 件	280 枚	435 人
		電話	4/29	15 件	42 枚	
親子で楽しむ演芸会	7/28	インターネット	5/28	73 件	207 枚	294 人
		電話	5/29	27 件	79 枚	
夏休み親子のための能の会	8/4	インターネット	5/28	188 件	501 枚	625 人
		電話	5/29	36 件	103 枚	
夏休み親子のための 狂言の会	8/25	インターネット	5/28	193 件	524 枚	621 人
		電話	5/29	28 件	80 枚	
文楽親子劇場	7/21～8/7	インターネット	6/2	413 件	1,333 枚	8,021 人
		電話	6/3	126 件	360 枚	
親子のための組踊鑑賞教室	8/11	インターネット	6/1	14 件	24 枚	470 人
		電話・窓口	6/1	134 件	446 枚	

《新国立劇場の取組》

- ・若年層向けの特別優待制度である U25 優待メンバーズ、U39 オペラ優待メンバーズに対し、適時「フレンズキャンペーン」を実施し、U25 優待メンバーズ等の登録者が未登録の友人等を勧誘し未登録の友人等も優待価格で購入できる機会を提供。
- ・U15 ファミリー優待メンバーズに向け、先行販売を実施していない公演に関しては、直前に特別優待料金での販売を行った。
- ・すべての主催公演について、過去に、一般・会員問わず Web 購入登録を行い、かつ新国立劇場からの DM 送付を許可している顧客に対し、先行販売を実施（1 公演につき対象者：約 4 万人）。
- ・「第 3 回避難体験オペラコンサート」において、はがきの他に、新たに電子チケットでの入場も選択できるようにした。
- ・公演関連イベント「大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』」において、U25 優待メンバーズでの申込者に対して電子チケットを発行し、スムーズな入場を促した。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

①解説書等の作成

(a) 本館

- ・各公演において、公演内容に応じた解説書を作成。
- ・歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本（初心者向けガイドブック）を

無料配布。

- ・歌舞伎・文楽公演では解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布。
- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、あらすじ等を記載した7言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)によるプログラムを無料配布。
- ・10月歌舞伎公演にて多言語ポータブル字幕機利用者には歌舞伎の概要及び演目を紹介する4言語のプログラム(英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語)を無料配布。

(b) 演芸場

- ・出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成し無料配布。
- ・11月特別企画「正蔵 正蔵を語る」及び「芸術祭寄席」において別途解説パンフレットを作成し、いずれも無料配布した。

(c) 能楽堂

- ・公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど、工夫を凝らした解説書を毎月作成した。5月30日の「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、日本語に加え、英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語に翻訳した解説書を作成し、無料配布した。6月18日から同月22日まで開催した「能楽鑑賞教室」において、解説書に漫画によるあらすじ解説を掲載し、公演内容の理解促進を図った。11月30日の企画公演において、あらすじを英語・中国語(簡)・韓国語に翻訳したリーフレットを作成し、無料配布した。

(d) 文楽劇場

- ・「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成。うち、6月文楽鑑賞教室、5月舞踊邦楽鑑賞会、5月浪曲錬声会、2月浪曲名人会は無料配布とし広く公演内容を周知した。
- ・文楽鑑賞教室において、来場者全員に写真を多く用いたカラー版の「文楽入門」を無料配布。
- ・「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」においては6か国語7言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書等を作成、外国人向け英語版文楽入門パンフレット「Introduction to BUNRAKU」とともにオリジナルトートバッグに入れて配布。
- ・平成29年度の中国語版に引き続き、外国人向け英語版文楽入門パンフレット「Introduction to BUNRAKU」の韓国語版とフランス語版を新たに作成。
- ・「Introduction to BUNRAKU」英語版・中国語版・韓国語版・フランス語版を配架。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成。
- ・「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」でイラスト入りの初心者向けのパンフレットを作成し、無料配布。
- ・「組踊鑑賞教室 雪払い」で英・中・韓の多言語チラシ(あらすじを記載)を無料配布。

(f) 新国立劇場

- ・すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成。うちバレエ・現代舞踊公演と演劇「こつこつプロジェクト」は無料配布とした。
- ・公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載。
- ・オペラ「魔笛」「紫苑物語」で英語字幕を表示したのに合わせ、プログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

②音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

- ・文楽の全公演で、2か国語(日本語・英語)による音声同時解説サービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ)。

- ・ 文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、2言語による音声ガイドを提供した。
- ・ 外国人のための組踊鑑賞教室「Discover KUMIODORI」では、4言語（英語・中国語・韓国語・日本語）による音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	2公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・琉球芸能・特別企画公演	17公演	5月舞踊公演、8月舞踊公演、11月舞踊公演
		6月邦楽公演、10月邦楽公演、1月邦楽公演
		6月雅楽公演
		9月声明公演
		6月民俗芸能公演、1月民俗芸能公演
		3月琉球芸能公演
能楽公演(鑑賞教室含む)	50公演	蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	25公演	10月三線音楽公演「琉球弧の島唄」、11月企画公演「国立劇場寄席」、2月企画公演「狂言」及び台風により中止となった2公演を除く全公演
オペラ公演	10公演	全公演

オペラ公演の一部の公演で英語の字幕も表示した。（「魔笛」10/13、14、「紫苑物語」2/17、20、23、24）

③公演内容の事前説明会等の実施

(a) 公演説明会等の実施

	公演説明会		施設見学		バックステージツアー	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
本館・演芸場	107件	4,756人	11件	84人	65件	2,156人
能楽堂	10件	371人	8件	267人	33件	967人
文楽劇場	54件	1,193人	2件	91人	-	-
国立劇場おきなわ	6件	106人	19件	449人	2件	117人
新国立劇場	11件	3,585人	33件	346人	18件	702人
合計	188件	10,011人	73件	1,237人	86件	3,010人

- ・ 大野オペラ芸術監督がピアノを弾きカヴァー歌手の歌唱を交えながら「魔笛」の魅力进行解説する「大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』」を開催（9/10、オペラ劇場、993名、有料ただし25歳以下はU25登録で無料）。休憩込み2時間近い長尺でじっくり解説して好評を博し、後日Youtubeにダイジェスト版を配信して多くの視聴を得た。
- ・ オペラ「魔笛」演出家（ウィリアム・ケントリッジ）の来日に合わせスペシャルトークを開催。ここで語られた作品コンセプトは概要をホームページに掲載して観客の理解促進の助けとした（9/30）
- ・ 「トークイベント『紫苑物語』一の矢「知の矢」—石川淳の原作からオペラへ—」を開催（10/29、東大駒場キャンパス）。演出意図や装置・衣裳プランをビジュアルで紹介し、集客の難しい新制作日本オペラへの導入に努めた。トークの概要は2回に分けてホームページに掲載した。
- ・ 「2019/2020 シーズン・オペララインアップ演目説明会・オペラ『紫苑物語』関連イベント～二の矢」を開催。第一部をオペラ芸術監督によるラインアップ説明会とし、第二部で新制作オペラの見どころ聴きどころを歌唱も交えながら解説した。（1/31、中劇場、220名）
- ・ オペラ「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」オペラトーク（3/31、オペラ劇場ホワイエ、来年度公演）
- ・ 引き続き、演劇公演でシアタートークを開催した（「こつこつプロジェクト」を除く7演目）。演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介し、舞台への興味関心を喚起した。
- ・ 演劇「誰もいない国」スペシャルトークイベントを開催した（10/5、オペラ劇場ホワイエ、210名）。ホームページで実施報告するとともにダイジェスト映像を掲載した。

- ・上記施設見学のほか、新国立劇場では10か国14団体58名の外国からの訪問者受入れを行った。
- ・これまで公演当日に案内していたオペラ劇場のバックステージツアーについて、事前にHPで予告することとした。
- ・2018/2019シーズンより、演劇公演において制作担当プロデューサーによる公演ガイドツアーを開始した。

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

i. 伝統芸能分野

- ・文楽劇場では、大阪梅田の商業施設「グランフロント大阪」内の知的創造・交流施設「ナレッジキャピタル」が開催する親子向けのイベント「ナレッジキャピタルワークショップフェス 2018 AUTUMN」(11/18、1回、参加者数約30人)、「ナレッジキャピタルワークショップフェス 2019 SPRING」(3/16、2回、参加者数約50人)に文楽が参加し、技芸員による解説と体験を実施した。
- ・文楽劇場では、独立行政法人日本学生支援機構の兵庫国際交流会館「国費外国人留学生歓迎会 2018 in 兵庫」に参加し、技芸員による文楽人形解説、公演チラシ配布により公演を周知した(6/16、2回、参加者数約140人)。
- ・国立劇場おきなわでは、「組踊ワークショップ」を静岡、京都、高知で実施した。普段、組踊に触れる機会が少ない県外の方を対象に、沖縄の伝統芸能の知識を得る機会を提供した(3回、参加者数131人)。県内の小中学校においても、伝統芸能の魅力を親しみやすく感じていただけるよう、入門編のワークショップを実施した(3回、参加者人数820人)。また、フランス・パリのユニクロマレドにおいてワークショップを実施し、海外の方へも沖縄の伝統芸能を発信することができた。(8/3、1回、参加者数約25名)
- ・二十五世観世左近記念観世能楽堂において、「琉球王朝の息吹を今に伝える」と題して、琉球芸能の解説を加えた鑑賞公演を実施した。(2/11実施、2回公演。動員数：751名)

ii. 現代舞台芸術分野

- ・子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」(5/5、主催：日本芸能実演家団体協議会、会場：芸能花伝舎)に参画。演劇研修所第12期生と子供たちが体を動かしながら演劇の魅力をさぐる体験教室を開催した(2回、84名)。
- ・チケット購入団体に対して職員によるオペラ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・英国ナショナル・シアターライブの「誰もいない国」日本上映とのコラボレーションで、シネマリーブル池袋にてトークイベントを開催した。(8/20)
- ・オペラ「紫苑物語」公演に先立ち、東京大学駒場キャンパスにて「トークイベント『紫苑物語』～一の矢「知の矢」～石川淳の原作からオペラへ～」を開催した(10/29、198人)。同オペラの創作を手がける関係者による座談会を行い、作品の理解と関心を高めた。後日、開催レポートをホームページに掲載した。
- ・都内観光施設における初の展示イベントとして、平成30年12月にオープンした神田明神文化交流館 EDOCCO STUDIOにて「新国立劇場オペラ舞台美術展」を開催した。舞台衣裳や装置模型等を展示するとともに、オペラ研修所修了生を中心としたオペラユニット PIVOT! によるミニコンサートを開催した。英語での解説を併用し、インバウンドにも対応した。(1/25～27、2,077名)
- ・芸術鑑賞を行う学校団体等(オペラ鑑賞教室含む)のニーズに対応して、鑑賞の事前学習として複数の学校に訪問して、職員によるレクチャーを実施。

エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用

①意見・要望等への対応体制

(a) 振興会

- ・各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(b) 国立劇場おきなわ

- ・観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(c) 新国立劇場

- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HPに掲出した。
- ・意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

②意見・要望等への対応状況

	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	35件	29件	137件	89件
演芸場	7件	6件		
能楽堂	34件	9件		
文楽劇場	94件	34件		
国立劇場おきなわ	8件	0件	0件	0件
新国立劇場			342件	204件
合計	178件	78件	479件	293件

《主な対応・改善例》

- ・国立劇場では、上演中以外は客席での飲食が可能であることについて、知らなかったとの声や全面不可であると誤解しているご意見が多く寄せられていたため、10月歌舞伎公演より場内アナウンスにその旨を追加した。
- ・国立文楽劇場では夏休み文楽公演において、短時間の休憩中はエスカレーターを運転していなかったが、展示室等を訪れるため利用したいとのご意見を受け、全ての休憩時に運転することとした。
- ・国立文楽劇場では、公演記録鑑賞会の入場方法について、エレベーターの乗降順を定めて誘導する方法は煩雑であるとのご意見を受け、エレベーター乗車前に番号札を配布する方法に改めた。
- ・国立劇場おきなわでは、劇場内の洋式トイレの増設を求める声が多かったため、利用者用トイレを和式から洋式へ改修。
- ・新国立劇場では、車椅子の来場ルートがわかりにくいという意見を受け、ホームページのアクセスページを改修し、最寄り駅構内図および写真により駅から劇場までの経路が分かるようにした。
- ・新国立劇場オペラパレス、中劇場のトイレ等の一部の施設について、「場所が分かりにくい」という声に対応し、簡易サインを作成し掲出。
- ・オペラ・バレエ公演後のバックステージツアーについて、「事前に実施日が知りたい」という意見を受け、当日発表だったものを月ごとにHP上で発表するようにした。また、「なかなか抽選で当たらない」という意見を受け定員を40人から50人に拡大した。

2 - (6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動、

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用し、広報活動を効果的に実施

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b) SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化

③振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営、サービスの提供、拡充及び会員校の増加に努める

NPO 法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、近畿圏の 30 歳以下の観客を対象とする企画「ワンコイン文楽」を継続

⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的 to 実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 8 回程度)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年 6 回発行)

・会員向けイベント(年 6 回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年 4 回発行)

・会員向けイベント(年 3 回程度)

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 12 回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①多様な媒体を活用した効果的な広報活動

- ・ポスター、チラシ、HP、メール、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、YouTube)、会報誌・広報誌での広報、新聞・雑誌等への公演情報掲載等で公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)、舞台稽古の取材、ゆかりの地での取材会等を実施。
- ・出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目ゆかりの地域と連携した情報発信を実施。
- ・文化庁 HP 内の平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭専用ページに 6 劇場すべての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載。

(a) 本館

- ・「5 月文楽公演」通常のチラシと別途に五代目吉田玉助襲名披露チラシ、ポスターを文楽劇場とともに作成し、そのうちチラシ 10,000 枚、ポスター 100 枚を配布。
- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」専用チラシを作成。東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付等(1,115,000 枚)
- ・出演者による取材会(記者会見)を実施し、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。
- ・舞台稽古の取材、出演者による稽古前の囲み取材を実施し、公演直前の様子取材する機会を設けた。
- ・5 月舞踊公演「変化舞踊」5/16、5/25、5/26、NHK E テレ「にっぽんの芸能」稽古、本番取材。
- ・文化庁等主催「文化プログラムプレスセンター」に協力。中高生が記者がとなって歌舞伎俳優研修生の稽古及び「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」を取材。記事は同プレスセンターHP で公開。
- ・演目ゆかりの地において、出演者による成功祈願を行った。
 - ◇ 11 月歌舞伎公演で豊川稲荷東京別院の大岡祭において実施、出席：中村梅玉、坂東彌十郎、市川右團次(9/22)
- ・スポーツ庁鈴木大地長官「6 月歌舞伎鑑賞教室」午前の部観劇。鑑賞教室の演目でもある「連獅子」をイメージした公式マスコット「レンジー(Ren-G)」を通してラグビーワールドカップ日本大会をアピールするため、終演後、舞台上で出演者(中村又五郎、中村歌昇)と面会、写真撮影(6/4)。振興会 HP にトピックス掲載。公式マスコットの活躍により、日本の伝統文化が世界に広がることを期待。
- ・11 月歌舞伎公演初日を大岡越前の子孫で、大岡家十五代当主・大岡秀朗氏夫妻が観劇。終演後には、舞台上の「大岡役宅奥殿」を訪れ、大岡越前守忠相を演じた中村梅玉と対面。(11/3)
- ・11 月歌舞伎公演期間中に加藤剛『大岡越前』と北大路欣也『名奉行！大岡越前』を放送する時代劇専門チャンネルと連携し、web サイトへの相互バナー掲出、Twitter での相互投稿等を行った。
- ・中村吉右衛門が歌舞伎座と国立劇場 2 か月連続で石川五右衛門を勤めることにちなみ、両公演を観劇した観客に中村吉右衛門サイン入りブロマイド 3 種類をセットでプレゼントする「W 五右衛門観劇キャンペーン」を実施。
- ・国立劇場監修の伝統芸能をモチーフとした発車メロディが半蔵門駅に導入され、9/13 より運用が開始された。歌舞伎黒御簾音楽「てんつつ」と文楽「寿式三番叟」の 2 曲がアレンジされた。
- ・琉球芸能の宣伝及び 3 月琉球芸能公演への観客勧誘を企図して、組踊上演 300 周年記念特別企画「琉球王朝の息吹を今に伝える」(2/11 於観世能楽堂)第一部琉球芸能の解説、第二部琉球芸能鑑賞を実施、一般客 281 名が来場。特別企画参加者のうち、160 名が 3 月琉球芸能公演に来場。
- ・国立劇場さくらまつりを実施(3/20~4/7、国立劇場前庭、無料。舞台衣裳体験コーナーを設置、開場以来初の夜間ライトアップを実施、集客効果の高い企画を新たに実施することにより、来場者は例年に比べ大幅に増加、来場者数：48,003 人)。
 - ◇ 期間中、大劇場未使用日に大劇場ロビーを開放し、1 階客席・2 階ギャラリーの見学を実施。併せて伝統芸能情報館の企画展示のボードを展示。
 - ◇ 来場者を対象に 3 月歌舞伎公演の特別割引販売を実施(18 件 24 枚)。

(b) 演芸場

- ・7 月上席、11 月上席両真打昇進披露興行について、落語芸術協会、落語協会と連携し各席亭との合同チラシを配布(各 4,000 枚)
- ・8 月中席は桂歌丸追悼。2F ロビーにて、歌丸追悼パネル展実施。マスコミ取材多数(8/4 WEB 誌「隅田川 des」取材。8/11NHK、NTV、スポニチ、日刊スポーツ、サンケイスポーツ取材。8/13NHK・8/15NTV 追取材。8/17 共同通信広瀬和生氏劇評取材、スポーツ報知取材。『東京人 9 月号』公

演案内)

- ・国立演芸場以外の公演でチラシを配布。(紀伊国屋寄席、下丸子らくご倶楽部、大手町落語会、三越落語会、しぶや落語他)
- ・「寄席 演芸のご案内」英語版を改定した。
- ・新聞や「東京かわら版」等へ広告掲載。
- ・定席公演ではスタンプラリーを引き続き実施し、粗品の種類を増やし、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(1回の鑑賞でスタンプを1回押し、スタンプ5回で粗品進呈)。また夜公演の鑑賞者にはスタンプを2回押し販売促進に努めた。
- ・12月上旬において(12/8)キャンパスメンバー参加大学の学生に向け落語入門レクチャーを行った。

(c) 能楽堂

- ・チラシ・ポスターの作成・配布、千駄ヶ谷駅へのポスター掲出、新聞・雑誌等への公演情報掲載、取材対応等の通常の広報に加え、振興会ホームページにトピックス情報を随時掲載。
- ・10月・11月「演出の様々な形」、12月・1月「明治150年記念 苦難を乗り越えた能楽」特別チラシ・ポスターを作成し、配布・掲出。
- ・能楽堂11月定例公演 能「三井寺」に西嶋栄治滋賀県副知事が来場。(11/7)
- ・12月22日(土)特別企画公演の上演演目「道成寺」に因んだ国立能楽堂開場35周年記念オリジナルグッズ「道成寺ランチトートバッグ」や国立能楽堂2019年卓上カレンダーをはじめとした国立能楽堂オリジナルグッズのデザインを数多く手がける画家・イラストレーターの時松はるな氏を招いて物販とイベントをロビーにて開催。
- ・1月5日及び31日定例公演について小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)による委託販売を初めて行い、小田急電鉄の各駅でポスター100枚、延べ3,000両の車内に中吊り広告を無料掲出し集客に努めた。
- ・3月28日開催企画公演「能を再発見する/自社と能・清涼寺」特別チラシ2,000枚を作成し、団体及一般の集客のため配布・掲出。また、国立能楽堂オリジナル木製しおりを作成し、特別チラシ・HP上で来場者全員にプレゼントを告知し集客に努めた。

(d) 文楽劇場

- ・公益財団法人文楽協会やOsaka Metro、JR西日本、在阪私鉄各社の協力を得て、タイアップポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を利用して、一般の集客に努めた。
- ・JRみどりの窓口で文楽公演の入場券を販売し、車内中吊り広告の優遇掲出を行った。
- ・大阪市内の小学生全員に配布されるOsaka Metroの「おでかけKID'S サマーPass」や訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」とのタイアップにより、若年層とその父兄や外国人旅行者への周知を図った。
- ・外部団体が主催するイベント等への芸芸員の参加、アクションゲーム・食玩キャラクターとのコラボレーションにより様々な顧客層への興味喚起を図った。
 - ◇ 大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及シリーズイベント「春まつり文楽」、在阪民放テレビ局が主催する「うめだ文楽」、大阪市主催の文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽」、一般社団法人ナレッジキャピタルが主催する「ナレッジキャピタルワークショップ」、大阪市立大学整形外科学教室の「開講70周年記念祝賀会」、天神祭船渡御の「文楽船」、「法善寺横丁まつり」、「道頓堀リバーフェスティバル」、繁昌亭の「文楽を応援する落語会」に芸芸員が出演・参加するなどして連携協力し文楽や公演の周知を図った。
 - ◇ 芸芸員とアクションゲーム「戦国BASARA」とが、文楽と食玩キャラクター「ビックリマン」とがコラボレーションした広報活動により、伝統芸能に馴染みの低い方々への興味喚起を図った。
- ・大坂市立中央図書館の協力により、図書館所蔵の文楽公演に因む一枚番付等の展示や文楽書籍コーナー等での公演周知、市内24区の各図書館へのポスター・チラシの配布などを行った。
- ・外部イベント等への協力・連携により公演周知を図るほか、フリーペーパー等への記事広告掲出、販促グッズの作成・配布等、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。
 - ◇ 堺市博物館の主催する「無形文化遺産理解セミナー」、堺市東文化会館の主催する「文楽普及ミニ公演」等と連携協力して公演周知。
 - ◇ 阪神高速道路株式会社の協力により、心齋橋の繁華街にあるミナミ交流プラザ「L00P-A」において、若者、外国人向けに文楽の展示。
 - ◇ 阪急うめだ本店の協力により、店内にチラシ等を配架。
 - ◇ 9月特別企画公演では、宮崎県各地の神楽を上演するイベントにてチラシ配布。また、宮崎県と協力し県人会等への広報を実施。

- ◇ 大阪府等が主催する大阪文化芸術フェスの連携プログラムに登録。
- ◇ 大阪市及び京阪神エルマガジン社と連携し、外部 web サイト内の文楽特別ページ『ハロー文楽編集部』、フリーペーパー『ハロー文楽はじめての文楽入門』に公演情報を掲載。
- ◇ 下半期公演情報、団体観劇・友の会案内を掲載した「日本振袖始」うちわを作成・配布。
- ・ 夏休み文楽特別公演「親子劇場」では、大阪市と連携し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」（大阪市の一部費用負担）として親子ペア観劇を行い、各市（奈良市、生駒市、尼崎市、西宮市、守口市、東大阪市）教育委員会の協力を得て、各小中学校の児童・生徒へチラシを配布するなどし、学校関係への公演周知・観客勧誘に努めた。
- ・ 襲名披露公演の初日囲み取材や成功祈願、舞台稽古の取材など多様な取材をセッティングすることで、マスコミ各社を通じて広く情報の提供を図った。
 - ◇ 4 月文楽公演の襲名披露公演においてはマスコミに積極的に働きかけて、NHK のニュース番組「ニュースほっと関西」、毎日放送テレビの情報番組「ちちんぷいぷい」に芸員が出演。
 - ◇ 夏休み文楽特別公演では、NHK の情報番組「ぐるっと関西おひるまえ」で親子劇場が紹介。
 - ◇ 6 月文楽鑑賞教室では、関西テレビのニュース番組「報道ランナー」の生中継が文楽劇場内で行われ、芸員が出演し公演の PR を行う。
- ・ ラジオ CM を実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、ラジオ番組への芸員の出演や、番組内で定期的に公演紹介を行うコーナー等で公演 PR に努めるなどラジオを通じて情報の周知を図った。
 - ◇ ラジオ大阪『高岡美樹のべっぴんラジオ』にて公演周知。
 - ◇ MBS ラジオの「ラジオ秋まつり 2018」、「ラジオウォーク」にて生 CM、チラシ配布等
- ・ HP への公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を掲載、メールや SNS での情報発信を行い web 上での情報提供に努めた。6 月「Discover BUNRAKU」を紹介する英文サイトを作成し、動画やあらすじ等で演目の内容を紹介した。
- ・ 「文楽かんげき日誌」に著名人の文楽観劇日誌を掲載するほか、特別企画として寄稿者による対談を掲載した。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・ 外国関係団体、近隣ホテル、芸能団体、三線販売店、児童館等、公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体、自治会、老人会等に対し、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ 7 月琉球舞踊鑑賞教室及び 8 月親子のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」において、県内自治会、県内小中学校、近隣の児童館等に案内文書を送付。
- ・ 県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を 3 回実施するとともに、自治会老人会に案内文書を送付（9 月沖縄芝居鑑賞教室、11/14～17 組踊鑑賞教室）。
- ・ チケット購入者限定で公演前の組踊ワークショップやしまくとうば講座、バックステージツアーを開催。
- ・ おきなわ県民カレッジと美ら島沖縄学講座「組踊への誘い」を共催（5 月「大川敵討」）。
- ・ 外国人関係団体に案内文書の送付、近隣ホテルへ営業、外国語オーディオガイド機器の無料貸し出し、及び英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップ（チケット購入者限定）を実施（11/17 Discover KUMIODORI）。
- ・ 組踊上演 300 周年記念実行委員会 HP に、組踊関連公演（1 月企画公演「琉球舞踊と組踊『辺戸の大主』」、「琉球舞踊と組踊『孝行の巻』」、3 月民俗芸能公演「村々に伝わる組踊・狂言」、3 月企画公演「創作組踊『人盗人』新組踊『もどろみゆ華の命』」）を掲載。
- ・ 二十五世観世左近記念観世能楽堂において、「琉球王朝の息吹を今に伝える」と題して、琉球芸能の解説を加えた鑑賞公演を実施した（2/11 動員数 751 名）。
- ・ 旅行会社と提携して、「組踊と琉球の歴史文化を学ぶ旅」と題した組踊鑑賞ツアーを企画し、集客に努めた（6/30 参加者 15 名、8/18 参加者 20 名、10/27 参加者 8 名）。
- ・ 県内約 800 か所の教育機関、主要企業等、県内約 690 か所の公民館等、県内約 230 か所の老人会等へのチラシ配布、県内 8 か所の観光施設への当劇場専用ラックの設置等により公演情報等を周知。
- ・ 共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知に努めた。
- ・ 国立劇場本館における琉球芸能公演に協力し、国立劇場おきなわの主催公演の PR を行った（3/9）。

(f) 新国立劇場

- ・ オペラ「フィデリオ」制作発表会を開催（2017/10/12）。
- ・ オペラ「トゥーランドット」演出家の囲み取材を実施（5/2）。
- ・ オペラ「フィデリオ」演出家他の囲み取材を実施（5/16）。

- ・オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による 2019/2020 シーズンラインアップ記者発表を行った(1/17)。
- ・オペラ「紫苑物語」プレスツアーを実施した。外国雑誌記者 6 誌 5 名を公演に招待し、記者会見(2/21)を行って海外プレスに向け積極的に宣伝することで劇評の流通を促進し、新制作オペラの国際的な周知を図った。(海外での掲載：Web2 件、1 紙 2 件、3 誌 3 件)
- ・2020 年 8 月特別企画「子供たちとアンドロイドが創る新しいオペラ」を、アンドロイド新作発表会の中で発表した(2/28)。
- ・新国立劇場バレエ団 米沢唯 NHK BS プレミアム「ボディーミュージアム」VTR 出演(4/25 放送)。
- ・新国立劇場バレエ団出演「NHK バレエの饗宴 2018」(4/7、NHK ホール)NHK E テレで放送(5/20 放送、11/25 再放送)。
- ・新国立劇場バレエ団 小野絢子・福岡雄大 NHK BS プレミアム「美の壺」VTR 出演(7/20 放送、7/27 再放送、9/23 再放送 NHK E テレ)。
- ・オペラ芸術監督の大野和士が NHK ラジオ第一放送「NHK ジャーナル」に出演(10/5)。
- ・バレエ「不思議の国のアリス」を特集した新国立劇場バレエ団出演「バレエ☆プルミエール」放送(11/18 放送、12/4・1/31 再放送 WOWOW)。
- ・大野オペラ芸術監督が NHK E テレ「SWITCH インタビュー」に出演、「紫苑物語」リハーサル現場等に言及(2/16)。
- ・新国立劇場バレエ団 木村優里 BS-TBS「ストイック女子」VTR 出演(3/20 放送)。
- ・京王新線新宿駅改札前に新国立劇場の各公演のポスターを設置(10/1～14)。
- ・東京駅 JR 線丸の内地下中央口から地下鉄丸の内線への連絡通路で舞台写真を使用した広告(アドビジョン 9 面)を実施(10/1～)。
- ・新国立劇場バレエ団が Facebook Live 配信の「World Ballet Day 2018」にゲスト・カンパニーとして参加。世界へ向け新国立劇場とバレエ団を紹介する映像を配信した(10/2)。
- ・オペラ芸術監督による次シーズンのラインアップ演目説明会、オペラ「紫苑物語」関連イベントを実施(1/18)。
- ・夏のこども劇場セットでは、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中、子供向け公演の DM メンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を登録特典としてプレゼントし、登録を得た。
- ・こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」において、関東近郊のバレエ教室への DM 送付や、来場者に対して 12 月バレエ公演「くるみ割り人形」の販売を行うなど、子供向けバレエ公演をステップにシーズンの主催公演へと繋げる営業を展開。
- ・バレエ「ラ・バヤデール」でクラスレッスン見学会(3/3、10)を実施(3/3、10)。一般・会員への告知の他に都内近郊のバレエ・ダンス教室に向けて DM を送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学してもらうことで、新国立劇場バレエ団ファンへの醸成に繋がった。
- ・演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レポートリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等の活用

(a) ホームページ

- 日本芸術文化振興会 HP(30 年度年間アクセス件数：3,137,685 件、前年度実績：2,963,651 件)
 - ・本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場 4 館の親子企画をまとめた「2018 年夏休み親子企画」ホームページを公開。(4/24)
 - ・公演特設サイトを開設(3/23 本館 5 月文楽公演、7/26 本館 9 月文楽公演、10/5 11 月歌舞伎公演、10/26 12 月歌舞伎公演)
 - ・能楽堂開場 35 周年記念特設サイトを開設(8/7)。
 - ・演芸場定席公演初日の前日に、HP の公演情報で全ステージの休演・代演情報を提供。
 - ・1 公演 1 ステージ(満席数 300)の企画公演及び若手新人公演において、完売が危ぶまれる場合、関心を喚起するため HP にトピックスを掲載。

- ・能楽堂では、30年1月に30年度の全主催公演のラインナップをHPに掲載。併せて英語版も掲載。
- ・HPに能楽堂開場35周年記念特設サイトを開設した。
- ・HPへの公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を掲載、メールやSNSでの情報発信を行いweb上での情報提供に努めた。6月「Discover BUNRAKU」を紹介する英文サイトを作成し、動画やあらすじ等で演目の内容を紹介した。【再掲】
- ・「文楽かんげき日誌」に著名人の文楽観劇日誌を掲載するほか、特別企画として寄稿者による対談を掲載した。【再掲】

ii. 国立劇場おきなわ HP(30年度年間アクセス件数：448,269件、前年度実績：360,491件)

- ・各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実を図り、随時最新の情報を提供した。
- ・国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。
- ・国立劇場おきなわ開場十五周年記念特設サイトを作成し、平成31年1月～3月の自主公演及び開場十五周年記念事業などのPRを行った。

iii. 新国立劇場 HP(30年度年間アクセス件数：5,811,087件、前年度実績：5,208,881件)

- ・オペラ「フィデリオ」「魔笛」「紫苑物語」、バレエ「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「不思議の国のアリス」「くるみ割り人形」「ラ・バヤデール」、演劇「ヘンリー五世」、「夏のこども劇場セット」で特設サイトを開設した。画像や動画の掲載をさらに充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
- ・新国立劇場共催の企画展「オペラの扉2018」特設サイトを開設(8/27)。
- ・新国立劇場バレエ団サイトリニューアル(10/30)。
- ・英語版 Web サイトリニューアル(1/23)。
- ・演目発表後、早い段階から特設サイト等に舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。
- ・オペラ及び舞踊芸術監督による次シーズンの説明動画を作成、ネット配信すると同時に劇場各所で放映して公演周知と期待感の醸成に努めた。
- ・各公演のトークイベントなど公演説明会は終了後に概要やダイジェスト映像をホームページに掲出し、当日参加できなかった観客への情報周知・拡散に努めた。
- ・インターネット上の動画配信企画「ワールド・バレエ・デー」に参加し、全世界に新国立劇場バレエ団とその活動をアピールした(10/5)。
- ・「アクセス」ページに「バリアフリールート」を新設し、車椅子利用者が最寄りの初台駅から劇場へ向かうルートを駅構内図とコマ割り写真で分かりやすく説明した。
- ・前年度よりのサイト改修を進め、スマートフォン対応のページを増やした。

(b) SNS やメールマガジンによる情報の随時発信

SNS/メールマガジン	更新頻度等
国立劇場、国立文楽劇場 SNS (Twitter, Instagram, YouTube)	随時情報を配信。
インターネット発売情報メール (国立劇場メールマガジン)	毎月28日に定期的に発信しているメールのほか、販売促進のための臨時メールを発信。
文楽劇場 Trip Adviser ページ	ページのオーナーとして各公演チラシ・タイムテーブル画像を掲載。
国立劇場おきなわ SNS(Facebook)	随時情報を配信。
国立劇場おきなわメールマガジン	毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信。
新国立劇場、研修所 SNS (Twitter, Facebook(日英), Instagram(日英), Tumblr YouTube)	情報発信を継続実施。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信。公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画等を掲載し、興味を喚起した。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ジャンルによって SNS の使い分けも考慮しつつニュース内容を組み立て、発信した。
新国立劇場 e メール Club (メールマガジン)	販売促進のためのメールを随時発信。発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前にキャストインタビューやリハーサルの映像等を、HP や SNS(Facebook、Twitter)と連動させつつ発信。
スマートフォン用アプリ	首都圏のクラシック公演について、公演チラシ画像をキービジュアルとした公演

- ・国立劇場の歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法を Web サイト及び Twitter に掲載。
- ・新国立劇場ホワイエの各テーブルにポップを置き、公演宣伝とともにリツイートを通じた話題づくりを提案した。
- ・バレエ研修所専用の Facebook・Twitter を開設。(6/18)
- ・オペラ研修所の公式 Tumblr を開設。(8/27)
- ・新国立劇場バレエ団 Instagram 開始。(10/25)
- ・演劇研修所専用の Twitter を開設。(12/3)

(c) 外国人に対する情報発信の強化

i. 伝統芸能分野

- ・海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、都内主要ホテルに配布。
- ・主に外国人旅行者を対象としている東京駅前 KITTE 内観光案内所及び東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO において、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布。
- ・本館歌舞伎分野では 10 月歌舞伎公演からチラシに英語表記の公演情報を記載。
- ・独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の東京国際交流館において開催された外国人留学生を対象とした定期能楽教室に協力し、能楽の普及、公演の周知を実施。最終回の 8 月は国立能楽堂研修能舞台で謡の発表会実施に協力。(6 月 1 回 24 人、7 月 1 回、8 月 1 回 24 人)
- ・学生が日本の伝統芸能に触れる機会を提供する現場レベルでの協力をより発展させるために、日本学生支援機構(JASSO)と相互協力に関する基本協定を締結。(9/21)
- ・10 月歌舞伎公演で、国際交流の拠点として日本学生支援機構が運営する東京国際交流館に居住中の留学生・研究者とその家族を対象とした鑑賞会を実施。(10/21、参加者：42 名)
- ・初春歌舞伎公演で、日本学生支援機構が運営する東京国際交流館と日本語教育センターの外国人留学生・研究者を対象としたイベント「Backstage Tour +PLUS in English」を実施。(1/25、参加者：11 名)
- ・3 月歌舞伎公演で、国際交流の拠点として日本学生支援機構が運営する東京国際交流館に居住中の留学生・研究者を対象とした鑑賞会を実施。観劇後は同日大劇場で行われた日本博旗揚げ式にも参加(3/3、参加者：18 名)
- ・国費外国人留学生歓迎会 2018(主催：文部科学省、日本学生支援機構)に国立能楽堂が参加、能楽体験ブースを出展。「Discover NOH & KYOGEN」特別チラシ、国立劇場歌舞伎・文楽公演チラシ、文楽劇場 11 月文楽公演の英語版リーフレットを配布。(11/17、東京国際交流館)
- ・11 月定例公演で、国立青少年教育機構が文部科学省より委託を受けた平成 30 年度日独勤労青少年交流事業で来日した社会人及び職業訓練生を対象とした鑑賞会を実施。公演前にバックステージツアーも開催。(11/16、参加者 15 名)
- ・東京都教育委員会主催事業・東京都留学生東京体験スクールに協力し、都立高校への留学生を対象に国立能楽堂で能楽体験ツアーを実施。(12/16、参加者：100 名)
- ・英文冊子「Yose」(寄席芸能の案内)を改訂増刷。
- ・ホテルのコンシェルジュのネットワーク組織であるレ・クレドール・ジャパンと連携し、文楽についての勉強会を実施。
- ・文楽劇場近隣のホテルに対し、幕見席等の案内を行い、訪日外国人旅行者へ周知。
- ・TripAdvisor 文楽劇場ページに、ページのオーナーとして各公演チラシ・タイムテーブル画像を掲載。
【再掲】
- ・訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」とタイアップし、プレゼント企画を行った【再掲】。

- ・外国人向け小冊子を作成し、韓国語版を大韓民国国立無形遺産院主催「2018 ユネスコ人類無形文化遺産招聘公演—アジアの伝統芸能劇—」(10/5)にて、フランス語版を国際交流基金及びフィルハーモニー・ド・パリ主催「ジャポニスム 2018」文楽公演(10/12-~13)にて無料配布した。
- ・組踊公演及び沖繩芝居「王女御殿」について、外国人利用者向けにあらずじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。
- ・フランス・パリのユニクロ・マレ店でワークショップを実施し、組踊、琉装の着付け、琉球舞踊の化粧の仕方を説明し、踊りを披露した。

■ 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」 「Multilingual Week」 関連

- ・「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3か国語(英語・中国語・韓国語)による特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・主に外国人旅行者を対象としている東京駅前 KITTE 内観光案内所及び東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO にも英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布。
- ・大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問。
- ・30年度より追加されたフランス語による音声ガイドを利用する観客の集客のため、日仏文化協会・日仏会館・フランス語検定協会等を個別訪問。
- ・1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルにDMを送付。(273件)
- ・30年3月歌舞伎公演・30年6月歌舞伎鑑賞教室・30年10月歌舞伎公演・31年3月歌舞伎公演において、旅行代理店の訪日外国人観光客部門及びホテル・観光案内所の担当者の特別招待を実施。(参加者実績：合計102件195名)
- ・在日外国人エグゼクティブ層を読者にもつ雑誌(東京アメリカンクラブ会員誌、在日英国商工会議所機関誌、在日米国商工会議所機関誌)に広告を掲出。

■ 「Discover BUNRAKU —BUNRAKU for Beginners—」 関連

- ・英字新聞、英文ニュースサイトに広告を掲出。
- ・外部団体と連携し、在関西各国総領事館(19か国)、大阪国際交流センター、韓国文化院、国際日本文化研究センター、大阪所在の各インフォメーションセンター、大阪市立図書館、大学等へチラシを配布。
- ・近畿2府4県の国際交流活動を行う大学へDM発送を実施。
- ・独立行政法人日本学生支援機構の兵庫国際交流会館「国費外国人留学生歓迎会 2018 in 兵庫」に参加し、芸芸員による文楽人形解説、公演チラシ配布により公演を周知。
- ・文楽劇場近隣のホテル、訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス等を通じて、訪日外国人旅行者へ周知。

■ 「Discover NOH & KYOGEN」 関連

- ・ホテルメトロポリタン池袋等の協力を得て、公式Twitterやメールマガジン等により国内外の外国人へ公演を周知。
- ・国費外国人留学生歓迎会 2018(主催：文部科学省、日本学生支援機構)に参加、能楽体験ブースを出展。「Discover NOH & KYOGEN」特別チラシを配布。(11/17、東京国際交流館)
- ・各大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等へ特別チラシを送付。
- ・各旅行代理店・観光案内所・ホテルに特別チラシを送付。

■ 「Discover KUMIODORI」 関連

- ・外国人関係団体やインターナショナルスクール、米軍基地内の学校、近隣ホテル等に多言語対応の「Discover KUMIODORI」のチラシを配布。
- ・外国人向けフリーペーパーに公演の情報を掲載。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・新国立劇場案内パンフレットの英語版を作成。従来の日本語版の翻訳でなく、外国人の興味関心をひく編集内容に大幅改訂し、詳細版と大量に配布できる普及版の2種類製作。
- ・英語版 Web サイトをリニューアルし、大型ビジュアル中心のデザインに改訂した。動画をジャンル毎に集めたビデオギャラリーを設け、外国人の興味関心を喚起した。
- ・動画や英語ニュースを増やして英語版 HP の更新頻度を向上、英語版 SNS (Facebook、Instagram) とともに連動して利用喚起に努めた。
- ・英語版 SNS (Facebook、Instagram) を通じて、ネイティブによる外国人ならではの視点で公演情報を発信した。
- ・英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。
- ・シーズンガイドの英語版及びシーズン4か月ごとの英文公演ガイドを作成して、各国大使館並びに文化機関、ホテル、観光案内所、外国人記者協会、世界各地の国際交流基金事務所等に配布し、公演概要を広く外国人に周知。
- ・英字新聞、外国人向けフリーペーパー、海外のオペラ専門誌、在日英国商業会議所発行誌等に劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。
- ・オペラ「紫苑物語」ではプレスツアーを実施した。外国雑誌記者6誌5名を公演に招待し、記者会見(2/21)を行って海外プレスに向け積極的に宣伝することで劇評の流通を促進し、新制作オペラの国際的な周知を図った。(海外での掲載: Web2件、1紙2件、3誌3件)
- ・大使鑑賞プログラムを実施したほか、同プログラム以外の主催公演でも出演者出身国の大使を招待し、HP等に掲載した。また、大使館のHPやSNSでも周知するなど広報協力を得た。
- ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2018」に参加、旅行会社や海外メディアに情報提供を行って誘致に努めた。同観光局サイトには新国立劇場及び舞台美術センターの英文情報を掲載し、外国人観光客への適切な情報提供を行った。
- ・ホテルのコンシェルジュの方に新国立劇場の公演を勧めていただくための企画として、外国人宿泊客の多い都内のホテルのコンシェルジュをオペラ・バレエ公演に招待し、あわせて外国人のお客様から問い合わせがあった場合の予約方法や劇場利用法をレクチャーした。
- ・都内観光施設における初の展示イベントとして、平成30年12月にオープンした神田明神文化交流館 EDOCCO STUDIO にて「新国立劇場オペラ舞台美術展」を開催した。舞台衣裳や装置模型等を展示するとともに、オペラ研修所修了生を中心としたオペラユニット PIVOT! によるミニコンサートを開催した。英語での解説を併用し、インバウンドにも対応した。(1/25~27、2077名)

③振興会各種事業に関する広報誌の発行

年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日本語)」(2018年6月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 平成30年度」(2018年10月発行)
- ・「国立演芸場公演ガイド」(月刊)
- ・「新国立劇場 2019/2020 シーズンガイド」(2019年6月発行)
- ・「新国立劇場 2019/2020 シーズンガイド(英語版)」(2018年8月発行)
- ・「新国立劇場 What's On(英語版リーフレット)」(2018年9月、12月、2019年3月発行)
- ・「新国立劇場 平成30年度年報」(2019年9月発行、2か国語(日本語・英語)表記)

④シーズンシートやセット券、各種キャンペーン等

- ・平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演について文化庁芸術祭割引を実施。

i. 伝統芸能分野

- ・5月文楽公演第二部、9月文楽公演第二部において、長幕休憩後から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター6 BUNRAKU」を販売。(購入実績: 5月 79件93枚、9月 16件18枚)
- ・本館7月歌舞伎鑑賞教室、文楽劇場夏休み文楽特別公演第三部「日本振袖始」ダブル観劇キャンペーン

ンを実施。7月歌舞伎鑑賞教室のチケットと夏休み文楽特別公演第三部のチケットをともに購入したお客様にオリジナル記念品(手ぬぐいとメモ帳のセット)をプレゼントした。(プレゼント配布数:本館42人、文楽劇場126人、合計168人)

- ・10月歌舞伎公演12日(金)、19日(金)において、二幕目(18:20)から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター6 KABUKI」を販売。(17:30発売、7,000円、購入実績:2件2枚)
- ・11月歌舞伎公演において、読売新聞読者を対象に特別割引販売を実施(52件76枚)。
- ・12月歌舞伎公演13日(木)において、大詰(19:15)から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター7 KABUKI」を販売。(17:30発売、2,800円、購入実績:24件34枚)
- ・初春歌舞伎公演11日(金)、18日(金)において、四幕目(18:20)から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター6 KABUKI」を販売。(17:30発売、4,300円、購入実績:15件18枚)
- ・3月歌舞伎公演5日(火)、9日(土)、12日(火)、16日(土)、20日(水)、23日(土)、26日(火)において、長幕休憩後から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター7 KABUKI」を販売。(17:30発売、5,000円、購入実績:76件92枚)
- ・3月歌舞伎公演において、朝日新聞読者を対象に特別割引販売を実施(16件25枚)。
- ・3月歌舞伎公演において、国立劇場さくらまつり来場者を対象に特別割引販売を実施(18件24枚)。
- ・入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。舞踊や邦楽等の短期の公演でも、内容の異なる2回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った(4月特別企画公演(演芸場)18枚、6月民俗芸能公演190枚、7月伝統芸能の魅力(雅楽・声明)140枚、8月舞踊公演28枚、10月舞踊公演(文楽劇場)38枚、1月民俗芸能公演198枚)。
- ・あぜくら会会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った(10月~1月の4公演分2,064枚)。
- ・前年に引き続き「寄席の日」(6月の第1月曜日)に落語協会、落語芸術協会及び都内の4演芸場と提携し、当日券の割引を実施した(6/4)。
- ・文楽劇場では、10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」において、第一部・第二部のセット券を販売。(セット購入実績:17セット34枚)
- ・文楽劇場では、文楽本公演において、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席を販売。(購入実績:4月文楽公演907枚、夏休み文楽特別公演435枚、11月文楽公演949枚、初春文楽公演912枚)
- ・10月組踊公演「雪払」及び11月組踊鑑賞教室「雪払い」において「雪払い」関連2公演セット券を販売。(3,900円、購入実績:5件10枚)
- ・10月三線音楽公演「琉球弧の島唄」において、昼公演・夜公演通し券を販売。(4,340円、購入実績:32件64枚)
- ・1月から3月にかけて上演される国立劇場おきなわ開場十五周年記念特別公演のうち、対象となる7公演において、7種類のセット券を販売。(購入実績:7公演セット券5件35枚、6公演セット券3件18枚、5公演セット券7件35枚、4公演セット券18件72枚、3公演セット券43件129枚、2公演セット券79件158枚)
- ・1月から3月にかけて上演される国立劇場おきなわ開場十五周年記念特別公演を対象に、友の会ポイント2倍キャンペーンを実施。
- ・おきなわ友の会会員限定で観劇ラリーを2回実施(上半期対象6公演、下半期対象7公演)。対象公演への興味・関心を高め集客を図った。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・オペラ、バレエ、現代舞踊の2018/2019シーズンセット券の販売を29年度より継続して行い(2018/1/20~)、2019/2020シーズンセット券の販売を開始した(2019/1/20~)。従来より実施していたWeb受付に決済代行業者を導入し、より安全に受付できる体制を整えた。
- ・オペラ及びバレエ・現代舞踊の2019/2020シーズンセット券の発売に合わせ、約1か月間にわたりオペラ劇場のロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問合せに対応するなど販売促進にあたった。
- ・シーズンセット券にオプションメニューとして、他ジャンルのおすすめ公演のオプション販売を行い、顧客へ幅広いジャンルの提案を行い、販売促進に努めた。
- ・ジャンルの異なる上演時期の近い公演を組み合わせる家族で楽しめるセット券「夏のこども劇場セット」(現代舞踊「サーカス」A席、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」全席指定)販売。(3/31販売開始)を企画し、家族での購入に際してはこども料金を適用して販売した。
- ・演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし、春の3作品通し券(演劇

- 「赤道の下のマクベス」A席、「1984」A席、「ヘンリー五世」S席)販売。(1/20販売開始)、宮田慶子シーズンファイナル2作品通し券(演劇「夢の裂け目」A席、「消えていくなら朝」A席)の販売。(4/7販売開始)、小川絵梨子演劇芸術監督シーズンオープニング3作品通し券(「誤解」A席、「誰もいない国」A席、「スカイライト」A席)販売。(8/11販売開始)をそれぞれ特別割引通し券として販売した。
- ・プレイガイド会員、新国立劇場 Web ボックスオフィス登録者及び DM 先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
 - ・若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、「U39 オペラ優待メンバーズ」、「U15 ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

⑤団体観劇促進のための営業活動、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 団体観劇の促進

i. 伝統芸能分野

■本館

- ・営業担当者が受注見込団体への個別訪問等を実施。
- ・個別訪問等による勧誘とあわせて、過去 10 年本公演利用実績団体、新規見込み団体に対し、最新の公演情報 DM を定期的に送付。(年 12 回、のべ 18,473 通)
- ・主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容の DM を送付。(年 15 回、のべ 2,524 通)
- ・2019 年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室(本館)の団体鑑賞申し込み受付を 11 月から開始。
- ・鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方にある中学校・高等学校及び首都圏専門学校・公民館等向けに鑑賞教室の団体利用案内等の DM を定期的に送付。(年 7 回、のべ 20,395 通)
- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行 10 月号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・今年度から新たに季刊修学旅行情報誌「パピルス 2018 年第 3 号」に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法を Web サイト及び Twitter に掲載。
- ・30 年度鑑賞教室利用促進のため、29 年 6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室において、学校関係者向けに「鑑賞教室体験会」を実施(6 回、企画及び施設説明・観劇)。首都圏の過去 3 年間観劇履歴のない中学校・高等学校・専門学校等の担当者宛に案内(DM による案内数 4,688 件)。参加者実績：68 校 115 名(鑑賞教室体験会参加校のうち、6 月歌舞伎鑑賞教室申込：4 校、7 月歌舞伎鑑賞教室申込：9 校)
- ・31 年度鑑賞教室利用促進のため、6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室において、学校関係者向けに「鑑賞教室体験会」を実施(6 月 3 回、7 月 3 回。企画及び施設説明・観劇)。首都圏の過去 3 年間観劇履歴のない中学校・高等学校・専門学校等の担当者宛に案内(DM による案内数：4,689 件、参加者実績：68 校 115 名)。
- ・演目ゆかりの団体を重点的に訪問してチラシ・ポスターの掲出による周知を依頼。
- ・11 月歌舞伎公演において、大岡越前ゆかりの地である神奈川県茅ヶ崎市と公演等の周知に関する相互協力を行った。
 - (茅ヶ崎市から国立劇場に対する協力内容)
 - 茅ヶ崎市の小出地区コミュニティーセンター及び浄見寺におけるチケットの団体申込
 - 茅ヶ崎市の小出地区コミュニティーセンター及び浄見寺、茅ヶ崎市にある自治体関連施設、観光施設等における公演ポスターの掲出・チラシの設置
 - 茅ヶ崎観光情報サイト・SNS による公演周知
 - (国立劇場から茅ヶ崎市に対する協力内容)
 - 公演期間中のロビー内における、茅ヶ崎市の物産展の開催及び観光案内パンフレットの設置・国立劇場 HP・SNS 等による広報活動の支援
 - 公演期間中のロビー内における、茅ヶ崎市観光協会職員及び茅ヶ崎市のゆるキャラ「えびし麻呂」による観光 PR の実施
- ・11 月歌舞伎公演において、大岡越前守忠相ゆかりの寺、豊川稲荷東京別院の絵馬をロビーで販売。その場で絵馬に願いを記入し、専用の絵馬掛け台に掛けられるようにした。絵馬は公演終了後に豊川稲荷東京別院へ奉納。
- ・初春歌舞伎公演において、「姫路城音菊礎石」ゆかりの地である兵庫県姫路市と公演等の周知に関する相互協力を行った。

(姫路市から国立劇場に対する協力内容)

- i. 都内の姫路市・兵庫県関連施設(アンテナショップ等)、姫路市内の観光施設(姫路城等)における公演ポスターの掲出・チラシの配置
 - ii. 東京兵庫県人会(会員数約 1,000 名)の総会でのチラシ配布による公演周知
 - iii. 姫路市東京事務所のとりまとめによる団体観劇
(国立劇場から姫路市に対する協力内容)
- i. 公演期間中のロビー内における姫路市関連の広報支援
姫路市物産展の開催
観光案内ポスター・パンフレットの設置
- ・ 3 月歌舞伎公演において、「元禄忠臣蔵」ゆかりの地である浜離宮恩賜庭園と公演等の周知に関する相互協力を行った。
(浜離宮恩賜庭園から国立劇場に対する協力内容)
 - i. 浜離宮恩賜庭園における公演ポスターの掲出・チラシの配置
(国立劇場から浜離宮恩賜庭園に対する協力内容)
 - i. 公演期間中のロビー内における浜離宮恩賜庭園の広報支援
 - ・ 団体向け観劇プランの発売(舞台見学付きプラン、公演プログラム付きプラン、イヤホンガイド付きプラン、季節のお弁当付きプラン、アフタヌーンティープラン)(販売実績：10 月歌舞伎 60 件 727 枚、11 月歌舞伎 26 件 372 枚、3 月歌舞伎 31 件 444 枚)
 - ・ 30 年 3 月歌舞伎公演・30 年 6 月歌舞伎鑑賞教室・30 年 10 月歌舞伎公演・31 年 3 月歌舞伎公演において、旅行代理店の訪日外国人観光客部門及びホテル・観光案内所の担当者の特別招待を実施。(参加者実績：合計 102 件 195 名)
 - ・ 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。また、30 年度より追加されたフランス語による音声ガイドを利用した観客の集客のため、日仏文化協会・日仏会館・フランス語検定協会等を個別訪問した。
 - ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供。福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の 2 種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。(加入実績：23 団体)

■演芸場

- ・ 勤労者層へ演芸を普及させることを目的として、エコツツエリア協会(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)と連携し、定席公演夜の部を毎月団体鑑賞する取組を、11 月中席公演から開始した。併せて、同協会が運営する丸の内地区の「3×3Lab Future」に、定席公演のチラシを常設した。

■能楽堂

- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室」(5 月)、「能楽鑑賞教室」(6 月)において、特別チラシを作成し、首都圏の中学・高校や観劇団体に送付。
- ・ 過去 5 年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に 2019 年能楽鑑賞教室公演チラシと 2019 年度国立能楽堂主催公演予定表を送付。
- ・ 2019 年度能楽鑑賞教室の団体鑑賞申し込み受付を 12 月から開始。
- ・ 京王プラザホテルやホテルメトロポリタン池袋等の協力を得て、公式 Twitter やメールマガジン等によりホテル利用者へ公演を周知。
- ・ 団体客に対して、研修能舞台を使用し能楽師による演目解説や謡体験・能面体験などのサービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、能楽への理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・ 観客動員のため募集系の観劇団体を対象に、チケット購入特典として能楽師による能楽鑑賞の手引きとなるレクチャーを実施し集客を図った(年 2 回)。
- ・ チケット付き体験講座「楽しもう！能の世界」(有料)を実施して、販売促進を図った(年 3 回)。

■文楽劇場

- ・ 団体客に対して、技芸員による文楽人形の実演解説や専門家による演目説明等の付帯サービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・ 初春文楽公演第 1 部「壺坂靈験記」ゆかりの地の壺阪寺の協力を得て、檀家・付属施設の職員宛にチラシを配布するなどして団体観劇を募った。併せて参拝者向けに公演 PR、割引チラシ配架を行った。

- ・6月鑑賞教室では大阪市の「青少年のための文楽鑑賞教室」事業について覚書を取り交わし、大阪市立の高校、中学校、小学校の団体観劇(大阪市の全額費用負担)を行った。
- ・文楽公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去に文楽劇場で観劇履歴のある団体、主要なホテルにDMを送付した。また、公演内容の周知と団体客の集客のため、旅行代理店を対象として団体観劇のDMを送付し、旅行代理店経由の団体販売の促進に努めた。
- ・企画内容の周知と学校団体客の集客のため、6月歌舞伎鑑賞教室では、近畿2府4県の大学、短期大学、高校、専門学校、中学校へDMを送付(計3,007校)し、「Discover BUNRAKU」では、同地域の国際交流活動を行う大学へDMを送付(計126件)した。
- ・6月文楽鑑賞教室及び「Discover BUNRAKU」の開催にあたって、在関西各国総領事館(19か国)、大阪国際交流センター、韓国文化院、国際日本文化研究センター等へチラシを配布し、観劇勧誘・公演周知に努めた。
- ・学校団体観劇勧誘、父兄への公演周知のため、大阪私立中学校高等学校連合会、大阪府私学総連合会、大阪府私立小学校連合会の協力を得て、各私立学校へ公演のチラシを配布。
- ・6月文楽鑑賞教室利用促進のため、観劇申込校、申込を検討中の学校等の教員向けに、文楽についてレクチャーする事前学習会を実施(3回)。
- ・2019年度文楽鑑賞教室(文楽劇場)の団体鑑賞申し込み受付を12月から開始。

■国立劇場おきなわ

- ・団体客に対するH30貸切バス費用助成事業を平成30年5月公演から開始。(5/26「大川敵討」2団体、11月組踊鑑賞教室、アジア・太平洋地域の芸能、12月男性舞踊家の会 ほか)
- ・各公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体、自治会老人会、法人賛助会員等に訪問・団体観劇やバスの助成制度についての案内文書送付等を実施。
- ・11/14～17組踊鑑賞教室について、県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を3回実施。

ii. 現代舞台芸術分

- ・音楽スタッフ等を講師に起用したオペラ初心者向けのレクチャー付きの観劇プランや食事付きの観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・団体鑑賞の取引実績のある団体へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付した。
- ・各学校の入学式に向けて、「U25優待メンバーズ」のチラシを関東近郊の大学及び専門学校に送付した。
- ・オペラの初心者を中心に、カード会社・プレイガイド等の各団体取引先から誘客を行い、音楽スタッフ等のレクチャーと鑑賞を組み合わせた企画チケットを販売して、観客の裾野を広げる営業活動を実施した。
- ・バレエ「ラ・バヤデール」において、都内近郊バレエ・ダンス教室に向けてDMを送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学していただくことにより、新国立劇場バレエ団ファンへの醸成に繋がった。
- ・公演に関連する協会、団体や出演者のファンクラブ会員などへ公演情報を周知するとともに、チケットの申込を受け付けた。

(b) 旅行代理店・ホテル等との連携強化

i. 伝統芸能分野

- ・海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前KITTE内観光案内所(日本郵便・JTB運営)、都内主要ホテルに配布。^{【再掲】}
- ・主に外国人旅行者を対象としている東京駅前KITTE内観光案内所及び東京駅前の観光案内所TIC TOKYOにおいて、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。^{【再掲】}
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布。^{【再掲】}
- ・主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付。(年15回、のべ2,524通)
- ・JTBとの連携により、学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」)に団体鑑賞の案内を掲載。

- ・ KNT-CT ホールディングスとの連携により、今年度から新たに季刊修学旅行情報誌「パピルス 2018 年第 3 号」に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・ 30 年 3 月歌舞伎公演・30 年 6 月歌舞伎鑑賞教室・30 年 10 月歌舞伎公演・31 年 3 月歌舞伎公演において、旅行代理店の訪日外国人観光客部門及びホテル・観光案内所の担当者の特別招待を実施。(参加者実績：合計 102 件 195 名)【再掲】
- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」として、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。(加入実績：6 団体)
- ・ 6 月京王プラザホテル月間イベント「ホテルで楽しむ能～想いを募らせた女の情念～」で、ロビーにおける特別展示と実演・解説「能にふれる」に協力し、外国人を含むホテル宿泊客・利用客に対して、開場 35 周年記念公演等を周知。
- ・ ホテルメトロポリタン池袋の協力を得て、国立能楽堂開場 35 周年記念公演の全公演対象の宿泊付きプランとして、ホテル公式ホームページ・Twitter やメールマガジン等により利用者へ公演を周知。
- ・ 東京都教育委員会・近畿日本ツーリスト首都圏国際交流センターの依頼で、東京都立高校生対象留学支援「次世代リーダー育成道場」の伝統芸能講座に協力し、受講生 200 名に国立能楽堂パンフレット等を配布。(9/30)
- ・ 近畿日本ツーリスト CT グローバルトラベルからの依頼で、来日している HARVARD ALUMNIGROUP(米国ハーバード大学 OBOG の同窓会組織)18 名対象に、国立能楽堂 能楽体験ツアーを実施。(10/22)
- ・ 京王プラザホテル・オーストラリアメディア Fam Tour に協力し、オーストラリアから来日したメディア関係者 4 名対象に、国立能楽堂、能楽体験ツアーを実施。翌日オーストラリア国内向けに国立能楽堂の紹介記事がネット配信された。(2/18)
- ・ 1 月、3 月能楽公演ではホテルメトロポリタン池袋の協力を得て、能舞台体験付き宿泊パッケージプランを販売。ホテル公式ホームページ・Twitter やメールマガジン等により利用者へ公演を周知。観客の多彩なニーズに応える観能プランを提案して、集客を図ったところ 23 名の参加があった。
- ・ 連携協力に関する協定書を締結している関西学院大学を通じ、大学コンソーシアムひょうご神戸の協力を得て、兵庫県内の大学へ文楽鑑賞教室のチラシを配布。【再掲】
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構の兵庫国際交流会館「国費外国人留学生歓迎会 2018 in 兵庫」に参加し技芸員による文楽人形解説、公演チラシ配布により公演を周知。【再掲】
- ・ 大阪国際交流センター、韓国文化院、国際日本文化研究センター、大阪所在の各インフォメーションセンターへ本公演及び「Discover BUNRAKU」チラシを配布し、公演周知・観劇勧誘を実施。【再掲】
- ・ 大阪市と協力し、在関西各国総領事館(19 か国)へ市の定期便等を利用して「Discover BUNRAKU」のチラシを配布。【再掲】
- ・ 地方や海外からの旅行者の観劇を増やすため、ホテルとの連携強化を一層進めた。シェラトン都ホテル大阪では、宿泊と観劇をセットにした宿泊パックを販売し、リーガロイヤルホテル(大阪)ではコンシェルジュデスクを経由して入場券の割引販売を実施。
- ・ ホテルのコンシェルジュのネットワーク組織であるレ・クレドール・ジャパンと連携し、文楽についての勉強会を実施。【再掲】
- ・ 文楽劇場近隣のホテルに対し、幕見席等の案内を行い、訪日外国人旅行者へ周知。【再掲】
- ・ 公演内容の周知と団体客の集客のため、旅行代理店を対象として団体観劇の DM を発送し、旅行代理店経由の団体販売の促進に努めた。
- ・ 旅行会社と連携し、公演鑑賞と合わせて開演前に組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施。(6/30 組踊鑑賞教室「銘苺子」15 名、8 月創作舞踊と新作組踊「平敷屋朝敏」20 名、11 月「雪払」8 名)
- ・ 沖縄修学旅行誘致を目的とした「沖縄修学旅行フェア 2018 in 東京」(8/8、東京交通会館、主催：沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューロー)、「沖縄修学旅行フェア 2018 in 大阪」(12/26、主催：沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューロー)において、旅行代理店等に国立劇場おきなわの修学旅行向けコンテンツを紹介。
- ・ 沖縄県の補助金を活用した貸切バス費用助成事業を旅行代理店等に PR することで、団体観劇を促進した。
- ・ 旅行会社と連携し、3 回の県外組踊ワークショップ(10 月静岡、1 月京都、1 月高知、参加者計 131 名)を実施した。
- ・ 「ツーリズム EXPO ジャパン 2018」(主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本観光業協会、日本政府観光局)に参加し、劇場 PR ブースを設置するとともに、沖縄音楽体験ワークショップ、

イベントスペースでの公演を行った。

- ・国立劇場あぜくら会と連携し、あぜくらの集い「国立劇場おきなわへ行こう！」ツアー客を対象に組踊ワークショップを実施した(1/12 実施、参加者数：40 人)

ii. 現代舞台芸術分野

- ・都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナークラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部 Web サイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・修学旅行誘致及びラインアップ発表情報の DM を全国の旅行代理店各支店宛に送付した。
- ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2018」に参加、旅行会社や海外メディアに情報提供を行って誘致に努めた。同観光局サイトには新国立劇場及び舞台美術センターの英文情報を掲載し、外国人観光客への適切な情報提供を行った。
- ・ホテルのコンシェルジュの方に新国立劇場の公演を勧めていただくための企画として、外国人宿泊客の多い都内のホテルのコンシェルジュをオペラ・バレエ公演に招待し、あわせて外国人のお客様から問い合わせがあった場合の予約方法や劇場利用法をレクチャーした。

⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」、「ワンコイン文楽」等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

会員数：24 校

(29 年度より継続加入：19 校)

大妻女子大学文学部・短期大学国文科/英文科、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、国士舘大学文学部文芸学日本文学・文化専攻、昭和女子大学日本語日本文学科/歴史文化学科、女子美術大学アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域、白百合女子大学、清泉女子大学、津田塾大学、東京海洋大学、東京学芸大学、東京藝術大学音楽学部、獨協大学、二松学舎大学、日本大学芸術学部、フェリス学院大学文学部日本語日本文学科、法政大学文学部日本文学科、明治学院大学

(30 年度より新規加入：5 校)

共立女子大学文芸学部、学校法人上智学院、中央大学国文学会、学校法人東京国際大学、明治大学文学部

利用枚数：2,270 枚(学生：2,014 枚、教職員：256 枚)

イベント：6 回実施(参加者数：171 名)

国立劇場バックステージツアー+PLUS(6 月)、Multilingual Week 外国語イヤホンガイド無料キャンペーン(6 月歌舞伎鑑賞教室)、おもしろさ広がる！舞台裏方の世界(10 月歌舞伎)、寄席・落語入門編(12 月上旬)、Backstage Tour +PLUS in English(1 月)、春のイヤホンガイド無料キャンペーン(3 月歌舞伎)

サービスの拡充：31 年度より加入期間に応じて割引となる継続年会費を導入

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

協定締結校：11 校

東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学

(c) ワンコイン文楽

- ・若年層の関心喚起として、有志企業及び NPO 法人人形浄瑠璃文楽座と連携し、文楽に馴染みのない大学生を中心とした 30 歳以下の方々を対象に、低料金の解説付き観劇企画「ワンコインで文楽」を実施。

⑦おすすめキャンペーン

- ・職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施(1,475 枚)。

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

①あぜくら会(会員数:19,141人/対前年度-30人)

(a) 会報誌（計画：毎月発行）

「あぜくら」を毎月25日に発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント（計画：年8回程度）

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
あぜくらの集い あぜくら会会員特別バックステージツアー	4/23	本館 大劇場	200円		112人	120人	423人	98.9%
あぜくらの集い 吉田和生を迎えて	5/29	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	吉田和生 案内役:村尚也	120人	140人	421人	98.8%
あぜくらの集い 明治の黙阿弥と実録物「大岡政談」を巡って	9/29	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	明治大学教授 神山彰 ※企画展示「黙阿弥の明治」(10/1-1/27)を特別公開	108人	141人	184人	89.7%
あぜくらの集い 特別企画 国立劇場おきなわへ行こう！－開場15周年記念特別公演鑑賞と琉球芸能にふれる旅－	1/12～ 1/14	国立劇場おきなわ ほか	111,500円		40人	-	-	-
あぜくらの集い 新春かるた会－せりふを愉しむ－	1/18	国立劇場 大劇場 お休み処	無料	中村梅枝 案内役:葛西聖司	62人	74人	109人	98.0%
あぜくらの集い 特別企画 組踊300年「琉球王朝の息吹を今に伝える」	2/11	観世能楽堂	2,000円	嘉数道彦 宮城茂雄 佐辺良和 ほか	312人	-	-	-
あぜくらの集い 復曲素浄瑠璃を聞く会－公開録音に立ち会う－	2/19	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	竹本千歳太夫 野澤錦糸 解説・司会:児玉竜一	104人	120人	362人	100.0%
あぜくらの集い 林家正蔵を迎えて	3/5	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	林家正蔵	113人	130人	239人	100.0%

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 毎年好評を得ているバックステージツアーや出演者による対談等に加え、組踊300年記念特別企画や、会員同士の親睦を図るイベントとして沖縄ツアーや新春かるた会を実施し、好評を得た。
- ・ あぜくら会新規入会キャンペーンを実施。キャンペーン期間中の入会者にはあぜくら会オリジナル鑑賞ノートを進呈した(9/1～11/30、期間中入会申込者数398人)。

(d) アンケート調査等

- ・ 「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った。好評で満足度も高かった。

②国立文楽劇場友の会（会員数:8,514人／対前年度+184人）

(a) 会報誌（計画：年6回発行）

文楽本公演に合わせて「友の会会報」を年6回発行した。

(b) 会員向けイベント（計画：年6回程度）

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
第117回「文楽のつどい」バックステージツアー	6/25	文楽劇場内 大道具製作室 文楽劇場舞台 レクチャー室	無料	株式会社関西舞台 岡本義秀 望月太明蔵社中 望月太明十郎	58	60	256	100.0%
第118回「文楽のつどい」	10/25	国立文楽劇場 小ホール	無料	釈 徹宗(相愛大学教授) 吉田和生、桐竹勘十郎 聞き手:くまざわあかね	148人	170人	317人	-
第119回文楽のつどい「壺坂観音霊験記」ゆかりの地バスツアー	12/18	壺坂寺 ほか	5,000円	高木浩志(文楽研究家) 壺坂寺 常盤住職	42人	42人	87人	-

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 既存会員へ記念品贈呈の「文楽公演観劇ラリー」を実施した。
- ・ 振興会HP内に会員専用ページを作成し、会員イベントレポートや会報を掲載した。
- ・ 国立文楽劇場友の会入会キャンペーン「文楽をもっと楽しく！」を実施。期間中の入会者に「公演プログラム(引換券)」「特製オペラグラス(引換券)」「イヤホンガイド(利用券)」3点をプレゼント。(11/3～2/28)

- ・大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及事業「春まつり文楽」、「ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽」において、文楽劇場友の会入会勧誘チラシを配布、文楽劇場友の会の新規入会勧誘コーナーを設けるなどして新規会員の獲得に努めた。

(d) アンケート調査等

- ・「第117回 文楽のつどい バックステージツアー」でアンケート調査を行った(配布数58枚、回答数58枚)。好評であり満足度、興味換気度も高かった。

③国立劇場おきなわ友の会(会員数:1,670人/対前年度+34人)

(a) 会報誌(計画:年4回発行)

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(b) 会員向けイベント(計画:年3回程度、実施:4回)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数	満足回答率
新作組踊「真珠道」 公開稽古見学会	3/31	大稽古室	無料	公演指導者:西江喜春 公演出演者:東江裕吉、新垣悟ほか	30人	35人	82.8%
沖縄芝居鑑賞教室 公開稽古見学会	9/3	大稽古室	無料	演出:金城真次 出演者:平良進、瀬名波孝子ほか	21人	23人	81.0%
2018 友の会バスツアー 組踊ゆかりの地と歌碑を巡る旅 & 公演鑑賞《組踊「運天の若按司敵討」》	12/22	豊見城市、 糸満市、大劇場	4,000円	垣花武信	31人	31人	100.0%
2019 友の会新春講演会	1/13	小劇場	無料	講師:照喜名朝一 聞き手:嘉数道彦	162人	117人	86.2%

※「2019 友の会新春講演会」は、当日参加を受け入れているため応募者数より参加者数が多くなっている。

(c) 会員向けサービスの充実

- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、次の「友の会新規入会キャンペーン」を実施。
 - ◇ ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン(H30.2~5):既存会員から紹介を受けて新規入会した場合、入会者及び紹介者へ特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:52人)
 - ◇ Web 新規入会促進キャンペーン(H30.2~5):Web チケット販売サービスから入会した場合、特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:11人)
 - ◇ ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン(H31.1~3):既存会員から紹介を受けて新規入会した場合、入会者及び紹介者へ特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:33人)
 - ◇ Web 新規入会促進キャンペーン(H31.1~3):Web チケット販売サービスから入会した場合、特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:17人)
 - ◇ 平成30年6月から11月までに上演される普及公演のチケット購入者に限り、公演当日の入会で入会金が0円となる「友の会入会金0円キャンペーン」を実施した。(新規入会者:6/30組踊鑑賞教室「銘苺子」12人、7/28琉球舞踊鑑賞教室11人、8/11親子のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」15人、9/13~15沖縄芝居鑑賞教室25人、11/14~17組踊鑑賞教室12人)
- ・国立劇場おきなわ友の会会員限定企画として、平成30年4~9月、10月~平成31年3月の期間、「国立劇場おきなわ自主公演観劇ラリー」を実施。(期間中の対象公演のうち、3公演購入した会員には「自主公演50%割引券」を、6公演以上購入した会員には「自主公演50%割引券」と「自主公演ご招待券」を期間終了後に進呈。)
- ・会報誌の発行・送付、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券等がもらえるポイントカード制度、キャンセル待ちサービス、チケットの無料郵送、公演チラシ送付サービス、会員対象の講演会・バスツアー・公開稽古見学会(3/31、9/3)を実施した。

(d) アンケート調査等

- ・バスツアー・新春講演会・公開稽古見学会で実施。

④新国立劇場クラブ・ジ・アトレ(会員数:10,930人/対前年度+167人)

(a) 会報誌(計画:毎月発行)

新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント（計画：年12回程度、実施：18回）

イベント名	期間	会場	料金	参加者数
オペラ「アイダ」舞台稽古見学会	4/3	オペラ劇場	無料	27人
オペラ「アイダ」休演日バックステージツアー	4/15	オペラ劇場	無料	30人
バレエ「白鳥の湖」舞台稽古見学会	4/29	オペラ劇場	無料	28人
オペラ「フィデリオ」舞台稽古見学会	5/18	オペラ劇場	無料	35人
オペラ「フィデリオ」休演日バックステージツアー	5/29	オペラ劇場	無料	8人
バレエ「眠れる森の美女」リハーサル見学会	5/30	リハーサル室	無料	28人
オペラ 2017/2018 シーズンエンディングパーティー	6/2	オペラ劇場ホワイエ	6,000円	126人
バレエ「眠れる森の美女」舞台稽古見学会	6/8	オペラ劇場	無料	34人
バレエ 2017/2018 シーズンエンディングパーティー	6/17	レストランマエストロ	6,000円	92人
バレエ「不思議の国のアリス」公開リハーサル	9/24	中劇場	無料	210人
オペラ「魔笛」舞台稽古見学会	10/1	オペラ劇場	無料	27人
「魔笛」休演日バックステージツアー	10/7	オペラ劇場	無料	21人
バレエ「不思議の国のアリス」舞台稽古見学会	11/1	オペラ劇場	無料	28人
バレエ「くるみ割り人形」リハーサル見学会	12/3	リハーサル室	無料	21人
バレエ「くるみ割り人形」舞台稽古見学会	12/14	オペラ劇場	無料	29人
オペラ「紫苑物語」舞台稽古見学会	2/15	オペラ劇場	無料	24人
バレエ「ラ・バヤデール」舞台稽古見学会	3/1	オペラ劇場	無料	34人
バレエ「ラ・バヤデール」クラスレッスン見学会	3/3、10	オペラ劇場	無料	460人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・10%割引価格にて先行販売(郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」)を行った。一般発売後は5%割引を実施。
- ・シーズンセット券を10%から最大25%の割引価格にて優先的に販売した。またバレエセット券で、購入後も会員抽選受付期間中に日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を引き続き実施した。また、オペラセット券では、全公演購入者限定のサービスとして、一定の回数まで日程変更が可能な「エクスチェンジサービス」を引き続き実施。
- ・購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供、ゲネプロ見学や公演への招待を実施。
- ・入会・カード利用促進キャンペーン(ゲネプロ見学会、バックステージツアー等各種イベントへの招待)を11月から3月にかけて実施し、会員募集に努めた。前年度に引き続き三井住友VISAカード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象とし、オペラ劇場公演にて入会促進カウンターを設けるなど、より積極的な宣伝展開を図った。
- ・昨年度に引き続き、会員サイト上で、会報誌を講読できるサービスを提供している。
- ・アトレハウスカードのオンライン受付用Webサイトを開設し、年会費のクレジットカード決済を開始、若年層の取り組みを図った。

(d) アンケート調査等

- ・今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2 - (7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
国民の鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
 - ⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演等使用日 養成研修使用日	貸劇場使用日 (左記使用日との重複除く)	使用可能日	劇場稼働率	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	203日	77日	308日	90.9%	94.6%
本館小劇場	168日	107日	296日	92.9%	91.8%
演芸場	280日	40日	331日	96.7%	94.8%
能楽堂	129日	143日	316日	86.1%	84.7%
文楽劇場	150日	75日	292日	77.1%	79.7%
文楽劇場小ホール	85日	117日	270日	74.8%	76.2%
国立劇場おきなわ大劇場	147日	69日	264日	81.8%	84.6%
国立劇場おきなわ小劇場	11日	138日	202日	73.8%	59.4%
伝統芸能分野 合計	1,173日	766日	2,279日	85.1%	84.4%
新国立劇場オペラ劇場	252日	32日	284日	100.0%	99.6%
新国立劇場中劇場	68日	260日	330日	99.4%	98.8%
新国立劇場小劇場	224日	93日	322日	98.4%	99.7%
現代舞台芸術分野 合計	544日	385日	936日	99.3%	99.3%
総 合 計	1,717日	1,151日	3,215日	89.2%	88.7%

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日(自主重複除く)

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：365日－(休館日＋保守日＋調整日)

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において1日と計上されるため、重複日が多い施設は、実際の貸与日数(重複を除く)が増加した場合でも劇場稼働率が低下する場合がある。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

①ホームページへの掲載

- 施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等、「劇場使用のご案内」パンフレット PDF 版、使用申込要項及び使用申込書を HP に掲載。
- (本館・演芸場)ホームページに利用案内及び使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図るとともに、新規利用希望者には、「劇場使用のご案内」パンフレットを配布、随時相談や施設見学に応じるなど利用促進に努めた。
- (能楽堂)HP に施設案内、座席案内及び使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図った。
- (文楽劇場)HP に施設案内及び座席案内、使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図った。
- (おきなわ)HP に利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。
- (新国立劇場)HP の貸劇場公演ページから貸し出しについての情報がすぐ開くように改修したほか、募集期間中はトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。

②パンフレットやダイレクトメールによる広報

- 「劇場使用のご案内」パンフレットを作成して利用団体・関係団体等に配布・送付。
- 「劇場使用のご案内」パンフレット及び施設申込受付期間の案内の DM を過去の劇場利用者へ送付。
- 会報誌や専門誌に貸劇場利用に関する情報を掲載。
- 劇場利用に関するチラシ・ポスターを劇場内ロビー・楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- (能楽堂) 楽屋・楽屋食堂に能楽堂利用に関するチラシ・ポスターを掲示した、また過去3年間能楽堂を利用した主催者に能楽堂予約申込書を DM で送付した。
- (文楽劇場)劇場施設申込受付の案内の DM を過去の劇場利用者へ送付。
- (文楽劇場)劇場内(ロビー・楽屋等)に劇場利用に関するチラシ・ポスターを配架・掲出した。
- (おきなわ)沖縄観光コンベンションビューローが主催する MICE 及び修学旅行の商談会に参加し、劇場利用の PR を行った。

③利用希望者に対する説明・見学等

- 初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等についての個別に説明や劇場見学等の案内を行った。
- (能楽堂) 初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等について個別に説明や劇場見学等の案内を行うなど利用促進に努めた。
- (文楽劇場)初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日ま

での流れ等について説明や劇場見学等の案内を行うなど利用促進に努めた。

- ・(おきなわ)利用希望者には随時、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。

④利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・舞台の保守点検日や施設整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。
- ・(能楽堂)申合せの利用については、引き続き時間単位できめ細かい調整を行い、劇場利用の増加に努めた。
- ・(新国立劇場)施設利用者にアンケート用紙を渡し、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

《アンケート結果》

イベント名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	134 件		44 件		32.8%	100.0%
能楽堂	104 件		34 件		32.7%	97.0%
文楽劇場	118 件	51 件	50 件	49 件	43.2%	98.0%
国立劇場おきなわ	128 件		47 件		36.7%	93.0%

ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場 4 館の親子企画をまとめた「2018 年夏休み親子企画」ホームページを公開。(4/24)
- ・文化庁 HP 内の平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭専用ページに 6 劇場すべての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載。
- ・本館 7 月歌舞伎鑑賞教室、文楽劇場夏休み文楽特別公演第三部「日本振袖始」ダブル観劇キャンペーンを実施。7 月歌舞伎鑑賞教室のチケットと夏休み文楽特別公演第三部のチケットをともに購入したお客様にオリジナル記念品(手ぬぐいとメモ帳のセット)をプレゼントした。(プレゼント配布数: 本館 42 人、文楽劇場 126 人、合計 168 人)
- ・23 年間にわたり「日本芸術文化振興会ニュース」の表紙絵を担当した画家ささめやゆき氏の表紙画展示を各劇場において実施。(本館 7/3～24、国立文楽劇場 11/2～11/25、国立劇場おきなわ 10/20～12/24、新国立劇場 11/16～2/28)
- ・伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした第 11 回五館合同特別講義を実施(12/4)。
- ・本館主催、国立劇場おきなわ共催で、観世能楽堂において組踊上演 300 周年記念特別企画「琉球王朝の息吹を今に伝える」を上演した(2/11)。また、それに先立ち、伝統芸能情報館レクチャー室において、伝統芸能講座「琉球芸能へのいざない」を実施した(2/10)。
- ・国立能楽堂の協力で国立劇場おきなわにおいて「狂言～野村万作・野村萬斎～」を上演した(2/8～2/9)。また、公演に先立ち、沖縄県内の小学校で伝統芸能体験教室「狂言教室」を実施した(1/28～29)。
- ・国立劇場おきなわの協力で、国立劇場本館で琉球芸能公演を実施した(3/9)。

(8) 日本博の運営・実施

(8) 日本博の運営・実施 ————— p.124

2 - (8) 日本博の運営・実施

ア 大型文化催事準備チーム(日本博事務局)の整備

- ・ 大型文化催事準備チームの新設(7/1)
- ・ 「日本博」の開催に向けた事務局の設置について、文化庁長官より依頼を受け、平成 31 年度より運営開始する日本博事務局開設のため、専門性の高い人材の確保や執務室の整備等の準備を本格的に実施(8/24)

イ 公式サイト・チラシ・ポスター・リーフレット等による広報

- ・ 日本博公式サイトをオープン(3/4)
- ・ 日本博の総合テーマやコンセプトに合致する作品を所有する団体より画像を提供していただき、それら画像を使用したチラシ・ポスターを製作し、関係各所で配布
- ・ 国立劇場が位置する皇居周辺の各機関と連携協力し、「日本博」の各種イベントを掲載した『皇居周辺・日本橋エリアアートマップ』を作成、関係各所に配布
- ・ JNTO と連携協力し、インバウンドに訴求することを図った内容の SNS を英語で発信

ウ 旗揚げ式の実施

- ・ 日本博開幕記念 旗揚げ式(3/3)
 - 会 場：本館大劇場
 - 登 壇：菅義偉内閣官房長官、野上浩太郎内閣官房副長官、櫻田義孝東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、柴山昌彦文部科学大臣、宮田亮平文化庁長官、中村扇雀、尾上菊之助、木佐彩子、林英哲、河村潤子独立行政法人日本芸術文化振興会理事長
(司会) 葛西聖司
 - 参加者：635 人
 - 概 要：式は林英哲・英哲風雲の会による、大太鼓合奏曲「七星」の演奏で開幕し、菅義偉官房長官、柴山昌彦文部科学大臣、櫻田義孝東京オリンピック・東京パラリンピック競技大会担当大臣による挨拶が行われた。続いて行われたトークセッションでは、日本博の開幕を飾る国立劇場 3 月歌舞伎公演の初日を終えたばかりの中村扇雀丈、尾上菊之助丈、木佐彩子氏、宮田亮平文化庁長官が登壇し、日本博を通じた国内外への日本文化の発信への期待や、総合テーマ「日本人と自然」に関する思いなどを語った。その後、宮田長官のデザインによる日本博ロゴマークが発表され、河村潤子日本芸術文化振興会理事長より、このロゴマークは大海原に連なる雲の間から昇る太陽を表し、自然へのおそれと敬いのまなざし、人と人とのつながる心、震災からの復興への希望が込められていることをご紹介した。最後に、柴山大臣と宮田長官が銅鑼を打ち鳴らして日本博の開幕を宣言した。

エ 事業実施主体としての日本博事業の実施

①3月歌舞伎公演「元禄忠臣蔵 御浜御殿綱豊卿」、「積恋雪関扉」

- ・ 「日本博」の幕開けを飾る公演に因み、公演期間中、ロビー下手に、陶板名画「おぼろ」(加山又造＝原画制作、大塚オーミ陶業株式会社＝陶板制作) の高精細レプリカを展示し、公演来場者等に向けて「日本博」機運の盛り上がりの醸成を図った。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- (1) 伝統芸能の伝承者の養成 ————— p.130
 - ア 養成の計画的な実施 ————— p.133
 - イ 既成者研修の実施 ————— p.137
 - (3) 実施に当たっての留意事項 ————— p.139

- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 ————— p.145
 - ア 安定的、継続的な実演家の育成 ————— p.148
 - (3) 実施に当たっての留意事項 ————— p.151

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評価	B
<p>自己評価の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標である研修発表会・既成者研修発表会について、概ね計画通り実施できた。 ・文楽研修については辞退により研修生がいなくなり研修修了発表会が実施できなかったため、実施回数目標数値は未達となった。一方、次の第29期の募集については、様々な努力の結果3名の応募があり、予定人数に達することができた。 ・オペラ研修所に続き、バレエ研修所でも ANA スカラシップによる海外研修を実施。また、バレエ研修生がロシアで開催された「A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー創立280周年記念ガラ・コンサート」に出演するなど、国際的な交流を活発に行った。 ・公益社団法人全国公立文化施設協会主催の関東甲信越静支部地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会を国立劇場小劇場において実施し、振興会職員により舞台、照明、音響、舞台監督、舞台美術の各分野について講演を行った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 研修発表会の実施状況：7公演/8公演（87.5%） 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演（100.0%）</p> <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 研修発表会の実施状況：9公演/9公演（100.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</p> <p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り既成者研修発表会を実施 ・能楽研究課程を引き続き開講（受講者30名、実施回数291回） <p>(3) 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進 ・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知 ・能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等を26件実施 <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</p> <p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施 ・オペラ・バレエ研修所において、ANAスカラシップによる海外研修を実施 ・演劇研修生が盲学校への訪問演劇や芸術団体主催イベント、地方の劇場でのワークショップ等、アウトリーチに参加 ・研修事業委員会を開催、29年度の成果検証と30年度計画を確認 <p>(3) 現代舞台芸術の実演家の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施 ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一層の応募者の確保を図るため、広報活動や研修見学会等の充実に努める。 ・現代舞台芸術の研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら30年度の事業を進めた。 《歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能》 ・ 養成研修及び既成者研修等について、計画どおり実施した。 ・ 歌舞伎俳優6名、竹本2名、鳴物1名、長唄2名の11名が今年度研修期間中、辞退者が出ることなく無事研修を修了し、それぞれの所属先が決定し、就業の機会を確保することができた。 ・ 「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は前年度を上回る入場率（96.3%）を達成するとともに舞台成果にも高い評価を得た。 ・ 「音の会」は前年度を上回る入場率（86.4%）を達成するとともに舞台成果にも高い評価を得た。 ・ 研修見学会では、研修状況の見学に加え、DVDや資料も使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義・必要性を伝え、事業の普及に努めた。 《文楽》 ・ 辞退により研修生がいなくなったことにより研修修了発表会が実施できなかったため、実施回数目標数値は未達となった。 ・ 一方、次の第29期の募集については、様々な努力の結果3名の応募があり、予定人数に達することができた。 《能楽》 ・ 第9期の5年目、第10期の2年目の研修を、計画通り実施した。 ・ 研修公演も全て計画通り実施した。 ・ 国立能楽堂開場 35 周年記念にあたり、全ての研修修了者が東京若手能公演に出演し、また、歴代の講師の協力のもと盛大な公演とすることができた。 《組踊》 ・ 第5期2年目研修を計画通り実施。 ・ 研修発表会2回（孝行の巻・女物狂）、及び既成者研修発表会1回（仲村渠真嘉戸）の実施。 《舞台技術》 ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会主催の関東甲信越静支部地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会を国立劇場小劇場において実施し、振興会職員により舞台、照明、音響、舞台監督、舞台美術の各分野について講演を行った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>研修発表会の実施状況：7公演/8公演（87.5%） 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演（100.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画通り研修を実施 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画通り既成者研修発表会を実施 ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者 30 名、実施回数 291 回) <p>(3) 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進 ・ 外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知 ・ 能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等を 26 件実施
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一層の応募者の確保を図るため、広報活動や研修見学会等の充実に努める。 ・ 一層の研修生応募者を募るため、主要沿線における駅構内で募集広告掲示を広範囲で行い、新たな取組としてCM動画を作成し、ホームページに掲載するほか、Youtube や衛星劇場（CS 放送）において放送し、規模を拡大して広報活動

を強化したが、例年に比べ応募者数が少なく、応募者がいないために開講できないコースもあった。応募者の確保を図るため、さらに効果的な広報手段を検討する。

- 能楽研修生は講師と 1 対 1 の研修により孤立しがちなので、研修生の精神的なケア及び職員との円滑なコミュニケーションに努める。
- 文楽研修では研修辞退者があった。選考試験及び適性審査において、より適性のある人材を確保するとともに、研修生の精神的なケア等に努める。
- 組踊研修第 5 期生 10 名の円滑な研修のため、保護者と連携していきたい。
- 組踊研修修了者において、芸能活動を継続的に行っていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。
- 組踊既成者研修発表会では演者自身の営業意識を高めるため、企画、宣伝、日程調整など自主的な運営を行っていく。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に基づき研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生10名が修了した。 ・研修発表会等について、計画どおり実施した。 ・オペラ研修所に加えバレエ研修所でも、全日本空輸株式会社協賛の「ANAスカラシップ」が開始され、修了後の国際的なキャリア形成の礎とした。 ・3年連続で企画される文化プログラム「研修主管国際交流プロジェクト」の第1弾として、オペラ研修所では例年の「Young Opera Singers of Tomorrow」に代わる「世界若手オペラ歌手ガラコンサート Le Promesse2018」を実施した。国内外で活躍している修了生に加えて英国、イタリア、ドイツから若手オペラ歌手を招き、研修生が同じ舞台に立つ貴重な経験の場を提供した。 ・バレエ研修所は「バレエ・アステラス」を契機としたロシアのバレエ学校との交流が深まり、同校の創立280周年記念コンサートに招待されたのに続いて海外研修受入先ともなった。また、本年度の「バレエ・アステラス」ではスカラ座バレエ・アカデミーが出演した。 ・演劇研修所は朗読劇に先立ち、戯曲の舞台である広島にて国内研修を行った。また東京都立葛飾盲学校への訪問演劇、芸団協主催の子供たち向け体験イベントや春日市ふれあい文化センターでのワークショップ等、アウトリーチに積極的に参加し、様々な機会を経験を積んだ。 ・研修事業について、HPやSNS (Facebook, Twitter, tumblr) を活用して継続的に情報を発信した。各研修所が専用のSNSを開設したことで連続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。併せて国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめることができた。 ・講習会・オープンスクールや説明会を開催し研修の内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。演劇研修所では東京以外に兵庫・仙台でも説明会を開催した。 ・五館合同特別講義、研修生交流会等を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。 ・舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、地方の劇場への技術指導や連携大学への講義など新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>研修発表会の実施状況：9公演/9公演 (100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施 ・オペラ・バレエ研修所において、ANA スカラシップによる海外研修を実施 ・演劇研修所において、朗読劇に先立ち、国内研修を実施 ・オペラ研修生が「世界若手オペラ歌手ガラコンサート Le Promesse2018」で海外歌劇場に付属するアカデミーで学ぶ若手歌手と共演 ・バレエ研修生が「A. Y. ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラ・コンサート」に出演 ・演劇研修生が盲学校への訪問演劇や芸術団体主催イベント、地方の劇場でのワークショップ等、アウトリーチに参加 ・研修事業委員会を開催、29年度の成果検証と30年度計画を確認 <p>(3) 現代舞台芸術の実演家の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP や SNS を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施 ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、

	提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用
課題と対応	・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

3 - (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、長期的な視点に立ち効果的かつ効率的に以下の養成・研修を実施

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 民間での養成が難しいため振興会として実施すべき分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、次の養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

(2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 各分野の充足状況及び年齢構成等を把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議・外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽
(歌舞伎俳優)

- (a) 第23期生(研修期間2年、6名)の2年目の養成研修(修了)
- (歌舞伎音楽)
 - (b) 竹本第23期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成研修(修了)
 - (c) 鳴物第16期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (d) 長唄第7期生(研修期間3年、2名)の3年目の養成研修(修了)
- ② 大衆芸能
 - (a) 寄席囃子第15期生(研修期間2年、3名)の1年目の養成研修
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
 - (a) 第9期生(2名)の5年目の養成研修
 - (b) 第10期生(2名)の2年目の養成研修
- ④ 文楽(太夫、三味線、人形:研修期間2年)
 - (a) 第28期生(1名)の2年目の養成研修(修了)
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
 - (a) 第5期生(10名)の2年目の養成研修
- ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、次のとおり研修発表会を実施する。
 - (a) 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽、大衆芸能(1公演)
 - ・ 第23期歌舞伎俳優・第23期歌舞伎音楽(竹本)・第16期歌舞伎音楽(鳴物)・第7期歌舞伎音楽(長唄)研修修了発表会、第15期大衆芸能(寄席囃子)研修発表会(合同)(本館小劇場)、2月23日、1回
 - (b) 能楽(4公演)
 - ・ 第16回青翔会(能楽堂)、6月12日、1回
 - ・ 第17回青翔会(能楽堂)、10月16日、1回
 - ・ 第18回青翔会(能楽堂)、3月12日、1回
 - ・ 東西合同研究発表会(大槻能楽堂)、8月28日、1回
 - (c) 文楽(1公演)
 - ・ 文楽第28期生研修修了発表会(文楽劇場)、1月27日、1回
 - (d) 組踊(2公演)
 - ・ 第5期組踊研修生第3回研修発表会(国立劇場おきなわ大劇場)、10月18日、1回
 - ・ 第5期組踊研修生第4回研修発表会(国立劇場おきなわ大劇場)、3月7日、1回
- ⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討し、募集を行う。
 - (a) 第24期歌舞伎俳優
 - (b) 第24期歌舞伎音楽(竹本)
 - (c) 第17期歌舞伎音楽(鳴物)
 - (d) 第8期歌舞伎音楽(長唄)
 - (e) 第29期文楽

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会
 - (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会(2公演)
 - ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演(本館小劇場)8月16日～20日、5回
 - ・ 上方歌舞伎会(文楽劇場)8月25日～26日、4回
 - (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会(1公演)
 - ・ 音の会(本館小劇場)8月11日～12日、2回
 - (c) 能楽既成者研修発表会(3公演)
 - ・ 若手能(京都:観世会館)6月23日、1回
 - ・ 若手能(大阪:大槻能楽堂)1月19日、1回

- ・ 若手能(東京:能楽堂)2月2日、1回
 - (d) 文楽既成者研修発表会(4公演)
 - ・ 文楽若手会(文楽劇場)6月23日～24日、2回
 - ・ 文楽若手会(本館小劇場)6月28日～29日、2回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)8月、1回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会(文楽劇場小ホール)2月、1回
 - (e) 組踊既成者研修発表会(1公演)
 - ・ 若手伝承者公演(国立劇場おきなわ大劇場)12月15日、1回
- ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ア 養成・研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。
- イ 養成・研修成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修生及び研修修了者によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
また、外部公演への出演依頼に積極的に対応して、文化普及活動への参画に努める。
- ウ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める。
- エ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し、両分野の相互交流を図る。
- オ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める。

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	7 公演 (H25-29 実績平均 : 8.0 公演)
3-2 既成者研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11 公演 (H25-29 実績平均 : 10.8 公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 139 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P. 19 参照
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 144 に掲載

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場において役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場において役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修は、三役(ワキ方・囃子方・狂言方)について、一人一役を基本に行うことから、基礎課程3年、専門課程3年の研修を実施する。

文楽(三業)研修においては、本館、文楽劇場等で開催する文楽公演における太夫・三味線・人形の後継者を育成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

①養成の概要

区分		年度計画				研修実績	
		期	研修期間	年次	人数	人数	うち修了者
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	23期	2年	2年次	6名	6名	6名
	竹本	23期	2年	2年次	2名	2名	2名
	鳴物	16期	2年	2年次	1名	1名	1名
	長唄	7期	3年	3年次	2名	2名	2名
大衆芸能	太神楽	休止中					
	寄席囃子	15期	2年	1年次	3名	2名	
能楽		9期	専門課程3年	5年次	2名	2名	
		10期	基礎課程3年	2年次	2名	2名	
文楽		28期	2年	2年次	1名	0名	0名
組踊		5期	3年	2年次	10名	10名	

②主な授業等の概要

区分			回数	授業内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優 計760回	実技	594回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
		その他	166回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
	竹本 計701回	実技	513回	義太夫(竹本)、義太夫、狂言、箏曲・胡弓
		その他	188回	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
	鳴物 計438回	実技	250回	大太鼓、小鼓・太鼓、大鼓、笛、長唄、能楽(大鼓)
		その他	188回	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、黒御簾音楽・楽屋実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
	長唄 計604回	実技	424回	長唄、五線譜、黒御簾音楽、鳴物、謡曲
		その他	180回	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
大衆芸能	寄席囃子 計480回	実技	384回	寄席囃子、長唄、小唄・俗曲、囃子(太鼓・小鼓等)、日本舞踊
		その他	96回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会、あげざらいほか
能楽 計911回		実技	752回	ワキ、シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	159回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学等、舞台・楽屋実習、その他(発表会等)

文楽 計 185 回	実技	75 回	義太夫、義太夫(三味線入り)
	その他	110 回	謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、体操、 実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修
組踊 計 521 回	実技	473 回	組踊実技、副実技(琉球舞踊・箏等)、基礎実技
	その他	48 回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他(発表会等)

- ・第 15 期寄席囃子研修開講式を開催(4/12、伝統芸能情報館 3 階レクチャー室、3 名)
- ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本・長唄)及び大衆芸能(寄席囃子)研修生は 10/2 に両国・深川界限を、また歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本・鳴物)及び大衆芸能(寄席囃子)研修生は 3/6 に浅草・向島界限の史跡を巡る部外研修を受講した。事前に江戸の歴史文化に関する講義を聴講し、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎作品のイメージを深めることができた。
- ・寄席囃子研修生は、11 月の部外研修で、寄席囃子の発祥の地である大阪の芸能(文楽劇場上方芸特選会・天満天神繁昌亭昼席)を見学し、上方落語の歴史についての地元講師の講義や、大阪の囃子方実演者との交流も行い、落語に関わる東西の寄席囃子の違いについてより深く学ぶことが出来、有意義であった。
- ・歌舞伎俳優及び歌舞伎音楽研修生が舞台実習及び楽屋実習を行い、修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等について知る機会を得、貴重な経験となった。
- ・歌舞伎俳優研修生が、国立劇場 7 月歌舞伎鑑賞教室、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」、伝統歌舞伎保存会研修発表会で舞台実習を実施。
- ・歌舞伎音楽(竹本)研修生が、国立劇場 7 月歌舞伎鑑賞教室(太夫・三味線)、10 月歌舞伎公演(太夫)、12 月歌舞伎公演(三味線)で楽屋実習を実施。
- ・歌舞伎音楽(鳴物)研修生が、国立劇場 6 月歌舞伎鑑賞教室、歌舞伎座 6 月歌舞伎公演、「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」等で楽屋実習を、国立劇場 10 月歌舞伎公演、新橋演舞場 1 月歌舞伎公演で舞台実習を実施。
- ・歌舞伎音楽(長唄)研修生が、国立劇場 6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室、10 月・1 月歌舞伎公演、歌舞伎座 5 月・6 月歌舞伎公演で楽屋実習を実施。
- ・第 10 期能楽(三役)研修特別講義(野村四郎・シテ方観世流・一般社団法人日本能楽会会長)を実施。
- ・国立能楽堂開場 35 周年記念にあたり、全ての研修修了者が東京若手能公演に出演し、また、歴代の講師の協力のもと盛大な公演とすることができた。
- ・各分野とも、振興会主催公演をはじめとする公演見学等を積極的にを行い、研鑽を深めた。
- ・文楽研修生は、部外研修として、5/7 に天満天神繁昌亭及び近隣の文楽関係史跡見学を実施した。研修講師補助者が同行し、現地で講習を行った。
- ・組踊研修生は、12 月に行われた五館合同研修に参加し、他芸能の研修生と交流して大きな刺激を受けた。また、沖縄で見る機会の少ない歌舞伎、オペラ、能の舞台を鑑賞したことは、広い視野で芸能と向き合う良いきっかけになった。

《外部専門家等の意見》

- ・養成事業委員会を開催(2回)。主な意見は以下のとおり。
 - 「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、5回公演がほぼ満席であった。既に歌舞伎界で中堅、若手として活躍しているものの、大役を演じる機会のない既成者達が挑戦する貴重な機会となっており、各人の歌舞伎にける熱意を感じることができた。
 - 「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、既成者達が技芸の成果を示す場であり、歌舞伎俳優の層の厚さを維持するために、今後も継続されることを期待している。
 - 「音の会」は演目のバランスがよかった。総体に良い公演となった。
 - 研修見学会は、受験希望者に限らず、一般の方の申し込みも受け付けており、より多くの方に研修事業を知っていただく良い機会となっている。
 - 「研修発表会」は、いずれも堅実な技芸を披露し、研修成果を示していた。寄席囃子の研修生は、まだ研修中だが、相応に練習の成果を示していた。
 - 「研修発表会」のプログラム冊子の内容が充実しており、各科目と講師、研修内容が具体的にまとめられ、また現在までの研修修了者が一覧で掲載されており貴重な資料となっている。
 - 文楽後継者育成について、文楽では長老の引退、死去といった残念な状況が続いたが、幸い、若手・中堅の頑張りや、いつもは起こる「文楽の危機」という声をかき消しているように思う。養成事業の継続的な成果が、こうした形にあらわれているというのが、率直な印象である。

- 「文楽若手会」について、養成研修の修了者と、直接、技芸員に入門して初舞台を踏んだ技芸員がともに学ぶ既成者研修は、本公演を拝見すると大きな成果をあげていると感じる。
- 「上方歌舞伎会」について、本公演が定着し、国立文楽劇場歌舞伎俳優既成者研修発表会としての成果を存分に示していると感じた。
- 「若手素浄瑠璃の会」について、日頃の成果を存分に示し、既成者研修の意義深さを感じさせた。出演者にとっては、自身の技芸を一層、深めるため、とても良い機会になっている。今後も、しかるべき太夫と三味線の出演を期待している。
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催(3/25)。副実技、講義の内容について意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。
 - 研修生が円熟しており、優秀であること、ほとんどが辞めることなく卒業後、伝承者として貢献し、舞台を盛り上げている意義は大きい。
 - 既成者研修発表会の集客について、演者自身の営業意識が不可欠である。

《適性審査の実施等》

区分		試験日	受験者数	合格者数	備考
大衆芸能	寄席囃子	9/14	3名	2名	適性審査で1名不合格

③研修発表会の実施

(a) 発表会

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数 (入場率)	入場料	内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第23期歌舞伎俳優・ 第23期歌舞伎音楽(竹本)・ 第16期歌舞伎音楽(鳴物)・ 第7期歌舞伎音楽(長唄) 研修修了発表会、 第15期大衆芸能(寄席囃子) 研修発表会(合同)	本館 小劇場	2/23	1回	411人 (78.7%)	無料	歌舞伎俳優研修生: 日本舞踊「越後獅子」、歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、立廻り「小金吾の立廻り」 竹本研修生: 義太夫「本朝廿四孝」奥庭狐火の場、歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場 鳴物研修生: 「大太鼓奏法」、長唄「供奴」 長唄研修生: 長唄「藤娘」、長唄「楠公」 寄席囃子研修生: 小唄「花の雲」「今年や何だか」「風折烏帽子」「ぎっちゃんちゃん」「河太郎」「五萬石」「酒と女」「惚れて通う」、並木駒形、曲芸「太神楽曲芸」、長唄「汐汲」
能楽	第16回青翔会	能楽堂	6/12	1回	547人 (92.6%)	正面 1,500円 脇正面 1,000円 中正面 700円	舞囃子「忠度」(喜多流)、舞囃子「巻絹」(金春流)、舞囃子「絃上」(宝生流)、狂言「清水」(和泉流)、能「善界」(観世流) 指導者: 野村萬・観世鏡之丞・三島元太郎・亀井忠雄ほか 出演者: 第9期研修生、第5・8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか
能楽	第17回青翔会	能楽堂	10/16	1回	589人 (99.7%)	学生 脇正面 700円 中正面 500円	舞囃子「田村」(宝生流)、舞囃子「胡蝶」(観世流)、舞囃子「野守」(喜多流)、狂言「蝸牛」(和泉流)、能「花月」(金春流) 指導者: 野村萬・観世鏡之丞・三島元太郎・亀井忠雄ほか 出演者: 第9期研修生、第6・8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか
能楽	第18回青翔会	能楽堂	3/12	1回	589人 (99.7%)		舞囃子「弓八幡」(金春流)、舞囃子「屋島」(観世流)、舞囃子「小塩」(喜多流)、

							狂言「佐渡狐」(和泉流)、能「海人」(宝生流) 指導者:野村萬・観世鏡之丞・三島元太郎・亀井忠雄ほか 出演者:第9期研修生、第5・8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか
能楽	第49回東西合同研究発表会	大槻能楽堂	8/28	1回	350人(69.7%)	無料	舞囃子「高砂」(観世流)、舞囃子「邯鄲」(喜多流)、能「杜若」(観世流)、舞囃子「玄象」(観世流)、狂言「附子」(大蔵流)、連吟「春日龍神」(高安流)、狂言小舞「岩飛び」(大蔵流)、狂言小舞「暁の明星」(大蔵流)、仕舞「善界」(観世流)、舞囃子「安宅」(金春流)、舞囃子「吉野静」(宝生流)、舞囃子「百萬」(金剛流)、能「熊坂」(観世流)
組踊	第5期組踊研修生第3回研修発表会	おきなわ大劇場	10/18	1回	485人(83.9%)	無料(整理券事前配布)	琉球舞踊「上り口説」 「浜千鳥」 組踊「孝行の巻」
組踊	第5期組踊研修生第4回研修発表会	おきなわ大劇場	3/7	1回	530人(84.9%)	無料(整理券事前配布)	琉球古典音楽独唱「二揚下出し仲風節」、「二揚下出し述懐節」、「二揚仲風節」、「二揚述懐節」 組踊「女物狂」

- ・歌舞伎俳優研修では、研修発表会の歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場において、外部専門家から台詞もしっかりしていて、わずか2年間の短い期間でよくここまで身につけることができたとの評価を得た。
- ・竹本研修では、研修生2名の技芸の向上が認められ、研修発表会の義太夫「本朝廿四孝」奥庭狐火の場に加え、歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場では前半部分の竹本の演奏を研修生だけで披露することができた。
- ・鳴物研修では、研修発表会において長唄「供奴」の立鼓を務め、研修の成果を披露することができた。
- ・長唄研修では、研修発表会において研修生2名が、入門先の社中の出演者との演奏でそれぞれ立唄を務め、3年間の研修による技芸向上の成果を披露することができた。
- ・寄席囃子の研修生はまだ研修中であるが、研修発表会において太神楽のお囃子を演奏し、研修の成果を示した。
- ・能楽研修発表会(青翔会)は、若手能楽師を応援する顧客が定着しつつあり、概ね高い水準の入場者数を維持することができた。
- ・組踊研修は、10月の発表会では組踊の他、副実技の琉球舞踊を発表し、3月は地方がそれぞれ独唱を披露した。研修2年目ということもあり、立方は余裕を持って組踊を演じた。地方は独唱でそれぞれの個性が発揮され始めた。

(b) 年度計画外の発表会等

区分	公演名	会場	期間	入場料	内容
歌舞伎俳優 竹本 鳴物	第1回あげざらい	本館 大稽古場	9/26	一般非公開	笛の演奏 能管「座付笛」、篠笛「田舎笛、空笛、闇の夜、文のたより～段切れ」 指導者:鳳声晴由、出演者:第16期鳴物研修生、助演者:(長唄:杵屋巳志郎・杵屋巳千雄) 歌舞伎「絵本太功記」尼ヶ崎閑居の場 指導者:(俳優:中村時蔵・市川團蔵、市川橋太郎、竹本:竹本葵太夫・鶴澤寿治郎、鳴物:田中傳左衛門・田中傳九郎)、出演者:第23期歌舞伎俳優・第23期竹本・第16期鳴物研修生、助演者:(俳優:中村光蝶、竹本:竹本豊太夫・鶴澤宏太郎、鳴物:田中傳八郎)
長唄 寄席囃子	第2回あげざらい	第1 演芸研修室	12/25	一般非公開	研修生による編曲 「静かな湖畔」「RYDEEN(ライディーン)」「となりのトトロ」 「涙そうそう」

					長唄「風韻」第一楽章・第三楽章 指導：杵屋巳織、出演者：第7期長唄・第15期寄席囃子研修生
竹本	第3回あげざらい	中稽古室	2/27	一般非公開	箏曲「千鳥の曲」(箏本手)、箏曲「六段の調」(胡弓)
能楽	平成30年度 第1回稽古会	研修能舞台	4/23	一般非公開	狂言「舟ふな」(和泉流)、舞囃子「養老」(宝生流)、舞囃子「自然居士」(喜多流)、舞囃子「船弁慶」(観世流)、袴能「舍利」(金春流) 指導者：野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者：第9・10期研修生、第8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか
能楽	平成30年度 第2回稽古会	研修能舞台	7/23	一般非公開	狂言「鐘の音」(和泉流)、舞囃子「菊慈童」(観世流)、舞囃子「草子洗小町」(金春流)、舞囃子「桜川」(観世流)、袴能「小鍛冶」(宝生流) 指導者：野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者：第9・10期研修生、第6・8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか
能楽	平成30年度 第3回稽古会	研修能舞台	2/18	一般非公開	狂言「歌争」(和泉流)、舞囃子「加茂」(宝生流)、舞囃子「杜若」(喜多流)、舞囃子「安宅」(金春流)、袴能「高砂」(観世流) 指導者：野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者：第9・10期研修生、第6・8期修了者、平成30年度研究生、研修講師ほか

④次年度の検討、募集

- (a) 第24期歌舞伎俳優
- (b) 第24期歌舞伎音楽（竹本）
- (c) 第17期歌舞伎音楽（鳴物）
- (d) 第8期歌舞伎音楽（長唄）
- (e) 第29期文楽

区分		選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	2/9	9名	8名	6名	3月に1名辞退し、5名
	竹本		0名			
	鳴物	2/1	1名	1名	0名	
	長唄	2/9	4名	3名	2名	
文楽		10/29	1名	1名	1名	
		2/25	3名	2名	2名	

【特記事項】

- ・第24期歌舞伎俳優研修生募集については合格者6名であったが、3月に1名が辞退したため5名で研修を開始する。第24期歌舞伎音楽（竹本）研修生募集については出願者がいなかったため、平成31年度に改めて募集を行う。また、第17期歌舞伎音楽（鳴物）研修生募集については合格者がいなかったため、平成31年度に改めて募集を行う。
- ・第8期歌舞伎音楽（長唄）研修生について、高校2年生在学中に選考試験を受けて合格した者が1名いた。例年研修見学会等で、研修を受けながら受講できる通信制の高校を紹介しているが、当該研修生は通信制高校に編入して研修を受けることになり、研修と学業の両立を目指すことになった。
- ・8/31付けで文楽研修生1名が辞退した。これに伴い文楽第28期生研修修了発表会は実施せず。

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡充と伝承者間の交流を図る。

①既成者研修発表会の実施

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 既成者研修 発表会	第24回「稚魚の会・ 歌舞伎会合同公演」	本館 小劇場	8/16～ 20	5回	2,513 人	96.3%	一般:4,100円 学生:2,900円	「寿曾我対面」工藤祐経館の場、「勢獅子」、「神霊矢口渡」頼兵衛住家の場
歌舞伎俳優 既成者研修 発表会	第28回上方歌舞伎会	文楽劇場	8/25～ 26	4回	2,422 人	89.4%	一般:4,100円 学生:2,900円	「真如」、「彦山権現誓助剱」毛谷村六助住家の場、「道行恋苧環」、「元禄花見踊」
歌舞伎音楽 既成者研修 発表会	第20回「音の会」	本館 小劇場	8/11～ 12	2回	902人	86.4%	一般:2,600円 学生:1,800円	鳴物・義太夫「寿式三番叟」、長唄「矢の根」、長唄「俄獅子」、歌舞伎「傾城反魂香」土佐将監閑居の場
能楽既成者 研修発表会	第28回能楽若手研究会 「若手能」京都公演	京都 観世会館	6/23	1回	440人	97.3%	前売:2,600円 当日:3,100円 学生:1,500円	能「田村」(金剛流)、舞囃子「熊野」(観世流)、舞囃子「芦刈」(金剛流)、舞囃子「山姥立廻入」(観世流)、狂言「棒縛」(大蔵流)、能「海士」(観世流) 指導者:片山九郎右衛門・金剛永謹・杉市和・河村大・観世新九郎ほか 出演者:宇高德成、河村和晃、加藤洋輝(第6期修了者)、岡本はる奈(第8期修了者)ほか
能楽既成者 研修発表会	第28回能楽若手研究会 「若手能」大阪公演	大槻能楽堂	1/19	1回	450人	89.6%	3,100円(当日) 2,800円(前売・ 一般) 1,500円(学生)	能「羽衣」、狂言「富士松」、能「舍利」
能楽既成者 研修発表会	国立能楽堂開場35周年記念 第28回能楽若手研究会 「若手能」東京公演	国立能楽堂	2/2	1回	625人	99.7%	正面3,100円 脇正面2,600円 (学生1,800円) 中正面2,100円 (学生1,500円)	舞囃子「高砂」、舞囃子「忠度」、能「胡蝶物着」、独吟「羅生門」、狂言「蚊相撲」、舞囃子「唐船」、能「春日龍神白頭」
文楽既成者 研修発表会	第18回文楽若手会	文楽劇場	6/23～ 24	2回	1,332 人	91.1%	一般:2,100円 学生:1,500円	「万才」、「絵本太功記」夕顔棚の段、 尼ヶ崎の段、「傾城恋飛脚」新口村の段
文楽既成者 研修発表会	第6回文楽若手会	本館 小劇場	6/28～ 29	2回	1,089 人	98.5%	一般:2,800円 学生:2,000円	出演:豊竹・穂太夫、鶴澤清道、 桐竹紋臣 ほか
文楽既成者 研修発表会	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	8/30	1回	149人	93.7%	1,000円 (学生700円)	「菅原伝授手習鑑」寺子屋の段、「妹背山婦女庭訓」金殿の段
文楽既成者 研修発表会	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	2/22	1回	142人	89.3%	1,000円 (学生700円)	「絵本太功記」妙心寺の段、「近頃河原の達引」堀川猿廻しの段
組踊既成者 研修発表会	第8回若手伝承者公演 組踊「仲村渠真嘉戸」	おきなわ 大劇場	12/15	1回	242人	41.9%	一般:2,100円 友の会:1,680 円	第1部:琉球舞踊「かぎやで風」「稲まづん」 「高平良万歳」 「加那ヨ一川」 第2部:組踊「仲村渠真嘉戸」

- ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、若い出演者が多い中で観客動員に努力した結果、入場者数は2,513人(入場率96.3%)と前年度を上回り、多くの観客に養成事業の成果を示すことができた。また、舞台成果においても外部専門家から日頃の修練の成果を示し、歌舞伎にかける熱意を感じることができたとの高い評価を得た。
- ・20回の節目となった「音の会」では、ベテラン俳優の助演を得て大曲に挑戦し、他にも実際に歌舞伎公演でも上演される機会の多い演目が揃い、バランスのとれた演目立てとなった。入場者数は前年度を大幅に上回った。
- ・上方歌舞伎会は、日頃舞台を脇で支える俳優達が大役を勤めることで、演目に対する理解も深まり、若手俳優の技芸向上に大きく貢献する有意義な会となった。
- ・組踊既成者発表会は、上演頻度の低い「仲村渠真嘉戸」を取り上げた。立方、地方共に貴重な経験となった。

②能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 30 名が受講した(実施回数: 291 回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

③その他の既成者研修の取組

大衆芸能(太神楽)について、歌舞伎の基本動作や笛の実習等、研修修了者の技芸向上を図るための研修を実施(実施回数 46 回、受講者延べ 133 名)。

(3) 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

ア 修了者の活動状況等、養成事業の周知

①歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能

- ・「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を HP(5/25)及び会報「あぜくら」7月号(6/25)に掲載
- ・「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の出演者メッセージを HP に掲載(6/29)
- ・「音の会」の公演情報希望者 に DM を送付(6/29)
- ・「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を「演劇界」8月号(7/5)に掲載
- ・「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を Twitter で配信(7/10)
- ・「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演チラシを半蔵門駅改札内チラシラックに設置(7/1～8/20)
- ・歌舞伎鑑賞教室、「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」、「研修発表会」の会場ロビーで養成研修を紹介する DVD を映写し、事業の周知に努めた。
- ・研修事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう「研修見学会」を 3 回実施(参加者数 11/18:14 名、12/9:18 名、1/20:29 名)。
- ・研修生募集に際し、「演劇界」「邦楽の友」「邦楽ジャーナル」ほか新聞各紙、各種雑誌及びフリーペーパー、松竹株式会社 HP「歌舞伎美人」等の Web サイトへ募集記事又は広告の掲載を行った。
- ・研修生募集に際し、複数の駅構内でディスプレイ広告を実施するとともに、新たな取組として CM 動画を作成し、ホームページに掲載するほか、YouTube や衛星劇場(CS 放送)において放送し、広報活動規模を拡大した。

②能楽

- ・能楽の振興・普及事業(ワークショップ等)で小・中・高校を回る際に、能楽全般及び研修制度についての広報を行い、養成研修事業の周知に努めた。
- ・国立能楽堂開場 35 周年記念にあたり、全ての研修修了者が東京若手能公演に出演し、また、歴代の講師の協力のもと盛大な公演とすることができた。

③文楽

- ・文楽研修事業を紹介するポスター・チラシ・パンフレットを劇場内に掲出・配架。
- ・文楽劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
- ・学校やマスコミ等への DM を実施。
- ・文楽鑑賞教室、文楽若手会のロビー等で、文楽研修を紹介する映像を放映。
- ・養成事業に関する情報をネット配信。
- ・振興会発行物等で養成事業を紹介。
- ・各種広告により養成事業を紹介。
- ・文楽研修を中心に振興会の養成事業に関するレクチャーを文楽研修イベントとして実施。
- ・マスコミで文楽研修を紹介。
- ・学校団体へ文楽研修用具を貸出。

④組踊

- ・国立劇場おきなわ HP、Facebook に、研修生発表会、既成者研修発表会稽古の活動状況を掲載して広く活動を周知した。
- ・新聞、雑誌取材を受け入れ、広く研修制度、発表会の宣伝周知を行った。
- ・「華風」8月号に第 5 期組踊研修生についての特集記事を 7 ページにわたって掲載し、研修事業の詳細

細や研修生についての情報周知に努めた。

イ 全国の文化施設、学校等と協力した研修生及び研修修了者によるワークショップ等

・研修修了者を講師に起用し、振興・普及活動を 27 件実施。

	イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数	備考
能楽	楽しもう！能・狂言の世界 (狂言連続講座)	5/8、15、 22、 29、6/4	研修能舞台		第 8 期研修修了者	10 人	10 人	-
能楽	楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/30	研修能舞台 第 1・第 2 稽古室 大講義室		鶴沢光(シテ方観世流) 大倉慶乃助(大鼓方大倉流) 第 5 期、第 6 期研修修了者	67 人	-	アンケート 満足回答率: 100.0%
能楽	届けます。体験教室 (囃子体験)	6/2、3	津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス		大倉栄太郎(大鼓方大倉流) 澤田晃良(太鼓方観世流) 第 1 期、第 5 期、第 6 期 研修修了者	140 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (囃子・面体験)	7/6	赤穂市立 尾崎小学校体育館	無料	森山泰幸(大鼓方観世流)、高 村裕(笛方一噌流)、第 6 期研 修修了者、第 5 期研修修了者	100 人	-	-
能楽	楽しもう！体験教室 (囃子・謡体験)	7/7	赤穂市文化会館	無料	江崎欽次郎(ワキ方福王流)、 森山泰幸(大鼓方観世流)、高 村裕(笛方一噌流)、第 6 期研 修修了者、第 5 期研修修了者	30 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (囃子体験)	7/11	横浜山手中華学校	無料	大倉栄太郎(大鼓方大倉流)・ 第 1 期研修修了者、第 6 期研 修修了者、第 7 期研修修了者	72 人	-	-
能楽	楽しもう！能と狂言	7/20	千駄ヶ谷 鳩森八幡神社能舞 台	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、 第 5 期研修修了者、第 6 期研 修修了者、第 7 期研修修了者	約 100 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (所作・謡・囃子体験)	10/29、30	名取市立下増田小 学校・名取市立館腰 小学校・名取市立増 田小学校・名取市立 閑上小中学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)・松山 隆之(シテ方観世流)・佃良太郎 (大鼓方高安流)・第 5 期、第 6 期研修修了者	376 人	-	-
能楽	文部科学部会・文化立国 調査会合同会議「新・文化 庁」発足記念「教育・文化 週間」特別セレモニー	11/1	自民党本部	無料	大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、 第 2 期、第 5 期、第 6 期研修 修了者	約 200 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (囃子体験)	11/13	静岡雙葉中学校・高 等学校	無料	小野寺竜一(笛方一噌流)・佃 良太郎(大鼓方高安流)・第 5 期、第 8 期研修修了者	138 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (謡・面・囃子体験)	11/17	相模原市けやき体 育館	無料	柏崎真由子(シテ方金春流)・飯 富孔明(小鼓方大倉流)・大倉 栄太郎(大鼓方大倉流)・澤田 晃良(太鼓方観世流)・第 5 期 研修修了者	50 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (囃子体験)	11/29	清須市立新川小学 校	無料	船戸昭弘(小鼓方幸清流)・河 村裕一郎(大鼓方石井流)・第 3 期、第 6 期研修修了者	157 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (囃子体験)	12/6	国立市立国立第五 小学校	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)・澤 田晃良(太鼓方観世流)・第 5 期、第 6 期研修修了者	70 人	-	-
能楽	届けます。体験教室 (狂言体験)	1/28、29	沖縄市立美里小学 校・沖縄市立北谷第 二小学校・ 沖縄市立西原小学 校	無料	第 4 期、第 8 期研修修了者	567 人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	6/30	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	金城真次(第 1 期研修修了 者)、比嘉大志(第 4 期研修修	15 人	-	-

					了者)、仲村逸夫(第1期研修修了者)			
組踊	おでかけワークショップ in 沖尚中～琉球舞踊編～	7/9	沖縄尚学高等学校 附属中学校講堂	無料	嘉数道彦、仲村逸夫(第1期研修修了者)、佐辺良和(第1期研修修了者)	300人		
組踊	ワークショップ in フランス	8/3	フランス・パリ ユニクロ・マレ店	無料	玉城和樹(第1期研修修了者)	25人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	8/18	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	比嘉大志(第4期研修修了者)、上原崇弘(第3期研修修了者)、仲嶺良盛(第4期研修修了者)	20人	-	-
組踊	おでかけワークショップ in 沖尚中～組踊編～	9/20	沖縄尚学高等学校 附属中学校講堂	無料	嘉数道彦、仲村逸夫(第1期研修修了者)、佐辺良和(第1期研修修了者)	300人		
組踊	組踊ワークショップ	10/27	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	比嘉大志(第4期研修修了者)、山城峻弥(第4期研修修了者)、棚原建太(第4期研修修了者)	8人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	10/28	静岡音楽館 AOI	無料	嘉数道彦、玉城匠(第2期研修修了者)、新垣俊道(第1期研修修了者)	29人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	11/17	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多(第1期研修修了者)、知花令磨(第4期研修修了者)、新垣俊道(第1期研修修了者)	13人	-	-
組踊	おでかけワークショップ in 浦添小学校	11/26	浦添市立浦添小学校	無料	嘉数道彦、仲村逸夫(第1期研修修了者)、玉城匠(第2期研修修了者)	220人		
組踊	組踊ワークショップ	12/22	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	金城真次(第1期研修修了者)、比嘉大志(第4期研修修了者)、大城貴幸(第2期研修修了者)	10人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	1/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	金城真次(第1期研修修了者)、佐辺良和(第1期研修修了者)、玉城和樹(第1期研修修了者)、平田旭(第2期研修修了者)、古波蔵正信(第3期研修修了者)	40人		あぜくらの集い特別企画
組踊	組踊ワークショップ	1/21	京都造形芸術大学	無料	嘉数道彦、玉城匠(第2期研修修了者)、仲村逸夫(第1期研修修了者)	54人	-	-
組踊	組踊ワークショップ	1/22	高知県立県民文化ホール	無料	嘉数道彦、仲村逸夫(第1期研修修了者)	48人	-	-

- ・国立劇場おきなわでは、研修修了者を中心に起用して組踊ワークショップを県内で6回、県外で3回実施した。また、沖縄県からの受託事業としておでかけワークショップを3回実施した。
- ・また、「子の会」では文化庁の補助事業として、県外小中学校(15校)で組踊ワークショップ及び本公演を実施した。沖縄県の補助事業として本島内の高等学校(10校)及び離島6校(小・中・高校)で、組踊公演を行った。

ウ 応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
歌舞伎研修	平成30年度 第1回歌舞伎俳優、歌舞伎音楽 研修見学会	10/21	国立劇場 大稽古場 第1・2・3 研修室	無料	養成事業概要説明及び、俳優(嵐橋三郎師)、竹本(竹本谷太夫師・鶴澤寿治郎師)、長唄(杵屋巳津也師)の研修見学を実施	14人	16人	16人	-

歌舞伎 研修	平成 30 年度 第 2 回歌舞伎俳優、歌舞伎音楽 研修見学会	11/18	国立劇場 大稽古場 第 1・2・3 研修室	無料	養成事業概要説明及び、俳優(尾上松太郎師)、竹本(竹本東太夫師・鶴澤宏太郎師)、長唄(鳥羽屋三右衛門師)、鳴物(田中佐太郎師)の研修見学を実施	18 人	18 人	18 人	-
歌舞伎 研修	平成 30 年度 第 3 回歌舞伎俳優、歌舞伎音楽 研修見学会	12/22	国立劇場 大稽古場 第 1・2・3 研修室	無料	養成事業概要説明及び、俳優(市川團蔵師)、竹本(竹本葵太夫師・鶴澤寿治郎師)、鳴物(田中傳次郎師)、長唄(鳥羽屋里長師・鳥羽屋里夕師)の研修見学を実施	29 人	27 人	27 人	-
文楽 研修	伝統芸能伝承者養成事業の概 要 一文楽研修制度を中心に―	6/13	大阪府立東住吉 高等学校	-	大阪府立東住吉高等学校芸能文化科 3 年生 40 名を対象に、企画制作課養成係職員により実施。	40 人	-	-	-
文楽 研修	文楽研修イベント 文楽技芸員に聞く 「文楽研修生の頃」	9/3	国立文楽劇場 小ホール	無料	前半は映像を交えながら、後半は研修修了者の文楽技芸員と進行役との対談の形式で、研修内容を紹介。また、太夫・三味線の実演を行い、第 29 期文楽研修生募集の周知を図った。	106 人	113 人	113 人	-
文楽 研修	文楽(太夫・三味線)研修生募集 関連イベント(東京) 文楽技芸員に聞く 「文楽研修生の頃」	12/8	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	前半は映像を交えながら、後半は研修修了者の文楽技芸員と進行役との対談の形式で、それぞれ研修の内容を紹介。また、太夫・三味線の実演を行った。 終了後は希望者を対象に第 29 期文楽研修生募集説明会を行い、周知を図った。	62 人	91 人	91 人	93.6%

■第 24 期歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(第 24 期竹本・第 17 期鳴物・第 8 期長唄)研修生募集

- ・ 募集要項を HP に掲載(6/1)
- ・ 振興会 HP に「研修生募集中」のバナーを新規に掲載(9 月)
- ・ 研修生募集チラシを配布
 - ◇ 本館大・小ロビー、伝統芸能情報館、演芸場、能楽堂、文楽劇場に設置
 - ◇ 7 月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演ロビーに設置
 - ◇ 文楽劇場鑑賞教室 DM 同封
 - ◇ 歌舞伎座、明治座、御園座、博多座、松竹座等に設置
 - ◇ 全日本郷土芸能協会会報誌 DM 同封
 - ◇ 「全国高校生伝統文化フェスティバル」(京都)会場に設置
 - ◇ 第 42 回全国高等学校総合文化祭会場(演劇・日本音楽・郷土芸能分野)に設置(8/7～11)
- ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室期間中、字幕モニターに研修生募集の案内を表示
- ・ 6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室、8 月「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」、第 29 回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演(8/25～26)期間中、劇場ロビーにおいて、国立劇場養成研修事業広報 DVD「伝統芸能伝承者養成事業」を放映
- ・ 8 月「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の場内アナウンスで研修生募集の案内
- ・ 9 月全国の高等学校、文化施設、図書館、マスコミ、楽器店等宛に研修生募集案内の DM を発送
- ・ 研修生募集及び研修見学会情報のネット配信
 - ◇ 振興会 HP・メールマガジン・Twitter・Instagram
 - ◇ 振興会 HP での CM 動画
 - ◇ Youtube、衛星劇場(CS 放送)での CM 動画
 - ◇ 「歌舞伎 on the web」
 - ◇ 松竹(株)HP「歌舞伎美人」
- ・ 振興会が発行する会報誌・プログラム等に募集要項掲載(6 月歌舞伎鑑賞教室プログラム、振興会ニュース 6 月号・7 月号、7 月歌舞伎鑑賞教室プログラム、あぜくら会報 9 月号)
- ・ 研修生募集広告の掲載
 - ◇ 10 月～12 月歌舞伎公演プログラム
 - ◇ 8 月「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」のチラシ及び公演プログラム
 - ◇ KENSYO(能楽・文楽・歌舞伎に関するフリーペーパー)秋号(9/25)

- ◇ 「日本舞踊」10月号
- ◇ 「邦楽の友」10月号
- ◇ 「邦楽ジャーナル」10月号
- ◇ 「演劇界」11月号
- ◇ フリーペーパー「メトロガイド」
- ◇ 10月朝日新聞(夕刊)、読売新聞(夕刊)
- ◇ 11月産経新聞「暮らしのガイド」
- ◇ 12月朝日新聞(朝刊・夕刊)
- ◇ 駅貼りポスター(10月～12月、新宿、渋谷、原宿他)
- ◇ 駅中広告アドビジョン(11月、新宿・吉祥寺・三鷹・国分寺・八王子)

■第29期文楽研修生募集

- ・ 文楽研修生募集ポスター・チラシを作成し、文楽劇場内及び近隣に掲出・配架して募集情報を告知。また、本館、情報館、能楽堂、新国立劇場、国立劇場おきなわ等関係施設内に掲出・配架し、募集情報を告知。(6月下旬～)
- ・ 文楽研修生募集ポスター・チラシを配布
 - ◇ 「文楽レクチャー公演大阪府立東住吉高等学校特別授業」(6/13、大阪府立東住吉高等学校)
 - ◇ 「文楽レクチャー公演」静岡公演(7/1～3、静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、d-labo、静岡市立東豊田小学校、藤枝市立大洲小学校)
 - ◇ 「熊谷市レクチャー公演」(7/5、熊谷文化創造館さくらめいと)
 - ◇ 「三谷文楽 其礼成心中」(8/10～12、静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、8/17～19、博多座)
 - ◇ 全国高等学校総合文化祭「信州総文」(8/7～11、サントミュージゼ、レザンホール、長野県伊那文化会館、飯田女子高等学校)の演劇・日本音楽・郷土芸能・人形劇の各部門会場
 - ◇ 「内子座文楽公演」(8/25～26、内子座)
 - ◇ 「中之島文楽公演」(10/5～10/7、大阪市中央公会堂)
 - ◇ 「文楽10月地方公演」(9/29～10/18、掛川市生涯学習センター他10会場)
 - ◇ 「ナレッジキャピタルワークショップフェス2018AUTUMN」(11/18、グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル)
 - ◇ 「全国高校生伝統文化フェスティバル」(12/15～16、京都コンサートホール)
 - ◇ 歌舞伎(俳優・音楽)研修生募集のDMに同封して、全国の高等学校、音楽大学、学生邦楽サークル、文化施設、図書館、高等学校文化連盟、楽器店、カルチャーセンター、NHK、新聞社等に発送
 - ◇ 近畿圏の学校に発送する平成31年度文楽鑑賞教室のDMに同封
 - ◇ 文楽研修生募集関連イベント(東京)のDMに同封し、関東圏の学生邦楽サークルに発送
 - ◇ DMとして、全国のNHK、新聞社、大阪演劇記者会会員に発送
 - ◇ 文楽研修生募集ポスター・チラシ・募集要項等を、近畿各府県の教育委員会、高等学校文化連盟、私立学校連合会、大学・高等学校・中学校、全国の芸術学科を要する大学・高等学校、NHK、新聞社、全国の劇場・ホール・博物館等に発送し、募集情報を告知
- ・ 6月文楽鑑賞教室(文楽劇場)、文楽若手会(文楽劇場・本館小劇場)の各公演期間中に劇場ロビーに研修生募集告知ブースを設置して、研修風景映像の放映、ポスター・チラシの掲出・配架
- ・ 研修生募集及び研修情報のネット配信
 - ◇ 振興会 HP(6月上旬～)・メールマガジン・チケットセンターお知らせメール・Twitter
 - ◇ 振興会 HP での CM 動画
 - ◇ Youtube での CM 動画
 - ◇ ボランティア団体「文楽応援団」HP(6月上旬～)
 - ◇ NPO 法人人形浄瑠璃文楽座 facebook(11/9)
 - ◇ 「ムムム!!文楽シリーズ」HP(12/4)
 - ◇ Lmaga.jp 特集ページ「こちら「ハロー!文楽」編集部」(12/15)
 - ◇ 公益財団法人文楽協会ホームページ(12/25)
- ・ 振興会が発行する会報誌・プログラム等において研修生募集を告知(振興会ニュース6月号・7月号・11月号・1月号、あぜくら会報7月号・8月号、国立文楽劇場友の会会報7/5発行号・9/5発行号・11/26発行号、公演プログラム(6月文楽鑑賞教室・文楽若手会・夏休み文楽特別公演・上方歌舞伎会・9月文楽公演・11月文楽公演・12月文楽公演・12月文楽鑑賞教室・初春文楽公演)、公演チラシ(夏休

み文楽特別公演))

- ・ 研修生募集広告の掲載
 - ◇ 近畿圏の鉄道各社の主要駅における駅貼りポスター広告(J R 西日本・近鉄・京阪・阪急・南海、8月末から9月上旬にかけて7日間)
 - ◇ 近畿圏及び首都圏の鉄道各社の主要駅における駅貼りポスター広告(Osaka Metro・近鉄・京阪・阪急・南海・東京メトロ・西武、12月末から1月下旬にかけて7~14日間)
 - ◇ Osaka Metro 公共情報板広告(4 駅、8/1~9/30、12/1~1/31)
 - ◇ フリーペーパー「KENSYO」(6/26・12/26)
 - ◇ 大阪府高等学校演劇大会プログラム(10/25 発行)
 - ◇ 「演劇界」平成 31 年 2 月号
 - ◇ YouTube
 - ◇ プロファイルパスポートアド
- ・ 研修生募集説明会の実施
 - ◇ 文楽研修生募集説明会「伝統芸能伝承者養成事業の概要—文楽研修制度を中心に—」開催(6/13、大阪府立東住吉高等学校、参加者：芸能文化科 3 年生 40 名)
 - ◇ 文楽研修イベント 文楽技芸員に聞く「文楽研修生の頃」を開催(9/3、文楽劇場小ホール、参加者：106 名)
 - ◇ 文楽(太夫・三味線)研修生募集関連イベント(東京) 文楽技芸員に聞く「文楽研修生の頃」を開催(12/8、国立劇場伝統芸能情報館、参加者：62 名)
- ・ 研修生募集情報のテレビ放映、新聞・雑誌・ウェブ媒体等への記事掲載
 - ◇ 日本経済新聞(11/24 朝刊・1/4 朝刊)
 - ◇ 西日本新聞社(6/27 問合せ)
 - ◇ NHK 松江放送局(6/27、11/14 問合せ)
 - ◇ NHK 富山放送局(6/29 問合せ)
 - ◇ NHK 静岡放送局(7/3 問合せ)
 - ◇ 北海道新聞社(7/9 問合せ)
 - ◇ NHK 熊本放送局(7/24 問合せ)
 - ◇ NHK 京都放送局(7/27 問合せ)
 - ◇ ラジオ大阪「高岡美樹のべっぴんラジオ」(8/1)
 - ◇ 就職・進学情報誌「分野別ガイドブック'19 春号 4 月版 シティースクール&夜間・通信・各省庁都道府県所管学校をめざす人へ」(4 月)
- ・ 学校団体へ文楽研修用具「文楽研修(太夫・三味線)セット」を貸出(5月下旬~)

エ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/4)
 - 講師：吉田和生(人形浄瑠璃文楽 人形遣い、重要無形文化財保持者(人間国宝))
 - 講義内容：「良き舞台人になるために」
 - 会場：伝統情報館レクチャー室及び本館小劇場ロビー(講義)、第 1 会議室(交流会)
 - 参加者：研修生 52 名(歌舞伎俳優 6 名、竹本 2 名、鳴物 1 名、長唄 2 名、寄席囃子 2 名、能楽 4 名、組踊 10 名、オペラ研修所第 21 期生 5 名、バレエ研修所第 15 期生 5 名、演劇研修所第 14 期生 15 名)

オ 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の移動公演において、舞台技術職員・スタッフを派遣し、現場の文化施設担当者との打合せから仕込み、舞台稽古、本番に至る流れの中で、国立劇場の技術やノウハウを継続的に提供している。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会主催の関東甲信越静岡支部地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会を国立劇場小劇場において実施し、振興会職員により舞台、照明、音響、舞台監督、舞台美術の各分野について講演を行った。

3 - (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより、次の研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理科促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

オペラ研修の歌唱コンサート、バレエ研修の「バレエ・アステラス 2018」及び「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラコンサート」への出演については、「国際文化交流の進展に寄与する公演等」(別表 8)に位置付け実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第19期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第20期生(5名)の2年目の研修

(c) 第21期生(5名)の1年目の研修

(d) 第22期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等(3公演)

・ 試演会(新国立劇場小劇場)6月29日～7月1日、3回

・ 歌唱コンサート(新国立劇場オペラ劇場)9月17日、1回(予定)

※世界の有数オペラアカデミーの研修生を招き上演する。

・ 修了公演(新国立劇場中劇場)3月8日～10日、3回

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う。

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第14期生(6名)の2年目の研修(修了)

(b) 第15期生(6名)の1年目の研修

(c) 第16期生(6名程度)の募集

(d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。

・ 第9期生(3名)の2年目の研修

・ 第10期生(3名)の1年目の研修

・ 第11期生(若干名)の募集

(e) 研修発表会等(3公演)

・ 「バレエ・アステラス2018」(新国立劇場オペラ劇場)7月28日、1回

※海外のバレエ団に所属し活躍する若手日本人バレエダンサー等を招き上演する。

・ 研修所公演(新国立劇場中劇場)11月17日～18日、2回

・ 修了公演(新国立劇場中劇場)3月16日～17日、2回

(f) 国際的な舞台経験を積むため、「ワガノワ・バレエ・アカデミー創立280周年記念ガラコンサート」に出演する。(ロシア、ボリショイ劇場、国立クレムリン宮殿)6月19日～20日、2回

(g) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う。

③ 演劇研修(研修期間3年)

(a) 第12期生(10名)の3年目の研修(修了)

(b) 第13期生(10名)の2年目の研修

(c) 第14期生(16名)の1年目の研修

(d) 第15期生(16名程度)の募集

(e) 研修発表会等(3公演)

・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」(新国立劇場小劇場)8月1日～4日、4回(予定)

・ 試演会(新国立劇場小劇場)10月26日～31日、6回(予定)

・ 修了公演(新国立劇場小劇場)2月8日～13日、6回(予定)

(3) 伝統芸能の傳承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たつての留意事項

ア 養成・研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める

イ 養成・研修成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修生及び研修修了者によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施

また、外部公演への出演依頼に積極的に対応して、文化普及活動への参画に努める

ウ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める

エ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し、両分野の相互交流を図る

オ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

<p>3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>9 公演 (H25-29 実績平均 : 9.8 公演)</p>
<p>3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)</p>	<p>P. 151 に掲載</p>
<p>3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	<p>『評価報告書』 P. 24 参照</p>
<p>3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)</p>	<p>P. 152 に掲載</p>

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンをを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

①研修の概要

	区分	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者
オペラ	19期(3年次)	3年	5名	5名	5名
	20期(2年次)		5名	5名	—
	21期(1年次)		5名	5名	—
バレエ	14期(2年次)	2年	6名	6名	6名
	15期(1年次)		6名	6名	—
バレエ予科	9期(2年次)	2年	3名	3名	3名
	10期(1年次)		3名	3名	—
演劇	12期(3年次)	3年	10名	10名	10名
	13期(2年次)		10名	10名	—
	14期(1年次)		16名	15名	—

②主な授業等の概要

区分	授業内容			
オペラ	実技	第19期 第20期 第21期	398回 364回 420回	オペラ実習、身体表現
	座学	第19期 第20期 第21期	123回 123回 128回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語)
	その他	第19期 第20期 第21期	41回 36回 42回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ	実技	第14期 第15期	326回 326回	クラシック・バレエ、キャラクター、コンテンポラリー・ダンス、身体表現
	座学	第14期 第15期	46回 59回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)
	その他	第14期 第15期	12回 10回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ予科	実技	第9期 第10期	303回 308回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第9期 第10期	52回 57回	特別講義(サロン)、語学(英語)ほか

	その他	第9期 第10期	7回 7回	舞台実習ほか
演劇	実技	第12期 第13期 第14期	168回 322回 312回	演劇実習、演技/シーンスタディ、歌唱、ダンス、声とことば、所作、トレーニングほか
	座学	第12期 第13期 第14期	11回 10回 44回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、戯曲をよむ、戯曲研究
	その他	第12期 第13期 第14期	60回 90回 88回	国内研修、特別活動(アウトリーチ)、観劇、美術、見学、公演スタッフ研修、ほか

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。

《オペラ研修》

- ・個々の研修生のアリア技量の向上を目指すだけではなく、オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、身体訓練等の新規授業により、成果を挙げることができた。

《バレエ研修》

- ・全日本空輸株式会社と新国立劇場運営財団は、海外研修サポート等を行う「ANA スカラシップ」制度を拡充し、4月よりバレエ研修生を対象とした制度を開始。
- ・コンテンポラリーダンスや演劇の授業を実施し、ダンスの幅を広げることができた。演劇の授業では、演劇研修所との合同授業も実施したことで、成果の向上に繋がった。

《演劇研修》

- ・演劇研修所第12期生が国内研修を実施。(5/14-17、広島県広島市内ほか)
- ・演劇研修所第12期生が東京都立葛飾盲学校を訪問、アウトリーチを行ったほか、芸団協主催の文化体験プログラムや福岡県春日市でのワークショップに参加し、演劇の楽しさを広めるとともに演劇研修所の存在を周知した。修了生が出演しての平和祈念展示資料館でのリーディング公演も実施した。

《海外研修》

- ・オペラ研修所第20期生が全日本空輸株式会社協賛の「ANA スカラシップ」により海外研修を実施。(9/22-10/15、ミラノ・スカラ座アカデミー)
- ・バレエ研修所第14期生が「ANA スカラシップ」制度によりバレエ研修所初の海外研修を実施。(11/22~12/11、A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー)
- ・オペラ研修所第19期生が「ANA スカラシップ」制度により海外研修を実施。(3/11~24、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場附属オペラ研修所)
- ・いずれも現地講師による充実した指導に加え、研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。

《国際交流》

- ・オペラ研修公演「世界若手オペラ歌手ガラコンサート Le Promesse2018」では、ミラノ・スカラ座、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場、ロンドン・ロイヤルオペラハウスそれぞれに直結するアカデミーから若手オペラ歌手を招いた。19~21期生がリハーサルの段階から合流し良い刺激となった。公演直後に20期生はミラノへ、3月に19期生がミュンヘンへ研修に赴き、そこでも交流を深めることができた。
- ・オペラ研修所にて海外招聘講師によるオペラ劇場を使用したマスタークラス及び小コンサートを実施した(10/16~17)。本格的劇場空間で歌う貴重な経験に加え20期生にとっては直前に実施したミラノ研修の成果発表の場となった。
- ・「バレエ・アステラス2018」では、海外で活躍する日本人ダンサー及びミラノ・スカラ座バレエ・アカデミーの生徒との交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・演劇研修所をカーネギーメロン大学演劇学校の演出コースの学生が訪れ、授業を見学し研修生・講師・研修所スタッフと意見交換等を行った(7/15~19)。
- ・演劇研修所をユースシアターのディレクターが訪問した(9/5)。授業見学、意見交換等を行った。

③研修発表会等の実施

(a) 研修公演（一部再掲）

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数
オペラ研修	オペラ試演会「2つのロメオとジュリエット」	新国立劇場 小劇場	6/30～7/1	2回	458人
オペラ研修	オペラ研修所 歌唱コンサート 「世界若手オペラ歌手ガラコンサート Le Promesse2018」	新国立劇場 オペラ劇場	9/16～17	2回	841人
オペラ研修	修了公演「ドン・ジョヴァンニ」	新国立劇場 中劇場	3/8～10	3回	1,415人
バレエ研修	「バレエ・アステラス2018」	新国立劇場 オペラ劇場	7/28	1回	1,535人
バレエ研修	研修所公演 「バレエ・オータムコンサート2018」	新国立劇場 中劇場	11/17～18	2回	1,511人
バレエ研修	エトワールへの道程2019 新国立劇場バレエ研修所の成果	新国立劇場 中劇場	3/16～17	2回	1,351人
演劇研修	朗読劇「少年口伝隊一九四五」	新国立劇場 小劇場	8/1～4	4回	930人
演劇研修	試演会 「トミイのスカートからミンがとびだした話」	新国立劇場 小劇場	10/26～31	6回	859人
演劇研修	修了公演「るつぽ」	新国立劇場 小劇場	2/8～13	6回	1,299人

- ・オペラ研修公演においては、研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることができた。
- ・オペラ研修公演「世界若手オペラ歌手ガラコンサート LE PROMESSE2018」は、ミラノ・スカラ座、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場、ロンドン・ロイヤルオペラハウスそれぞれに直結するアカデミーから若手オペラ歌手を招き、既に活躍中のオペラ研修所修了生も交えての拡大版歌唱コンサート。19～21期生がリハーサルの段階から交流を深め同じ舞台に立てたことは、国際的なキャリアをめざすうえで貴重な経験となった。
- ・バレエ研修公演においては、クラシカル・バレエでは古典作品からの抜粋やパ・ド・ドゥを取り上げ、研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。
- ・「バレエ・アステラス2018」に参加し、海外で活躍する日本人ダンサー及びミラノ・スカラ座バレエ・アカデミーの生徒との交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・第12期生の朗読劇、試演会、修了公演とも多くの観客に研修の成果を披露することができた。朗読劇に先立っては戯曲の舞台となる広島での国内研修も実施するなど、密度の濃い研修ができた。公演へはマネジメント事務所への積極的な働きかけが奏功して関係者が多数来場し、修了後の進路選定に寄与した。
- ・第13期生、第14期生も研修公演において舞台裏や表周りのスタッフとして参加し、公演創作について多くのことを学ぶ貴重な機会となった。

(b) その他出演

- ・バレエ研修所第14期生、第15期生、予科生、修了生がロシア・モスクワにて開催された「A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー創立280周年記念ガラ・コンサート」に、「ロシアにおける日本年」事業として参加。(6/19 ボリショイ劇場、6/20 国立クレムリン宮殿) ボリショイ劇場稽古場では韓国国立芸術大学舞踊アカデミー、デンマーク・ロイヤル・バレエ学校等の生徒たちとレッスンやリハーサルを実施。ロシアでの記者会見には牧阿佐美研修所長も登壇。

④次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
オペラ	9/11～10/18	49名	46名	5名	願書受付(7/20-8/8)
バレエ	12/2～9	49名	47名	7名	願書受付(9/25-10/23)
バレエ予科	12/8～9	37名	36名	2名	願書受付(9/25-10/23)
演劇	1/23～27	85名	72名	16名	願書受付(12/3-20)

⑤外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、29年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(5/16)。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

(3) 現代舞台芸術の実演家の研修の実施に当たっての留意事項

ア 修了者の活動状況等、養成事業の周知

- ・バレエ研修所専用の Facebook・Twitter を開設(6/18)。
- ・オペラ研修所が tumblr を開始(8/27)。
- ・演劇研修所が Twitter を開始(12/2)。
- ・ホームページや SNS (Facebook, Twitter, tumblr) を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。各研修所が専用の SNS を開設したことで連続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。
- ・第 54 回日伊声楽コンソルトにおいて、オペラ研修所第 18 期修了生 砂田愛梨が第 3 位及び歌曲賞を受賞。
- ・第 16 回東京音楽コンクールにおいて、オペラ研修所第 15 期修了生 小堀勇介、第 16 期修了生 種谷典子が第 2 位を受賞、また、第 18 期修了生 宮地江奈が入選。
- ・ANA 国内線機内にて、「ANA スカラシップ」により平成 30 年 3 月に行われたオペラ研修生の海外研修の研修風景、及び、9 月 16 日、17 日に開催する世界若手オペラ歌手ガラコンサート「LE PROMESSE 2018」の紹介映像を放映(8 月、1 ヶ月間)。
- ・オペラ研修所第 20 期生平野柚香が出演した NHK BS プレミアム「美と若さの新常識～カラダのヒミツ～」が放送された(6/26・11/6、NHK BS プレミアム)。
- ・第 12 回マグダ・オリヴェーロ国際声楽コンクールにおいて、オペラ研修所第 18 期修了者 砂田愛梨が第 3 位および特別賞を受賞。
- ・修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果を HP に掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介。
- ・研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では 8 月に夏期特別講習会を実施した。演劇研修所では 8 月と 11 月にオープンスクールを実施したほか、10～12 月に説明会を開催した。東京のみならず兵庫と仙台でも開催した。

イ 全国の文化施設、学校等と協力した研修生及び研修修了者によるワークショップ等

区分	イベント名	期間	会場	料金	出演者・内容・備考等	参加者数
演劇研修	芸術体験ひろば「ふしぎたっぷり、あそびはらっぱ！」	5/5	芸能花伝舎内演劇研修所	無料	演劇研修所第 12 期研修生、飯原道代講師 主催：芸団協・芸能花伝舎、新宿区(文化体験プログラム)	84 人
演劇研修	芸術体験ひろば「音でつくる物語」	5/5	芸能花伝舎	無料	演劇研修所第 12、13 期研修生 飯原道代講師 主催：芸団協・芸能花伝舎、新宿区(文化体験プログラム) 日本舞台音響家協会のプログラムに協力	-
演劇研修	演劇研修所 アウトリーチ	6/25	東京都立葛飾盲学校	-	第 12 期研修生、飯原道代講師 訪問演劇活動	48 人
演劇研修	平和祈念展示資料館 秋の特別イベント	11/11	平和祈念展示資料館(新宿区)	無料	演劇研修所修了者によるリーディング公演 平和祈念展示資料館(総務省委託)のイベントに協力。	77 人
演劇研修	新国立劇場ドラマスタジオ ワークショップ	3/23・24	福岡県春日市ふれあい文化センター	無料	演劇研修所第 12 期研修生、飯原道代講師、田中麻衣子コーチ 小学生向けワークショップ「絵本の世界を演じてみよう！」 高校生向けワークショップ「戯曲を読むことからはじめよう！」	19 人 14 人

ウ 応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
演劇研修	演劇研修所 オープンスクール	8/18 8/19	オーケストラ リハーサル室	3,000 円	カリキュラムの一部を体験	53 人	53 人	60 人	96.0%
バレエ研修	バレエ研修所 夏期特別講習会	8/26	バレエ リハーサル室 他	7,560 円	次年度入所希望者を対象に クラスレッスン等を実施	76 人	—	79 人	96.5%
演劇研修	演劇研修所 説明会	10/27	新国小劇場ク ローク前	無料	研修所・選考試験の説明、 研修生との懇談・質疑応答	40 人	52 人	52 人	97.0%
演劇研修	演劇研修所 オープンスクール	11/23	合唱リハーサル 室	2,000 円	カリキュラムの一部を体験 研修所・選考試験の説明、 研修生との懇談・質疑応答	31 人	32 人	38 人	100.0%
演劇研修	演劇研修所 説明会	11/24	兵庫県ピッコロシ アター中ホール	無料	ミニワークショップ、研修所・ 選考試験の説明、研修生と の懇談・質疑応答	10 人	16 人	16 人	100.0%
演劇研修	演劇研修所 説明会	12/1	芸能花伝舎	無料	研修所・選考試験の説明、 研修生との懇談・質疑応答	12 人	28 人	28 人	92.0%
演劇研修	演劇研修所 説明会	12/8	せんだい演劇工 房 10-BOX	無料	ミニワークショップ、研修所・ 選考試験の説明、研修生と の懇談・質疑応答	10 人	12 人	12 人	100.0%

エ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 (12/4)

講師：吉田和生(人形浄瑠璃文楽 人形遣い、重要無形文化財保持者(人間国宝))

講義内容：「良き舞台人になるために」

会場：伝統情報館レクチャー室及び本館小劇場ロビー(講義)、第1会議室(交流会)

参加者：研修生 52 名(歌舞伎俳優 6 名、竹本 2 名、鳴物 1 名、長唄 2 名、寄席囃子 2 名、能楽 4 名、
組踊 10 名、オペラ研修所第 21 期生 5 名、バレエ研修所第 15 期生 5 名、演劇研修所第 14
期生 15 名)

オ 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、公共劇場舞台芸術者連絡会、劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会、公共劇場技術者連絡会への職員の派遣、秋に開館した札幌文化芸術劇場への協力、連携協定大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.157
└ ア 伝統芸能に関する調査研究	p.159
└ イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用	p.161
└ ウ 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.167

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.171
└ ア 主催公演の上演作品等についての資料調査	p.173
└ イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用	p.174
└ ウ 資料等の展示公開	p.175
└ エ 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.175

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評定	A
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能分野ではすべての数値目標を達成した。 ・ 35周年を迎えた国立能楽堂、15周年を迎えた国立劇場おきなわでの展示は目標入場者数を上回った。 ・ 伝統芸能情報館及び演芸資料館において開催した「悪」を共通テーマにした連携展示や、現代舞台芸術分野で都内観光施設を利用した初の展示イベントを神田明神文化交流館にて開催するなど、外部機関と連携して、意欲的な企画を行った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	各ジャンル《公演実績》参照
主要な業務実績	<p>〈1〉 伝統芸能分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刊行及び刊行準備を計画どおり実施し、正本写合巻集については、上演演目に因んだ刊行とし、専門機関、研究者のみならず、幅広く一般への活用を図った。なお、年度計画では2冊の刊行であったが、計画より1冊上回る刊行を達成し、研究成果の普及に努めた。 ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「歌舞伎への誘い」多言語版(8言語)作成 <p>〈2〉 現代舞台芸術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ・演芸部門で講座等を開催し、新鮮な切り口で作品内容への関心と理解を促した。 ・ 日本スペイン外交関係樹立 150周年を記念しスペイン・マドリードの王立劇場（テアトロ・レアル）と新国立劇場がお互いの公演映像を上映しあう上映会を開催。スペインで上映した映像は凱旋上映会として新国立劇場でも上映した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能分野では研究成果の活用・普及のため、刊行物の中から文化デジタルライブラリーへ掲載すべき情報の選定を開始した。 ・ 他館との連携を引き続き実現していくための方策を検討する。 ・ 伝統芸能分野のデジタルコンテンツについて、現在のインターネット環境に適合しない内容のものが残っており、多言語化を含め引き続きリニューアルを実施していく ・ 現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、権利処理や活用の方法について検討を続けたい。

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究を計画どおり実施し、上演資料集、近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集を刊行したほか、正本写合巻集については目標を上回る追加刊行（年度計画目標2冊、実績3冊）が果たされた。 ・ 伝統芸能情報館及び演芸資料館において、多分野連携企画として、関係する4つの外部機関と、「悪」を共通テーマにした連携展示を企画した。 ・ 国立能楽堂のすべての展示で来場者数が目標を超えた（達成度平均121.3%）。特に収蔵資料展と企画展は158.6%と139.0%と高い達成度を獲得した。 ・ 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」と国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」の2冊の図録を刊行し、学術的に意義のある論考も掲載した。 ・ 資料の収集及び活用においては、錦絵、プロマイド等の登録を積極的に行った結果、計画に沿った成果を達成することができた。 ・ 伝統芸能情報館の、企画展示の都度、シアタースペースで展示内容に因んだ公演記録映像や入門映像コンテンツの有効活用を図った。また、各館において展示と関連した講座を実施したことにより、伝統芸能とその関係資料に対する理解と興味を促した結果、来場者数は目標を大幅に上回るとともに、高い満足度を得た。 ・ 国立能楽堂のすべての展示で、キャプションを日本語、英語表記とし、出品目録は、日本語、英語、中国語（簡）、韓国語表記で無料配布した。 ・ 国立劇場おきなわでは、開場15周年を記念した展示、講座、公演記録鑑賞会などを計画どおり実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数：784,782件/510,000件（153.9%） 展示公開の実施回数：22回/19回（115.8%） 展示公開の来場者数：247,508人/201,658人（122.7%） 講座等の実施回数：55回/50回（110.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 伝統芸能に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刊行及び刊行準備を計画どおり実施し、正本写合巻集については、上演演目に因んだ刊行とし、専門機関、研究者のみならず、幅広く一般への活用を図った。なお、年度計画では2冊の刊行であったが、計画より1冊上回る刊行を達成し、研究成果の普及に努めた。 ・ 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」と国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」の2冊の図録を刊行し、学術的に意義のある論考も掲載した。 <p>イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能全般の文献（図書・解説書・台本・雑誌等）、図画（錦絵・番付・絵画等）、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施 ・ 外部展示への資料の貸出（11件） ・ プロマイド260点ほかのデータベース化、登録、公開 ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「歌舞伎への誘い」多言語版（8言語）作成 ・ 各展示室において、利用者の利便性向上のため、展示解説文の多言語化を実施 ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、目標来場者数を達成。国立能楽堂では達成度平均121.3%であり、特に収蔵資料展と企画展は158.6%と139.0%と高い達成度を獲得した。 ・ 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」と国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」の2冊の図録を刊行・販売し、大変好評であった。 ・ 文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」のフランス語版を英語版、中国語（簡体）版、韓国語版に引き続き作

	<p>成し、文楽劇場資料展示室にて配架</p> <p>(3) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館で主催公演について、映像・写真等による記録を作成 ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供 ・各館で公開講座等を計画どおり実施 ・国立能楽堂公開講座において、国立能楽堂開場 35 周年記念「公演記録映像でふりかえる」で、7月に能、8月に狂言、9月に復曲・新作をテーマに3回開催し、公演記録映像を活用
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の活用・普及のため、刊行物の中から文化デジタルライブラリーへ掲載すべき情報の選定を開始した。 ・他館との連携を引き続き実現していくための方策を検討する。 ・デジタルコンテンツについて、現在のインターネット環境に適合しない内容のものが残っており、多言語化を含め引き続きリニューアルを実施していく。

〈2〉現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の上演演目に関する調査研究の一環として、演劇部門でマンスリー・プロジェクトを実施、年度後半もギャラリー・プロジェクトとして引き続き講座等を開催した。 ・演劇のみならずオペラ部門でも新制作演目に関する講座を実施し、新しい切り口で作品内容への関心と理解を促した。 ・特別展示「日本の現代舞台芸術」には年表とともにタブレット端末を備え、掲載項目の詳しい内容が検索できるようにした。 ・情報センターでは主催公演にあわせて関連書籍等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。劇場内ギャラリー等の展示と連動し訪れやすい環境を整えた。 ・新しい劇場が開館した札幌、オペラ鑑賞教室関西公演会場の京都など、外部展示に積極的に協力し舞台装置や模型、衣裳などを貸し出すとともに公演記録写真を提供した。 ・都内観光施設を利用した初の展示イベントを神田明神文化交流館にて開催、舞台装置模型・衣裳を展示のほかにミニ・オペラコンサートも行った。 ・舞台美術センター及び情報センターでの公演映像上映会を月例で実施するなど現代舞台芸術の普及に努めた。 ・民間出版社から演劇3作品の戯曲が刊行。また新国立劇場バレエ団の新しい公演映像2本がDVD BOOKとして販売された。 ・日本スペイン外交関係樹立150周年を記念しスペイン・マドリードの王立劇場（テアトロ・リアル）と新国立劇場がお互いの公演映像を上映しあう上映会を開催。スペインで上映した映像は凱旋上映会として新国立劇場でも上映した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>展示公開の実施回数：8回/7回（114.3%） 展示公開の来場者数（舞台美術センター）：723人/800人（90.4%） 講座等の実施回数：73回/53回（137.7%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 主催公演の上演作品等についての資料調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催 ・海外の演劇都市及び国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載 ・特別展示「日本の現代舞台芸術」を引き続き実施 <p>イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センターの利用促進のため各劇場及び公開空地と連動した展示・イベントを実施 ・札幌文化芸術劇場 hitaru の開場に合わせオペラ「アイダ」の装置・衣裳等を貸出、本郷新記念札幌彫刻美術館において展示 ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせ、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示 ・都内観光施設における初の展示イベントを開催 <p>(3) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施 ・情報センター及び舞台美術センター資料館において公演記録映像を活用した上映会を月例で上映、「夏のこどもシアター」等も実施 ・主催公演の実施に合わせた関連講座、展示等を実施。適宜ホームページに情報掲出 ・日本スペイン外交関係樹立150周年を記念しスペイン・マドリードの王立劇場（テアトロ・リアル）と新国立劇場がお互いの公演映像を上映しあう上映会を開催 ・舞台美術センター資料館の活用方法、施設の在り方について検討するため、来館者アンケートを開始した。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、権利処理や活用の方法について検討を続けたい。

4 - (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- ④ 作成する刊行物の提供方法等については引き続き検討し、一層の効果的な活用を図る

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開

収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開

公開に際しては、関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化に努める

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、高知県高知市に伝わる山内家の能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究
その成果については次のとおり刊行等を実施
研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十三巻
 - (b) 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」図録
 - (c) 「義太夫年表」及び「琉球・沖縄芸能史年表」の刊行準備
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、
その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布
 - (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第二冊
 - (b) 未翻刻戯曲集第二十五巻
 - (c) 正本写合巻集22・23

- ④ 調査研究の成果については、従来の刊行等に加え、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理

公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施

図書については開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

博物資料等については適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用を努める

- ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり実施

(a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化

(b) デジタルコンテンツの充実

i. 文化デジタルライブラリーユネスコ無形文化遺産コンテンツ「歌舞伎への誘い」の多言語版の製作

ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数:510,000件

(c) 収集した資料等の展示公開(別表9)

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

(d) 展示図録の刊行

i. 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」図録(能楽堂・再掲)

ii. 国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」図録(能楽堂)

- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、伝統芸能及び現代舞台芸術の研究等に活用

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

- ① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表10のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

- ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	247,508人 (H25-29 実績平均:220,130.0人)
4-2 文化デジタルライブラリーアクセス件数 (前中期目標期間実績以上)	784,782件 (H25-29 実績平均:820,713.0件)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P.23 参照
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P.167 に掲載

ア 伝統芸能に関する調査研究

①上演資料集

区分	演目名	刊行数
歌舞伎	国立劇場上演資料集<628>第 93 回歌舞伎鑑賞教室公演「連獅子」、<629>第 94 回歌舞伎鑑賞教室公演「日本振袖始—八岐大蛇と素戔嗚尊」、<631>第 309 回歌舞伎公演「平家女護島」、<632>第 310 回歌舞伎公演「名高大岡越前裁」、<633>第 311 回歌舞伎公演「増補双級巴—石川五右衛門」、<636>第 312 回歌舞伎公演「姫路城音菊礎石」、<638>第 313 回歌舞伎公演「元禄忠臣蔵—御浜御殿綱豊卿」「積恋雪関扉」	7 冊
文楽	国立劇場上演資料集<627>第 203 回文楽公演「本朝廿四孝」「義経千本桜」「彦山権現誓助剣」、<630>第 204 回文楽公演「良弁杉由来」「増補忠臣蔵」「夏祭浪花鑑」、<634>第 50 回文楽鑑賞教室公演「団子売」「菅原伝授手習鑑」、<635>第 205 回文楽公演「鎌倉三代記」「伊達娘恋緋鹿子」、<637>第 206 回文楽公演「桂川連理柵」「大経師昔暦」「鷗山姫捨松」「壇浦兜軍記」	5 冊
組踊	国立劇場おきなわ上演資料集<No.44>「平敷屋朝敏 ～哀・愛しゃ～」、<No.45>「運天の若按司敵討」	2 冊
合計		14 冊

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
国立劇場上演資料集<636>第 312 回歌舞伎公演「姫路城音菊礎石」	102 人	52 人	-	50 人	51.0%	96.2%
国立劇場上演資料集<634>第 50 回文楽鑑賞教室公演「団子売」「菅原伝授手習鑑」、<635>第 205 回文楽公演「鎌倉三代記」「伊達娘恋緋鹿子」	94 人	49 人	-	45 人	51.1%	91.8%
国立劇場おきなわ上演資料集<45>「運天の若按司敵討」	58 人	31 人	-	22 人	53.4%	71.0%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 上演年表や図版、過去の劇評などの記録を、演目毎に網羅的に読める上演資料集はとても貴重で、今後も刊行を継続していただきたい。
- ・ 上演年表の公開を是非ともお願いしたい。
- ・ 上演資料を刊行すること、資料を翻刻して提供すること、埋もれた資料を掘り起こすこと、すべて伝統芸能の存続にきわめて有意義な事業ばかりである。地道な継続にこそ価値があることを、食欲にアピールする必要があるのではなかろうか。
 <その他外部専門家からの意見>
- ・ 毎号、特に新旧の専門家の見解を楽しく読み勉強させていただいている。
- ・ 義太夫の稽古に来る若い御弟子の人に研究家が多いので役に立っている。
- ・ 「鎌倉三代記」「伊達娘恋緋鹿子」の歌舞伎と（文楽との）違いに興味を持ったので資料集はとても嬉しい。

②興行、上演に関する記録の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十三巻	2019 年 3 月
	国立能楽堂開場 35 周年記念特別展「土佐山内家の能楽」図録	2018 年 8 月
	国立能楽堂開場 35 周年記念企画展「囃子方と楽器」図録	2019 年 1 月
刊行準備	「義太夫年表 昭和篇」第五巻	—
	「琉球・沖縄芸能史年表」第十二集	—

- ・ 国立能楽堂開場 35 周年記念特別展「土佐山内家の能楽」では、土佐藩主山内家に残る能楽資料を初めて東京で紹介した。展示図録には、借用先である高知県立高知城歴史博物館学芸員尾本師子氏の論考「土佐山内家の歴史と伝来資料について」と、展示監修者宮本圭造法政大学能楽研究所教授による土

佐山内家の能楽に関する近代まで網羅した広い視点での論考「土佐山内家の能楽」と、現存面だけでなく各地に散逸した山内容堂旧蔵面まで考察した「土佐山内家の能狂言面と山内容堂」を掲載し、新見解が満載の、学術的に価値のある参考文献となった。

- 国立能楽堂開場 35 周年記念企画展「囃子方と楽器」では、一般社団法人東京能楽囃子科協議会の協力により、同協議会会員が所蔵する名器の数々を集めて展示した。展示図録では、囃子方の誕生成立に関する論考「囃子方諸流の成立と系譜」宮本圭造法政大学能楽研究所教授と、楽器の成立に関する論考「能の囃子の成立過程」高桑いづみ東京文化財研究所特任研究員を掲載し、最新の研究に基づいた、学術的に価値のある参考文献となった。一般からの図録の評判も高く、378 冊とこれまでの特別展・企画展では最多販売数となった。

《アンケート結果》

2019 年 6 月 14 日時点

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十三巻	102 人	58 人	51 人	50 人	56.9%	98.0%

《調査事業委員会における外部専門家からの主な意見》

- 上演資料集や国立能楽堂展示図録は、民間や商業目的では出版が困難な、長く残る資料的価値の高い文献である。
- 能楽堂の特別展「土佐山内家の能楽」と企画展「囃子方と楽器」の図録は、いつもながら非常に充実していた。単なる出品物のカタログという意味合いだけではなく、読み応えのある学術的な解説も掲載され、研究書としても有用な刊行物となっていた。地方在住の能楽愛好者から、展示には行けないが図録だけはほしいという声を聞いた。全国の能楽愛好者、研究者からの期待も大きいと思う。今後も現在のクオリティを維持した図録の刊行を期待したい。

③古文書等の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	演芸資料選書 12「御屋舗番組控」第二冊	2018 年 10 月
	未翻刻戯曲集第二十五巻「木下曾我恵・路」きのしたそがめぐみのまさごじ	2019 年 3 月
	正本写合巻集 22「天一坊大岡政談」てんいちぼうおおおかせいだん	2018 年 11 月
	正本写合巻集 23「木下闇緑林」にしたやみみどりのはやし	2018 年 12 月
	正本写合巻集 24「東駅いろは日記」とうかいどういろはにっき	2019 年 3 月
刊行準備	未翻刻戯曲集第二十六巻	—
	正本写合巻集 25・26	—
	歌舞伎俳優名跡便覧(第五次修訂版)	—

- 正本写合巻集 22・23 は自主公演の上演演目に因んだ刊行とし、専門機関・研究者のみならず、幅広く一般への活用を図った。なお、正本写合巻集は、年度計画では 2 冊の刊行であったが、研究成果のさらなる普及を図るため、正本写合巻集 24「東駅いろは日記」を追加で刊行した。
- 刊行告知を以下のとおり行った。

演芸資料選書 12「御屋舗番組控 二」

- ◇ 振興会 HP・公演解説書(10 月歌舞伎・1 月邦楽)
- ◇ 東洋音楽学会第 69 回大会プログラム(11 月 10・11 日。於：大正大学。表 4 広告)
- ◇ 東京藝術大学附属図書館 HP・facebook
- ◇ 邦楽ジャーナル Vol. 383(12 月 1 日発行)

未翻刻戯曲集第二十五巻「木下曾我恵礫路」

(12 月歌舞伎公演「増補双級巴一石川五右衛門」関連の未翻刻戯曲)

- ◇ 振興会 HP

正本写合巻集 22「天一坊大岡政談」(11 月歌舞伎「名高大岡越前裁」関連の正本写)

- ◇ 振興会 HP・公演解説書(11 月歌舞伎)

正本写合巻集 23 「木下闇緑林」(12月歌舞伎公演「増補双級巴一石川五右衛門」関連の正本写)

◇ 振興会 HP・公演解説書(12月歌舞伎)

正本写合巻集 24 「東駅いろは日記」

◇ 振興会 HP・公演解説書(3月歌舞伎)

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・「未翻刻戯曲集」「正本写合巻集」「御屋舗番組控」など、基礎資料の刊行が着々となされているのは良いことである。また、刊行したものについて公開講座などを行ってはどうか？注目も集まり、面白い内容になるのではないか。
- ・演芸資料選書 12「御屋舗番組控 二」は、屋敷位置や出演者の比定、演目の初演や作詞作曲者の解説など詳細な分析がされている。まさに国立劇場の事業ならではの、年月を要する調査作業であり、高く評価したい。

<その他外部専門家からの意見>

- ・演芸資料選書 12「御屋舗番組控 二」は、大名屋敷にも長唄演奏が入る様子がよくわかった。江戸における音楽芸能の需要と供給の関係について知る材料として活用したい。
- ・演芸資料選書 12「御屋舗番組控」は、第一級の資料の翻刻出版だと思います。こうした地味ながら学術的な成果を出していく事が国立劇場の研究事業に求められることだと思います。
- ・演芸資料選書 12「御屋舗番組控 二」は、影印と翻刻と注解が1頁に納められていて、見やすく、利用しやすい。

④調査研究の成果の活用

- ・『歌舞伎評判記集成第三期』第2巻月報(平成31年2月刊行、和泉書院)において、上演資料集<631>第309回歌舞伎公演「平家女護島」が活用された。
- ・調査研究成果の積極的な発信のため、パリディドロ大学(仏)、コレージュドフランス(仏)、トリア大学(独)の研究機関等へ刊行物を寄贈した。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、今後増加が見込まれる海外からの観光客や観劇客の理解と興味を深めるため、デジタルコンテンツの多言語化を進める。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

①図書・資料の収集整理、公開、活用

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開				
	図書	資料	閲覧室 利用者数※	開室日	写真複製 使用	博物資料 閲覧	視聴利用
伝統芸能情報館	2,341冊	2,299点	4,112人	256日	364件	13件	1,077件
能楽堂	774冊	1,130点	3,705人	237日	70件	1件	2,310件
文楽劇場	479冊	265点	977人	239日	44件	0件	670件
国立劇場おきなわ	557冊	207点	2,497人	244日	23件	0件	1,441件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架。
- ・ 伝統芸能情報館情報展示室は、社会人のための歌舞伎鑑賞教室・文楽鑑賞教室の公演日において、来場者の利用に配慮して開演時間まで開室時間を延長。
- ・ 国立劇場おきなわ 15周年に合わせ、1~3月にかけて過去の自主公演のチラシの展示を行った。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
伝統芸能資料館図書閲覧室(2/5~3/28)	140人	114人	114人	93人	81.4%	81.6%
能楽堂図書閲覧室(3/13~3/28)	75人	70人	68人	66人	93.3%	97.1%
文楽劇場図書閲覧室(7/2~11/28)	34人	34人	34人	30人	100.0%	88.2%
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1~3/31)	16人	16人	16人	13人	100.0%	81.2%

(b) 活用実績

分野	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
伝統芸能情報館	展覧会「江戸の悪 Part II」	太田記念美術館	太田記念美術館	錦絵貸出	6/2~7/29
伝統芸能情報館	企画展「マジック・ランタン 光と影の映像史」	東京都写真美術館	東京都 東京都写真美術館、日本経済新聞社	錦絵貸出	8/14~10/14
伝統芸能情報館	秋季特別展「歌舞伎衣裳 綺羅をまとう」	石川県立歴史博物館	石川県立歴史博物館	錦絵貸出	9/22~11/11
伝統芸能情報館	特別展「江戸の園芸熱 -浮世絵に見る庶民の草花愛-」	たばこと塩の博物館	たばこと塩の博物館	錦絵貸出	1/31~3/10
能楽堂	「河鍋家伝来・河鍋暁斎記念美術館所蔵 暁斎・暁翠伝」展	東京富士美術館	東京富士美術館、河鍋暁斎記念美術館、トランスパシフィックエンタープライズ	文献・展示用作り物を貸出	4/1~6/24
能楽堂	「ホテルで楽しむ能 ~想いを募らせた女の情念~」	京王プラザホテル 3階アートロビー	株式会社京王プラザホテル	能面、能装束、絵画等貸出	6/1~27
文楽劇場	「ポスターから見る文楽」展	大阪市立中央図書館	大阪市立中央図書館	過去の文楽公演ポスターと文楽人形首の製作工程の貸出	6/8~7/4
文楽劇場	飛鳥 II 文楽クルーズ	飛鳥 II	郵船クルーズ株式会社	文楽人形・かしら、文楽解説パネル、文楽紹介用DVD等貸出	9/28~9/30
文楽劇場	国立文楽劇場 初春公演のご案内	阪神高速ミナミ交流プラザ (LoopA)	阪神高速道路株式会社	文楽絵看板、文楽解説パネル等文楽関連資料貸出	12/6~1/8
国立劇場おきなわ	那覇市歴史博物館企画展「金武家資料展」	那覇市歴史博物館	那覇市歴史博物館	金武良章氏関係資料(公演パンフレット、写真)等貸出	1/8~3/18
国立劇場おきなわ	春秋座特別公演「琉球舞踊と組踊」ロビー展示	京都・春秋座ロビー	京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	紅型衣裳・組踊紹介パネル等	2/23

- ・ 日経新聞朝刊連載 美の十選「江戸の芝居小屋」(9/28~10/16、全10回)：国立劇場所蔵の錦絵等を活用して石橋主席芸能調査役が執筆した。

②資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	逐次刊行物等 4,000件	本館所蔵の貸劇場の公演プログラム 4,000件を図書管理システム・国立情報学研究所のデータベースに登録。

資料	260 点	新たに考証・整理が終了したプロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)を文化デジタルライブラリーに追加登録。
上演情報	120 公演	歌舞伎 10 公演、文楽 9 公演、舞踊・邦楽 9 公演、雅楽・声明 5 公演、民俗芸能 2 公演、特別企画 3 公演、能・狂言 38 公演、大衆芸能 44 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	21,674 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で 30 年 7 月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。
扮装図鑑	13 公演	国立劇場で 27 年 12 月から 30 年 6 月に上演された歌舞伎公演(鑑賞教室含む)・文楽公演(鑑賞教室含む)の「扮装図鑑」を文化デジタルライブラリーに登録。

(b) デジタルコンテンツの充実

i. ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「歌舞伎への誘い」の多言語版製作

- ・簡体中国語、繁体中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語翻訳版を付加し、合わせてコンテンツ全体のデザインやレイアウトを見直し、スマートフォンやタブレットでも視聴しやすいものに改良した。

ii. 文化デジタルライブラリーアクセス件数

784,782 件 (計画: 510,000 件/達成率: 153.9%)

※平成 30 年 6 月から、自動巡回ロボット等によるアクセスを除外できる解析ツールに変更。

これにより、アクセス動向について一層的確な分析が可能になる一方で、当初から件数は 3~5 割減少が見込まれていたものである。

(c) 資料の展示公開

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数(実績)	来場者数(計画)
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示 「役者絵の世界ー文化・文政期の名優たちー」	4/1~5/28	58 日	9,879 人	6,597 人
	企画展示「悪を演るー歌舞伎の創造力ー」	6/2~9/24	114 日	29,661 人	19,707 人
	企画展示「黙阿弥の明治」	10/1~1/27	114 日	21,946 人	15,414 人
	企画展示「役者絵の世界 II」	2/2~3/31	57 日	11,964 人	9,091 人
	合計		343 日	73,450 人	50,809 人
演芸場 資料展示室	演芸資料展 I「悪を演るー落語と講談ー」	4/1~7/22	97 日	15,314 人	13,744 人
	演芸資料展 II「<落語>味わいどころ 所作どころ」	7/28~11/25	100 日	15,042 人	14,032 人
	演芸資料展 III「百の顔を持つ男、波多野栄一」	12/1~3/24	90 日	14,085 人	12,836 人
	合計		287 日	44,441 人	40,612 人
能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	4/26~7/7	63 日	9,978 人	8,700 人
	国立能楽堂開場 35 周年記念 特別展「土佐山内家の能楽」	8/30~11/4	58 日	9,594 人	8,990 人
	国立能楽堂開場 35 周年記念 収蔵資料展	11/10~12/23	38 日	6,577 人	4,147 人
	国立能楽堂開場 35 周年記念 企画展「囃子方と楽器」	1/5~3/21	54 日	9,761 人	7,020 人
	合計		213 日	35,910 人	29,607 人
文楽劇場 資料展示室	企画展示「吉田玉助の系譜」	4/7~5/27	51 日	15,113 人	13,930 人
	常設展示「文楽入門」	6/8~8/26	72 日	25,543 人	24,020 人
	企画展示「文楽人形 衣裳の美」	9/15~12/2	79 日	22,892 人	14,510 人
	常設展示「文楽入門」	1/3~3/17	74 日	15,973 人	16,170 人
	合計		276 日	79,521 人	68,630 人
	企画展「作家・大城立裕」	4/14~6/24	72 日	2,719 人	3,096 人

国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「夏を涼しむ琉球舞踊」	7/7～9/16	72日	3,352人	3,096人
	企画展「沖縄芝居」	10/6～12/16	72日	3,309人	3,096人
	企画展「盆の芸能ー中国、大和と沖縄ー」	1/12～3/17	65日	2,646人	2,712人
	男性舞踊家の会おでかけ公演写真展	4/1～4/21	21日		
	公演関係展示(大劇場ホワイエ)	随時	5日	2,160人	
	開場十五周年特別企画パネル展 「国立劇場おきなわ 15年のあゆみ」	1/4～3/23	79日		
	合計		386日	14,186人	12,000人
伝統芸能分野 合計		22回	1,505日	247,508人	201,658人

- ・ 演芸資料展「悪を演るー落語と講談ー」(4/1～7/22)及び伝統芸能情報館企画展示「悪を演るー歌舞伎の創造力ー」(6/2～9/24)は、多分野連携展示「悪」として東洋文庫ミュージアム、太田記念美術館、國學院大學博物館、ヴァニラ画廊と、「悪」という共通テーマで開催。
- ・ 多分野連携展示「悪」のオープニングセレモニーが開催され、振興会からは田村調査養成部長が出席し、連携各館の代表とともにテープカットを実施。(6/5、東洋文庫ミュージアム)
- ・ 多分野連携展示「悪」のトークイベントとして「悪トーク 多分野連携展示「悪」を語る」を開催、振興会からは石橋主席芸能調査役が参加。(5/6、太田記念美術館)

i. 伝統芸能情報館

- ・ 閲覧室に毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架。
- ・ 半蔵門駅構内のポスターボードに開催中の展示のポスターを掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・ 企画展示「悪を演るー歌舞伎の創造力ー」では、多分野連携企画として、太田記念美術館、東洋文庫、國學院大學、ヴァニラ画廊の関係する4つの外部機関と「悪」という共通テーマで連携展示を企画し、収蔵資料の効果的な活用を図った。伝統芸能情報館では、歌舞伎における「悪」をテーマに展示。
- ・ 「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中営業部と協力して、来場する親子等に対し、伝統芸能情報館を含む国立劇場敷地内でのスタンプラリーに併せて展示を鑑賞してもらう企画を実施。
- ・ 「あぜくらの集い 明治の黙阿弥と実録物」(講師は神山彰氏<明治大学教授>)において、参加者を対象に企画展示「黙阿弥の明治」を特別に公開。(9/29)
- ・ 明治150年記念企画展示「黙阿弥の明治」では、明治150年を記念して幕末から明治時代にかけて歌舞伎作者として活躍した河竹黙阿弥について、河竹家から寄贈された黙阿弥所縁の貴重な資料を中心に紹介した。
- ・ 企画展示「役者絵の世界Ⅱー幕末の名優たちー」では、「役者絵の世界ー文化・文政期の名優たちー」に続き、国立劇場が所蔵する役者絵の中から、四代目市川小團次や八代目市川團十郎など天保時代から幕末にかけて活躍した役者絵を中心に展示。
- ・ 企画展示「役者絵の世界Ⅱー幕末の名優たちー」開催に因み、伝統芸能講座「役者絵を読み解くⅡ」を実施し、監修者である主席芸能調査役が展示資料とその歴史的背景を解説した。

ii. 演芸場

- ・ 演芸資料展「悪を演るー落語と講談ー」では、多分野連携企画として、太田記念美術館、東洋文庫、國學院大學、ヴァニラ画廊の関係する4つの外部機関と「悪」という共通テーマで連携展示を企画し、収蔵資料の効果的な活用を図った。演芸資料館では、落語や講談における「悪」をテーマに展示。
- ・ 演芸資料展「落語 味わいどころ所作どころ」では、寄席でみられる落語の所作を、公演記録写真や所蔵資料で古典から新作までさまざまな演目とともに紹介。
- ・ 演芸資料展「百の顔を持つ男、波多野栄一」では、その独特な芸風で昭和の演芸界に大きな存在感を示した波多野栄一の魅力を代表的な芸である「百面相」を中心に衣裳、小道具、江戸東京博物館提供による映像などで紹介した。

iii. 能楽堂

- ・ すべての展示で来場者数が目標を超えた(達成度平均121.3%)。特に収蔵資料展と企画展は158.6%と139.0%と高い達成度を獲得した。
- ・ すべての展示で、キャプションを日本語、英語表記とし、出品目録は、日本語、英語、中国語(簡)、韓国語表記で無料配布した。
- ・ 入門展「能楽入門」では、日本語、英語、中国語(簡)、韓国語による解説を付したパンフレット及び

出品目録を作成して無料配布した。

- 取材により東京新聞に入門展「能楽入門」が大きく掲載され、能楽堂の周知及び集客に貢献した。
- 国立能楽堂開場 35 周年記念特別展「土佐山内家の能楽」では、開館したばかり（2017 年 3 月開館）の高知県立高知城歴史博物館が所蔵する能楽資料を展示した。今回のように外部でまとまった形で展示されるのは初めてのことである。併せて、明治以降に土佐山内家から流出した国立能楽堂所蔵の能装束を展示し、初めて流出経緯も判明した。また「山内容堂と能」の章を設け、明治初期に散逸した山内容堂旧蔵能面（金春宗家所蔵と国立能楽堂所蔵）を展示した。これらと監修者の論考により、江戸期の山内家の能楽だけでなく、明治以降の流出の経緯等も、初めて明らかになった。特に山内容堂旧蔵能面については注目を集め、NHK は特別展期間中から取材し、さらにロンドンの大英博物館と、ピクトリア・アンド・アルバート美術館が所蔵する能面とあわせ、ニュースで特集して報じた。
- 国立能楽堂開場 35 周年記念特別展「土佐山内家の能楽」では、監修者と借用先高知県立高知城歴史博物館学芸員による「監修者会議」を開催し、最新の調査・研究成果を展示と特別展図録によって公開した。
- 共同通信の取材を受け入れることにより、産経新聞・高知新聞等に国立能楽堂開場 35 周年記念特別展「土佐山内家の能楽」が大きく掲載され、周知及び集客に貢献した。
- 国立能楽堂開場35周年記念「収蔵資料展」では、35年間に収集し、継続的な調査・研究によって新事実が判明した資料40点を選び、新知見を解説に盛り込んで展示した。
- 国立能楽堂開場 35 周年記念企画展「囃子方と楽器」では、一般社団法人東京能楽囃子科協議会の協力により、同協議会会員が所蔵する秘蔵かつ現役で楽器として使用されている名器の数々を集めて展示した（大部分が初公開）。併せて、MIHO MUSEUM や春日大社等からは、室町時代の能の鼓が完成する途上にある草創期の貴重な鼓胴を集め、初めて比較展示することができた。また京都国立博物館からは、豪商廣海家から寄贈されて公開したばかりの資料から小鼓胴 3 点を借用し（2018 年 2 月～3 月の受贈記念展開催後、初の館外貸出）、内 1 点は本展で初公開となった。
また、一般社団法人東京能楽囃子科協議会との連携や、公開講座（1～3 月）とも連動するなど、効率的かつ効果的に広報を行うことができた。特に 1 月の公開講座は、共に重要無形文化財保持者で、同協議会理事長の三島元太郎師と理事の大倉源次郎師を招いた。

iv. 文楽劇場

- 文楽劇場の企画展示及び企画コーナーでは、文楽公演の演目に連動した展示を開催し、来場者の文楽に関する興味や理解の促進に努めた。外部専門家からは公演と展示の連動を評価する意見があった。
- 文楽劇場展示室では、企画展示の都度、展示に因んだ過去の公演記録映像を10～20分程度に編集して上映し、来場者からも好評であった。
- 企画展示「吉田玉助の系譜」では、4月文楽公演での吉田幸助の五代目吉田玉助襲名に因んで、舞台写真及び公演記録映像により初代から五代目までの系譜を紹介し、ゆかりの品々や新玉助の襲名関連資料を展示した。また、歴代玉助の錦絵や写真・公演記録映像等を展示室モニターにて紹介した。
- 常設展示「文楽入門」では、企画コーナーを前期と後期に分けて展示した。
 - ▶ 前期（6/8～7/14）の企画コーナー「絵本太功記を知る」では、6 月文楽鑑賞教室の上演演目「絵本太功記」関連の資料を展示し、文楽を構成する三業（太夫・三味線・人形）の基本的内容を分かりやすく紹介した。また、「Discover BUNRAKU」に合わせて、28 年度の英語版、29 年度の中国語版・韓国語版に続き、外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」フランス語版を作成し、展示室等にて配架した。展示室モニターでは、平成 29 年度に作成した文楽の普及用映像「文楽を楽しむ」を初上映し、「Discover BUNRAKU」公演日（6/16）には英語版「Enjoying Bunraku」を初上映した。
 - ▶ 後期（7/21～8/26）の企画コーナー「親子劇場を楽しむ」では、夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」演目のあらすじ解説を中心に紹介した。夏休み文楽特別公演の期間中は、展示室内に「体験ステージ」（床・人形）を設置し、文楽座技芸員及びボランティアグループ「文楽応援団」の協力のもと、親子劇場来場の子供たちが日替りで太夫・三味線・人形遣いの体験ができるコーナーを実施し、文楽に親しんでいただいた。また、文楽応援団スタッフが折紙で作ったキャラクターを展示室内で子供たちにプレゼントし、好評を得た。
- 企画展示「文楽人形 衣裳の美」では、平成 26 年度に新規作製した『壇浦兜軍記』阿古屋の打掛・帯・胴抜一式など、文楽特有の衣裳を文楽劇場所蔵品で分かりやすく展示した。また、会場内のモニターでは展示衣裳で登場する作品の公演記録映像を上映し、衣裳着用の様子と上演内容の物語がイメージ出来るよう紹介した。あわせて、衣裳図案等や人間用の櫛簪類も展示し、連日多くの来場者で賑わった。また、展示と関連して、第 7 回伝統芸能講座「文楽人形の衣裳と人形拵え」を実施した。
- 常設展示「文楽入門」の企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」では、初春文楽公演の演目

に因み、錦絵や書籍、衣裳等を紹介した。展示室モニターでは、文楽普及用映像「文楽を楽しむ」を上映した。

- 文楽公演期間中は、ボランティアグループ「文楽応援団」が展示室内にて解説を行い、来場者から「人形を実際に触ることができて良かった」「わかりやすく説明して下さりうれしかった」等、好評を得た。

v. 国立劇場おきなわ

- 第1回企画展「作家・大城立裕」と関連して、5/23に第33回公開講座「大城立裕の世界」(鼎談：大城立裕(作家)・幸喜良秀(演出家)・嘉数道彦(国立劇場おきなわ芸術監督)及び、第52回公演記録鑑賞会「新作組踊 聞得大君誕生」(作：大城立裕)を実施。(公開講座と公演記録鑑賞会の参加者数：370名)
- 国立劇場おきなわ第2回企画展「夏を涼しむ琉球舞踊」と関連して、7/22に第34回公開講座「子ども伝統芸能体験教室『おどり・踊る・踊ろう』」及び、9/5に第53回公演記録鑑賞会「素踊りの会～日本舞踊と琉球舞踊～」を実施。(公開講座の参加者数：22名、公演記録鑑賞会の参加者数：60名)
- 第3回企画展「ウチナー芝居入門」と関連して、10/28に第35回国立劇場おきなわ伝統芸能公開講座「語やびら沖縄芝居～役者・平良進～」(講師：平良進(沖縄芝居役者)・金城真次(実演家))及び、12/5に第54回公演記録鑑賞会「沖縄芝居役者の舞踊と喜歌劇『豊年』」を実施。(公開講座の参加者数：76名、公演記録鑑賞会の参加者数：231名)
- 平成31年1月～3月まで、国立劇場おきなわ開場十五周年記念事業として、第4回企画展「盆と芸能」、特別企画パネル展「国立劇場おきなわ15年のあゆみ」、自主公演「狂言～野村万作・野村萬斎」に合わせて国立能楽堂と連携し、県内小学校(3市町3校、合計572名)を対象にした第35回公開講座「狂言教室」(1/28～1/29)、2/6に第36回公開講座「国立劇場おきなわの誕生」(お話：眞境名正憲(実演家)・大城學(大学教授))及び第55回公演記録鑑賞会「組踊 執心鐘入」(開場記念公演より、映像提供：NHK沖縄放送局)を実施。(公開講座と公演記録鑑賞会の参加者数：323名)
- 国立劇場おきなわ県外公演(2/23、京都・春秋座)に合わせて、組踊・琉球舞踊の衣裳、小道具やパネル展示を行い、組踊と琉球舞踊についての普及を図った。公演前後に、多くの来場者が展示コーナーに足を運び、好評であった。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
「役者絵の世界 -文化・文政期の名優たち-」 (4/1～5/28)		71人		64人		90.1%
「悪を演る -歌舞伎の創造力-」(6/2～9/24)		100人		92人		92.0%
「黙阿弥の明治」(10/1～1/27)		69人		64人		92.8%
「役者絵の世界Ⅱ -幕末の名優たち-」(2/2～3/31)		33人		30人		90.9%
「悪を演る -落語と講談-」(4/1～7/22)		77人		70人		90.9%
「落語 味わいどころ所作どころ」(7/28～11/28)		54人		50人		92.6%
「百の顔を持つ男、波多野栄一」(12/1～3/24)		43人		41人		95.3%
国立能楽堂開場 35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」(8/30～11/4)	223人	161人	160人	142人	72.2%	97.9%
企画展示「文楽人形 衣裳の美」(同時開催「文楽入門」)11/22	232人	104人	99人	98人	44.8%	99.0%
国立劇場おきなわ全展示期間中		69人		58人		84.1%

《調査事業委員会における外部専門家からの主な意見》

- 多分野連携企画の展示「悪」は良かった。このようなユニークな試みを実施した意欲を高く評価したい。こういう事がこれからも続いていくと良い。他の提携館にも行ってみたいと思わせる内容だった。収蔵資料の錦絵だけでなく、衣裳の展示にも工夫が見られ、歌舞伎好きにも訴える内容だったと思う。
- 国立劇場の展示は収蔵資料を中心にしながら、詳細な解説があり、上演演目の写真パネル等の展示物は初心者にもわかりやすく、何故にこうしたラインナップなのかがよくわかる構成だった。残念なのは図録がないこと。

- ・公演とあわせて企画展示「文楽人形 衣裳の美」を見た。私のように、文楽を見慣れていない観客にとっては、人形や衣裳の大きさ、衣裳の構造などを知る機会はほとんどないので、入門的にも興味深い展示だった。展示室の位置の関係上、休憩時間に見るというよりも、公演前後に寄る人が多いように思った。今回は非常に来場者が多く盛況だった。
また、展示解説にボランティアが活用されていたのが印象的だった。横浜能楽堂のような民間施設でも、ボランティアを活用しており、より観客の視線に近いボランティアの存在によって、伝統芸能が身近なものになる可能性もある。他劇場でもボランティア養成の取り組みなど、今後検討してもよいのではないか。
- ・能楽堂の展示は、能楽堂ならではの所蔵館・所蔵者と研究者の連携による成果で、その図録は民間や商業目的では出版が困難な資料的価値の高い文献である。

(d) 展示図録の刊行

- 国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」図録（能楽堂・再掲）
- 国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」図録（能楽堂・再掲）

(3) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

①作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 63 公演、扮装図鑑 7 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	音声・写真 15 公演、映像 13 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 2 公演

- ・公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

②活用実績

(a) 視聴(映像資料及び音声資料)

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	742 件(1,794 時間)	335 件(443 時間)	1,077 件(2,237 時間)
能楽堂	1,480 件(2,818 時間)	830 件(1,057 時間)	2,310 件(3,875 時間)
文楽劇場	149 件(378 時間)	521 件(574 時間)	670 件(952 時間)
国立劇場おきなわ	475 件(434 時間)	835 件(975 時間)	1,310 件(1,409 時間)

(b) 複製(映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	181 件(278 時間)
能楽堂	337 件(413 時間)
文楽劇場	178 件(447 時間)
国立劇場おきなわ	58 件(30 時間)

※複製は出演者等に対してのみ提供。

※時間は項目ごとに切上げまたは切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のを数編用意し、来場者の選択により上映。
- ・文楽劇場では企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集して上映。
- ・国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。

イ 普及活動

①伝統芸能に関する公開講座等

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	4回	4回	88.4%
	公演記録鑑賞会	12回	12回	94.8%
能楽堂	能楽鑑賞講座	12回	12回	95.9%
	能楽特別講座	1回	1回	97.6%
文楽劇場	公演記録鑑賞会	12回	12回	97.1%
	伝統芸能講座	1回	1回	99.1%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会	4回	4回	78.5%
	沖縄伝統芸能公開講座	9回	4回	77.4%
合計		55回	50回	89.2%

(a) 伝統芸能情報館

- 第70回伝統芸能講座「歌舞伎の悪—舞台の創造—」(7/27)は、企画展示「悪を演る—歌舞伎の創造力—」の関連講座として展示の監修者吉田弥生氏を講師に迎えて開催した。
- 第455回公演記録鑑賞会(9/15)は、上映前に織田紘二(日本芸術文化振興会顧問)が解説を行う特別公演記録鑑賞会として開催した。
- 第71回伝統芸能講座「劇場から読み取る明治—新富座の時代—」(伝統芸能情報館、12/5)は、企画展示「黙阿弥の明治」の関連講座として小池章太郎氏を講師に迎えて開催した。
- 第72回伝統芸能講座「琉球芸能へのいざない」(伝統芸能情報館、2/10)は、組踊上演300周年記念として3月琉球芸能公演と連携し、国立劇場おきなわ芸術監督嘉数道彦氏ほかの実演を交えた解説をおこなった。
- 第73回伝統芸能講座「役者絵を読み解くⅡ」(伝統芸能情報館、3/14)は、企画展示「役者絵の世界Ⅱ—幕末の名優たち—」の関連講座として監修者である石橋主席芸能調査役を講師として開催した。
- 第461回公演記録鑑賞会(3/9)は、上映前に神山彰氏(明治大学教授)が解説を行う特別公演記録鑑賞会として開催した。
- 伝統芸能情報館の展示と関連した講座の実施により、伝統芸能とその関係資料に対する理解と興味を促した結果、来場者数は目標を大幅に上回るとともに、高い満足度を得た。
- 上映前に解説を行う特別公演記録鑑賞会は内容に対する興味、理解が深まり、大変好評であった。

(b) 能楽堂

- 国立能楽堂公開講座は、公演や展示と関連したテーマにより、国立能楽堂開場35周年記念として「公演記録映像でふりかえる」特集を3回行い、「養成事業をふりかえる」をテーマに1回行った。また国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」の関連講座を3回行い、一般社団法人東京能楽囃子科協議会との連携により、講師に共に重要無形文化財保持者で、同協議会理事長の三島元太郎師と理事の大倉源次郎師を招いた。その結果、予想を大幅に超える応募があったため、予定を変更して1階能舞台で開催したところ、412人の参加があり、好評だった。
- 国立能楽堂特別講座は、国立能楽堂開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」と連動して、借用先である高知県立高知城歴史博物館館長渡部淳氏と展示監修者の宮本圭造氏(法政大学能楽研究所教授)を講師として、土佐山内家の歴史と、本展のみどころと山内容堂旧蔵面についての講演を行った。

(c) 文楽劇場

- 公演記録鑑賞会は、半期を通したテーマを設定し、アンケートでリクエストの多かった作品・出演者を中心に選定した。上半期は小説や文楽に関連する演目を取り上げ上映し、下半期は平成初期の演目を選定し上映した。
- 第7回伝統芸能講座「文楽人形の衣裳と人形拵え」(10/26)では、企画展示「文楽人形 衣裳の美」(9/15~12/2)に関連し、文楽技術室衣裳担当者による文楽特有の衣裳構造等の説明を行った。また吉田玉男氏(人形浄瑠璃文楽座 人形遣い)が、公演前の楽屋での「人形拵え」の映像を用いた解説と、人形遣いが公演後に行う、文楽人形から衣裳を外して、かしら・胴・手足それぞれの部分に戻していくまでの実演の解説を行った。講座終了後には、ロビーで衣裳を陳列し、衣裳担当者が来場者からの質問に回答

した。

定員を大幅に上回る応募（426名/3.0倍）があり、来場者のアンケートでは満足率99.1%と非常に好評であった。アンケートでは「伝統を伝える事の大変さ（技術と材料等）がよくわかりました」「今後の舞台を見るあたって一層興味をもって拝見できる」等の意見があり、文楽への理解を深めることができた。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・伝統芸能公開講座では、5月に「大城立裕の世界」と題して、大城立裕氏（作家）、幸喜良秀氏（演出家）、嘉数道彦国立劇場おきなわ芸術監督による鼎談を実施した（公演記録鑑賞会と同時開催）。8月には実演家の山城亜矢乃氏を講師に迎え、「子ども伝統芸能体験教室『おどり・踊る・踊ろう』」、10月には講師に平良進氏（役者）・金城真次氏（実演家）を迎え、「語やびら沖縄芝居～役者・平良進～」、1月には2月公演の「狂言～野村万作・野村萬斎～」に関連して、国立能楽堂と連携し沖縄県内小学校（3市町3校、合計572名）を対象にした「狂言教室」、2月には開場十五周年記念事業として「国立劇場おきなわの誕生」と題して、公演記録鑑賞会と同時開催した。

(e) その他

- ・本館で平成30年度教員免許状更新講習を実施。2日間11時間にわたり、各種芸能に関する講義、公演見学（文楽）、舞台見学等を受講し、最後に修了認定試験を実施。（10名、有料、12/15～16）

②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
国立能楽堂開場 35 周年記念 ＜10 月月間特集 所縁の能・狂言＞関連イベント シンポジウム「観世三代と室町將軍～能と権力～」	7/31	国立能楽堂	無料	観世清和(二十六世観世宗家) 松岡心平(東京大学教授) 桜井英治(東京大学教授) 小川剛生(慶応義塾大学教授)	-
国立能楽堂開場 35 周年記念ポスター展	8/30～ 2/2	国立能楽堂ロビー	-	-	-
国立能楽堂3月企画公演ロビー展示 「百万絵巻」「百万絵本」	3/28	国立能楽堂ロビー	-	能を再発見する/寺社と能・清涼寺 嵯峨退念仏狂言「釈迦如来」・能「百万」	-
第 24 回特別企画公演関連プレ講座 『「天の岩戸開き」を知る』	8/30	国立文楽劇場 小ホール	無料	斎藤英喜(佛教学部歴史学教授)、小佐田定雄(落語作家)	108 人
組踊ワークショップ	6/30	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	金城真次、比嘉大志、仲村逸夫	15 人
特別企画「楽屋訪問～女形ができるまで～」	6/30	国立劇場おきなわ 大劇場ホワイエ	チケット購入者限定	田口博章	
劇場バックステージツアー	8/4 8/5	国立劇場おきなわ 大劇場他	チケット購入者限定	組踊・琉球舞踊ワークショップ: 子の会(金城真次、天願雄一、玉城匠、上原崇弘、比嘉大志、新垣俊道、大城貴幸、仲嶺良盛、徳田泰樹)	117 人
組踊ワークショップ	8/18	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	上原崇弘、比嘉大志、仲嶺良盛	20 人
しまくとぅば講座	9/15	国立劇場おきなわ 会議室	無料	講師: 吉田妙子 聞き手: 嘉数道彦	39 人
組踊ワークショップ	10/27	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	比嘉大志、山城峻称、棚原健太	8 人
外国人のための組踊ワークショップ	11/17	国立劇場おきなわ 養成研修室	チケット購入者限定	川満香多、知花令磨、新垣俊道	13 人
組踊ワークショップ	12/22	国立劇場おきなわ 養成研修室	チケット購入者限定	金城真次、比嘉大志、大城貴幸	10 人
組踊ワークショップ	1/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	あぜくら会 ツアー限定	佐辺良和、金城真次、玉城和樹	40 人

③公演記録映像の有効活用

- ・公演記録鑑賞会（伝統芸能情報館、文楽劇場、国立劇場おきなわ）を定期的開催し、国立劇場、演芸場、文楽劇場、国立劇場おきなわで過去に上演された公演記録映像を相互に活用した。
- ・国立能楽堂公開講座において、国立能楽堂開場 35 周年記念「公演記録映像でふりかえる」で、7月に能、8月に狂言、9月に復曲・新作をテーマに3回開催し、公演記録映像を活用した。
- ・伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映

像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のものを数編用意し、来場者の選択により上映。

- 文楽劇場企画展示「吉田玉助の系譜」において、先代玉助の公演記録写真や、文楽劇場で収録した公演記録映像を編集し、展示室内で上映した。
- 文楽劇場企画展示「文楽人形 衣裳の美」において、展示衣裳に関連した公演記録写真や映像を編集し、展示室内で上映した。
- 国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。

4 - (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、インターネット等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方を現行中期目標期間中に検討

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施
広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る
公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用
調査結果を活用して講演会等を実施

② 海外の劇場等の情報を収集して、公演の充実等に活用、公演プログラムやホームページ等において公開

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等への貸与

④ 明治元年から現代までの日本の現代舞台芸術に関する年表をパネル展示等で引き続き紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を実施

③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 9 のとおり実施

舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討
オンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、伝統芸能及び現代舞台芸術の研究等に活用

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 10 のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実を努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	723 人 (H25-29 実績平均 : 801.4 人)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	『評価報告書』 P. 24 参照
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P. 175 に掲載

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

①現代舞台芸術に関する調査研究・活用

- ・宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的に行う。その成果として、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催（4～8月）。2018/2019シーズンからは小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」が引継ぎ、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。
- ・新制作オペラ「魔笛」について、大野オペラ芸術監督がピアノを弾きカヴァー歌手の歌唱を交えながら作品の魅力を解説する「大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』」（9/10）、演出家（ウィリアム・ケントリッジ）の来日に合わせたスペシャルトーク（9/30）を開催。
- ・創作委嘱作品オペラ「紫苑物語」についても、「トークイベント『紫苑物語』一の矢「知の矢」—石川淳の原作からオペラへ—」（10/29、東大駒場キャンパス）に続く講座として、2019/2020シーズン・オペララインアップ演目説明会と同時開催で「オペラ『紫苑物語』関連イベント～二の矢」（1/31）を開催。
- ・オペラ「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」オペラトーク開催（3/31、来年度公演）。
- ・民間出版社と連携して下記戯曲を刊行。
 - ◇ 4-5月演劇「1984」新訳戯曲刊行。（早川書房刊「悲劇喜劇」2018年5月号掲載）
 - ◇ 10月演劇「誤解」新訳戯曲刊行。（早川書房刊「悲劇喜劇」2018年11月号掲載）
 - ◇ 12月演劇「スカイライト」新訳戯曲刊行。（早川書房刊「悲劇喜劇」2019年1月号掲載）
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載。
 - ◇ オペラ：9冊
 - ◇ 演劇：7冊（演劇「こつこつプロジェクト」を除く）

②海外劇場等の情報収集・活用

- ・「企画サポート会議」の協議の結果、演劇都市としての3都市（ニューヨーク、ロンドン、台北、ニューヨーク2回目）について調査研究を実施。成果を演劇公演プログラム（4冊）に掲載。関連企画として「世界の劇場コーナー」を情報センターで開催（10/24～）。
- ・2018/2019シーズンからは「演劇研究会」により日本の劇場（北九州芸術劇場、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館、兵庫県立芸術文化センター）を調査研究し、成果を演劇公演プログラム（3冊）に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のHPや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施。

③公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録、公開。
- ・新国立劇場が実施する公演の上演資料の整理を進め、劇場内外の利用に供するよう、資料の保存及び公開の方法について引き続き検討を進めた。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進め、公式サイトで公開、検索できるようにした。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した（18件）。
- ・札幌文化芸術劇場hitaruが10月に開場するのに合わせ、札幌市の美術館にてオペラ「アイダ」の舞台美術・衣裳、公演写真等を展示した。（「オペラの衣裳と舞台美術展 煌く『アイダ』の世界」、7/27～10/25、本郷新記念札幌彫刻美術館）
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。（「オペラの扉2018 ～Knock the Door, Opera Exhibition～」、9/19～11/29、ロームシアター京都「ミュージックサロン」）

④「日本の現代舞台芸術」年表

- ・文化プログラムの一環として行う特別展示「日本の現代舞台芸術」をオペラ・舞踊・演劇各ジャンル毎に外部有識者の監修により実施。「明治150年」の取組として明治元年から新国立劇場開場（1997年）までの年表を作成し、劇場3階ギャラリーにパネル展示。併せてタブレット端末で年表中の人物・団体について詳細が見られるようにした。今年度はタブレットに1946年以降の情報を追加した。

イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用

①情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用※	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	553冊	84点	27,291人	210日	1,591人	333人	3,139人	751件
舞台美術センター資料館			723人	210日	303人			

※舞台美術センター資料館はAVコーナーの利用者数。

- ・7月、七夕には笹の飾りつけを実施。また閲覧室に夏休みキッズコーナーを設け、こども向け書籍を中心に劇場や舞台芸術に親しめるような資料を設置(7/13～8/5、期間中の入室者数3,026人)。
- ・上演される公演にあわせて、関連書籍、過去の公演のプログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。演劇「夢の裂け目」期間中には当時の紙芝居を神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センターより借り受け、展示した。
- ・展示内容を劇場公開空地等の展示と連動させ案内らししを作成する等、情報センターへ訪れやすい環境を整えた。
- ・舞台美術センター資料館の活用方法、施設の在り方について検討するため、来館者アンケートを開始した。

(b) 活用実績

区分	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
オペラ	「オペラの衣裳と舞台美術 煌く『アイダ』の世界」	本郷新記念 札幌彫刻美術館	本郷新記念札幌彫刻美術館 (札幌市芸術文化財団) 後援:北海道、札幌市、札幌市教育委員会	舞台美術・衣裳貸出	7/27～10/25
オペラ	「オペラの扉 2018 KNOCKING ON THE DOOR OPERA EXHIBITION」	ロームシアター 京都	公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 協賛:ローム株式会社	舞台装置模型・ 衣裳貸出	9/19～11/29
オペラ	「新国立劇場 オペラ舞台美術展」	神田明神文化交 流館 EDOCCO STUDIO	新国立劇場	舞台装置模型・ 衣裳展示、 ミニコンサート	1/25～27

②図書等の情報のデータベース化(図書資料管理システム)

- ・HPの情報センターページ内に公演記録データベースを構築し、一般に公開している公演記録映像のリストと公演情報を連動させた。
- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収集情報をHPで公開した。

③寄贈資料・公演関連資料のデータベース化(所蔵品管理システム)

- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等、133件)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をHPで公開した。

ウ 資料等の展示公開

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数	目標来場者数
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	195日	163,190人	
	公演関係展示(情報センター)	随時	210日	27,291人	
	20周年特別展示 ポスター展「イメージの記憶」	通年	359日	83,407人	
	「日本の現代舞台芸術」年表	通年	358日	45,956人	
	舞台衣裳展示(3F ギャラリー他)	通年			
	公演記録映像(ダイジェスト)上映 (1F 待合せコーナー他)	通年	267日	72,429人	
	合 計		1,389日	392,273人	
舞台美術センター 資料館	「オペラ・バレエ衣裳展示」	通年	210日	723人	800人
	企画展「舞台のデザイン ～模型でみる新国立劇場のオペラ・バレエ～」	通年			
	合 計		210日	723人	800人
現代舞台芸術分野 合計			1,599日	392,996人	800人

- ・新国立劇場内では、ギャラリーでの舞台衣裳・公演ポスター展示のほか、待ち合わせコーナーで公演記録映像のダイジェスト版等を上映した。
- ・情報センターにて「夏のこどもシアター」開催時にはキッズコーナーを設けて若年層向けのバレエ、オペラの関連書籍を開架とし、併せて衣裳の展示を行った。
- ・新国立劇場開場20周年を記念した特別展示として1997年開場から20年の歩みを主催公演ポスターで振り返るポスター展「イメージの記憶」を実施、ギャラリー、ブリッジに展示(～9月末)。記念シーズン終了後も一部ポスター展示を継続。
- ・「日本芸術文化振興会ニュース」の表紙画全282点を展示する「ささめやゆき表紙画展」をギャラリーで開催。情報センターでは同氏の手掛けた演劇公演ポスターを併せて展示した。(「『日本芸術文化振興会ニュース』ささめやゆき表紙画展」、関連展示、11/16～2/28)

(3) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

①作成実績

区分	記録件数・内容
新国立劇場	映像・音声・写真 31 公演

②活用実績

媒体	公開
記録写真	31 公演
記録映像	12 件

- ・記録写真をHPの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センター閲覧室で公開した。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出(18件)。
- ・札幌文化芸術劇場hitaruが10月に開場するのに合わせ、札幌市の美術館にてオペラ「アイダ」の舞台美術・衣裳、公演写真等を展示した。(「オペラの衣裳と舞台美術展 煌く『アイダ』の世界」、7/27～10/25、本郷新記念札幌彫刻美術館)
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。(「オペラの扉2018 ～KNOCKING THE DOOR, OPERA EXHIBITION～」、9/19～11/29、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- ・都内観光施設における初の展示イベントとして、12月にオープンした神田明神文化交流館にてオペラ公演の舞台衣裳や装置模型、舞台写真等を展示した。ミニ・オペラコンサートも併せて実施し、劇場の紹介と舞台芸術の普及に努めた(「新国立劇場オペラ舞台美術展」、1/25～27、神田明神文化交流館 EDOCCO STUDIO)

イ 普及活動

①現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター 資料館	現代舞台芸術公開講座	2回	2回	99.4%
	DVD 現代舞台芸術鑑賞会	22回	22回	-
新国立劇場内	現代舞台芸術講座 (マンスリー・プロジェクト他)	16回	9回	97.1%
	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	33回	20回	90.3%
合計		73回	53回	95.3%

(a) 舞台美術センター資料館

現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るため、公演記録映像の鑑賞会(22回)に加えて現代舞台芸術講座としてオペラコンサート(2回)を実施。

名称	会場	日程	開演時間	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター オペラコンサート 「銚子!?!のいい仲間たち」	舞台美術センター資料館 1F 展示ホール	10/2	11:30(一般) 14:15(学校貸切)	210人	99.4%

(b) 新国立劇場内

i. 現代舞台芸術講座 (マンスリー・プロジェクト他)

宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的で開催。その成果として、下表のとおり、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催(4~8月)。2018/2019 シーズンからは小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」が引継ぎ、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。

《マンスリー・プロジェクト開催実績、ギャラリー・プロジェクト開催実績》 11講座 (12回)

内容	会場	日程	参加者数	アンケート 有意義回答 割合
演劇講座「ジョージ・オーウェルの世界」	小劇場	4/22	207人	97.1%
トークセッション 「新国立劇場のシェイクスピア歴史劇を振り返って」	中劇場	5/27	636人	99.4%
演劇講座「新国立劇場と井上ひさし作品」	情報センター	6/15	82人	95.7%
		6/16	89人	94.1%
トークセッション「蓬莱竜太の劇世界」	小劇場	7/16	234人	98.7%
トークセッション「マンスリー・プロジェクト 8年間の足跡」	リハーサル室	8/25	182人	100.0%
公演ガイドツアー「誤解」	小劇場	10/15	24人	100.0%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.1 ~劇団とは?~	小劇場	10/18	125人	90.5%
公演ガイドツアー「誰もいない国」	小劇場	11/17	23人	100.0%
演劇塾 Vol.1『ピンター、人と作品』	小劇場	11/18	106人	93.6%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.2 ~「劇作家」とは?~	小劇場	12/10	206人	95.5%
公演ガイドツアー「スカイライト」	小劇場	12/23	18人	100.0%
合計			1,932人	97.1%

新制作オペラの作品理解を深めるために、カバー歌手の歌唱を交えた音楽解説、演出家等のスタッフによる講座などを下表の通り開催した。(4回)

内容	会場	日程	参加者数
大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1「魔笛」	オペラ劇場	9/10	993 人
ウィリアム・ケントリッジ スペシャルトーク	オペラ劇場ホワイエ	9/30	123 人
オペラ「紫苑物語」関連イベント～二の矢	中劇場	1/31	220 人
オペラ「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」オペラトーク	オペラ劇場ホワイエ	3/31	154 人
合計			1,490 人

ii. 現代舞台芸術鑑賞会(情報センター上映会)

月例の情報センター上映会(13回)に加え、「夏のこども劇場」の一環として、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中に「夏のこどもシアター」(20回)を実施。併せて、閲覧室をファミリー層向けにしつらえて、舞台芸術の関連の入門図書を開架するとともに大型モニターで新国立劇場紹介ビデオを上映した。

名称	会場	日程	上映内容	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
情報センター 「夏のこどもシアター」	情報センター ビデオシアター	7/21～24	バレエ「アラジン」(抜粋) バレエ「くるみ割り人形」(抜粋) バレエ「 Coppélia」 バレエ「パゴダの王子」 バレエ「アラジン」(抜粋)	487 人	79.0%

②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
NLive x 新国立劇場『誰もいない国』 ～翻訳家喜志哲雄さんトークショー ＜ピンターと『誰もいない国』を語る＞～	7/14	シネ・リーブル池袋	一般 3,000 円 学生 2,500 円	喜志哲雄、大堀久美子	120 人
新国立劇場バレエ団ダンサーによる ワークショップ	7/29	長岡市 寺泊文化センター	500 円	新国立劇場バレエ団	23 人
高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演 「魔笛」事前レクチャーコンサート	9/23	ロームシアター京都 ミュージックサロン	無料		25 人
演劇「誰もいない国」スペシャルトークイベント	10/5	オペラ劇場ホワイエ	無料	喜志哲雄、寺十吾、柄本明、 石倉三郎、大堀久美子	81 人
トークイベント「紫苑物語」～一の矢「知の矢」 ～石川淳の原作からオペラへ～	10/29	東京大学駒場キャン パス 18 号館ホール	無料	佐々木幹郎、西村朗、大野 和士、笈田ヨシ、長木誠司	198 人
クラスレッシン見学会	11/23- 24	札幌文化芸術劇場 hitaru	500 円	新国立劇場バレエ団	448 人
新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサーの バレエ経験者向けワークショップ	12/8	札幌市教育文化会館 小ホール	4,000 円	菅野英男、 圓井晶子(ピアニスト)	29 人
バレエ「ラ・バヤデル」クラスレッシン見学会	3/3・10	オペラ劇場	無料		660 人
公演関連展示(再掲)	-	劇場ホワイエほか	-	-	190,481 人

③公演記録映像の有効活用

- ・オペラ及び舞踊芸術監督による 2019/2020 シーズン紹介動画に公演記録映像を使用。インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。
- ・「新国立劇場バレエ団オフィシャル DVD BOOKS 新シリーズ [最新バレエ名作選] 第 1 弾『くるみ割り人形 ウェイン・イーグリング振付』(2017/11/3 収録)刊行。(4/26、世界文化社)
- ・「新国立劇場バレエ団オフィシャル DVD BOOKS 新シリーズ [最新バレエ名作選] 第 2 弾『眠れる森の美女』(2018/6/16 収録)刊行。(10/26、世界文化社)
- ・特別上映会の国内外での実施：
日本スペイン外交関係樹立 150 周年を記念してスペイン・マドリードの王立劇場 (テアトロ・レア

ル) と新国立劇場がお互いの公演映像を上映しあう上映会を開催した(7/2～4 新国立劇場小劇場、7/3～8 テアトロ・リアル)。テアトロ・リアルで上映した公演映像は凱旋上映会として新国立劇場中劇場でも上映した(12/5)。

イベント名	期間	会場	料金	来場者数	満足回答率
テアトロ・リアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「蝶々夫人」	7/2	新国立劇場小劇場	無料	175 人	100.0%
テアトロ・リアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「カルメン」	7/3	新国立劇場小劇場	無料	200 人	96.3%
バレエ「くるみ割り人形」	7/3	テアトロ・リアル (スペイン、王立劇場)	無料	-	-
テアトロ・リアル(王立劇場)オペラ・オン・スクリーン オペラ「椿姫」	7/4	新国立劇場小劇場	無料	199 人	100.0%
バレエ「白鳥の湖」	7/6	テアトロ・リアル (スペイン、王立劇場)	無料	-	-
オペラ「蝶々夫人」	7/8	テアトロ・リアル (スペイン、王立劇場)	無料	-	-
新国立劇場 ステージ・オン・スクリーン バレエ「白鳥の湖」	12/5	新国立劇場中劇場	無料	279 人	95.4%
新国立劇場 ステージ・オン・スクリーン オペラ「蝶々夫人」	12/5	新国立劇場中劇場	無料	254 人	91.8%

- Facebook Live 配信の「World Ballet Day 2018」に新国立劇場バレエ団がオーストラリア・バレエのゲスト・カンパニーとして参加。世界へ向け新国立劇場とバレエ団を紹介する映像を配信した。(10/2) 1F 待合せコーナー他にて公演記録映像(ダイジェスト)を上映した。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

1 業務運営の効率化

1 業務運営の効率化	p.179
(1) 組織体制の整備・強化	p.182
(2) 給与水準の適正化	p.184
(3) 契約の適正化	p.184
(4) 共同調達等の取組の推進	p.185
(5) 情報システムの活用	p.187

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る

1 業務運営の効率化に関する取組

平成29年度予算を基準として中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。ただし、特殊要因経費はその対象としない

また、人件費については3項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、業務・組織体制について検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進する。毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直しを実施

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進し、使用資源の縮減を図り、環境に配慮した業務運営に努める

6 情報システムの活用

効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、過去の組織改正の効果を踏まえ、引き続き業務・組織体制について検討し、必要な措置を講ずる

2020年東京大会やラグビーワールドカップ2019開催に向け、我が国の舞台芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、企画立案・広報機能の強化を図る

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする

また、その取組状況をホームページで公表

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺の他機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進

- ①コピー用紙
- ②トイレ用ペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の削減を推進
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進

(5) 情報システムの活用

業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目につき、計画通り必要な措置を講じた。 ・セキュリティ強化やチケット販売システム等、課題に適切に対応し、改善を図ることができた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<p>(1) 組織体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特命経営企画本部経営企画課及び大型文化催事準備チームの新設(7/1) <p>(2) 給与水準の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた(平均改定率0.2%)。 ・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 <p>(3) 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った <p>(4) 共同調達等の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き振興会と独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館とのコピー用紙の共同調達を実施 ・光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施 ・廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底 ・ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施 <p>(5) 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隼町地区複合機の更新（ID認証方式の導入）、入退管理システムの更新によるセキュリティ強化 ・チケット販売システムをインターネットを含む個人販売部分を外部サービスの活用に変更し更改。
課題と対応	

1 業務運営の効率化

一般管理費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：平成 29 年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

事業費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：前年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

《一般管理費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 29 年度予算(A)	444
平成 30 年度予算(B)	431
増減比率	△3%

《事業費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 29 年度予算(A)	6,496
平成 30 年度予算(B)	6,431
増減比率	△1%

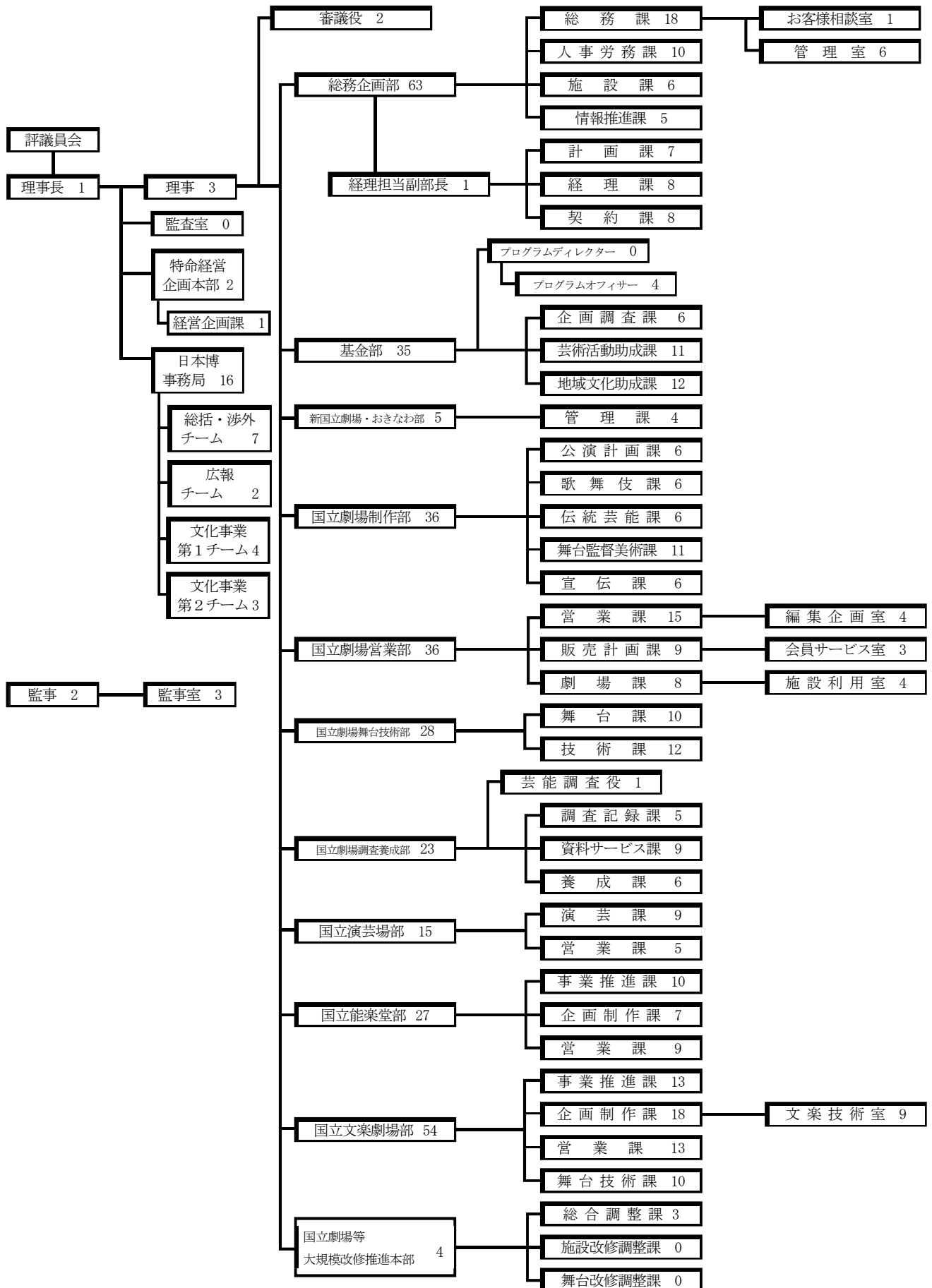
(1) 組織体制の整備・強化

- ・ 特命経営企画本部経営企画課及び大型文化催事準備チームの新設(7/1)

所管横断的な経営上の課題に関する施策の企画立案及び連絡調整を行うため、理事長直属の組織として特命経営企画本部を新設した。また、2020 年東京大会を契機として、日本の文化芸術の魅力を体現する様々な展覧会、舞台公演、芸術祭、文化イベント等を全国で展開する大型文化催事の開催に向けた事務局の設置などの実施準備に係る業務の企画立案及び実施のため、大型文化催事準備チームを新設した。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(31年4月1日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 对国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた(平均改定率 0.2%)。
- ・ 賞与の支給月数を引き上げた(年間支給月数：4.34 か月→4.39 か月)。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。
- ・ ラスパイレス指数[※]は、105.6(地域・学歴勘案=92.2)であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。

また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.5(地域・学歴勘案=100.8)であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 75.9%

(国からの財政支出額 14,111 百万円/支出予算の総額 18,601 百万円(29 年度予算))

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、HP に「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(29 年度ベース)。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、30年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理関係業務研修会及び施設担当職員研修会を開催した。

イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・ 第19回契約監視委員会(6/7)
議題等：連続一者応札・応募等事案フォローアップ(平成29年度分)、平成29年度契約に関する点検・見直し、調達等合理化計画の自己評価の実施及び策定
- ・ 第20回契約監視委員会(12/11)
議題等：平成30年度調達等合理化計画における進捗状況の報告、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(平成30年度分)
- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第19回、第20回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 第19回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)、競争性のない随意契約について、契約変更の適正性、契約金額の妥当性等を点検審議した(6/7)。
- ・ 第20回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を検討した(12/11)。

《改善内容》

- ・ 「平成 30 年度情報技術の情報提供及びアドバイザー業務」(一般競争入札から随意契約事前確認公募に移行)
- ・ 「平成 31～33 年国立文楽劇場機械設備等保守管理及び警備その他業務委託」(仕様を見直し、再委託先が限定される業務(国立文楽劇場エレベーター等保守業務)を分離して一般競争入札を実施)

- ・「平成 31・32 年度国立文楽劇場舞台音響・映像業務」(仕様を見直し、業務(舞台音響・映像業務(2 年契約)及び自主公演音響・映像操作等業務(1 年契約))を包括化して 2 年間の複数年契約として一般競争入札を実施)
- ・「平成 31・32 年度国立文楽劇場舞台照明業務」(仕様を見直し、業務(舞台照明業務(2 年契約)及び自主公演照明操作等業務(1 年契約))を包括化して 2 年間の複数年契約として一般競争入札を実施)
- ・「平成 31～33 年度国立文楽劇場構内における飲料自動販売機の設置管理」(仕様を見直し、1 年間の契約から 3 年間の複数年契約として随意契約から一般競争入札に移行)

ウ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

①コピー用紙

- ・振興会と独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館との間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施。

②トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

①地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・平成 30 年 11 月に「地球温暖化対策計画書」を提出。
地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガスの排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従い、組織一体で排出量の計画的削減に努めた。

②光熱水量の節減

- ・引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施。
- ・本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館では 4 月のボイラー修理により、機器が更新されガス使用量の減少が図られた。
- ・文楽劇場では食堂の業者が撤退し、厨房の使用がなくなり空調が不要になったためガス使用量が減少した。また、自主公演・貸劇場ともに昨年度よりも観客数が少なかったため、水道使用量が減少した。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
電 気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,894,334kwh	△ 1.4%
	能楽堂	823,206kwh	2.5%
	文楽劇場	1,220,553kwh	△ 4.1%
	合 計	6,938,093kwh	△ 1.4%
ガ ス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	156,094 m ³	△ 15.2%
	能楽堂	74,195 m ³	△ 4.4%
	文楽劇場	94,268 m ³	△ 15.3%
	合 計	324,557 m ³	△ 13.0%
水 道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	34,840 m ³	△ 1.9%

	能楽堂	6,218 m ³	△ 8.2%
	文楽劇場	11,560 m ³	△ 10.5%
	合計	52,618 m ³	△ 4.7%

③廃棄物の減量化

- ・引き続き廃棄物の減量化に努めた。
- ・本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館、文楽劇場では廃棄量の削減に努めたため一般廃棄物が減少した。文楽劇場は自主公演・貸劇場ともに昨年度よりも観客数が少なかったことも影響していると考えられる。
- ・リサイクル意識の向上に努めたため、本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館では再利用廃棄物が減少した。
- ・能楽堂では可燃ごみとミックスペーパー等の分別の徹底を委託業者に依頼し、不要な雑誌類を大量に廃棄したため再利用廃棄物が増加した。
- ・倉庫等の不要物整理を徹底し、産業廃棄物を多量に処理したため、本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館では産業廃棄物が増加した。
- ・文楽劇場では6月、9月及び12月の大型産業廃棄物定期処理の量が昨年度に比べて少なかったため、また、溶解処理書類分を昨年度まで産業廃棄物に算入していたが、今年度から本来の分類である再利用廃棄物に参入することにしたため、産業廃棄物が減少した。

事項	区分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	46,184kg	△ 11.3%
	能楽堂	4,475kg	△ 9.3%
	文楽劇場	10,065kg	△ 30.3%
	合計	60,724kg	△ 15.0%
再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	40,024kg	△ 14.6%
	能楽堂	7,862kg	20.9%
	文楽劇場	16,200kg	7.1%
	合計	64,086kg	△ 6.4%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	7,111kg	63.6%
	能楽堂	1,107kg	△ 3.4%
	文楽劇場	8,740kg	△ 44.3%
	合計	16,958kg	△ 20.0%

④ペーパーレス化

- ・伝統芸能情報館では大型文化催事準備チームの業務拡大（10月～）によりコピー用紙使用量が増加した。
- ・本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館の用紙購入枚数についても同じく大型文化催事準備チーム新設（7/1）及び基金部分室設立（7/1）により増加した。
- ・文楽劇場ではコピー枚数削減の努力だけでなく、機器の老朽化にともない紙詰まり等のトラブルが多発していたが、機器が更新されたことにより損紙が減少したため、使用量が減少した。
- ・引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。

事項	区分	使用量	対前年度増減	購入枚数	対前年度増減
コピー用紙	本館・演芸場	1,189,729枚	5.8%	3,725,500枚	17.3%
	事務棟	2,037,500枚	6.6%		
	伝統芸能情報館	468,858枚	62.8%		
	能楽堂	302,489枚	△ 4.3%	417,500枚	9.0%
	文楽劇場	282,880枚	△ 10.5%	434,000枚	7.0%
	合計	4,281,456枚	8.2%	4,577,000枚	15.4%
	うち管理部門	1,162,926枚	4.9%		

⑤グリーン購入法に基づく調達

事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

ア 業務システムの整備

- ・ 隼町地区複合機の更新（ID 認証方式を導入）
- ・ 入退管理システムの更新
- ・ 情報システム総括運用管理支援業務の更新
- ・ チケット管理システムの更新
- ・ 業務用クライアント端末（Windows7 端末）の更改

イ クラウドサービスの活用

- ・ チケット販売システムにおいてインターネットを含む個人販売部分を外部サービスの活用に変更し更改。

ウ 情報セキュリティへの対応

- ・ ポリシーの理解増進及び意識向上を目的に管理者等を対象とした集合研修の実施に加え、外部の e-Learning システムを活用した情報セキュリティ教育を全職員対象に実施。
- ・ 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施。
- ・ 各職員が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施。
- ・ 内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供されるぜい弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行うとともに、公表された脆弱性情報に対して随時対策を行い、情報セキュリティを確保。
- ・ 隼町地区の複合機の更新を行い、カード認証による出力方式を導入し情報セキュリティの強化を図った。
- ・ 情報セキュリティ推進体制の充実・強化を目的に、平成 30 年 7 月、「情報セキュリティインシデント対応チーム設置要項」を定め、振興会 CSIRT の体制を整備。
- ・ 内閣サイバーセキュリティセンターによる情報セキュリティ監査を受け、アカウント管理の強化や脆弱性対応等を実施。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	p.188
1 予算	p.190
2 収支計画	p.190
3 資金計画	p.191
4 保有資産の処分	p.191

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

収入面に関しては実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した目黒職員宿舎、船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産については保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。 ・助成事業において、助成調査研究寄附金に係る人件費が増加したが、業務経費の節減等により、年度計画予算に対し支出額が減少した。 ・公演事業において、国立劇場公演の劇場入場料の減少等により、年度計画予算に対し収入額が減少した。一方で、文芸費、出演費、舞台管理費等の節減により、年度計画予算に対し支出額が減少した。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・一般管理費において、業務委託費等が増加したが、人件費の減により、年度計画予算に対し支出額が減少した。 ・事業費において、日本博に係る費用が増加したが、人件費や助成情報提供等事業費における非常勤職員人件費等の節減等により、年度計画予算に対し支出額が減少した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>年度計画 別紙1～3 予算、収支計画、資金計画参照</p>
主要な業務実績	<p>1 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本博事業については、年度当初は計画予算が無かったものの、当初予算措置していた経費の節減を実施することにより財源を捻出し、事業に一定の成果を出した。 <p>2 収支計画 3 資金計画 4 保有資産の処分</p>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1 予算

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	10,089,414	10,089,414	0
雑収入 ^(※1)	77,349	57,483	△ 19,866
文化芸術振興費補助金	6,433,248	6,424,718	△ 8,530
施設整備費補助金 ^(※2)	632,842	411,796	△ 221,046
基金運用収入	1,115,302	1,115,651	349
寄附金収入	206,509	187,436	△ 19,073
その他の助成事業収入 ^(※3)	9,092	14,708	5,616
公演事業収入	2,958,813	2,792,151	△ 166,662
公演受託事業収入	—	—	—
計	21,522,569	21,093,357	△ 429,212
支 出			
一般管理費	1,319,757	1,292,060	27,697
うち人件費	1,070,099	1,040,132	29,967
うち物件費	249,658	251,928	△ 2,270
事業費	8,847,006	8,830,874	16,132
うち人件費	2,136,749	2,111,048	25,701
うち助成情報提供等事業費 ^(※4)	196,528	171,769	24,759
うち国立劇場事業費	1,934,657	1,962,258	△ 27,601
うち国立劇場おきなわ事業費	698,023	704,423	△ 6,400
うち新国立劇場事業費	3,881,049	3,881,375	△ 326
文化芸術振興費	6,433,248	6,251,444	181,804
施設整備費 ^(※2)	632,842	160,699	472,143
基金助成事業費	1,330,903	1,318,143	12,760
うち人件費 ^(※5)	157,627	187,385	△ 29,758
うち物件費	1,173,276	1,130,757	42,519
公演事業費	2,958,813	2,869,482	89,331
公演受託事業費	—	—	—
計	21,522,569	20,722,700	799,869

《主な増減理由》

- ※1 その他雑益等の減
- ※2 平成 30 年度当初予算事業及び補正予算事業の翌年度繰越による減
- ※3 過年度助成金返還の増
- ※4 旅費交通費、アルバイト人件費の減
- ※5 寄附金財源による人件費の増

2 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費	7,578,755	7,539,937	△ 38,818
新国立劇場公演等事業費 ^(※1)	4,289,304	3,989,581	△ 299,723
基金助成事業費	8,055,328	7,829,661	△ 225,667
一般管理費	1,334,073	1,308,929	△ 25,144

財務費用	0	5,857	5,857
雑損失	0	2,538	2,538
臨時損失	0	13,617	13,617
計	21,257,460	20,690,121	△ 567,339
収益の部			
運営費交付金収益 ^(※2)	9,732,250	9,495,374	△ 236,876
事業収入 ^(※3)	4,106,547	3,907,678	△ 198,869
資産見返負債戻入	724,897	685,480	△ 39,417
文化芸術振興費補助金収益 ^(※4)	6,433,248	6,251,444	△ 181,804
施設整備費補助金収益	0	5,238	5,238
寄附金収益	206,509	187,436	△ 19,073
雑益 ^(※5)	54,009	76,284	22,275
臨時利益	0	14,457	14,457
計	21,257,460	20,623,392	△ 634,068
純利益	0	△ 66,729	△ 66,729
積立金取崩額	0	—	—
総利益	0	△ 66,729	△ 66,729

《主な増減理由》

- ※1 固定資産取得額の増
- ※2 固定資産取得額の増
- ※3 入場料収入等の減
- ※4 執行額の減
- ※5 還付消費税の増

3 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	29,806,049	29,231,541	△ 574,508
業務活動による支出 ^(※1)	21,832,563	18,727,855	△ 3,104,708
投資活動による支出	990,006	915,841	△ 74,165
財務活動による支出	0	195,900	195,900
国庫納付による支出 ^(※2)	0	730,786	730,786
翌年度への繰越金	6,983,480	8,661,159	1,677,679
資金収入	29,806,049	29,231,541	△ 574,508
業務活動による収入	21,389,727	21,236,736	△ 152,991
運営費交付金による収入	10,089,414	10,089,414	0
文化芸術振興費補助金による収入	6,433,248	6,424,718	△ 8,530
公演事業による収入 ^(※3)	2,991,245	2,635,136	△ 356,109
公演受託事業による収入	0	0	0
基金運用による収入	1,115,302	1,115,651	349
その他の収入	760,518	971,817	211,299
投資活動による収入	632,842	411,796	△ 221,046
施設整備費補助金による収入 ^(※4)	632,842	411,796	△ 221,046
財務活動による収入	600,000	600,499	499
民間出えん金受入れによる収入	600,000	600,499	499
前年度よりの繰越金	7,183,480	6,982,511	△ 200,969

《主な増減理由》

- ※1 未払金の増による減
- ※2 第三期中期計画期間終了による国庫納付
- ※3 入場料収入等の減、未収金の増による減

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都 千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 30年度の稼働率の実績:P.122 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府 大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 30年度の稼働率の実績:P.122 参照
新国立劇場 舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	6	東京地区(5) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 25 戸(入居予定含む)、廃止宿舎・廃止予定宿舎を除く)、入居率 64.1% (31年3月末現在)。

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 100,000 千円
有価証券： 3,500,000 千円
投資有価証券： 75,080,884 千円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況は I-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当する金融資産なし。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、30 事業年度の当期総損失は 66,729 千円である。

《損失が生じた主な理由》

[収入支出決算]

- (1) 雑収入が、年度計画予算に対し 19,866 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・その他雑益の減 19,330 千円
- (2) 公演事業収入が、年度計画予算に対し 166,662 千円減少した。その主な内容は次のとおり。

- ・ 劇場入場料収入の減 133,149 千円
 - ・ 解説書収入の減 20,896 千円
 - ・ 食堂使用料収入の減 14,788 千円
 - ・ 劇場使用料収入の減 13,374 千円
- (3) 一般管理費が、年度計画予算に対し 27,697 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・ 人件費の減 29,967 千円
- (4) 事業費が、年度計画予算に対し 16,132 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・ 人件費の減 25,701 千円
 - ・ 業務委託費の減 11,816 千円
 - ・ 非常勤職員等人件費の減 8,288 千円
 - ・ 保守修繕費の増 29,789 千円
- (5) 公演事業費が、年度計画予算に対し 89,331 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・ 大劇場公演費の減 43,441 千円
 - ・ 小劇場公演費の減 22,915 千円
 - ・ 舞台管理費の減 11,381 千円
 - ・ 演芸場公演費の減 7,469 千円
 - ・ 能楽堂公演費の減 5,405 千円

[損益計算]

- (6) 自己財源で取得した固定資産の減価償却により 19,650 千円の費用増が生じた。

2. 運営費交付金債務

平成 31 年 3 月 31 日現在における運営費交付金債務残高は 5,348 千円である。

(単位：千円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額				期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金	
10,089,414	9,495,374	587,855	0	837	5,348

3. 外部資金の獲得状況

25 件 837,576 千円

- ・ 文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入 (7 件、35,227 千円)
- ・ 助成調査研究への寄附 (1 件、200,000 千円)
- ・ 芸術文化振興基金に対する民間出せん金 (15 件、600,499 千円)
- ・ 公演事業に対する協賛金による収入 (2 件、1,850 千円)

4. 目的積立金等の状況

(単位：百万円、%)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
前期中期目標期間繰越積立金	570				
目的積立金	0				
積立金	0				
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0				
運営費交付金債務	5				
当期の運営費交付金交付額 (a)	10,089				
うち年度末残高 (b)	5				
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	0.05%				

IVその他業務運営に関する重要事項

IVその他業務運営に関する重要事項	p.194
1 その他業務の運営に関する取組	p.197
2 施設及び設備に関する計画	p.199
3 人事に関する計画	p.200
4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	p.202

IV その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

振興会が行う自己点検評価、事業の実施結果に対する当該分野の外部専門家からの意見聴取等を踏まえ実施
評価結果の公表、評価結果の組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映
業務運営の効率化・国民に対するサービスの向上等に努める

(2) 運営費交付金等を有効に活用、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、その結果を逐次
運営管理に反映させるなど内部統制の充実・強化

(3) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報セキュリティ対策

法令等に基づき適切に情報の開示を行う

政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進

3 施設及び設備に関する計画

施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上、バリアフリー化等のため、各劇場等施設
について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館が開場以来50年を経過したことに鑑み、国立劇場本館における事業の安定的、継続的实施のため、
整備の実施計画を策定し、改修事業に着手

4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実により、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行い、より効率的
な業務運営を図る

② 適切な労務管理の実施

③ 多様な働き方の検討

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

(参考)

中期目標の期間中の人件費見込み 9,937百万円

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、
当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、
その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次の必要な費用に充てる

(1) やむを得ない事由により前期中期目標期間中に完了しなかった業務

(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務

(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協
力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るた
め、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むと

ともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 平成29年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を実施

自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を実施。評価結果は公表し、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底

(2) 情報セキュリティ対策

ア 情報システム更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、業務効率の一層の向上と運用経費の削減を図るため、外部サービスの活用を推進

イ 各職員の自己点検の実施、専門家による研修等を実施

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

併せて28年度策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」に基づき、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」の策定作業を進め、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備(以下「国立劇場等」という。)の改修については、これまでの国立劇場等大規模改修基本計画を見直し、新たに基本計画を策定

整備手法の検討のためにPFI導入可能性調査を実施

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施

(2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成

イ 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施

ウ 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る

エ 多様な働き方を推進するための制度導入を検討

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の策定に関して当初計画から遅れが生じ、現時点において整備方針の方向性に関する文化庁との協議が継続中であるが、このことは政府が進める日本博の開催に当たり、振興会には全国の無形文化遺産の保存、振興及び活用の中核的な役割を担う機能が必要との認識が高まり、当初計画になかった日本博の取組を視野に入れた整備方針の策定が求められたことによるものであり、その対応は適切であった。 ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。 ・両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>国立劇場等大規模改修工事関連調査等：1百万円/83百万円（1.2%） 国立文楽劇場外壁補修等：0百万円/40百万円（0.0%） 国立文楽劇場館内監視設備等整備：0百万円/46百万円（0.0%） 新国立劇場防災設備等更新：0百万円/464百万円（0.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>1 その他業務の運営に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映 <p>2 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修事業計画に係る整備方針の方向性の決定に向けた文化庁との協議を継続 ・国立劇場等大規模改修推進委員、国立劇場等大規模改修懇談会を開催 ・進捗状況に関する内部説明会を実施 ・「国立劇場等の再整備に係る事業収支分析業務」（10/31～12/25）を委託 <p>3 人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施 <p>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場等大規模改修事業に係る整備方針の方向性決定後、早急に基本計画の策定を行う必要がある。 ・能楽堂のエレベーターの設置及びユニバーサルデザイン化は早期に対応が必要。 ・30年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

①自己点検評価について

《29年度自己点検評価の経過》

30年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
30年3月～4月	各部において自己点検評価を実施
30年4月～5月	総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
30年5月8日	理事長により自己点検評価を決定
30年6月27日	評議員会において、28年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

《30年度自己点検評価の改善点》

- ・ 第4期中期目標に合わせ、報告書の様式を見直した。
- ・ 四半期ごとに業務実施状況の情報を収集し、自己点検報告書作成業務の効率化と内容の充実を図った。

②外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第47回	6/27	29年度・第3中期期間評価及び29年度決算についての審議、29年度評価結果についての報告、30年度計画実施状況の報告、31年度計画についての審議、国立劇場等大規模改修に係る審議等
	第48回	10/30	
	第49回	3/29	
評価委員会	29年度第2回	5/11	29年度評価の実施
	第3回	6/8	
	第4回	6/20	
	30年度第1回	10/19	30年度評価についての審議等
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	6/7・3/29	30年度公演計画の説明・意見聴取等、30年度公演状況の報告、31年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	6/12・3/15	
	舞踊公演専門委員会	6/13・3/14	
	邦楽公演専門委員会	6/20・3/22	
	雅楽・声明公演専門委員会	6/20・3/26	
	民俗芸能・琉球芸能 公演専門委員会	6/5・3/22	
	大衆芸能公演専門委員会	6/22・3/20	
	能楽公演専門委員会	2/4・3/7	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	5/16・3/6	
	短期公演等専門委員会(文楽劇場)	5/22・3/19	
事業委員会	養成事業委員会	6/26・3/8	30年度評価結果の報告、31年度の事業実施状況、31年度事業計画についての意見聴取等
	調査事業委員会	6/26・3/11	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/15・3/27	
芸術文化振興基金 運営委員会	第48回	9/21	29年度事後評価結果の決定、31年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、31年度助成金の分野別配分予算案の決定、31年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等
	第49回	1/25	
	第50回	3/22	
国立劇場等大規模 改修懇談会	第8回	3/18	国立劇場等大規模改修事業の検討の経緯、整備方針案の一部修正等

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化

①内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- ・ 役員会を開催し、振興会の業務に係る重要事項を審議した(開催回数：22回)。

- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

(b) 情報伝達

- ・ 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- ・ 部長・副部長による部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：12回)。
- ・ 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

(c) 内部統制委員会の定期開催

- ・ 理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を四半期ごとに開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議。(開催回数：4回)

② 監査

(a) 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(平成 29 事業年度決算監査及び平成 30 事業年度業務監査)の経過》

6/27、8/22、12/20、1/31	監事と理事長、理事とのディスカッション
6/15、1/9	監事と会計監査人とのディスカッション
4/23	監事監査計画 提出
8/31	第 3 中期目標期間における監事監査結果に基づく監事の意見提出

《監事の意見 4 件》

- ・ 役員会の運営について
- ・ 業務の見直し及び組織の改編について
- ・ スペシャリストの確保及びベテラン(業務に習熟した)職員の配置について
- ・ 国立劇場等大規模改修事業について

《監事の意見書への対応》

- ・ 意見の内容を検討し、必要な措置を講じる。

(b) 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

11/7	内部監査計画の作成(11/8 監事に通知)
11~3月	監査実施
3/15	監査報告書 提出 ※改善を要すると認められた点については、報告書各項目の意見欄に記載
3/18	監事に写しを送付

《監査事項》

- ・ 平成 28 年度内部監査指摘事項に係るフォローアップの措置状況
- ・ 理事長の見解、指示等の伝達状況
- ・ 法人の意思決定に係る原議決裁の状況
- ・ 各種会議、委員会の状況
- ・ 法規集に記載されていない内規等の状況
- ・ 自衛消防隊組織の状況
- ・ 振替休日の取得状況
- ・ 旅行命令、旅費精算に係る事務処理の状況
- ・ マイナンバーの管理状況
- ・ 入札不調の状況
- ・ 長期に亘って更新、継続されている契約案件の状況
- ・ 公演記録媒体の管理・更新の状況
- ・ 振興会ホームページの管理・運用の状況

ウ 情報開示の推進

- ・HPの情報掲載に当たっては、迅速な発信とともに、表現、掲載位置等を工夫。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 情報システム更新に際する外部サービス活用

- ・チケット販売システムにおいてインターネットを含む個人販売部分を外部サービスの活用に変更し更改

イ 各職員の自己点検、専門家による研修

- ・全職員に対し自己点検、セキュリティ研修（e-Learning 及び集合研修）、標的型メール攻撃訓練を実施し、情報セキュリティに関する普及啓発を行った。また、全職員を対象としてパソコン研修を実施し、事務作業に必要な知識、技術の習得を図った。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 年度計画に沿った整備の推進

ア 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進、メンテナンスの実施

- ・本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立劇場等の再整備に係る事業収支分析業務	999 千円
国立能楽堂空調等設備更新工事第3期	45,360 千円
国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事第5期	85,395 千円
新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備整備工事	28,944 千円

《運営費交付金による施設・設備の整備等》

国立文楽劇場南面外壁改修工事	20,088 千円
国立劇場本館大・小劇場客席床改修工事	18,576 千円
平成30年度国立劇場大劇場舞台機構電装品等改修工事	15,984 千円
平成30年度国立劇場おきなわ自動火災報知設備更新工事	15,120 千円
平成30年度国立劇場おきなわ便所洋風便器等(管理用)改修工事	12,960 千円
新国立劇場機械室加湿用蒸気管その他改修工事	9,180 千円

イ 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」の策定

- ・施設・設備の維持管理及び整備等については、長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」及び「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ、「同(個別施設計画)」の根拠となる中長期保全計画改修費算定の考え方を作成し、概算金額を算定した。

ウ 国立劇場等大規模改修に向けた計画、調査研究

- ・大規模改修事業計画に係る整備方針の方向性の決定に向けた文化庁との協議を継続している。
- ・国立劇場等大規模改修推進委員会(第18回6月26日、第19回3月8日)
- ・国立劇場等大規模改修懇談会(第8回3月18日)
- ・「国立劇場と大規模改修事業に係る整備方針案報告書」及び「国立劇場等大規模改修基本構想」の改訂案を文化庁と協議。(6月)
- ・大規模改修事業に関する進捗状況及び文化庁との協議経過について、国立劇場等大規模改修懇談会委員に対し個別説明を行った(7月)。
- ・大規模改修事業の進捗状況に関する内部説明会を実施(7/5、7/6、7/13)。7/5、7/6はweb会議システムを使用し文楽劇場職員も参加。意見及び質疑応答の内容を内部ホームページに公開。
- ・「国立劇場等の再整備に係る事業収支分析業務」(10/31～12/25)を委託。対象敷地で想定される民間用途及び余剰容積を活用したスキーム案の整理等を行った。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・30年度は、新規採用の一般事務職員並びに中途採用の部長級職員、58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による一般事務職員及び任期付きの事務員を採用した。
- ・国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	12人	国の機関への職員の派遣	2人
公益財団法人千葉県文化振興財団からの出向者	1人	国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣	2人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1人	新国立劇場運営財団への職員の派遣	8人
公益財団法人札幌市芸術文化財団からの出向者	1人		
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1人		
北九州市からの実務研修者	1人		

イ 各種研修の実施、適切な労務管理

①内部研修

- ・新入職員研修 4/2～27(参加者：3名)
- ・公演研修(1・2年次事務職員) 平成30年5月～平成31年3月(参加者：10名)
- ・営業研修(1・2年次事務職員) 平成30年5月～平成31年3月(参加者：10名)
- ・文楽技術室職員スキルアップ研修 5/10～13(参加者：1名)、5/27～29(参加者：1名)
- ・CMS研修 (参加者：42名)
- ・展示業務研修(3～10年次職員) 平成30年7月～平成31年2月(参加者：6名)
- ・課長研修(2年次事務職員) 7/19、9/13、10/16、11/22、12/12(参加者：各7名)
- ・課長研修(3年次事務職員) 7/23、9/27、10/16(参加者：各8名)
- ・平成30年度国立文化財機構との共同研修(国立文化財機構職員向け) 7/13(参加者：11名)
- ・平成30年度国立文化財機構との共同研修(振興会職員向け) 7/27(参加者：12名)
- ・パソコン研修 10/4、5(参加者：47名)
- ・経理関係業務研修会 11/6、13(参加者：113名)
- ・沖縄研修(3年次事務職員・舞台技術職員) 11/15～17(参加者：9名)
- ・施設担当職員研修会 11/20、21(参加者：28名)
- ・文楽技術室職員スキルアップ研修 9/6～9、9/23～25、11/26～27、12/17～19(参加者：各1名)
- ・接遇研修 1/28(参加者：10名)
- ・キャリアプラン研修 2/15、25、28(参加者：58名)
- ・情報セキュリティ管理者等研修 2/21、2/28、3/1(参加者：66名)
- ・内部統制研修 3/7(参加者：77名)

②メンタル不全対策の実施

- ・新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
- ・引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外務専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
- ・産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、相談業務を実施した。
- ・職員のストレスチェックを実施するとともに、入職1年目の職員及び7、8年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施し、若年層職員のメンタルヘルスの維持・向上を図った。
- ・メンター研修会 9/18(参加者：5名)
- ・メンタルヘルス研修 2/20、22、26(参加者：36名)
- ・ストレスチェック 10/15～29(参加者：319名)

ウ 外部研修への職員の派遣

- ・ 独立行政法人等決算留意セミナー 4/17(参加者：1名)
- ・ 第47回会計事務職員契約管理研修 5/18～6/22(参加者：1名)
- ・ (公財)助成財団センター7月定例研修会 7/4、18、25(参加者：のべ10名)
- ・ オフィス防災 EXPO 7/12(参加者：4名)
- ・ 依法律事務所研修会 7/13(参加者：3名)
- ・ KAAT 舞台技術講座 7/13(参加者：7名)
- ・ 健康保険委員研修会 7/18(参加者：1名)
- ・ マイナンバー実務セミナー 7/23(参加者：3名)
- ・ 給与実務研修会(人事院勧告説明会) 8/31(参加者：1名)
- ・ (公財)助成財団センター9月定例研修会 9/5(参加者：1名)
- ・ 平成30年度文部科学省文教団体共同職員研修会 9/19～21(参加者：4名)
- ・ 第56回政府関係法人会計事務職員研修会 10/3～11/16(参加者：2名)
- ・ 平成30年度文部科学省文教団体共同職員研修会 10/17～19(参加者：4名)
- ・ (公財)助成財団センター10月定例研修会 10/17、24(参加者：のべ2名)
- ・ Technical Theatre Training Program 2018 舞台技術講座 39th
 - 「舞台照明中級講座」 10/26、27(参加者：1名)
 - 「舞台音響中級講座」 10/28(参加者：2名)
- ・ お出かけ支援講座
 - 「視覚障害者お迎え編」 10/28(参加者：1名)
 - 「聴覚障害者お迎え編」 11/3(参加者：1名)
- ・ システム監査学会第31回公開シンポジウム 11/9(参加者：1名)
- ・ 平成30年度文化庁委託事業関東甲信越静地域劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会 11/12(参加者：2名)
- ・ 実践的サイバー防御演習 CYDER A コース初級 11/26(参加者：3名)
- ・ 第29回消費税中央セミナー 11/28(参加者：3名)
- ・ 平成30年度公文書管理研修Ⅱ(第2回) 12/5(参加者：1名)
- ・ 防火・防災管理講習 12/18、19(参加者：1名)
- ・ 育児休業制度等研修会 2/1(参加者：1名)
- ・ 世界劇場国際フォーラム 2019in さいたま 2/5(参加者：4名)
- ・ 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 2019 2/6～8(参加者：9名)
- ・ 平成30年度政策評価に関する統一研修 2/13(参加者：1名)
- ・ 平成30年度評価・監査中央セミナー 2/26(参加者：2名)
- ・ イベント総合 EXPO 2/27～28(参加者：2名)
- ・ PAC フルハーネス型墜落制止用器具特別教育 3/12、20(参加者：6名)

エ 多様な働き方を推進する制度導入の検討

- ・ 27年度から実施している「ゆう活」を引き続き実施した。
- ・ 業務の特殊性を十分考慮した多様な働き方の在り方について、今後の導入についての検討に着手した。

(2) 人員に係る指標

- ・ 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、HPに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(29年度ベース)。
- ・ 人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

30年4月1日付けで、30年4月1日から31年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について637,426,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、30年8月3日付けで653,253,000円に、31年2月12日付けで664,059,000円に変更した。委託費の確定額は664,059,000円である。

イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

①委託費の推移

(単位：千円)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
金額	600,319	598,521	652,203	656,320	664,059
前年度比	97.2%	99.7%	109.0%	100.6%	101.2%

②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め、利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,184,345kwh	△ 3.9%
	ガス使用量	35,165 m ³	△ 15.9%
	水道使用量	3,910 m ³	△ 9.7%
廃棄物	一般廃棄物	1,700kg	104.8%
	産業廃棄物	693kg	441.4%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	588,360 枚	5.2%
	用紙購入枚数	440,000 枚	△ 22.7%

※ガス使用量は、ガス空調機の使用が減少したことによる減。

※一般廃棄物は、舞台大道具製作の廃材が増加したことによる増。

※産業廃棄物は、倉庫等の清掃を行ったことによる増。

※用紙購入枚数の減に関しては、両面コピーや片面使用済み紙の使用など、用紙使用の縮減努力を継続しているためと思われる。

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

30年4月1日付けで30年4月1日から31年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について4,077,121,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、30年7月25日付けで4,107,579,000円に、31年2月19日付けで4,108,779,000円に変更した。委託費の確定額は4,108,779,000円である。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。

- ・ 人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

カ 情報開示の推進

- ・ 公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

①委託費の推移

(単位：千円)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
金額	3,826,811	3,735,077	3,996,273	4,228,851	4,107,897
前年度比	101.3%	97.6%	107.0%	105.8%	97.1%

②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業にかかる支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。また賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

30年度の外部委託契約62件のうち、委託業務38件(うち複数年契約29件)、物品の製造販売工事等16件の合計54件について一般競争入札を行っている。このうち、業務の効率化を目的として振興会と共同で入札を行った契約が2件ある。

30年度に行った入札及び公募は36件(うち複数年契約12件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが25件となっている。振興会との共同での入札は2件行い、財団担当の2件がここに含まれている。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,436,721kwh	△ 1.3%
	ガス使用量	6,229 m ³	10.8%
	水道使用量	11,429 m ³	△ 3.4%
廃棄物	一般廃棄物	36,265kg	△ 0.8%
	再利用廃棄物	33,840kg	18.9%
	産業廃棄物	15,743kg	△ 1.8%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	1,018,095 枚	2.3%
	用紙購入枚数	2,474,000 枚	△ 11.6%

※光熱水量は食堂・売店等テナントの使用量を除く。

※ガスはすべて楽屋食堂の使用であり、使用量の増加は楽屋食堂の利用客が増えたことによる。

※再利用廃棄物処理量の増については、事務棟内で席移動・模様替えを行い書類の整理等を進めたため、紙類の排出が増大した。

※用紙購入枚数の減については、会議資料のペーパーレス化など、用紙使用の縮減努力を続けている効果が出ているものと思われる。

※地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めている。

(c) 情報システムの活用

- ・ 平成29年度より進めている「複合機及びプリンタ整備・設置計画」に基づいて、コピー、プリンタ、ファックス等の機器を年度末までに複合機に変更した。

平成 30 事業年度評価報告書

第 16 期（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

令和元年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和元年 6 月 27 日に開催された第 50 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会
平成 30 事業年度評価報告書

令和元年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、平成 30 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	平成 30 年 10 月 19 日
第 2 回評価委員会	令和元年 5 月 17 日
第 3 回評価委員会	令和元年 6 月 7 日
第 4 回評価委員会	令和元年 6 月 21 日

平成 30 事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 概観

- ・ 全ての数値目標を達成したことは評価したい。
- ・ 国民の文化芸術活動に対する援助は、優れた文化芸術活動を通して国民の心を豊かにする重要な投資で、振興会の大切な役目である。
- ・ 全国各地域での文化芸術活動を支援する助成制度を周知し、募集、審査、助成、検証などすぐれたシステムを構築して実績を上げている。平成 30 年度は特に、新たな受け入れが可能になって相談会実施件数や助成件数も大幅に増え、国民の文化向上をめざす振興会の役割をおおいに果たしている。審査基準の公表や PD・PO との協働体制、活動別調査、研究など内容もきめ細かく、すぐれた事業展開を果たしている。
- ・ 多くの応募があり、基金の助成 620 件、補助金の助成 580 件が厳正な審査のもと選ばれ実施されたこと、助成金交付額が 1,200 件（約 72 億円）にも及んでいることは助成事業が的確に進んでいると高く評価できる。
- ・ 平成 30 年度からの国際芸術交流支援事業も含め、基金・補助金による助成の全分野について審査基準を毎年再検討のうえ事前に公表することで、助成の趣旨・目的が明確になり、さらに審査の公平・透明性が高くなっている。
- ・ 舞台芸術創造活動活性化事業の全助成対象活動について、膨大な事務量を抱えるなかで、公演調査・事後評価・意見交換会などの実施が事業開始から早期に実現でき、助成事業の適正化が着実に前進した。より客観性を担保するようにシステムを強化していることは特筆すべき成果と言える。
- ・ 文化庁から移管される「国際芸術交流支援事業」について、「国際共同制作公演（国内公演）」及び「国際フェスティバル」の全対象活動について公演調査を行う準備を迅速に整えたことは評価したい。「海外公演」及び「国際共同制作公演（海外公演）」については、現地での活動状況報告及び「助成対象活動実績報告書」を踏まえ、新たに作成した「審査基準申し合わせ」に基づく、より客観的な審査となり適切である。
- ・ 芸術文化復興支援基金から平成 28～30 年度に亘り東北 3 県の文化芸術関係団体へ助成したことは、大きな被害を被った民俗芸能の継承など、東日本大震災

からの復興に寄与できたという点において高く評価する。その効果を実地のヒアリングと活動視察によって確認したことは、特筆すべき取組である。

- ・ アーツカウンシル機能のうち、調査研究の強化を図るために非常勤 PD 1 名、主任調査分析研究員 2 名を採用し、4 名体制の調査研究班を新設することができたことは、高く評価できる。

- ・ 地域版アーツカウンシルとの連携を推進していくための方策を前向きに検討できている。

- ・ 芸術文化振興基金のホームページへのアクセス数は、3 年連続で前年より増加し、好実績を残した。ホームページには助成事業に関する Q&A、審査基準や助成実績などが詳細に掲載されており、情報開示が十分に行われていることも評価したい。

- ・ 「応募相談会」の参加団体数が昨年の 201 団体から、372 団体に飛躍的に増加し、目標の 260 団体を大きく上回ったことを特筆したい。

- ・ データを簡易に取り込めるクラウドサービスを導入し、募集に関する応募相談会の申し込みやアンケート調査の集計などに活用し、業務の簡素化、効率化を図ったことを評価する。

- ・ 前年度より寄付金の総額が 2 億円減少した。年度によって寄付の増減は致し方ないところもある。受入の工夫努力、広報活動をこれからも注目したい。寄附の受付については、クラウドファンディングを採り入れるなど、時代に即した方法を検討すべき時期であろう。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 国際芸術交流支援事業、劇場・音楽堂等機能強化推進事業など、年々事業量の増加があり、今後の業務運営において適切な人員確保を行うとともに、組織体制の見直しなどを的確に行う必要があると思われる。

- ・ 「応募相談会」は平成 29 年度の 4 都道府県（東京、大阪、福岡、愛知）に金沢と神戸を加え、開催地を増やしたことは評価する。今後数年おきでも、各地方の中核都市で開催してほしい。特に東北、北海道など東日本と北日本でも順次展開を期待する。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 劇場・音楽堂等機能強化推進事業等の新規事業に積極的に取組み、かつ適正化を推進することで、助成件数・相談件数が大きく増加しており、自己評定は A に近い B 評定と判断できる。

- ・ 過年度に指摘を受けた事項についてはほぼ対応しており、B 評定は相当と判断した。より一層努力し更なる上級の自己評価ができるよう努力されたい。
- ・ 助成に関する情報などの収集や提供、審査基準の公開、厳正な審査など概ね着実に実施されており、B 評定は妥当である。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1) 概観

- ・ 大衆芸能以外の各分野平均で 70%以上の入場率を記録したことは、十分に成功と見なされる高水準である。
- ・ 伝統芸能の中核的拠点としての役割が中期目標に沿って実現されている。
- ・ 『七重咲浪花土産』の 172 年ぶりの公演、明治 150 年記念事業の「東京の明治」、文楽劇場での半能・京舞・落語・銀鏡神楽で構成された「天の岩戸開きの芸能」、復元楽器による「日本音楽の流れⅡ」、歌舞伎・文楽・能楽の Discover シリーズなど、国立の劇場ならではの公演で、その企画力の高さが評価できる。その企画力の表れのひとつが、浅草を舞台とした企画公演「浅草―祭礼行事と浅草寺の声明」と国立能楽堂の《月間特集・能のふるさと・越路》の北陸道周辺を舞台とする芸能をまとめた公演であり、地域への波及効果があった。

《歌舞伎》

- ・ 一年を通じて、様々な歌舞伎の魅力を開示する良いラインアップであったと評価する。
- ・ 全体像の理解、歌舞伎の将来への伝承のため、「通し狂言」の上演を基本とし、珍しい場面の復活を手掛けるなど、国立劇場ならではの姿勢を評価したい。
- ・ 歌舞伎鑑賞教室に限らず、通常の公演においても実力のある俳優、若手の俳優の登用を図っていることを評価する。
- ・ 『平家女護島』『名高大岡越前裁』では台本・演出の見直し、『増補双級巴』では上演が途絶えていた珍しい場面の復活などにより、現代の観客の理解を助ける役割を果たすとともに、歌舞伎の伝承とレパートリーの拡充に努めた。
- ・ 『平家女護島』の通し上演は平成 7 年以来で、場割はその時のものに従っている。国立劇場の通し上演の好見本である。戯曲の全貌を見せるという考え方と共に、平素、一幕物の『俊寛』として上演される「鬼界ヶ島」だけではわからない奥行や含みまで理解できる効果を生み出すことができたのは今後への指針と

も言えよう。

- ・ 『増補双級巴』は、久しく上演されていない名作を取り上げ、「釜煎り」の場面がないのは惜しかったが、通し上演としての成果を上げた。

- ・ 今後の上演が途絶えるかもしれない演目を取り上げる場合には、その点を逆にアピールする等、大胆な広報宣伝にも挑んでほしい。

- ・ 『姫路城音菊礎石』は、212年ぶりとなる平成3年の復活上演を参照し、原作から新たに台本を補綴した。国立劇場ならではの取組で、楽しいエンターテインメント歌舞伎であった。

- ・ 年度計画を変更し、3月の小劇場での公演回数を増やすなど、柔軟に対応したことを評価したい。

- ・ 3月公演は12年ぶりに小劇場を用い、次世代への芸の継承に寄与するとともに、それぞれの個性と実力が見事に披露された貴重で贅沢な舞台となった。小劇場歌舞伎は今後の国立劇場での上演の多様性を探る試みとして評価できる。

- ・ 「Discover KABUKI」は英語に精通したフリーアナウンサーの起用により、当意即妙の受け答えで、歌舞伎の魅力をよりわかりやすく伝えることができた。上演演目の『連獅子』は、外国人にもわかりやすい内容と、ダイナミックな演技で、的確な企画と評価できる。

- ・ 「Discover KABUKI」で、新たにフランス語を加えた6言語の無料音声ガイドを提供し、10月公演では英語・中国語・韓国語によるポータブル字幕機の貸出や解説書の無料配布を試みた点も、今後を見据えた取組として注目できる。

- ・ 「Discover KABUKI」 「Multilingual Week」では、演目解説・あらすじを収めた解説書を、新たにフランス語を加え、6言語で作成した。オリンピックを控えた広報活動の国際化として評価されるべきである。

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員・スタッフを派遣し、公演先の文化施設担当者との打合せ、仕込み、舞台稽古、本番の中で、国立劇場の技術やノウハウを提供したことは、現地スタッフの技能向上につながる取組であった。

《文楽》

- ・ 「通し狂言」「見取り狂言」等多様な上演形態、時代物と世話物との組み合わせなど、観客の興味や関心をひく演目を適切に配置、構成している。また、上演頻度の少ない演目や場면을積極的に取り上げ、技芸の伝承やレパートリーの拡充に努めたことは高く評価できる。

- ・ 世代交代がすすむなか、若手の奮闘やベテランのより一層の向上など、技芸員の陣容が揃ってきたことで、さまざまな演目に取り組み、一定の成果をあげるだ

けの安定感が増してきており、さらなる技芸の深化と確実な伝承が期待できる。

- ・ 吉田玉助襲名披露狂言『本朝廿四孝』は大名跡の襲名として話題性が高く、実現できたことを評価したい。
- ・ 『夏祭浪花鑑』で「道具屋」「道行」「団七内」、『桂川連理柵』で「石部宿屋」などの比較的珍しい段を上演することで、物語の流れが明確になり、作品理解が深まる国立の劇場ならではの公演となった。
- ・ 文楽劇場で実施されている「ワンコインで文楽」（主催・NPO 法人人形浄瑠璃文楽座）の活動で、30歳以下の観客が技芸員のレクチャーを含めて500円で文楽を鑑賞できる企画は、将来の観客育成の観点からも積極的に推進してほしい提携と言える。
- ・ 文楽鑑賞教室は本館・文楽劇場ともに、高校生、大学生等を対象として将来の観客を育成していく意図を持って、わかりやすい解説とともに名作の著名な場面を取り上げて文楽の魅力を伝えることができた。ダブルキャストも技芸員の演技を見比べることができ、観客動員を後押ししていると言える。
- ・ 夏休みの子ども向け公演『瓜子姫とあまんじゃく』は、将来の文楽ファンにつながる取組で、これも国立の劇場ならではの公演と評価できる。また、文楽座技芸員とボランティア「文楽応援団」の協力を得て、一般公開の1階展示室で体験ワークショップを実施し、文楽に親しむ好企画と言える。
- ・ 社会人のため、上演時間にも配慮した「社会人のための文楽入門」や、在日・訪日外国人に向けた「Discover BUNRAKU」を実施し、解説者にネイティブスピーカーで日本文化に精通したゲストやバイリンガルの落語家を招くなど、独自の視点からわかりやすく文楽の魅力を伝えている。対応する言語も追加され、インバウンド対策を継続的に推進している点も評価したい。
- ・ 文楽公演のプログラムは、演目説明だけでなく、技芸員のインタビュー、評論、さらには床本が付いており、充実した内容となっており、企画力の高さが評価できる。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか》

- ・ ほぼ全ての分野で計画を上回る集客に成功し、しかも全体として80.6%の高い入場率を記録した。企画力の優秀さをしめす証左と言えよう。
- ・ 「浄土真宗の声明」「雅楽器の魅力」「毛越寺の延年」「春むかえ 田峯と西浦の田楽」「天の岩戸開きの芸能」「日本音楽の流れⅡ—琵琶—」など地味な分野に焦点を当てて、きめ細やかな公開、公演は振興会ならではの言える。
- ・ 雅楽・声明についてはすでに一定の実績と評価が定着し、民俗芸能について

も、毎回工夫が凝らされ、とくに琉球芸能の成果は評価すべきであろう。舞踊は、「舞の会」など、今日での水準をキープする上で、振興会の公演が担っている役割は評価されて然るべきであろう。

- ・ 定量的にみるなら、計画を下回った舞踊だが、入場率が目標に達しなかった公演はどちらも芸術的な水準自体は十分に高かった。七変化舞踊『七重咲浪花土産』を 172 年ぶりに復活し、切り口が新鮮で、国立劇場ならではの企画であった。「東西名流舞踊鑑賞会」は名手を集めた企画で、さまざまな流儀が一堂に会する貴重な機会であった。中堅、若手への技芸伝承の立場からも継続が望まれる。

- ・ 「花形・名作舞踊鑑賞会」は座談「花形よもやま話」を交え、日本の舞踊と舞踊家を知る貴重な公演であった。

- ・ 「舞の会—京阪の座敷舞—」が、京阪四流の家元やベテランを中心として上方舞、座敷舞の魅力を十分に伝えることができた点は評価できる。

- ・ 文楽劇場の「文楽素浄瑠璃の会」は上方の味がたっぷりであり、『和田合戦女舞鶴』「市若初陣の段」は技芸員が珍しい曲に取り組める機会を与えた。歌舞伎俳優片岡仁左衛門と文楽太夫豊竹咲太夫の対談は歌舞伎と文楽の演出の違い、松嶋屋と成駒屋の演出の相違など興味深い内容であり、全体の集客にもつながるユニークな企画であった。

- ・ 天皇陛下御在位 30 年記念・国立劇場おきなわ開場 15 周年記念・組踊上演 300 周年記念実行委員会共催事業の琉球芸能公演は、地謡の若手、組踊『二童敵討』の鶴松、亀千代役の若手が好演で、伝承者の育成が実効をあげていることがわかる。多数の入場者を記録したことを評価する。

- ・ 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」、「大人のための雅楽入門」、「大人のための声明入門」などは、伝統芸能を体験的・実践的に学ぶ機会として人気の高い公演となっており、対象を特化した企画で伝統芸能の裾野を拓げる努力を継続的に実施していることを評価したい。国立劇場に相応しい普及活動であり、日本文化伝承のため極めて重要な取組である。

《大衆芸能》

- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成し、「国立名人会」をはじめ、さまざまな公演のチケットが完売するなど、その努力を高く評価する。

- ・ 定席公演の入場率は、順調な伸びを記録し、平成 30 年度も前年度並みを記録した。観客のすそ野が広がり、近年の落語人気は国立劇場の定席にも及んだことを実感させて、たいへんに喜ばしい。

- ・ 演者の技芸・劇場の企画・運営、いずれも安定した水準を維持していること

が察せられる。いつでも行ける定席が寄席の本質であるが、一方で「名人会」等が大入りが続けていることはバランスが取れ、喜ばしい。

- ・ 若手新人公演「花形演芸会」は花形演芸大賞を目指して出演者が健闘するという企画が受け入れられ、入場率も高く、注目できる企画である。
- ・ 「国立名人会」は、落語の名人や演芸界を代表する名人が出演するので、高い人気を誇っており、入場率も高い。企画・運営面での努力を評価したい。
- ・ 「正蔵を語る」「圓朝に挑む」など振興会らしい名物企画での高い入場率達成の努力、いずれも大健闘と言える。
- ・ 文楽劇場の「浪曲名人会」は関西浪曲界の名人を中心に、「浪曲錬声会」は若手中心で第一部、第二部で異なる演目を口演することで観客の興味や関心に応え高い入場率を維持している。「上方演芸特選会」は、浪曲、漫才、落語、太神楽など多彩な演目を取り上げ、観客の要望に応える企画を工夫している。
- ・ 新作脚本の募集、選考は、講談への関心を高める事業で、伝統芸能公演に対する信頼度が高い国立の劇場ならではの取組と評価できる。

《能楽》

- ・ 全公演で目標入場者数に達したのは特筆すべきである。合計の入場率も三年連続で 99%を超え、独法化以降最高の入場率を達成し、鑑賞教室にいたっては 100%を記録した。演目の選定に企画性の高さが感じられることも評価したい。
- ・ 定例公演、普及公演、企画公演など、バリエーションがあり、毎回よく考えられたプログラムになっている。展示室との連携もよく取れており、観客の知的な好奇心と日本の美に対する探究心に、丁寧かつ適確に対応していると高く評価する。
- ・ 企画公演ではテーマを明確にし、固定ファンを飽きさせないだけでなく、新たな関心を持つ観客層の発掘にも効果をあげ、国立能楽堂ならではの高い企画力が評価できる。
- ・ 開場 35 周年記念として『狐塚』、『小鍛冶』など、同一演目で流儀による演出の違いを見せ、通の観客にとっても興味深い試みであった。
- ・ 12 月と 1 月の特別企画公演で、『道成寺』を二ヶ月連続上演したことが目を引いた。宝生流の若き宗家宝生和英と円熟味を増した観世鍔之丞という対照もよく、明治 150 年を記念して国立能楽堂所蔵の唐織の名品を着用することで話題性も高まった。通常ではみることができない特筆すべき企画である。
- ・ 「月間特集 所縁の能・狂言」では、歴史的な事件と流派や家に関連する作品を取り上げ、観客が奥行きのある深い見方に触れる機会となっており、継続的に実

施されている効果が出てきた。中でも定例公演『自然居士』は珍しい「古式」で冒頭、観世清和が長い説法を見事に謡い上げることで、この演目の原初のかたち
が彷彿とした。国立能楽堂にふさわしい上演だった。

- ・ 新作『智恵子抄』などの企画は、既成の観客以外にも興味・関心の対象になり得て、能楽の強みを発揮した。
- ・ 外国人に向けた「Discover NOH & KYOGEN」を企画し、能の外国人研究者による実演を交えた英語解説を付すなど、初心者でも楽しめる公演となった。字幕も4言語に対応し、日本文化の発信により貢献するものとなった。今後は公演回数を増やすなど、さらに発展させてほしい。
- ・ 1月普及公演ミネソタ大学のグローバル・セミナー特別体験は、利用者の要望にこたえる柔軟な対応で、能楽の国際化や普及を積極的に進める国立能楽堂ならではの取組として評価できる。

《組踊等沖縄伝統芸能》

- ・ 公演機会の少ないすぐれた演目のほか、創作組踊や創作舞踊等の公演により演目の拡充に努め、技芸伝承を図る上演がなされたことを評価する。
- ・ 上演が稀な組踊演目の掘り起こしでは、『大川敵討』『運天の若按司敵討』、沖縄芝居の時代幻想劇『王女御殿』が上演され、計画を実績が上回った。計画目標数が低すぎると思われるかもしれないが、知名度から言って計画入場率は妥当であり、こうした演目を知らしめることの意義を重く受け止めたい。
- ・ 「女性の演じる組踊」が、特筆すべき企画である。沖縄戦で男性演者の多くが亡くなって以後、女性の演出・演者による組踊の上演が試みられ、独自の発展をみせてきた。『手水の縁』『執心鐘入』という名作の連続上演を行ったところに大きな意気込みが感じられる。今後もぜひ継続すべき取組である。
- ・ 「琉球弧の島唄」として奄美から八重山までの島唄を一同に集めた公演は、伝統芸能継承という国立劇場ならではの企画と評価できる。
- ・ 『大川敵討』長時間の通し上演、組踊、琉球舞踊、沖縄芝居など各分野の「鑑賞教室」開催など地道な努力が、70%を越える入場率で実を結んでいる。
- ・ アジア・太平洋地域の芸能として開催された「モンゴルの伝統芸能」公演は、東シナ海地域の交流拠点であった沖縄の芸能を国際的、横断的にとらえ、幅広い視点で見直していく試みであり、国立劇場の取組として評価できる。
- ・ 主催公演として初めて上演した組踊『雪払（今帰仁御殿本）』『運天の若按司敵討』、若手・中堅演者による『大川敵討』などは、組踊の継承と発展へ向けた国立劇場ならではの取組と評価できる。

- ・ 「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」では学校団体との連携を強化しながら、多様な切り口で沖縄の伝統芸能についての理解を深める機会となっており、継続的に取り組んでいる。
- ・ 公益財団法人沖縄県文化振興会との共催を積極的に行い、沖縄伝統芸能の振興拠点としての役割を高める取組も評価できる。

《演目の拡充》

- ・ 舞踊『七重咲浪花土産』が172年ぶりに復活上演を果たしたこと、文楽劇場の文楽公演で復曲作品の上演、文楽の復曲試演会、公開録音さらには国立劇場おきなわでの組踊の新作の上演や創作舞踊の初演、再演を実施したことを評価する。
- ・ 新作歌舞伎脚本募集と選考は応募数が100を超えていることを評価する。

《青少年等を対象とした公演》

- ・ 分かりやすい解説への努力、台本作家の起用、『組踊版・シンデレラ』の企画、文楽体験ワークショップなど多彩な内容が一層充実した。
- ・ 次世代観客を育成する青少年等を対象とした公演は高い入場率であった。アンケートでも多くの方が満足と回答している。これからの観客層を育む、大切な取組であり、引き続き重視してほしい。
- ・ 「歌舞伎鑑賞教室」では分かりやすく楽しい解説とともに、『連獅子』や『日本振袖始』などの名作が上演され、能楽堂の「夏休み親子で楽しむ能の会」では『土蜘蛛』が上演された。青少年が古典芸能に触れる貴重な公演であり、出演者の真摯な姿勢も強く感じられ、高く評価する。
- ・ 「社会人のための文楽入門」「社会人のための文楽鑑賞教室」や能楽堂「夏スペシャル・働く貴方に贈る」「外国人のための能楽鑑賞教室」など、さまざまな企画公演で新たな観客層の開拓を心掛けていることも高く評価する。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項（連携協力等）》

- ・ 横浜・静岡での歌舞伎、京都での組踊は連携強化の成果と言える。
- ・ 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社、その他外部団体などの後援・協力、全国各地の文化施設などにおける後援も積極的に行っている。国立劇場としての役割を果たし得ている。
- ・ 日本学生支援機構（JASSO）と相互協力に関する基本協定が新たに締結され、外国人留学生などへの歌舞伎・文楽・能楽という伝統芸能各分野の公演周知なら

びに特別イベントなどが開催できたことと、これによって伝統芸能の国際化が推進できたことは、国立の劇場ならではの取組であると評価できる。

《快適な観劇環境の形成》

- ・ 国立劇場、国立能楽堂などロビーに季節らしさを演出したり、過去のポスターなどを展示して観客に情報を提供したり、椅子の配置を換えて空間のイメージを変えてみたり、それぞれ限られたなかでの創意工夫を続けている。こうした努力はささやかではあるが、大切なことであり、評価したい。
- ・ 「Discover KABUKI」において、音声同時解説、解説書、アナウンス等に新たにフランス語を加え最大 6 言語まで拡大したことは、伝統芸能に関心のある訪日・在日外国人の鑑賞の助けとなった。
- ・ 「歌舞伎鑑賞教室」における聴覚障害者観劇機会拡大への取組など利用者増加への取組を評価する。

《広報・営業活動の充実》

- ・ 劇場を訪れてもらう「さくらまつり」のような広報活動と、インターネットやメディアなどを通じた発信など高く評価する。今後も、国内外により一層魅力ある広報宣伝活動を期待したい。
- ・ 文楽劇場では、とりわけマスコミ、文化施設、商業施設など幅広く地域と連携した広報活動を積極的かつ継続的に展開できている点は評価できる。国立劇場でも地域連携の企画を通して、地域にも浸透していく努力を行っており、外国人観光客への情報発信にもつながることも期待できる。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」に平成 30 年度より 5 校が新規加入し、計 24 校となった。加入期間の長さに応じて割引となる年会費を令和元年度より導入する予定もあり、意欲的に若い観客の掘り起こしを行っている。
- ・ 文楽劇場では幕見席を販売しており、インバウンド対策として入場料や鑑賞機会の選択肢を拡げることが有効である。

《劇場施設の使用効率の向上等》

- ・ 国立劇場おきなわ小劇場は、稼働率大幅アップの努力が見られる。
- ・ 組踊や文楽のワークショップは、演者との交流も含んでおり、伝統芸能の普及にとって効果的で、国立の劇場としてふさわしい取組と評価できる。
- ・ 災害などへの対応として、各劇場で消防訓練、避難訓練が実施されており、適切な取組と評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 韓国国立無形遺産院からの招聘で、文楽の韓国公演が実現できたことは評価できる。国際交流基金とは、フランスでの「ジャポニスム 2018」で文楽公演や外国人向け小冊子の配布などによって連携しているが、今後、組織的な連携をより強化してさらなる海外発信の推進が必要となる。
- ・ 「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」は音声ガイドも導入した取組だったが、さらに入場率を上げてほしい。
- ・ 外国人の入場者数を上げていくためには、在日・訪日外国人観客の実態調査も必要。個人情報との関連もあり、聞き取り調査などを適宜実施していくこともひとつの方策として有効で、そのためには語学に精通したスタッフの育成も課題であろう。
- ・ 本館、3階食堂と喫茶室の半年間の閉鎖は、多くの観客に不便を強いる形となり、また一階ロビー風景も損なわれイメージダウンであった。もっと短期間で解決すべきであった。
- ・ 文楽劇場の食堂が閉店しており、代替設備・施設を検討する必要がある。
- ・ 観客の求める「芝居見物」の雰囲気を取り戻して、食堂、甘味処、売店など、良い劇場づくりの努力を重ねてほしい。
- ・ 消防訓練・避難訓練が適切に行われている実績から、これらについてのガイドラインの作成と全国の劇場に向けた災害時対応モデルの提供が望まれる。
- ・ 魅力ある解説書のバックナンバー入手について、情報提供を積極的に行ってほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 劇場管理、運営、集客など概ね着実に実施されており、B評価は妥当である。
- ・ 各劇場とも国立の劇場ならではの高い企画力を示す公演が多く、目標を上回る成果をあげており、業務内容の定性的評価としては A がふさわしいと判断できる。
- ・ 振興会の根幹事業である伝統芸能の公開について、常に工夫を凝らして幅広い分野で十二分に成果を上げている。
- ・ 各ジャンルでは、それぞれに世代交代の時期を迎えており、技芸の伝承は伝統芸能にとっては大きな問題だが、伝統的な古典の名作とともに新作、上演機会の少ない演目などで若手・中堅を積極的に起用したことが、徐々に実力を備えた伝承者へと育てており、安定感が全ての公演で出てきている。同時に、鑑賞教室などの充実によって鑑賞力を備えた幅広い層の観客や若年層に対して伝統芸能

の魅力を伝え、その育成に資する企画面の工夫も着実に積み重ねられてきており、国立の劇場として、伝承者と観客の双方を育てていこうとする姿勢が徐々に実を結びつつある。

2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

(1) 概観

- ・ 全ての公演を計画通り実施し、入場者数もバレエ、現代舞踊は全公演、オペラ、演劇はジャンル全体で、目標値を上回ったことを評価する。
- ・ 新国立劇場は開場 20 周年を迎え、馴染みある街の風景の一角として存在するようになった。質の高い舞台芸術を求めて劇場を訪れる観客にとっても、肩に力を入れずリラックスして楽しめる「わたしたちのオペラハウス」に成長した。
- ・ 創作委嘱作品『紫苑物語』の初公開、バレエ『不思議の国のアリス』の上演権獲得と上演、演劇部門での新作、海外戯曲の日本初演など、国立の劇場にふさわしい意欲的な取組であり、その積極性は高く評価できる。

《オペラ》

- ・ 名作、新作、新制作とりまぜて充実の年間編成であった。
- ・ 年間を通して世界的な歌手とともに日本人歌手が大いに活躍し、質の高いオペラを上演できたことを、国内でのオペラ文化を広める観点から高く評価する。実力派の外国人歌手と競演することで日本人歌手の演技力が向上しており、新国立劇場オペラの存在感を打ち出すことができている。
- ・ 昨年に引き続き、オペラ公演全体として計画した入場率を達成した。また、『ウェルテル』で計画した入場者数がわずかに不足したものの、それ以外の全ての公演で計画した入場率を上回った。とくに、『アイーダ』『カルメン』は入場率 94%以上の満席を記録し、対計画達成率も 110%を上回る快挙となった。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念特別公演『アイーダ』は、1998 年の開場時から 5 年ごとに再演され今回で 5 回目の上演だが、豪華でスケールの大きいオペラであり心待ちにしていた観客に大いに応えられる素晴らしい舞台になった。この 20 年で著しい進化を遂げたのはオーケストラと合唱団かも知れない。これも劇場の弛まぬ努力の成果であると高く評価する。
- ・ 新制作『フィデリオ』は、ベートーヴェンの描いた「救出劇」を「悲劇」にしてしまったどんでん返しの演出に観客が当惑し、評は賛否両論あった。現代社会に重ね合わせた新演出として高く評価する向きもあったことは、オペラファ

ンの知識の豊かさや許容量の大きさも含め、非常に良い傾向である。

- ・ 新制作の一方で、『トスカ』は本公演・鑑賞教室で11回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで2回、のべ13回の上演が行われ、オペラへの理解と振興が進み、観客、出演者双方にとって良い機会を提供できたと評価できる。

- ・ 新芸術監督を迎えての新シーズン開幕はプロジェクションマッピングを使い視覚的情報量の多い演出の『魔笛』で、斬新で質の高い舞台を構成できた。

- ・ 全キャスト日本人による日本人作曲家委嘱シリーズ第1弾として世界初演された『紫苑物語』は、日本文学をオペラ化する壮大な実験に挑戦した作品になった。テレビ放映されるなど、日本でのオペラ文化の定着化という効果も期待され、国立の劇場の役割として評価できる取組であり、作品にかける意欲を高く評価する。

《バレエ》

- ・ バレエ公演全体で90.4%という記録的な入場率を達成し、全ての公演で実績が計画を上回った。とくに『不思議の国のアリス』『くるみ割り人形』はほぼ満席となる94%以上の入場率となった。

- ・ 人気演目を並べたこともあって、いずれも高い達成率を上げたことは評価する。一方で上演された演目に新味がない感も否めない。

- ・ 新国立劇場バレエ団とオーストラリア・バレエとの共同制作で上演が実現した『不思議の国のアリス』は、8回の公演がほぼ満席となり、親子連れから大人のバレエファンに至るまで幅広い観客層により高い評価を受けた。アジア圏では最初に、唯一上演権を獲得して公演できたことは、国立の劇場ならではの信頼度の高さに拠ると判断でき、国際的にも劇場の評価が高まったといえる。新国立劇場バレエ団のダンステクニクの高さは世界クラスだが、演技力やユーモアの表現など、表現者としてより高みを求められる作品に挑戦し、良い結果を得られたことは、バレエ団の質の向上にも大いに役立った。

- ・ 名作『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ラ・バヤデール』などのたいへん質の高い公演に加え、バレエリユスを彷彿とさせる『ペトルーシュカ』の上演などは、オーケストラの演奏も含め、新国立劇場20周年の実績を感じさせる見事な舞台であった。高く評価したい。

- ・ 米沢唯、小野絢子らの受賞が新国立劇場バレエ団の質の高さを表しており、外部評価も高いダンサーを多く登用することで、バレエ振興を図っており、国立の劇場としてふさわしい取組と判断できる。従来から評価の高かったコール・ド・バレエに加えて、プリンシパルが高い評価を受けたことは、バレエ団の成熟

を物語る。

《現代舞踊》

- ・ コンテンポラリー・ダンスのブームが沈静化し、かつてほどの入場者が見込めないなか、全ての演目で対計画達成率 100%以上を記録し、入場率自体も 84.2%と三年連続 80%を上回った。
- ・ 子供も楽しめる作品『サーカス』を上演し、新たな観客を集めたことを評価する。また、子供の客席での自在な反応が見られ、意義深い再演となった。
- ・ 「JAPON dance project 2018」で新国立劇場バレエ団の団員とダンスで共演する企画は、新しい表現の可能性を開き、バレエ団のファンも惹きつけ、高い入場率につながった点は評価できる。
- ・ 「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」は、現代舞踊史を示すという意図をもち、国立の劇場にふさわしい公演と評価できる。
- ・ 新国立劇場バレエ団による舞踊公演が 2 回行われ、人気を博していることから、ダンサー育成という新国立劇場の使命が着実に進んでいると評価できる。

《演劇》

- ・ 演劇公演全体で計画達成率 116.8%と、好成績を記録した。
- ・ 日本初演の『1984』、新作『消えていくなら朝』、新訳上演『誤解』『スカイライト』の公演があり、演劇文化向上にむけた意欲的かつ積極的な取組が行われたと評価できる。特に、『1984』の 35 回という公演数は、より多くの観客が作品にふれる機会となった。
- ・ 『1984』の日本初演、『誤解』『スカイライト』の新訳上演など、翻訳劇が取り分け意義深いものだったが、和製の作品も、新作『消えていくなら朝』も好感の持てる作であり、『夢の裂け目』は、常連の一座による手練の業を見る楽しさがあった。この一年の現代演劇はいずれも質の高さを示したが、これは企画の成功とも言える。
- ・ 小川新芸術監督となって、海外の優れた戯曲の日本初演や新訳上演がより強く打ち出されている。監督就任前にロンドン・ニューヨークで話題になったばかりの『1984』をいち早く日本で演出したフットワークの軽さは見事であった。
- ・ 『ヘンリー六世』三部作（2009年11月）、『リチャード三世』（12年10月）、『ヘンリー四世』第一部・第二部（16年11月）、そして今回『ヘンリー五世』をほぼ同一のキャスト・スタッフで上演しているのは、世界的にも希有であり、継続してその他のシェイクスピア歴史劇の上演が期待される。

- ・ 『消えていくなら朝』は、家族をテーマに、ひとの感情の機微を描いた良い作品だった。宮田慶子監督の凝縮したメッセージを感じるラインアップを高く評価したい。
- ・ 『誤解』と『誰もいない国』については、芸術祭参加の名の下、日本で広く真価が理解されているとは言いがたい作家の作品を上演して、その醍醐味を堪能させたことに意義がある。
- ・ 小川新芸術監督のもと、『誤解』、『誰もいない国』、『スカイライト』と、いずれも外国人作家による台詞劇を、それぞれの演出で、視覚的にも興味深く見せた。
- ・ 『スカイライト』の上演は、今年の新国立劇場の演劇公演で最も高評価を受けた。蒼井優が好演し、読売演劇大賞最優秀女優賞、紀伊國屋演劇賞個人賞などを受賞したが、作品自体も『シアターアーツ』誌（国際演劇評論家協会日本支部）による演劇評論家アンケートで、年間第6位に選ばれた。また『Join』誌（日本劇団協議会）の特集「私が選ぶベストワン」では演劇人へのアンケートで、浅野雅博が助演俳優賞部門第1位に選出され、演出家部門で小川絵梨子、スタッフ部門で美術の二村周作が、この作品の成果で高く評価された。
- ・ 新しい試み「こつこつプロジェクト〜ディベロップメント〜」がスタートし、3つの作品がシンプルなかたちで上演され、今後どのように演劇化されていくか期待したい。新国立劇場ならではの新しい取組として評価し、新たな観客層の取り込みも含め、大いに期待したい。
- ・ 『赤道の下のマクベス』『1984』『消えていくなら朝』『夢の裂け目』『スカイライト』が、兵庫県、豊橋市、新宮町、北九州市で15回の受託公演を行っていることは、国立の劇場の役割が着実に進展していると評価できる。

《青少年等を対象とした公演》

- ・ 青少年等を対象とした鑑賞教室は、昨年を上回る高い入場率を記録した。一昨年以来、全てのジャンルで青少年向きの取組がなされており、アンケートでも昨年以上回る91.4%が満足と回答している。
- ・ 『サーカス』の鑑賞年齢引き下げの工夫などきめ細やかでよい。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室では『トスカ』を上演し、絢爛豪華な舞台装置や衣裳も含めて本格的なオペラに触れる貴重な機会となった。
- ・ こどものためのバレエ劇場『シンデレラ』は舞台美術も衣裳も音楽もコンパクトにつくられていて分かりやすく出来ている。子どもたちの夢見る世界が次に繋がるよう、バレエの質の高さを保ち、劇場の創意工夫が続くよう期待する。カーテンコールの撮影を許可したことでSNSなどに掲載され、広報宣伝の一助

になったのもユニークで評価できる。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項（連携協力等）》

- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受け入れ、地域の公立文化施設への技術者を講師として派遣するなど、連携を強化したことを評価する。
- ・ 新国立劇場合唱団の外部公演が平成 29 年度と同様 22 件行われており、合唱団の高い外部評価が持続的に得られていると判断できる。

《快適な観劇環境の形成》

- ・ 新国立劇場はメールでの意見受付と、それらへの回答数が群を抜いている。
- ・ 「第 3 回避難体験オペラコンサート」を中劇場で実施し、職員、委託業者など、全職域が参加する自衛消防訓練が実施されたことは、災害時に大いに役立つ。

《広報・営業活動の充実》

- ・ 新国立劇場ならではの多種多彩な広報・営業政策は注目すべきであり、高く評価できる。
- ・ 動画や英語ニュースを増やして英語版 HP の更新頻度を向上し、英語版 SNS（Facebook、Instagram）とも連動させて、日本の現代舞台芸術の魅力を国際的に発信する基盤を作った。
- ・ クラブ・ジ・アトレの会員向けイベントの多彩さ、特に有料パーティーや見学会の参加者数が多いことは好ましい傾向である。
- ・ 広報宣伝活動に関しては、ホームページと SNS を連動させ、動画やインタビューなど活用し、積極的に情報発信していることを高く評価する。

《劇場施設の使用効率の向上等》

- ・ 各劇場の稼働率は 100%近くに達しており良いと思うが、より一層の努力を期待する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 平成 30 年度に上演した作品それぞれが一定以上の水準を行くものであったのは芸術監督の狙いをはじめとする企画の勝利でもあるが、半面、これが守りに入ることへの入り口にならぬよう、心してもらいたい。
- ・ 新国立劇場開場 20 周年記念公演に選ばれた、井上ひさし作『夢の裂け目』

は、新国立劇場のための書き下ろし作品でもあり、大切に上演を重ねてほしい。

- ・ 全国各地の文化施設等における公演では、年度計画の 15 公演のうち、関西が 7 公演と圧倒的に多い。集客の問題や提携する劇場の問題があるのだろうが、「国立」で作られた演目が、可能な限り全国各地で見られるようにしたい。
- ・ 視覚・聴覚障害者向けのサポート体制の充実が図られたのは、国立の劇場としてふさわしい取組であり、今後、地方ならびに民間の劇場でも体制充実が進むように、モデル化・標準化を進める必要がある。
- ・ 外国人向けのチケット券面の改訂は、国立の劇場全体に必要なことで、内容検討を行った上で実施する必要がある。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 新国立劇場は 20 年で長足の進歩を遂げ、現在も創意工夫を凝らし、努力を重ねている。国立の劇場ならではの取組がいくつもあり、A 評定でもよいが、全体としては B 評定が適当である。
- ・ 安定路線の名作上演は多くの観客に喜ばれる。また新作、新制作とのバランスも良くなり概ね良好。新作の広報も色々な方法を考え努力している。
- ・ 広報・営業は多種多彩なメディアミックス的な戦略であり、SNS などを積極的に活用した広報戦略が着実に実を結んでいることは高く評価すべき。また、それぞれのジャンルに応じた柔軟な広報・営業の戦略も功を奏している。

2-〈3〉 日本博の運営・実施

(1) 概観

- ・ 年度途中からの事務局の設置（8 月）推進会議の開催（12 月）と振興会が求められた重責に応えるべく、早急に対応がとられたことは好ましい。なにより東京オリンピック・パラリンピックが開かれる前年にあたる令和元年度の展開に期待がかかる。今後の運営・実施に注目していきたい。
- ・ これまで国の機関や関連文化団体が海外で行ってきた「JAPAN 博」「日本年」等の経緯も踏まえ、インバウンドの旅行者だけでなく、日本に住んでいる人々にこそ広く認識してもらう絶好の機会である。3 月歌舞伎公演を取り込んだように通常の振興会業務をうまく連動させたり、あるいは美術や自然と関連した格別な企画もたてるなど、ポスト東京オリンピック・パラリンピックに継続していきける気運の醸成を目指せるチャンスである。
- ・ 「日本の美」を総合的に提示するノウハウの多くは振興会が培ってきた演出

力と人材で本館大劇場をはじめ管轄の劇場を拠点として、おおいに世界へアピールしてほしい。

- ・ 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、日本の文化芸術の魅力を発信する「日本博」の事務局を振興会が担当し、日本博の運営・実施に向けて企画立案していく役割を担っていくことは、日本の芸術文化振興にとっても有益な取組と言える。短期間に関係諸機関・団体と連携をとって「日本博」を広報するため、イベントを企画し、「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ」を作成するなど、積極的に活動できたことは評価できる。今後に期待したい。

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックを契機として、日本の文化芸術の魅力を広く喧伝する企画「日本博」の開幕を記念する「旗揚げ式」が国立劇場で行われた。勇壮な和太鼓の演奏で始まり、政府関係者とともに歌舞伎俳優らも参加して、「日本の美」を体現する国家プロジェクトの華やかな幕開きとなった。

- ・ 「日本博」のテーマ「日本人と自然」に因み、春の季節に相応しく「桜」とイメージが重なり合う演目を選び、上方歌舞伎と江戸歌舞伎の花形役者による公演が、日本博の参画プロジェクトとして実施され、印象深い公演となった。

- ・ 国立劇場ロビーに「風神雷神図」、小劇場ロビーに「おぼろ」（加山又造）の陶板レプリカが展示され、公演来場者に「日本博」機運の盛り上がりを醸し出した。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 「日本博」という特化した文化運動を、さまざまな東京オリンピック・パラリンピック行事に埋没させることなく、より一層、世に喧伝する機会を積極的に作るべきである。

- ・ 今後、企画が具体化されてくる中で、従来の業務との連携を図りながら、こうした文化プログラムを総合的にプロデュースしていく体制や人員配置、企画制作スタッフの養成などにつなげていくことができるかどうか大きな課題であろう。

- ・ Web 上で公開されている「日本の美」の内容は、芸能・芸術分野以外の領域も多く含まれており、振興会としての本来の業務に支障がでないような組織体制の確保が望まれる。

- ・ 一般には「日本博」の認知度はまだ低いと思う。古典とコンテンポラリーの融合の象徴として、「日本博」がしなやかに進行することを願う。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 実質的な事業展開が短時間で行えており、A 評価が適当と判断できる。
- ・ まだ未知数だが、スタートとしては順当に推移しており、平成 30 年度の企画実施に関しては A 評価で良い。
- ・ 日本の芸術文化の振興という視点から、取組を歴史的に意義のあるものにしていくか、期待を持って見守りたい。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

3-1 伝統芸能の伝承者の養成

(1) 概観

- ・ 伝統芸能全般についての伝承者養成は、振興会にしかできず、継続性が求められる取組で、現在の伝承者の多くを輩出し、実績を残してきたことを評価する。
- ・ 振興会における伝統芸能各分野の養成事業は、単なる伝承者の養成にとどまらず、伝統芸能の維持のためにもなくてはならない。募集など困難な状況を打開すべく、研修説明会や研修発表会での広報などさまざまな取組での努力を評価したい。
- ・ 研修発表会（7 公演）、既成者研修発表会（11 公演）が実現できていることと、しかもこれらが好評を得ていることは優れた成果と評価できる。
- ・ 国立劇場歌舞伎音楽既成者研修発表会第 20 回「音の会」はひとつの節目ということもあって『寿式三番叟』から始まり、観客も多く華やかな会となり、一般家庭から伝統芸能の世界に入り研鑽に励む若者たちへの、期待と応援に溢れた雰囲気にも包まれた。
- ・ 国立劇場歌舞伎俳優既成者研修発表会第 24 回「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は小劇場空間で歌舞伎を楽しめる贅沢さを実感しつつ、若い張りのある声や清々しい演技など、若手の研修成果を知る良い発表会となった。
- ・ 国立能楽堂開場 35 周年記念・第 28 回能楽若手研究会東京公演「若手能」は、第 1 期から 8 期までの能楽研修修了者が一堂に会し、各流各家の宗家や当主も登場して若手能楽師の披露をする前代未聞の舞台公演となった。多くの芸能の源である「能」の未来を明るく照らす公演であり、高く評価する。
- ・ 既成者研修発表会は一般の観客が既成者の技芸の向上を確認できる場である。入場料も割安に設定され、多くの観客の前で自らの技芸を披露できる貴重な機会であり、そこで自分の力量を直接確認できる点においても励みになっている。技芸の向上にもおおいに役立っている。

- ・ 全国公立文化施設協会主催で関東甲信越静支部のアートマネジメント研修会が開催され、振興会職員による講義等が行われたが、美術、照明などのスタッフの技術継承の点で意義があり、協力の取組は高く評価できる。
- ・ 能楽堂や国立劇場おきなわでは、研修修了者によるワークショップを開催しており（能楽が14件、組踊が13件）、修了者自らが自分の習熟度を測定する機会としても有意義な取組で、国立の劇場ならではの成果と評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 振興会の養成研修事業の存在およびその継続は、伝統芸能の継続、伝承の可否と深く係わっており、欠くことはできない。研修生の確保は勿論のこと、研修修了後についての待遇等も着目し、研修生が安心して研修に励める環境を確保、維持すべきである。
- ・ 伝統芸能の伝承者養成・育成の方法はまちまちであり、何かと困難が伴うのは致し方のないところだが、「養成」から次の段階へ如何につなげるか、工夫・改善の余地があるであろう。
- ・ 研修生が1名の場合、研修修了者との交流の場を設けるなど、辞退者を出さない配慮が必要かもしれない。
- ・ 研修生募集の広報はそれぞれ工夫が重ねられてきているが、十分な成果が上がっているとは言えない。昨今の学校の実情からいえば、応募者の確保はかなり厳しい。研修見学会や研修イベントの参加者と応募者数との間に開きがある。興味を持つことと応募することの間に落差がある。全国の中高生にアピールする機会を増やしてほしい。
- ・ 応募者の確保には、研修見学会や研修イベントの参加者に対するアンケートやヒアリングが最も有益で、参考になる意見・情報であり、その情報を共有して、各劇場が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 若者人口が減少するなか、伝統芸能分野の研修生を獲得することは次第に困難になり、優秀な修了者をプロとして迎える計画も思いどおりにはいなくなるかも知れない。深刻な状況になる前に検討すべきである。
- ・ アートマネジメントに関する研修は、劇場・音楽堂等機能強化推進事業とも関連し、地方劇場などの技術力向上に必要なことで、今後もこうした研修会への協力が望まれる。
- ・ 舞台技術者の養成については、今後、受託研修者の受入なども検討が必要になってくるであろう。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 概ね着実に実施し的確な事業継続がはかられている。育てるだけでなく、職業人として独立生計可能な営業意識を持たせる運営に言及するなど前向きで A に近い B 評定である。
- ・ 応募者の確保のために多種多彩な広報・宣伝活動を展開しており、それはおおいに評価できる。だが、それが具体的な応募数につながるように今後も継続的に取り組んでもらいたい。伝承者の確保は将来の伝統芸能に直結する課題であるだけに粘り強い活動が求められる。

3-2> 現代舞台芸術の実演家等の研修

(1) 概観

- ・ オペラ・バレエ・演劇部門で9回の研修公演が実現できており、入場者数から好評を博していることがわかり、実演家養成は実効があがっていると評価できる。
- ・ 「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」は、英国、イタリア、ドイツから若手オペラ歌手を招き、オペラ研修生・修了者達と共演した華やかなコンサートになった。スカラ座アカデミーやバイエルン州立歌劇場オペラ研修所など、外国の研修所の歌手のレベルの高さは予想以上だったが、日本の若手歌手にも聴衆にも良い経験となり刺激となったと思う。なによりこうした若手音楽家の国際交流の機会が設けられたことの意義は大きく、高く評価する。
- ・ オペラ研修所修了公演『ドン・ジョヴァンニ』は演出にテンポがあり、歌手陣も健闘し質の高い公演になったと高く評価する。
- ・ ヨーロッパやアメリカの歌劇場バレエ団などで活躍する日本人ダンサー達、新国立劇場バレエ団ダンサー・研修生・予科生が共演する公演は、海外で活躍する日本人ダンサーの質の高さを再認識するとともに、新国立劇場バレエ団の将来の可能性や、研修所の役割を自覚する良い機会となったと高く評価する。
- ・ 10代から20代前半の若手ダンサーたちが日頃の研修成果を披露した「バレエ・オータムコンサート」は、プロへの険しい道を感じつつ、将来を期待したい公演であった。
- ・ 「エトワールへの道程 2019」は、よく考えられたプログラムで、研修生にはよい勉強になり、観客は多彩な舞台を鑑賞でき、楽しいバレエコンサートになった。
- ・ 『少年口伝隊 1945』は、原爆投下直後の広島を舞台に活動した少年たちの悲

劇を、若い俳優たちのメリハリの利いた台詞と、動きの綺麗な朗読で聴かせた。事前に広島で研修を行ったことも含め、8月はじめの平和を再考する時期に意義ある公演であった。

- ・ 「ANA スカラシップ」による海外研修がバレエ研修所でも開始され、オペラ研修所と併せてロシア・ドイツ・イタリアの3カ国で実施されたことは、外部資金の活用という点でも順調な運用が実現できており、組織的な対応ができていると高く評価できる。
- ・ オペラ、バレエなど世界レベルを求められる分野で「世界若手歌手オペラガラコンサート」に研修生が参加したり、ロシアバレエ学校との交流など、刺激的で非常に良い研修制度になっている。
- ・ バレエ研修生がロシアで開催された「A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー創立280周年記念ガラ・コンサート」に出演するなど、国際的な交流を行ったことも特筆すべき。こうしたつながりは劇場としての財産になっていくことであろう。
- ・ 原作の舞台（広島）での研修や盲学校への訪問演劇研修など、研修生の舞台人としての視野を広める研修内容が充実している。
- ・ 現代舞台芸術と伝統芸能の研修生が合同で講義を受ける「五館合同特別講義」は、振興会ならではの取組と評価できる。
- ・ 舞台技術者・インターン等の受け入れ、各種団体からの要請に基づく講師派遣が行われ、国立の劇場としてふさわしい取組と評価できる。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ オペラ・バレエ・演劇研修所ともに、研修生の個性を大切にしながら、より高いレベルの質の向上を継続的に心掛けてほしいと思う。また海外の研修生と共演するようになり、刺激を受けるとともに、そのレベル差も可視化されるようになった。研修生がやがて立派なプロフェッショナルになり、芸術表現を通して社会還元していけるよう、各研修所での指導と成果に期待したい。
- ・ 国立の劇場ならではの充実した研修内容の維持は大変だろうが、すぐれた才能が海外に流出しないためにも国内養成の質の高さを維持したい。
- ・ 五館合同特別講義は、ともすれば研修生が自分の研修部門に閉じこもりがちになる弊害を乗り越え、部門を越えた新たな芸能・芸術を生む素地の形成へとつながる可能性をもっており、講義だけでなく実技も交えた研修機会の設置が望まれる。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 研修公演などによって、着実に努力し研修成果をあげていることがわかり、B 評価が妥当と判断できる。
- ・ 五館合同特別講義、現代演劇と伝統芸能の研修生交流など振興会にしかできない舞台人養成であり、その成果は大きい。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

4-1 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

- ・ 調査研究の成果については、逐次出版し、関係各所や研究者及び研究機関等へ配布され、貴重な資料となっていることを高く評価したい。
- ・ 伝統芸能の調査研究の分野でも機能しているのが振興会の底力である。調査、研究、収集、出版、展示など様々な業務が有機的に行われている。また記録の作成も将来への遺産であり、同時に活用もして望ましい状況である。
- ・ 演芸資料選書『御屋舗番組控』は影印と翻刻、注解をコンパクトに納め、利用しやすく構成し、注目に値する。
- ・ 上演資料集・近代歌舞伎年表・演芸資料選書・未翻刻戯曲集等々の刊行が着々と進むなど、国立劇場の優れた業績のひとつであり、能楽堂の展示の充実も高く評価できる。
- ・ 日本各地の興行、上演に関する調査研究に基づく『近代歌舞伎年表・名古屋篇』第 13 巻の刊行は、振興会の調査研究能力を示すもので、特筆できる成果と評価できる。
- ・ 国立能楽堂開場 35 周年記念としての特別展『土佐山内家の能楽』、企画展『囃子方と楽器』は質の高い展覧会であり、来場者にも大変有意義であった。また、『土佐山内家の能楽』図録、『囃子方と楽器』図録は読み応えのある解説であり、写真なども美しく、来場者の能楽理解を深める研究書として、学術的に意義のある書物であった。
- ・ 文化デジタルライブラリーの閲覧者数はアクセス解析ツールを導入して、利用の実態がより正確に把握できるようになった。計画アクセス数を大きく上回り、伝統芸能振興に実績をあげていることが評価できる。
- ・ 各劇場の資料展示室の展示は、興味深く、来場者に喜ばれ、計画数を上回る実績を上げており、資料の公開としても優れた取組である。

- ・ 「悪を演る一歌舞伎の創造力」は、外部4機関との連携として実現された。それぞれが所蔵する資料による連携展示で、新聞社・美術館などが行ってきた巡回展示とはまったく異なる取組となり、日本の博物館の事業としても画期的と高く評価できる。
- ・ 能楽堂開場時の斬新なポスターがロビーに展示されたことは、来場者が能楽に、より興味をもち知識を広げる有意義な展示になった。
- ・ 集客しにくい立地のおきなわも施設全体を活用し、合計で380日を超える展示開催の努力は評価できる。
- ・ 京都での国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、衣裳、小道具やパネル展示を行い、組踊と琉球舞踊についての普及を図った企画は、多くの観客を引きつけて有意義であった。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 収集した資料の整理、保存については相当の配慮がなされていると推測するが、その活用についての情報の開示、周知が十分なされることを期待する。
- ・ 民間も含めて他の機関で行えない調査研究、資料集の刊行・公開が実現できしており、高く評価できるが、今後は、目録・ブロマイド・写真などに加え、刊行物として発行された成果のWeb公開（PDF公開など）が望まれる。
- ・ 文化デジタルライブラリーの閲覧者数はアクセス解析ツールを導入して、利用実態のより正確な把握が可能になったので、利用者のニーズに応じたサイト運営に努めてもらいたい。今後もライブラリーの尚一層の充実を期待したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 事業実績と外部機関との連携展示などからは、これまでの実績をより一層充実させ、着実に実施されていると判断できるため、A評価は適当である。
- ・ 調査研究資料の収集及び公開の両面が、伝統芸能の保存と伝承、活用と総合的に機能しており、今後も国立劇場の資料の積極的な公開とデジタル化を推進してもらいたい。

4-〈2〉 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

- ・ 現代舞台芸術各部門を統括する機関は、国内では貴重で、年表の集積などは、国立の劇場が果たすべき役割と評価できる。

- ・ 上演演劇の戯曲刊行、演劇講座の開催、オペラトークなどは鑑賞の手助けにもなり、普及活動として評価できる。
- ・ 民間出版社との連携で海外戯曲をいち早く邦訳して刊行したことは現代舞台芸術の基盤づくりの一環として優れた成果と評価できる。
- ・ 調査研究の成果を記事としてオペラや演劇のプログラムに掲載し、上演演目の理解を深める役目を果たした。
- ・ 新国立劇場の情報センター閲覧室は近年、利用者が大幅に伸び、年間 27,000 人以上、開館 1 日平均 130 人が利用するようになった。
- ・ 公演に関連する資料を公開・利用できるようにするとともに、公演記録の整理・保存に努め、将来的に研究資料として残すことで、次世代の芸芸伝承に役立つ点が評価できる。
- ・ 特別展示「日本の現代舞台芸術」において、明治元年から新国立劇場開場までの舞台芸術に関する年表を作成し展示、また、ギャラリーでの舞台衣裳展示、公演ポスター展示、待ち合わせコーナーでの公演記録映像ダイジェスト版の上映など常時行い、観客の理解を深めた。
- ・ オペラの魅力は音楽以外に衣裳や大道具にもある。それらを札幌、京都、東京神田など新国立劇場以外で提携展示できたことは普及活動として特筆できる。
- ・ 上演された舞台芸術の映像、音声、写真のアーカイブが着実に進んでいることも特筆すべき成果と評価できる。
- ・ 公演関係展示、ワークショップ、講座が積極的に行われているのは、国立の劇場としてふさわしい取組と評価できる。
- ・ 新制作オペラの上演を巡り、大野和士芸術監督を中心にスペシャルトークや演目説明会などを積極的に行い、オペラファンの理解を深め、来場者獲得に役立った。
- ・ 「マンスリー・プロジェクト」に引き続き「ギャラリー・プロジェクト」を開き、演劇制作過程を説明し、作品の理解を深める講座を実施したことを評価する。
- ・ 新国立劇場情報センターで全 20 回の「夏のこどもシアター」を実施し、次世代開拓を進めた。
- ・ オペラ及び舞踊では、芸術監督による 2019/2020 シーズン紹介動画に公演記録映像を利用し、インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映して効果を挙げた。こうした公演記録映像の利用を伝統芸能や現代演劇にも拡大してほしい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 開場 20 年を越えた新国立劇場は日本の現代舞台芸術の歴史の中で大きな役割を果たしており、日本でのそれぞれの部門の歩みをしっかりと記録する機関は他になく、今後の調査研究、資料集積に期待する。
- ・ 現代舞台芸術講座や関連講座の充実は、観客の理解を深めるために有効な手段であり、さらなる展開を期待したい。
- ・ 年度当初の計画より講座などのイベントが増えるのは利用者のためにはよいが、職員の業務増や予算管理上の誤解を招く恐れがあるため、年間予定をより綿密に立てるべきである。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 穏やかかつ丁寧な取組で、中期目標にそった事業展開ができており、B 評価が適当と判断できる。
- ・ 新国立劇場として保存と活用の両面をどのように実現し、技芸の向上と観客の育成を図るための調査研究が可能か、今後の検討に期待したい。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 概観

- ・ 一般管理費について、実績額を計画額の約 98%としたのは努力の成果であるが、努力もそろそろ限界だろう。平成 24 年当時と比べると、組織改組に伴って人件費の割合が増す一方で、物件費が大きく減額されている。物件費の節約に努めることは重要だが、人件費は毎年度積算され増加する。仕事の効率化、残業・休日勤務の縮減など、働き方改革を意識した上で、人件費削減対策に取り組むことが、組織の健全な維持のために必要であろう。
- ・ アーツカウンシル機能の強化を目的に、調査研究担当 PD の新設と主任調査分析研究員の増員、特命企画本部の新設、「日本博」事務局の新設など、組織体制の整備・強化が行われたのは、振興会にしかできない成果と判断できる。
- ・ 特命経営企画本部及び大型文化催事準備チームが新設され、東京オリンピック・パラリンピックに関連する文化芸術プロジェクト体制が強化されたことは、ポスト東京オリンピック・パラリンピックや大規模改修も視野に入れた事前準備として順当な対応である。今後期待したい。
- ・ 劇場間の連携強化がより一層図られることは大切なことである。
- ・ 外部有識者を含む契約監視委員会を置いて契約の適正性・妥当性等を点検す

るとともに、連続 1 者応札案件について随意契約事前確認公募に移行するなど契約事務の合理化も進めている。また、調達等合理化計画に基づく業務適正化の進展や工事案件等の電子入札による利便性の向上は、適切な成果と判断できる。

- ・ 光熱水費の節減、産棄物の大幅な減量化は、業務内容が常に点検、改善されていると判断できる。

- ・ 情報流出などのインシデントにたいして、十分なリスク管理をすることが大切であり、情報セキュリティ対策が強化されていることを評価する。システムのセキュリティ強化だけでなく、昨年行った標的型メール攻撃訓練等を実施し、システムを操作する職員の意識啓発を図ってほしい。

- ・ チケット販売システムの個人販売システムについて、外部サービスの活用と業務の効率化が推進されることに期待する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 中期目標が策定され、業務内容と業務量の総体が把握され、計画的に業務が進んでいるとはいえ、文化庁からの移管事業、新規の日本博事務局の設置など、業務内容の多岐化と業務量の増加が進んでおり、適切な定員確保、人員配置、責任体制の明確化、さらには適正な運営交付金の要求、予算配分など、組織運営に支障が生じないようにすることがもっとも肝要である。

- ・ 組織にとり最も大切なのは「ひと」であり、「ひととひとの繋がり」である。良い舞台芸術を生み出すためにも、ひとを大切にしたい、バランスの良い組織づくりと管理を期待する。

- ・ チケット販売システムで外部サービスも活用して利便性を図るのは良いが、個人情報等が流出しないよう、サービス会社との連携・保安体制を確立したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 概ね着実に実施され、対応は十分であり、中には新規事業への短期間での対応など優れた実績があるが、B 評価が適当と判断できる。

- ・ 一般管理費・事業費いずれも業務委託など業務量の増大があつたにもかかわらずそれぞれ支出減少の努力の成果がみられている。主要な業務実績の改善等について、概ね適切に行われているものと認め、B 評価が適当であろう。

- ・ 給与水準に関しては、現行のラスパイレス指数を確保することがすぐれた人材の確保につながるであろう。その意味で、国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げたことはより良い人材の確保、職員のモチベーションの向上に繋がり適切である。賞与の支給月数を引き上げて、

勤務実績に応じた評価による給与支給を推進するため、引き上げ分を勤勉手当に配分したことも、現況の社会的動向からして適切である。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 概観

- ・ 業務効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算を策定し、執行管理を行なったことを評価する。
- ・ 予算の計画額と実績額を対比すると、収入では実績額が計画額の約 2%減、支出では翌年度への繰り越しになった施設整備費の減額分を除けば、実績額は計画額の約 1.5%減であり、大幅な差はなく、予算管理が厳格に行われていると判断できる。
- ・ 収支計画においては、費用の部では、実績額が計画額の約 2.7%減、収益の部では実績額が計画額の約 3%減となっているが、この差は許容の範囲内である。
- ・ 助成事業の増加、日本博事業の追加のなかで、適正な人員確保、非常勤職員の補充、各業務経費の増額や節減などによって事業が滞りなく行われたことは、高く評価できる。
- ・ 公演事業において、劇場入場料収入の減少などにより、年度計画予算に対し収入額が減少したが、公演費、舞台管理費などの節減により支出額を減少させ、全体のバランスをとったことを評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 業務内容のさらなる見直しによって効率的な業務運営を期待する。
- ・ 事業の増加・追加のなかで、現状では業務経費節減などにより適切に運営されているが、業務経費や人件費の削減は業務の質、職員の業務量に直接かかわることなので、無理のない削減が必要となる。収支バランスのための努力を認めるが、負の連鎖にならぬよう、芸術文化に携わる様々な職種の人々を大切に、今後も改革を重ねてほしい。
- ・ 公演事業による収入は振興会収益の大切な柱の一つであるが、悪条件のなかで健闘しているといえよう。しかし、今後は自己財源による事業全体の収益改善の方策について、公演の在り方等も含め検討が必要かもしれない。
- ・ 高い芸術性を保つのが国立劇場の在り方であるとはいえ、やはり劇場に本来望まれるのは、入場料収入等による安定した経営である。また、民間からの外部資金の獲得も心がけてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・ 限られた予算のなかで、高齢化する観客層への対応と次世代の取り込みなど、様々な努力を重ねていることを認め、自己評定Bは妥当とする。
- ・ 年度当初計画予算のない日本博事業の経費を全体の予算の見直しにより対応し、事業に一定の成果を出したことを評価する。B判定は妥当である。

IV その他業務運営に関する重要事項

(1) 概観

- ・ 自己点検評価のあり方については、定形化せず、見直しを行って改訂されており、業務内容の検討が適切に行われていると評価できる。
- ・ 外部専門家からの意見聴取として、評価委員会の評価報告、公演専門委員会による各公演に対する評価・意見などを聞き取り、参考にして事業に反映するのは大切なことであり、良いことである。
- ・ 国立劇場本館の老朽化対策、各劇場の安全性確保など、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行なったことを認め評価する。今後も利用者の立場になって、施設改善の取組や老朽化対策を早め早めに検討することが望ましい。
- ・ 振興会の業務は専門性が高く、余人をもってかえがたい人材を多く抱える事業体である。その質の向上のため、さまざまな試みもなされ成果をあげているが、職員研修制度も工夫が凝らされ、平成30年度の国立文化財機構職員との相互研修も有意義である。
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を継続実施しているのは良いことである。
- ・ 運営委託されている国立劇場おきなわの運営、新国立劇場の運営については、振興会が事業内容と成果を十分に把握できており、劇場設置の目的や中期目標の達成に向けての管理運営が適切にできていると判断できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・ 関心事は「いつ国立劇場がリニューアルされるのか」である。国を代表する文化芸術公開施設だとされながらも、国際的な文化行事が連続して行われる時期を迎えて、それにふさわしい施設になっているのだろうか。国の威信にかかわることである。予算審議の高い壁を乗り越え、すみやかに推進されることを願う。
- ・ 国立劇場等大規模改修に関しての協議が継続中だが、それまでにも高齢化が進む観客に対して、また新たな若い観客層に対して、細やかな配慮と施設管理改

善が行なわれるよう期待する。

(3) 自己点検評価に対する意見

・ いずれの業務も適切に、概ね着実に実施されており、B 評定が適切と判断できる。

平成 30 年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿
(任期：平成 30 年 7 月 1 日～令和元年 6 月 30 日)

委員 長 葛 西 聖 司 (古典芸能解説者)

委員長代理 太 田 耕 人 (京都教育大学理事・副学長)

委 員 尾 内 正 道 (公認会計士)

委 員 小 川 直 之 (國學院大學教授)

委 員 上 村 以和於 (演劇評論家)

委 員 山 田 和 人 (同志社大学教授)

委 員 山 田 美也子 (文化キャスター・エッセイスト)

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日

改正 平成16年 4月 1日

改正 平成17年 3月16日

改正 平成20年 6月19日

改正 平成21年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、総務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 30 事業年度 業務実績報告書

令和元年 6 月 28 日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4 番 1 号

TEL：03-3265-7411（代表） / FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>